

# 戸<sup>と</sup>神<sup>がみ</sup>諏<sup>す</sup>訪<sup>わ</sup>遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵

文化財発掘調査報告書第30集—

《旧石器～古墳時代編》

1990

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



寄贈

群馬県教育委員様

3.8.30

資料	(財)群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管
	平成10年5月13日
98- No.5003	

01-320
50
1.(9)



# 戸<sup>と</sup>神<sup>がみ</sup>諏<sup>す</sup>訪<sup>わ</sup>遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>

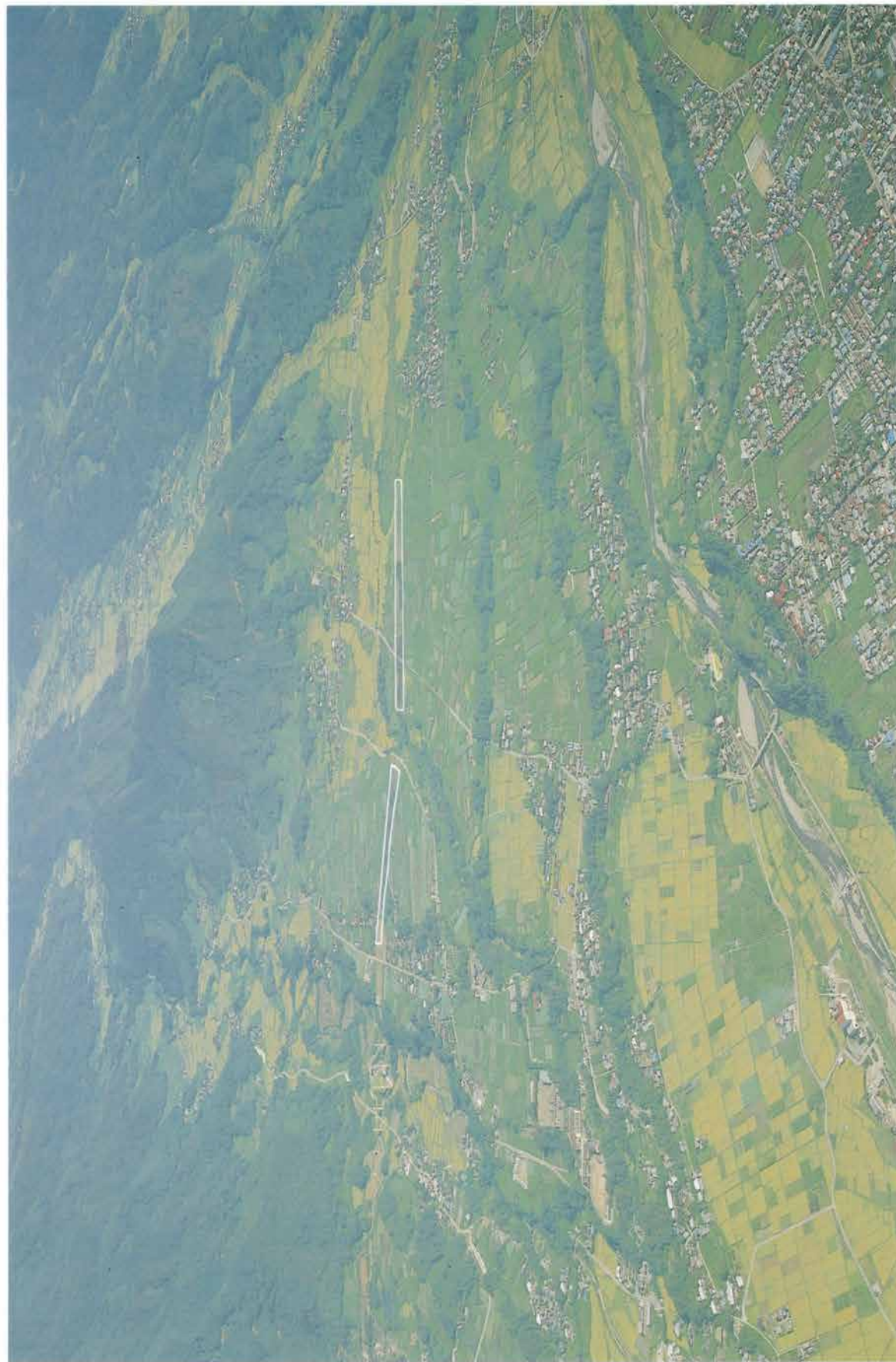
—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第30集—

《旧石器～古墳時代編》

1990

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





遺跡遠景と付近の地形(南の沼田台地上より航空写真)右・戸神諏訪遺跡、左・石墨遺跡

沼田市教育委員会 提供



遺跡より望む初夏の戸神山

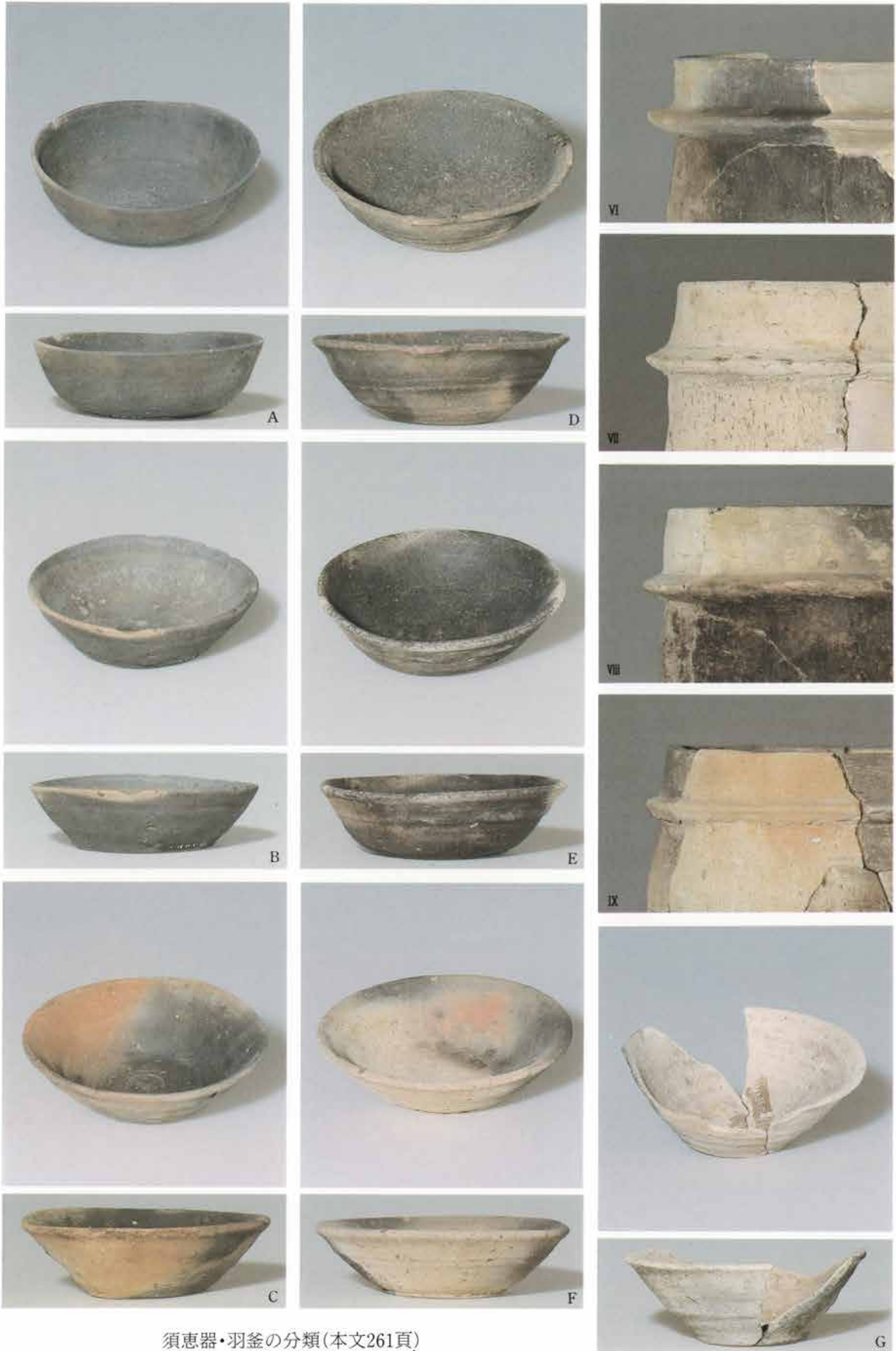


遺跡より望む晩秋の戸神山





古墳時代前期(87号住居跡)出土遺物



須恵器・羽釜の分類(本文261頁)

## 序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先立って調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告によるところの戸神諏訪遺跡は、沼田市町田に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、昭和57年9月から昭和58年12月にかけて、当事業団が調査しました。旧石器時代の石器群、縄文時代前期の住居跡、弥生時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史を知る上で数々の貴重な資料が得られました。特に古墳時代前期の住居跡から出土した土師器の中に、弥生時代の樽式土器の影響を受けた土器があり、古墳時代の成立期の土師器の様相を知る上で貴重な資料が得られています。これら資料は、昭和63年4月から報告書作成のための整理作業が行なわれ、本年3月すべての遺構・遺物の整理が完了し、報告書を作成することができました。

本遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、沼田市教育委員会、地元関係者等多くの方々からご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表し、本報告書が県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、広く活用されることを願い序といたします。

平成元年3月31日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎



## 例 言

- 1 本書は、関越自動車道（新潟線）建設工事に伴い事前調査された、沼田市町田町字土塔原に所在する戸神諏訪遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 事業主体 日本道路公団東京第二建設局・群馬県教育委員会
- 3 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査期間 試掘調査 昭和54年10月下旬～昭和54年12月上旬  
発掘調査 第一次 昭和57年9月1日～昭和57年12月28日  
第二次 昭和58年4月1日～昭和58年12月21日

### 5 調査組織

事務担当 常務理事 小林喜久治（故人）  
事務局 長 白石保三郎  
調査研究部長 松本 浩一  
管理部 長 大澤 秋良（昭和58年4月1日～）  
調査研究第一課長 平野 進一  
庶務課長 近藤 平志（～昭和58年3月31日）  
庶務課主事 国定 均・笠原 秀樹・山本 朋子・吉田 有光・柳岡 良宏  
庶務課補助員 吉田 恵子・野島のぶ江・並木 綾子・今井もと子・吉田 笑子

調査担当 試掘調査 調査研究第一課長 平野 進一  
調査研究員 桜岡 正信  
調査研究員 石守 晃  
第一次調査 調査研究員 小安 和順（現 甘楽町教育委員会主事）  
同 新倉 明彦  
第二次調査 調査研究員 小野 和之  
同 関根 慎二  
同 新倉 明彦

現場測量コンサルタント 松岡 広隆（富永測量調査事務所）・金子 正人（スナガ環境設備）

発掘調査作業員 （敬称略）

**あ行** 青木光利、赤井とめ、阿部昭子、阿部なか、阿部のり子、阿部峯子、伊佐初太郎、石井くに子、石田和子、石田完治、石田富子、石田初江、稲村 治、今泉イセ、上原未枝、内川甲子郎、内山春夫、生方綾子、生方 茂、生方芳枝、生方のぶ、大井あさ子、大井ヨネ子、大河原いせ、大河原たか子、大河原とき、大河原みつ、大河原もとめ、大島 玉、大嶋とき、大嶋タキ子、大久保平治、太田せい子、大津春江、岡村光子、荻野博巳、小田恒子、小野里みや子、 **か行** 春日たけ子、片平惣一、片山洋子、加藤栄子、金井哲夫、金子千代、金子とも子、金子ハナ子、金子マサ、金子まさ子、神山 進、木内敏美、桑原三郎、桑原秀治、桑原信子、桑原みな、倉田富美子、小嶋吉之助、小林幸枝、小林恒夫、小林文英、 **さ行** 斎藤清子、斎藤千代子、佐々木ます、佐竹治朗、佐竹歌子、佐藤幸子、佐藤松子、塩野一江、塩野友二、設楽雪子、芝崎栄枝、芝崎貞子、芝崎ひさ江、清水富治、下城喜八郎、須郷栄子、鈴木源作、鈴木幸子、須藤ヨシ江、関上 續、関上シゲ子、曾田マサ江、反町あさ子、

た行 高橋朝子、高橋小平、高橋ツネ、高橋ハル子、高橋二三男、高橋亮子、武 儀八、武井キミ、  
 田村キヨ子、田村千代、田村雪江、千木良春江、角田きよ、角田湊平、角田スイ、角田てる、  
 角田なみ江、角田安正、角田政次、戸沢みゑ、戸部さい子、戸部富子、戸部フミ、戸丸貞江、戸丸君江、  
 戸丸たけ、富田文子、 な行 長尾弥蔵、中島千穂、中島文江、中村君江、中村みつ江、根岸平兵衛、  
 は行 端 京子、橋本とみ子、林さだ子、林 秀雄、原 京子、福田清子、藤井英子、星野あい、  
 星野妙子、堀 タメ、 ま行 牧野 明、牧野せき子、牧野ふさ、増田花子、松井ウメ、松井カネ、  
 松井キノ、松井ゲン、松井繁子、松井すみ子、松井フク、松井ラク、丸山京子、丸山けさ江、丸山なお、  
 水落千乍子、宮崎とし江、宮下 勉、宮嶋朝子、村田信江、茂木まん、森川すみ江、  
 や行 八木沢温子、安原和代、安原てる子、藪原正次、柳 ゲン、山路恵美子、山田ヨシ子、横坂とし子  
 横坂百合子、吉沢 茂、吉沢トシ、吉沢美恵子、吉野孝子、 わ行 和田喜代松

- 6 委託事業 測量業務 スナガ環境設備 (全体図・地形等高線図・座標基準杭設定)  
 富永測量調査事務所 ( // // )  
 (株)測 研 ( // // )  
 航空写真撮影 青高館航空写真 (模型飛行機による航空写真撮影)

7 整理期間 昭和62年度、63年度事業として(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

8 整理組織

事務担当	常務理事	白石保三郎
	事務局長	井上 唯雄 (～昭和63年3月) 松本 浩一 (昭和63年4月～)
	調査研究部長	上原 啓巳
	管理部長	田口 紀雄
	調査研究第一課長	平野 進一
	庶務課長	定方 隆史 (～昭和63年3月) 住谷 進 (昭和63年4月～)
	庶務課主任	国定 均・笠原 秀樹・小林 昌嗣 (昭和63年4月～)
	庶務課主事	吉田 有光・柳岡 良宏・須田 朋子
	庶務課補助員	吉田 恵子・野島のぶ江・並木 綾子・今井もと子・吉田 笑子 松井美智子・大沢美佐保・大島 敬子・小野沢春美
整理担当	調査研究員	新倉 明彦
	嘱託員	三浦 京子
	補助員	皆川 正枝・尾田 正子・真下 悦子・富永 セン・宮沢 房子・ 高橋 伸子・関 正江・島崎 敏子・森村千代子
遺物写真撮影	技 師	佐藤 元彦
遺物保存処理	技 師	関 邦一
	嘱託員	北爪 健二
	補助員	小材 浩一

9 本報告書執筆者

第1章 第1節 調査に至る経過 第1項 平野 進一（調査研究第1課長）

第2項 桜岡 正信（主任調査研究員）

第3章 第1節 旧石器時代 麻生 敏隆（調査研究員）

第2節 縄文時代 第1・3項 関根 慎二（調査研究員）

第4章 第1節 遺構 第1項（縄文） 小野 和之（調査研究員）

第2項（奈良・平安時代の遺構） 三浦 京子（嘱託員）

第2節 遺物 第2項（奈良・平安時代の土器） 三浦 京子

第5・6・7項（鉄製品・砥石・中近世遺物） 大江 正行（専門員）

第5章 第3節 化学分析 第1項（平安時代の出土土器胎土分析）

花岡 紘一（群馬県工業試験場主幹兼室長）・三浦 京子

第2項（出土土器の黒色・赤色付着物について）

永嶋 正春（国立歴史民俗博物館助教授）

上記以外の執筆 新倉 明彦

10 出土遺物の科学分析・鑑定について以下の方々のご手を煩わせた。（敬称略）

土器胎土分析 花岡 紘一（群馬県工業試験場）

墨書土器鑑定 平川 南（国立歴史民俗博物館）

土器付着物鑑定 永嶋 正春（ 〃 ）

石材質鑑定 飯島 静男（群馬地質研究会）

11 発掘調査時、及び本報告書作成時には、群馬県教育委員会・同関係機関、沼田市教育委員会、及び下記の方々からご指導・ご教示を戴いた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

石北直樹・水田稔（石墨遺跡調査担当）、石井克己（子持村教育委員会）、小笠原好彦（滋賀大学）、小池雅典（沼田市教育委員会）、前沢和之（群馬県教育委員会）、小島純一（粕川村教育委員会）、小林重夫（群馬県工業試験場）、新井房夫（群馬大学）、橋本澄朗（栃木県立博物館）、野本孝明（大田区教育委員会）、橋本博文（早稲田大学）、坂井秀弥・山本肇（新潟県教育庁）、田熊清彦・藤田典夫（栃木県文化振興事業団）、井澤洋一（福岡県教育委員会）

また、当事業団の岩崎泰一には石器実測指導・修正を、蜂巢滋美にはイラストをお願いした。

12 本遺跡の図面・写真・遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センター・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団にて保管してある。現在のところ体制が不十分ではあるが、今後、各方面の研究・教育の分野で保管資料の活用が望まれる。

平成元年3月21日現在

## 凡 例

1. 遺構番号について 本報告書の遺構番号については、遺物への注記との不整合を避けるため、原則として発掘調査時に付した番号を踏襲したため、一部において欠番が生じた。
2. 図版の縮尺について 本報告書掲載の図の縮尺は、原則として下記のとおりとし、下記以外の縮尺を用いた場合は、そのつど明示した。  

遺構図	竪穴住居跡・掘立柱建物跡	1 / 6 0	井戸跡・土坑跡	1 / 4 0
	竪穴住居カマド跡	1 / 3 0	寺院跡	1 / 2 0 0
遺物図	旧石器	2 / 3	その他	1 / 3
3. 方位について 図面上の方位記号は座標北（真北）を示す。
4. 遺構の主軸について 遺構の主軸は、カマドを有する竪穴住居については、カマドを有する壁面と相対する壁面との各中心を結ぶ線を主軸とし、他の遺構については長軸方向の中心線を主軸とした。
5. 遺物観察表の書式について 遺物観察表の記載に用いた記号類は下記を意味する。

弥生・古墳時代 遺物観察表例

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	甕	1.6~18.5 cm	20.0・-・- 底部欠損	白色・赤褐色・石英細～粗砂粒、 普通、灰褐～橙色	外面胴下半縦方向に研磨、胴上半～口縁波状文→頸部2連止め簾状文。口縁部撫で、内面胴篋撫で、口唇部横研磨。

奈良・平安時代 遺物観察表例

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴	備考
①	須恵器 坏	2.0cm	11.4・3.8・6.0 1/3	多量の白色細～粗砂粒、石英の円細礫、還元、灰色、にぶい黄色	体部から口縁部まで直線的に開く。底部は右回転糸切り未調整。	墨書 胎土分析









- ◎ 遺物番号に付く丸印は、写真図版を掲載したものを意味する。
- ◎ 出土位置の数値は、床面上からの距離を意味する。
- ◎ 弥生・古墳時代の遺物観察表の器形・整形の特徴欄における「→」の記号は、施文、調整の順位を示す。
- ◎ 奈良・平安時代の遺物観察表の備考欄に「胎土分析」と記すものは、胎土分析を行った遺物であり、第4章第3節第1項の「平安時代の出土土器胎土分析」の項を参照されたい。
- ◎ 奈良・平安時代の遺物観察表の種別欄に「ロ使・酸」と記すものは、ロクロ使用酸化焙焼成の土器を示す。第4章第2節第2項の「奈良・平安時代の土器」の項を参照されたい。



6. 遺物写真図版の縮尺について

遺物写真図版の縮尺は、概ね 1/3 である。

トーン凡例

遺 構	遺 物	
	焼 土	土 器・朱 色
	灰	
	炭 化 材	土 器・漆
		土 器・いぶし、羽口還元
	粘 土	
		土器・灰釉、砥石・未使用面
	井 戸 枠 拡 張 部	土器・灰釉、弥生・丹彩 砥石・原石面、羽口・酸化
		土 器・黒 色

# 目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査経過	
第1節 調査にいたる経過	2
第1項 調査にいたる経過	2
第2項 試掘調査	3
第2節 本調査の経過（日誌）	4
第3節 調査の方法	
第1項 グリットの設定	6
第2項 基本土層	7
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3章 検出遺構・遺物	
第1節 旧石器時代	18
第2節 縄文時代	
第1項 竪穴住居跡	22
第2項 縄文土坑	27
第3項 遺構外出土遺物	39
第3節 古墳時代前期	
第1項 竪穴住居跡	46
第2項 竪穴状遺構	143
第3項 遺構外出土遺物	143

# 戸<sup>と</sup>神<sup>がみ</sup>諏<sup>す</sup>訪<sup>わ</sup>遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>

《旧石器～古墳時代編》

## 第1章 調査経過

### 第1節 調査にいたる経過

#### 第1項 調査にいたる経過

本遺跡の発掘調査は関越自動車道地域（新潟線）建設工事にともない消滅される埋蔵文化財について事前に調査をし記録保存の処置を講じたものです。

群馬県内を走る関越自動車道路は藤岡市から利根郡水上町まで5市5町4村にわたる延長76.4kmで、これに係る建設工事については藤岡～渋川間（昭和46年8月）、渋川～月夜野間（昭和49年1月）、月夜野以北（昭和50年10月）の三期に分けて路線の発表が行われた。

埋蔵文化財発掘調査も同様に工事工程との調整を図りながら昭和48年度から群馬県教育委員会が直営で発掘調査を開始した。

その後、県内各地に於ける公共事業に関連した開発事業の急増に伴い、県内一円に埋もれた数多くの遺跡の保護対策や調査の必要性が望まれた。これらに対処すべく遺跡の保護、調査、出土遺物の整理、研究等を行うと共に文化財保護の普及、活用を図る組織として、昭和53年7月15日に法人として認可され、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が設立した。

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団は昭和55年4月に前橋市平和町一丁目2-7番地から勢多郡北橋村下箱田784-2番地に移転したことにより、それまで県教育委員会が直営で実施してきた発掘調査は全面的に（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団に移行することになった。

昭和53年10月に県教育委員会が沼田市から水上町にかけて分布調査を実施し、この結果本遺跡を含む25ヶ所におよぶ遺物の散布が認められた。群馬県教育委員会と日本道路公団東京第二建設局との協議のうえ、県教育委員会が日本道路公団より委託を受け、さらにこれを（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団、沼田市、月夜野町、水上町の各教育委員会にそれぞれ委託し、発掘調査を実施した。

本遺跡に関連する沼田地域は分布調査の結果を踏まえ、県教育委員会より委託を受け（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が昭和54年10月から沼田市と月夜野インター間にかけて遺跡の範囲と規模を確認するため試掘調査を実施した。また月夜野インター以北については昭和57年度に県教育委員会と町教育委員会とにより試掘調査を実施している。

本遺跡の周辺は三峯山の南麓を中心に5ヶ所で遺構、遺物が検出された。これにより戸神諏訪遺跡、石墨遺跡、大釜遺跡、後田遺跡、師B遺跡の名が付けられた。このうち石墨遺跡を除く4遺跡については（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団で担当することになった。

発掘調査は沼田市町田町字土塔原地内に調査事務所を設置し、周辺の人達の協力を得て第一次調査を昭和57年9月より同年12月まで、第二次調査を昭和58年4月より同年12月の2年度にわたり実施した。

本遺跡の調査範囲は約60m×500mの東西に長い遺跡である。

なお遺跡の名称については、分布調査の際、沼田市町田町土塔原と戸神町地区とに遺物の散布が認められ遺跡の範囲及び性格から戸神諏訪遺跡と仮称した。発掘調査から整理調査、報告書刊行まで仮称の遺跡名を踏襲した。

## 第2項 試掘調査

戸神諏訪遺跡の試掘調査は、「関越自動車道地域埋蔵文化財発掘調査（沼田工事区）試掘調査」の一環として、群馬県教育委員会との委託契約に基づき、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。

試掘調査の目的は、遺跡地の範囲確定及び遺跡の種類の確認であり、「関越自動車道地域埋蔵文化財試掘調査仕様」にしたがってトレンチによる試掘調査が実施された。

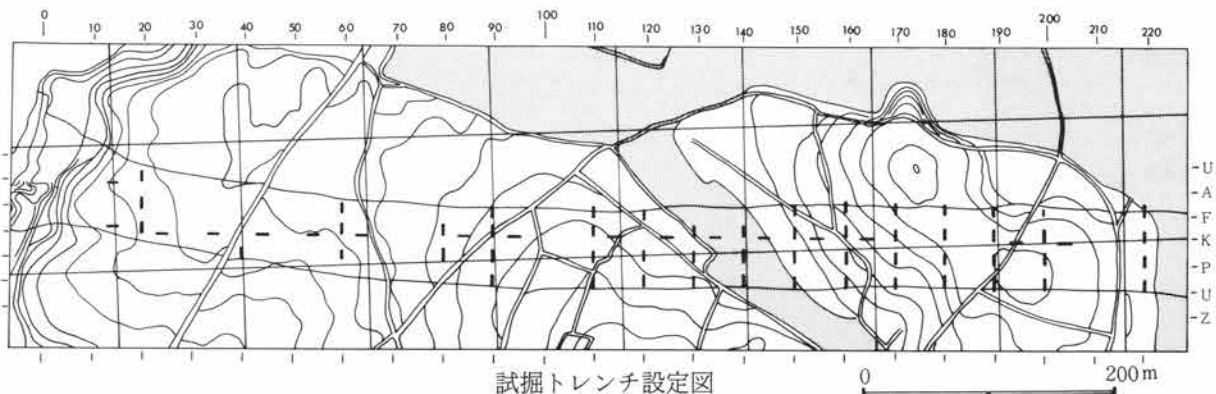
調査期間は昭和54年10月下旬～12月上旬の約1.5ヶ月間を要し、試掘調査対象面積は長さ約880m、幅約60mの約52,800㎡である。調査には平野進一（群馬県教育委員会文化財保護課文化財保護主事）、石守 晃・桜岡正信（群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員・群馬県教育委員会文化財保護課嘱託員）、反町公己（群馬県教育委員会文化財保護課発掘調査員）の4名が当たった。

遺跡の現状は、中央部の谷地に水田がみられた他はほとんどが桑畠及び蒔蒔畠であり、弥生時代～古墳時代の包蔵地として認識されていた場所である。

トレンチの配置は、下図（試掘トレンチ設定図）に示したとおりであり、国家座標をもとに路線全面を覆うように4m×4mのグリッドを設定し、このグリッドの線上にトレンチを設定した。このグリッド名称及びトレンチ名称としては、南北方向には北側を起点として「A～Z」及び北側に突出する部分へ「-U」とし、東西方向には西端を起点として0～nとして、この記号と数字の組み合わせを用いた。トレンチ配置の粗密は、検出遺構の有無によって、特に検出されなかった地点に密なトレンチ設定をした。トレンチ規模は約1.5m×8.0m、面積約12㎡を基本単位として、最終的に71ヶ所に設定した。したがって試掘調査面積は約852㎡であり、これは試掘対象面積の約1.6%にあたるものである。

トレンチの掘削には原則としてバケットの爪を加工したバックホーを使用した。台地上の調査では基本的に黄褐色ローム層上面で遺構の有無を確認し、水田面においては深掘りをして土層断面観察を重視した。また、各トレンチの東側土層断面を記録として作図した。

この試掘調査の結果、遺構は西側台地に集中することがわかった。トレンチで検出された遺構は、竪穴住居跡5ヶ所、性格不明の掘り込み約4ヶ所、溝2ヶ所、ピット約6ヶ所等であり、集落遺跡であることが確認された。東側の台地では、性格不明の掘り込みが6ヶ所、ピット1ヶ所が検出されているが、住居跡と思われるものは皆無であった。また、掘り込みの中には古墳時代後期の土師器が出土したものもあり、ごくわずかではあるが遺構の存在が示唆されたが、試掘調査時に調査済として遺跡範囲からははずされる結果となった。東西両台地の間の谷地は、水田面から約170cm下の青灰色粘質土層を基盤層として、約20cm上にFPを主体とする層がみられ、その直上に炭化物を多量に含む黒褐色粘質土層がみられたが、遺構として捉えられるものではなかった。



## 第2節 本調査の経過（日誌）

### 〔昭和57年度〕 第一次調査

- 9月 1日 戸神諏訪遺跡の発掘調査担当者が決定され、これより現場下見、調査事務所の設立、作業員の募集、重機等の手配など、発掘調査に係る準備を行う。
- 9月 8日 57年度調査部分の区域を確定し、本日より重機による表土除去作業に入る。
- 9月 9日 表土除去が終了した調査区西側より、遺構確認作業に入る。
- 9月13日 台風による豪雨で、調査区西端（小沢川寄り）の用水路が崩壊する。このため、事業団・道路公団・県教育委員会の三者立ち会いのもと、用水路の復旧作業を行う。
- 9月30日 遺構調査開始。住居跡等の掘り下げ、及び実測作業を開始するが、9月中は降雨が多く、また、作業員の大半が発掘未経験者であるため、作業はあまり進まなかった。
- 10月 5日 グリッド杭及び、ベンチマークの設定作業を測量業者に委託し、設定を開始する。
- 10月 8日 沼田市立西中学校生徒、約140名見学。
- 10月19日 沼田市立池田小学校生徒、約40名見学。
- 10月30日 沼田市市民大学講座、約30名見学。
- 11月 1日 調査区全体図（S=1/100）及び、同地形等高線図測量を測量業者に委託し、測量を開始する。
- 11月 3日 沼田市立薄根中学校文化祭に出土遺物を展示し、説明を行う。
- 11月 5日 群馬大学の新井房夫教授に堆積火山灰（浅間B軽石・榛名F P）の同定をお願いする。
- 11月22日 ラジコン模型飛行機を使った航空写真撮影を行う。（業者委託）
- 11月23日 本日より、調査区西側から、重機により確認面を下げ、縄文時代の土坑等下面の遺構確認を開始する。
- 11月25日 現場に雪が舞始める。県北部での冬季調査は、雪と霜に悩ませられる。
- 11月30日 調査区西側ローム斜面に、旧石器試掘トレンチを設定し、他の調査と平行し試掘調査に入る。
- 12月 4日 旧石器試掘トレンチより、石刃1点他出土。トレンチの拡張を行い、試掘を続ける。
- 12月21日 模型飛行機による、航空写真撮影。
- 12月28日 本日をもって、57年度の調査を終了する。

昭和57年度の調査遺構は、下記のとおりである。

住居跡 1号～42号、掘立柱建物跡 1号～7号、土坑 1号～57号、井戸 1号、溝 1号

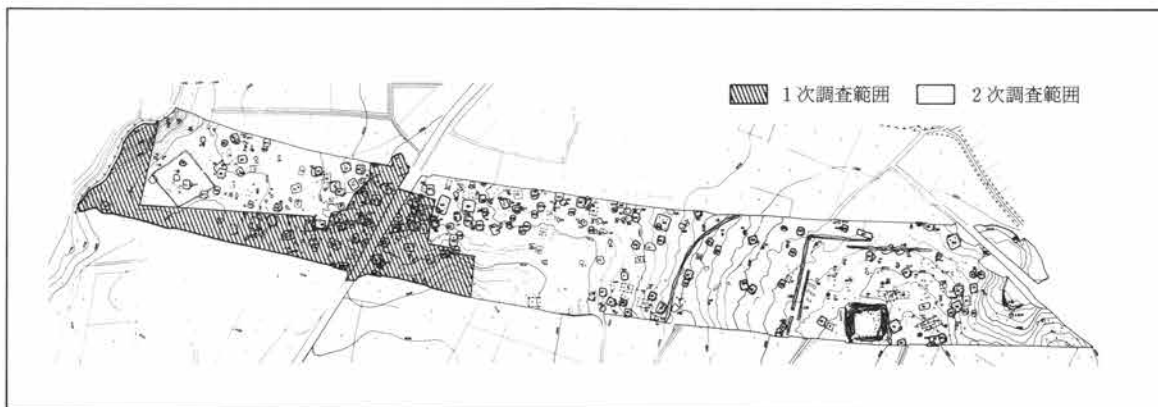
### 〔昭和58年度〕 第二次調査

- 4月 1日 新年度の発掘調査担当者が決定され、調査準備に入る。重機を導入し、表土除去作業に入る。
- 4月25日 作業員に対する調査説明会を行う。今年度より、糸井宮前遺跡の発掘調査終了に伴い、調査経験のある作業員が、多数参加する。
- 4月26日 本日より、遺構確認作業を開始し、確認後随時、遺構調査に入る。
- 5月13日 県立沼田女子高等学校生徒、約120名見学。
- 5月20日 模型飛行機を使った航空写真撮影を行う。
- 5月27日 測量業者による、全体図（S=1/100）測量、及び、グリッド杭打ち作業開始。

- 5月31日 関越自動車道（新潟線）調査市町村派遣職員、約50名見学。
- 6月17日 学習院大学考古学研究会見学。
- 6月28日 調査のため、路線外へ借地の上、プレハブ事務所移転。
- 7月 1日 工事の工程上、側道（工事中用道路）部分の先行引き渡しを行う。
- 8月 5日 群馬県教育委員会関係、約30名見学。
- 8月 6日 模型飛行機による航空写真撮影。
- 8月 8日 調査区西側ローム斜面に旧石器試掘トレンチを設定し、試掘調査を開始する。
- 8月 9日 事務所跡地の表土除去作業を開始。沼田市内学校PTA・生徒、約100名見学。
- 8月10日 県立利根商業高等学校社会クラブ見学。
- 9月 9日 高崎市教育委員会、見学
- 9月16日 沼田市下横野町老人会、29名見学。
- 9月17・18日 主に地元住民を対象に、遺跡現地説明会を行う。
- 9月29日 沼田市幹線対策室・都市計画課、見学。
- 10月 7日 沼田市立池田小学校生徒（4年生・6年生）、約120名見学。
- 10月15日 模型飛行機による、航空写真撮影。
- 10月18日 測量業者による、全体図（S=1/100）測量開始。
- 10月25日 沼田市立薄根小学校父兄・生徒、約120名見学。
- 11月29日 27日の降雪のため、除雪作業後に模型飛行機による航空写真撮影を行う。
- 12月 2日 工事の工程上、先に調査区東側の調査終了部分を引き渡す。
- 12月12日 屋外の調査作業をほぼ終了し、事務所の撤去に先駆けて、遺物・図面等の整理に入る。
- 12月21日 戸神諏訪遺跡の発掘調査作業を終了する。

昭和58年度の調査遺構は、下記のとおりである。

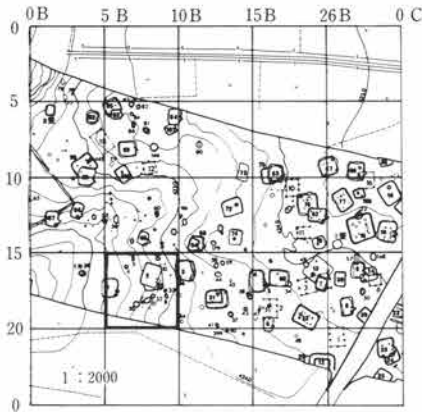
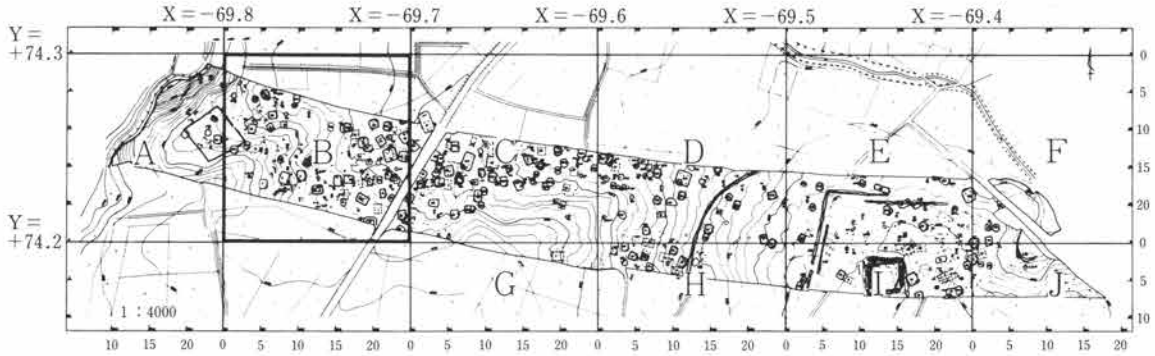
住居跡 43号～169号（欠番104・140号の2軒を含む。）、掘立柱建物跡 8号～35号、土坑 58号～183号、  
井戸 2号～3号、溝 2号～7号、方形周溝区画遺構 1号



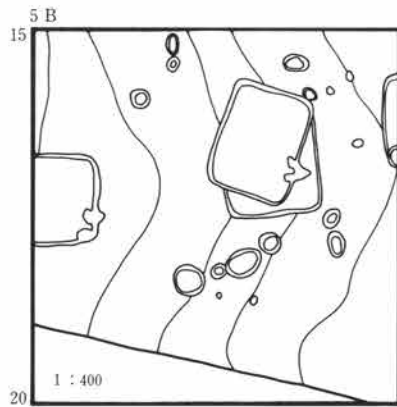
1・2次調査範囲図

### 第3節 調査の方法

#### 第1項 グリッドの設定



**設定の経緯** 本遺跡における調査時の測量用基準方眼（グリッド）の設定は、平面直角座標系（国家座標・国土座標）軸に準拠し設定した。従って、試掘調査時のトレンチ設定が関越道の路線中心杭より設定されているため、試掘調査とは直接照合することは不可能ではあったが、全体図上での照合に留め、関越自動車道自体が路線幅分の大きなトレンチであり、今後の隣接地域の発掘調査時における照合を考え国家座標に準拠した測量基準点を設けた。設定にあたっては、三角点等の基準点より直接的に座標を割り出す方法にはならず、間接的ではあるが精度に問題がないものと判断されたため、関越自動車道（新潟線）建設用に日本道路公団が設定した工事用測量基準杭と、その座標計算簿を借用し、調査範囲内の数地点の座標を割り出す方法を取った。



**設定方法と呼称** 前記のとおり、国家座標軸に準拠しつつ、調査範囲をカバーする最小限のグリッド数に抑え、かつ、X軸・Y軸上の座標値の100の位に合わせるように、一辺100mの正方形の大グリッドを組み、この呼称方法として西より東に向かいアルファベットの大文字のA・B・C……と名付け、調査範囲東端を含む「F」より折り返し「C」の南に「G」を設定し、東に向かいG・H・I・Jと名付けた。この大グリッドを基に、一辺4mの正方形小グリッドを最小グリッドと定義し、大グリッドをX・Y軸上に25分割し、

625個の小グリッドを配した。この小グリッドの呼称方法として、X軸上に西から東へ0～24、Y軸上に北から南へ0～24の数字を与え、X軸値+大グリッド名-Y軸値（例、15A-20）の順でグリッド番号とし、4m正方形の左上（北西コーナー）の値をもってグリッド名とした。しかし、このグリッド設定方法、及び呼称方法は、本遺跡独自のものであり、他の関越道諸遺跡のそれとは必ずしも一様ではない。



## 第2項 基本土層

本遺跡における基本的な土層の堆積状態は、右下の柱状模式図に示すとおりであり、以下、各層別にその特徴を記す。

- I層 表土。浅間B軽石(As-B)、及び榛名二ツ岳軽石(Hr-FP)を多く含む。現在の周辺桑園の耕作土であるため、攪拌状態にあり、軟質。水分はあまり含まず、砂状質。色調は暗褐色～黒褐色を呈し、場所により異なるが30～60cm程の堆積がみられる
- II層 ローム漸移層土。粘性は弱く、細粒子。ローム粒子・YPを若干含む。色調は黄褐色～赤褐色を呈し、微高地部を中心に堆積する。III層との境は明瞭ではない。
- II'層 黒色土。粘性は弱く、細粒子、軟質。色調は黒色～黒褐色を呈する。低地部分に堆積がみられ、低い部分ほど厚い堆積をみせ、II層に代わる層となる。低地に堆積するため、多量の水分を含む。
- III層 ローム。板鼻黄色軽石(As-YP)を多量に含む。しまりがあり、粘性は弱い。
- IV層 ローム。白糸軽石(As-SP)を含む。しまりがあり、粘性は弱い。炭化物を少量含む。
- V層 ローム。板鼻褐色軽石(As-BP)を多量に含む。しまりがあり、粘性は弱い。
- VI層 ローム粘質土。粘性が極めて強く、色調は濁乳白色～黄白色を呈する。パミスを含まず、しまりがある。浸透性が悪く、この層の上面に多量の水分が蓄積する。奈良・平安時代の竪穴住居跡のカマド構築材として、この粘土を利用しているものと考えられる。
- VII層 ローム暗色帯。粘性が強く、炭化物を若干含む。色調は暗褐色を呈する。後掲の旧石器は、本層位よりの出土である。
- VIII層 ローム暗色帯。VII層に類似するが、VII層より若干粘性が強く、色調もやや白味をおびる。
- IX層 礫層(シルト質土)



テフラ給源・推定降下年代一覧

テフラ名	給源	推定降下年代
浅間B軽石(As-B)	浅間山	13世紀前葉(天仁元=1208年)
榛名二ツ岳軽石(Hr-FP)	榛名山二ツ岳	6世紀中葉
板鼻黄色軽石(As-YP)	浅間山	約12,000～13,000年前
白糸軽石(As-SP)	浅間山	約15,000年前
板鼻褐色軽石(As-BP)	浅間山	約16,000～20,000年前
始良Tn火山灰(AT)	始良火山	約21,000～22,000年前

基本土層柱状模式図

## 第2章 遺跡の環境

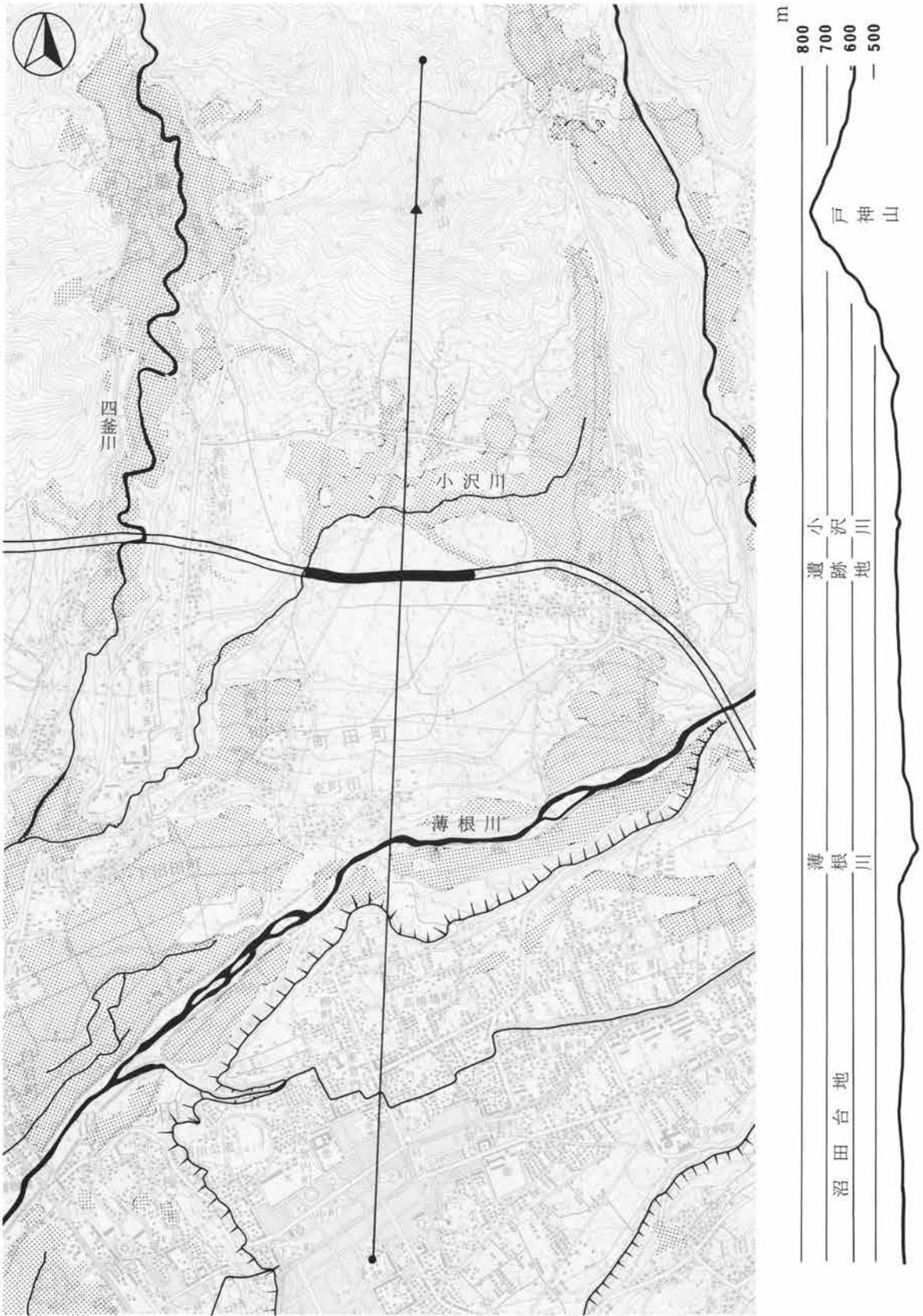
### 第1節 地理的環境

利根・沼田地方 群馬県の最北端、上越国境三国山脈の<sup>おおみなかみ</sup>大水上山（標高1,834m）に源を発する<sup>とねがわ</sup>利根川は、<sup>ゆげそがわ</sup>湯楡曾川・<sup>あかやがわ</sup>赤谷川・<sup>うすねがわ</sup>薄根川・<sup>かたしながわ</sup>片品川などの河川を集め、沼田市街地の南から大きく蛇行し、<sup>あやど</sup>綾戸峡をつくり<sup>しばがわ</sup>渋川付近より川幅を広げ関東平野へと流れ出る。この綾戸の溪谷を境に利根川上流地域を「利根・沼田地方」と称し、現在の行政区分による1市2町6ヶ村がこれに当たる。この地方は北から東にかけて新潟県・福島県・栃木県と接し、群馬県総面積の約28%を占める広大な面積を有するが、周囲を三国山・<sup>たにがわぶ</sup>谷川岳・<sup>たかさ</sup>武尊山・<sup>にっこうしらね</sup>日光白根山・<sup>あかぎ</sup>赤城山・<sup>こもちやま</sup>子持山などの二千メートル級の山々に囲まれ、その面積の約80%が険しい山地であり、平地は前記の利根川とその支流などの河川沿いに枝状に開けるに過ぎない。その中において、薄根川や片品川が利根川に合流する沼田市街地周辺は、河川により形成された河岸段丘面を中心に、比較的広い平地に恵まれる、通称「沼田盆地」と呼ばれる地域である。

利根・沼田地方は、太平洋側と日本海側を分ける三国山脈の南側に位置するため、その気候は両者の影響を多分に受け、冬季においては寒冷多雪地帯となる。特に北部の水上町や片品村では、冬の降水量が夏の降水量を上回り、典型的な日本海型気候の特徴を示す。

遺跡の位置と立地 本遺跡は、JR東日本（旧国鉄）の上越線沼田駅より北東へ約4 km程の沼田台地の北、薄根川右岸にある沼田市<sup>まちだまち</sup>町田町と、同市<sup>とがみまち</sup>戸神町との町境に位置し、遺跡の北には標高約765mの急峻な斜面をもつ<sup>とがみやま</sup>戸神山（別称石尊山、三角山）が聳え、南へ約1.2kmの所を、利根郡<sup>かわぼむら</sup>川場村と水上町の境に聳える武尊山（標高2,158m）南面の火口に源を発する薄根川（古称白根川）が西流する。遺跡は、この薄根川により形成された5段の河岸段丘最上位面上の微高地にあり、標高は約420m程である。また、遺跡の東側には水源を<sup>かみほつち</sup>上発知の武尊山茶臼嶽の西谷から発する<sup>ほつちがわ</sup>発知川が、西側には水源を天沼山の溪谷から発する<sup>しかまがわ</sup>四釜川がほぼ平行して南流し、その間には、戸神山に源を発する<sup>おざわがわ</sup>小沢川が戸神山南麓に広がる水田地帯と本遺跡の位置する微高地との境を画する形で遺跡の北側を西流し、遺跡西端で流れを南に変え、四釜川に合流する。このように、遺跡の位置する河岸段丘上の微高地は、北を戸神山、東を<sup>みねやま</sup>発知川（峯山丘陵）に、南を薄根川、西を四釜川に画された、東西約2 km、南北約1 kmの平坦地（一部緩傾斜地）であり、この微高地と薄根川河岸段丘の下位面との比高差は約60m、本遺跡北戸神山南麓（山頂より約0.7km）に広がる水田地帯との比高差は約5 mを測る。

本遺跡の調査前の地目は桑園であり、ほぼ平坦な面を呈していたが、調査に際し表土を除去したところ、東西に渡り波を打つように3カ所の谷地形（4カ所の小微高地があり）、旧地形と現地形とでは、若干の差異が認められる。



水田面 戸神諏訪遺跡

遺跡周辺地勢図

0 1000 m

## 第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する利根・沼田地方は、前節の地理的環境においても述べたように、山々に囲まれた山間部に属す。近年、大規模な交通網の整備に伴い上越新幹線や関越自動車道などの建設が相次ぎ、開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査件数も急増しつつあるが、平野部に比べればその数は少なく、未だこの地の歴史的データは断片的なものであるといえる。以下、時代ごとに周辺の遺跡を紹介し、歴史的な環境の概略を記す。

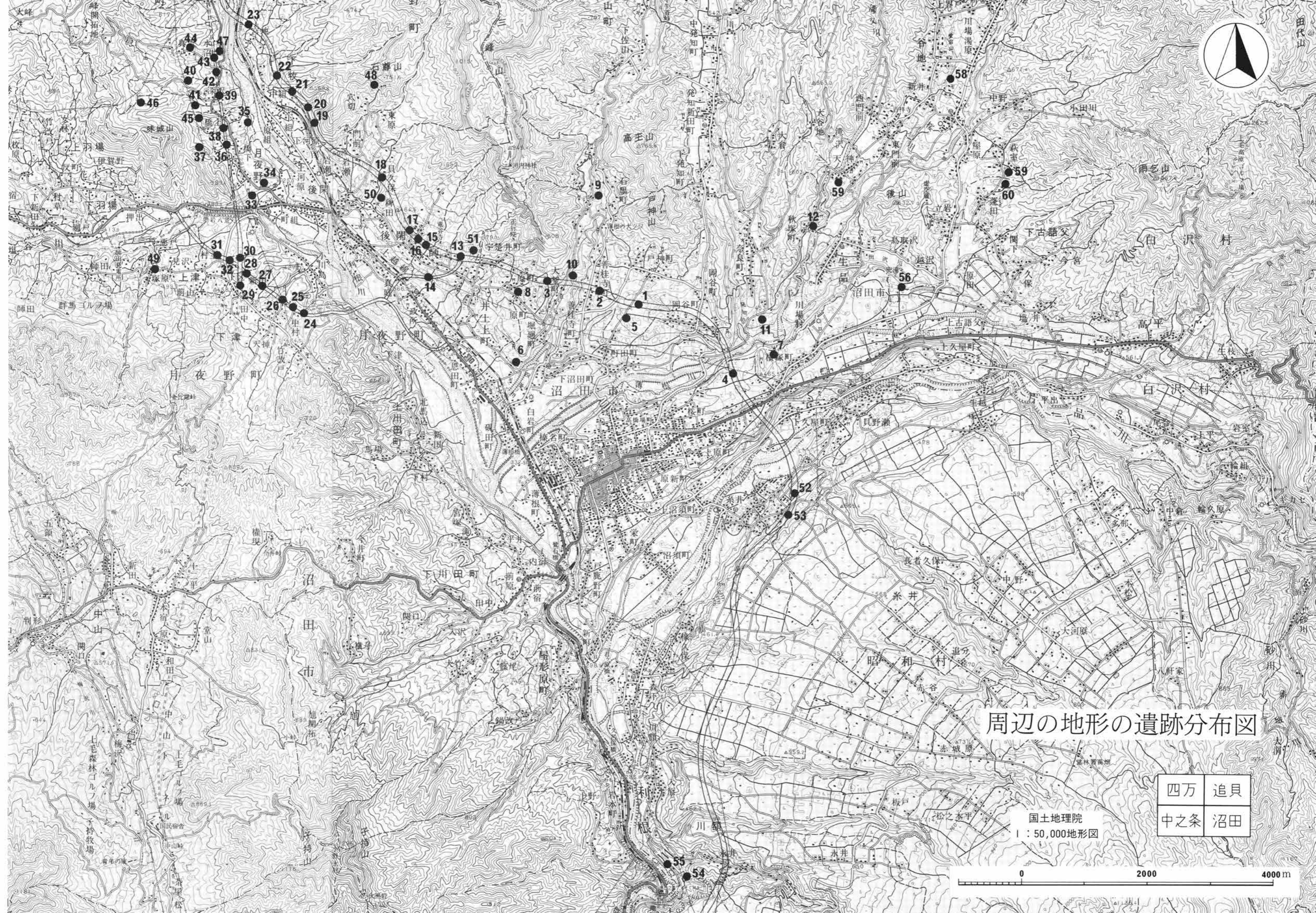
**旧石器時代** 周辺の旧石器時代の代表的な遺跡としては、本遺跡と同様に関越自動車道の建設に伴い調査された月夜野町「後田(師A)遺跡」(後掲図・表No13)の他、月夜野町「三峰神社裏遺跡」(No15)・「善上遺跡」(No16)・「大友館址遺跡」(No17)・「大竹遺跡」(No20)・「小竹A遺跡」(No21)・昭和村「長井坂城跡遺跡」(No54)などがあり、本遺跡同様に暗色帯中より石器群が出土している。

**縄文時代** 早期の遺跡は少なく、月夜野町「前中原遺跡」(No43)で茅山期の遺構が、遺物では沼田市「石墨遺跡」(No2)・昭和村「中棚遺跡」(No53)で押型文・捺糸文・条痕文土器が出土している。前期では、利根川・片品川等の流域の段丘面上に広く分布が見られ、昭和村「糸井宮前遺跡」(No52)や中棚遺跡、後田遺跡において大規模な集落跡が検出されており、中期では月夜野町「梨の木平遺跡」(No35)、白沢村「寺谷遺跡」(No60)において敷石住居跡が検出されている。後・晩期の遺跡は少なく、後期の配石遺構が月夜野町「深沢遺跡」(No39)において検出されている。

**弥生時代** 中期後半の遺跡として月夜野町「八束脛洞窟遺跡」(No48)・寺谷遺跡、後期の遺跡として川場村「高野原遺跡」(No56)、月夜野町「大原II遺跡」(No32)・「十二原遺跡」(No29)・「十二原II遺跡」(No28)・「三後沢遺跡」(No27)、沼田市「鎌倉遺跡」(No4)・石墨遺跡などがあり、集落が検出されており、石墨遺跡では円形周溝墓が検出されている。

**古墳時代** 前期の遺跡として、石墨遺跡、高野原遺跡、糸井宮前遺跡、沼田市「清水遺跡」(No7)などで古式土師器・石田川式土器を出土する住居群が検出され、鬼高期の集落としては石墨遺跡、後田遺跡、月夜野町「師B遺跡」(No41)があり、古墳群として月夜野町「塚原古墳群」(No49)・「稗田古墳群」(No50)・「金山古墳群」(No51)、沼田市「大釜古墳群」・「奈良古墳群」(No11)・「秋塚古墳群」(No12)、昭和村「鏡石古墳」(No55)、白沢村「天神古墳群」(No59)などがある。

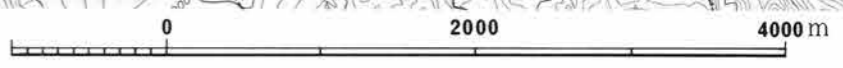
**奈良・平安時代** 『和名類聚鈔』の古活字本による利根(止弥)郡の郷としては、渭田(奴未田)、男信(奈萬之奈)、笠科(加佐之奈)、呉桃(奈久留美)とあり、同高山寺本には渭田(沼未田)、男信(奈未之奈)、笠科(加佐之奈)、呉桃(奈久留美)とあり、いずれも4つの郷が置かれていた記載が残り、現在でも沼田市、川場村生品、片品村・片品川、月夜野町名胡桃と地名が残る。このうち、本遺跡の所在する沼田市町田町・戸神町は渭田郷に含まれると考えられる。また、『安楽寿院所領目録』には土井出・笠科庄、隅田庄と荘園名の記載も見られる。周辺の奈良・平安時代の集落としては、沼田市石墨遺跡・大釜遺跡・「土塔原遺跡」(No5)・「諏訪平遺跡」(No6)・月夜野町後田遺跡・師B遺跡・三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡・「門前A遺跡」(No18)・十二原遺跡・大原遺跡・「村主遺跡」(No31)・「洞I・II・III遺跡」(No36)・「藪田・藪田東遺跡」(No38)・「前田原遺跡」(No42)、昭和村糸井宮前遺跡、中棚遺跡、白沢村寺谷遺跡などがある。また、月夜野町「洞窯跡群(洞A支群)」(No37)・「深沢窯跡群(深沢B支群)」(No40)・「深沢窯跡第2地点(深沢C支群)」(No41)・「真沢窯跡群(真沢A)」(No44)・「沢入A支群」(No45)・「須磨野A支群」(No46)・「水沼A支群」(No47)よりなる月夜野古窯跡群は、7世紀より開窯し、県北部に対し瓦・須恵器を供給する。前出の藪田・藪田東遺跡においては、この月夜野窯跡群の工人集団の集落と粘土採掘場跡を検出している。



### 周辺の地形の遺跡分布図

四万	追貝
中之条	沼田

国土地理院  
1 : 50,000地形図









田葉成

山峯三

共京

木蕪

御水毛

入寺

松岳

入ノ田

赤々川

山峯三

金山

田味

山成

水天

小栗山

平野八

蓄水

山金

草山

軒戸

田吉

田味

二十

翠岳

細手

ノノノの田軒戸

田味墨石

取込小

取込向

ノノノの田軒戸

ノノノの田軒戸

ノノノの村益大

向田

取込小

取込小

磯奈

ノノノの村田調

ノノノの村軒戸

ノノノの村軒戸

取込

添渡屋

取込中

取込

取込小

ノノノの村調藤

岩土

取込

取込善

取込宮

取込小

岩土

取込土

取込

ノノノの村田調

二十匠

土岩

土岩

土岩

取込

又古毛

取込二十

取込中

取込

土岩

土岩

取込

取込

木並

水天

平野

取込

土岩

取込

取込

取込

平東

取込東

田前

取込

取込

取込

取込

取込

取込

取込

取込

本寺

市日二

取込

取込

取込

取込

取込





周辺遺跡一覧表

遺跡 No.	遺 跡 名 (所 在 地)	遺 跡 の 概 要	文 献
1	戸神諏訪遺跡 (沼田市町田町字土塔原)	旧石器の遺物 縄文時代の住居跡・陥し穴 弥生～古墳時代の集落。奈良・平安時代の集落。平安時代の寺院跡を検出。	本報告書
2	石墨遺跡 (沼田市石墨町字新田割)	縄文時代の住居跡・陥し穴。弥生・古墳・奈良・平安各時代の住居跡。及び平安時代以降の掘立柱跡・小鍛冶跡等を検出した。	『石墨遺跡』 沼田市教育委員会 1985
3	大釜遺跡 (沼田市大釜町・堀廻町)	奈良・平安期の住居跡・掘立柱建物跡・土坑を調査。又、時期不明の配石遺構も検出した。	『大釜遺跡・金山古墳群』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
4	鎌倉遺跡 (沼田市岡谷町字鎌倉)	縄文時代前期～中期にかけての土器・石器類が出土し、弥生時代後期の住居跡や溝・土坑等を検出。	『年報I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
5	土塔原遺跡 (沼田市町田町字土塔原)	平安時代の住居跡を調査。	『年報II』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
6	諏訪平遺跡 (沼田市井土上町)	弥生時代・古墳時代・平安時代の住居跡を検出した。	秋池武 「出現期古墳の地域性」『第5回三県シンポジウム資料』 1984
7	清水遺跡 (沼田市横塚町清水)	古墳時代前期(石田川期)の住居跡を調査。	『年報I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
8	原町「経塚」遺跡 (沼田市原町塚井原)	大量の一石一字経が出土した。その他、古銭・石造物も確認されている。塚の時期は不明である。	『原町「経塚」発掘調査報告書』 沼田市教育委員会 1977
9	寺入遺跡 (沼田市石墨町字寺入)	縄文時代の住居跡・土坑・配石遺跡・竪穴状遺構を検出した。同時に早期～後期の遺物も多量に出土。	『寺入遺跡』 沼田市教育委員会 1986
10	大釜漏1号古墳 (沼田市大釜町八幡平)	7世紀初頭～中頃に築造された山寄せ式円墳。内部主体は自然石乱石積の横穴式袖無型石室である。鉄製の刀子が一振り出土。大釜古墳群の中の一つと考えられる。	『大釜漏1号古墳発掘調査報告書』 沼田市教育委員会 1982
11	奈良古墳群 (沼田市奈良太平)	横穴式石室を有する小円墳が数十基現存する。ニッ岳の噴火による軽石層上に構築されている。	『群馬県史』資料編3 群馬県 1981
12	秋塚古墳群 (沼田市秋塚町上野藤井 他)	現在は2基を残すのみである。1基は自然石乱石積の袖無型石室で開口している。	『群馬県遺跡台帳I』東毛編 群馬県教育委員会 1971
13	後田遺跡(師A) (利根郡月夜野町大字師字後田・青岳 他)	縄文前期・古墳・奈良・平安時代の集落と近世の溝・土坑等を検出。	『年報I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
14	師B遺跡 (利根郡月夜野町大字師・政所)	古墳・奈良時代の住居跡と近世土坑墓を検出した。	『年報I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
15	三峰神社裏遺跡 (利根郡月夜野町大字師字中堀)	旧石器・縄文時代の住居跡・土坑、平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、及び中世土坑を検出した。他に古墳1基を確認した。	『三峰神社裏遺跡 大友館址』 月夜野町教育委員会 1986
16	善上遺跡 (利根郡月夜野町大字師字八幡)	旧石器・縄文時代の住居跡・ピット。中世以降の土坑を検出。他に円墳を1基確認した。	『善上遺跡』 月夜野町教育委員会 1986
17	大友館址遺跡 (利根郡月夜野町大字師・善上)	旧石器・縄文時代の住居跡及びピット。平安時代の住居跡・掘立柱建物跡。更に中世の掘立柱建物跡群と庭園の調査を行った。	『三峰神社裏遺跡 大友館址』 月夜野町教育委員会 1986

遺跡 No	遺 跡 名 (所 在 地)	遺 跡 の 概 要	文 献
18	門前A遺跡 (利根郡月夜野町大字後閑字 門前)	古墳時代から平安時代に及ぶ住居跡・土坑を検出した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
19	高平遺跡 (利根郡月夜野町大字下牧字 高平)	縄文時代の土坑と平安時代の住居跡を検出した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
20	大竹遺跡 (利根郡月夜野町大字下牧字 大竹)	旧石器時代のユニット、縄文時代の住居跡と平安時代の住居跡を確認した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
21	小竹A遺跡 (利根郡月夜野町大字下牧字 小竹)	旧石器時代のユニットと縄文時代の土坑を確認した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
22	小竹B遺跡 (利根郡月夜野町大字下牧字 小竹)	縄文時代の土坑と近世の暗渠・柱穴群を検出した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
23	宮地遺跡 (利根郡月夜野町大字下牧字 宮地)	縄文時代前期の住居跡・土坑と近世の掘立柱建物跡を検出した。	『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』月夜野町遺跡調査会 1985
24	名胡桃城遺跡 (利根郡月夜野町大字下津字 城平)	戦国時代に利根川右岸の段丘端に築かれた並郭式の山城である。二の丸・三の丸・曲輪跡などを残している。	山崎 一 『群馬県古城址の研究』下巻 群馬県文化事業振興会 1972
25	城平遺跡 (利根郡月夜野町大字下津字 城平)	縄文・弥生・古墳各時代の住居跡を検出した。又、戦国時代の名胡桃城の堀・溝等を確認した。	『城平遺跡・諏訪遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
26	諏訪遺跡 (利根郡月夜野町大字下津字 諏訪)	縄文時代の土坑および弥生・古墳時代の住居跡等を検出した。	『城平遺跡・諏訪遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
27	三後沢遺跡 (利根郡月夜野町大字下津字 三後沢)	縄文時代前期・中期の住居跡。弥生時代後期の住居跡。その他、多数の土坑を検出。	『三後沢遺跡・十二原II遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
28	十二原II遺跡 (利根郡月夜野町大字上津字 十二原)	縄文・弥生時代の住居跡と多数の土坑を検出。	『三後沢遺跡・十二原II遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
29	十二原遺跡 (利根郡月夜野町大字下津字 十二原)	縄文時代の遺物の確認と、弥生・古墳・平安時代の住居跡を検出した。	『十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
30	大原遺跡 (利根郡月夜野町大字上津字 大原)	縄文時代の阿玉台式土器・弥生時代樽式土器を伴う住居跡。更に古墳・奈良時代の住居跡も確認した。	『十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
31	村主遺跡 (利根郡月夜野町大字上津字 大原)	縄文時代の陥し穴は大原II遺跡において検出されたものと同一群を成している。又、奈良・平安時代の住居跡件数とそれに伴う遺物も多く確認された。	『大原II遺跡・村主遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
32	大原II遺跡 (利根郡月夜野町大字上津字 大原)	縄文時代の土坑・陥し穴が多数検出された。陥し穴は隣接する村主遺跡と同一群を構成している。又、弥生時代の住居跡なども検出。	『大原II遺跡・村主遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

第2章 遺跡の環境

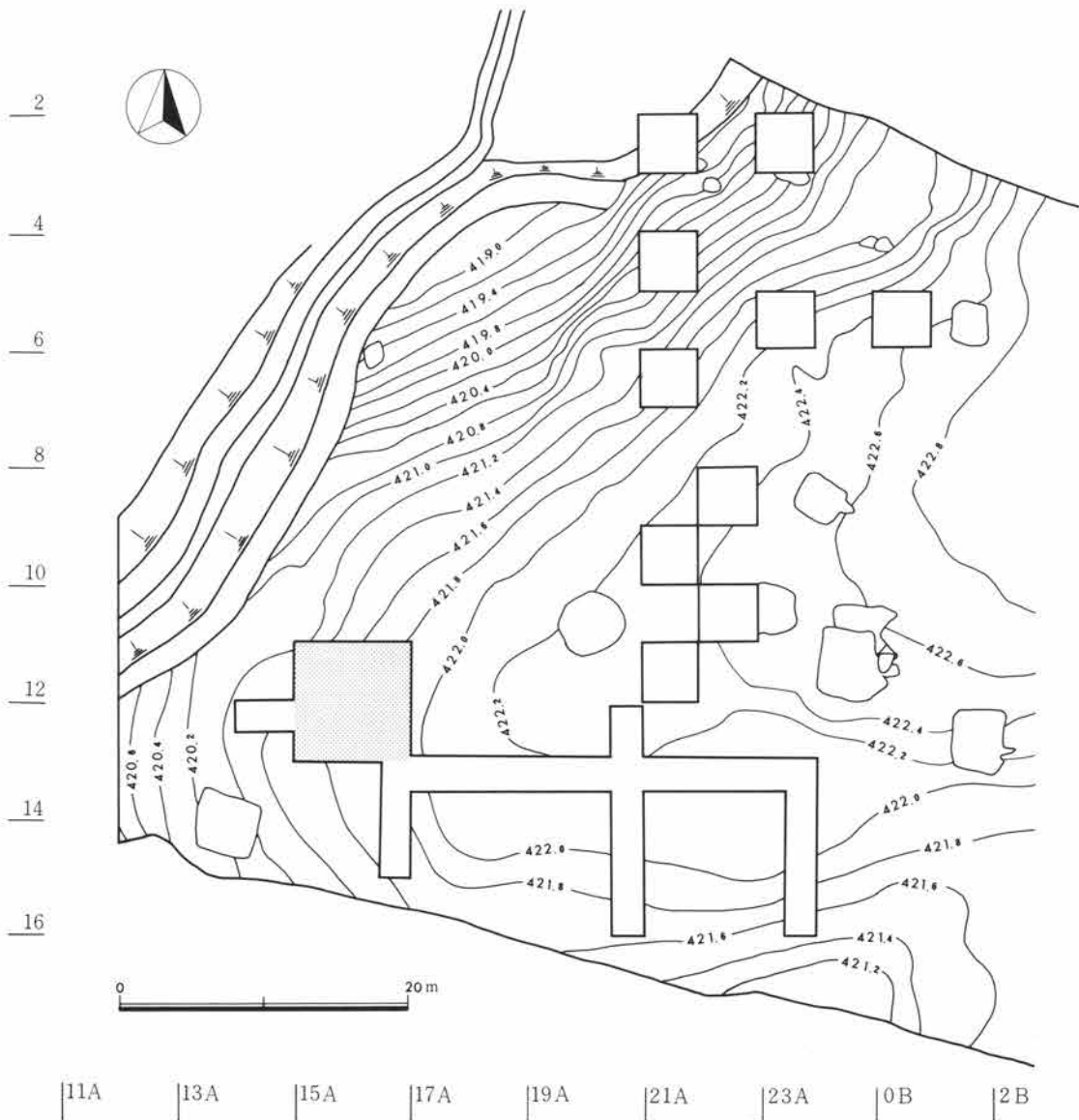
遺跡 No	遺 跡 名 (所 在 地)	遺 跡 の 概 要	文 献
33	都遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字上組)	時期不明の有舌尖頭器が2点出土している。	『十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺 跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
34	菩提木遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜 野)	「上毛古墳綜覧」には旧桃野村55号墳として扱われていた。 調査の結果、一字一切経が多数検出され、経塚であることが 判明した。	『年報Ⅰ』 群馬県埋蔵文化財調査 事業団 1982
35	梨ノ木平遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字藪田)	縄文時代中期の敷石住居跡。弥生時代の土坑、平安時代の住 居跡を検出した。	『梨ノ木平遺跡』 群馬県教育委員 会 1977
36	洞Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字洞)	平安時代の住居跡。中近世の掘立柱建物跡や近世鍛冶屋敷跡 を確認した。	『洞Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』 群馬県埋蔵 文化財調査事業団 1986
37	洞窟跡群(洞A支群) (利根郡月夜野町大字月夜野 字洞)	8世紀末から10世紀の窟跡を4基確認した。他に瓦・須恵器 などが出土した。	山崎義男 「上野国利根郡月夜野二 窟跡に就いて」『古代文化』第12巻第 4号 日本古代学会 1941 『月夜 野古窟跡群』 月夜野町教育委員会 1985
38	藪田・藪田東遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字藪田)	弥生・平安時代の住居跡や中近世にかけての掘立柱建物跡な どを調査した。又、平安時代粘土採掘坑の検出により、窯業 集団の存在を認めることができる。両遺跡は隣接しており、 同一のものと思われる。	『藪田遺跡』 1985 『藪田東遺跡』 1982 群馬県埋蔵文化財調査事業団
39	深沢遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字深沢)	縄文時代後期の住居跡を検出した。	『深沢遺跡・前田原遺跡』 群馬県 埋蔵文化財調査事業団 1987
40	深沢窟跡群(深沢B支群) (利根郡月夜野町大字月夜野 字深沢)	4基の窟跡を確認した。出土遺物は10世紀代の坏・壺・甕・ 羽釜などが多数を占める。	『月夜野古窟跡群』 月夜野町教育 委員会 1985
41	深沢窟跡群第2地点(深沢C 支群) (利根郡月夜野町大字月夜野 字深沢)	10世紀の窟跡。坏・壺・皿・羽釜・甕等を出土した。深沢B 支群より新しいと思われる。	『月夜野古窟跡群』 月夜野町教育 委員会 1985
42	前田原遺跡 (利根郡月夜野町大字月夜野 字前田原)	平安時代の住居跡、時期不明の溝状遺構・土坑・掘立柱遺構 を検出。	『深沢遺跡・前田原遺跡』 群馬県 埋蔵文化財調査事業団 1987
43	前中原遺跡 (利根郡月夜野町大字小川字 前中原)	縄文・平安時代の住居跡・土坑。他に近世の墓坑を検出。	『十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺 跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
44	真沢窟跡群(真沢A群) (利根郡月夜野町大字小川字 前田)	10世紀代の窟跡。坏・壺・脚付羽釜・甕を出土。	山崎義男 「上野国利根郡月夜野町 二窟跡に就いて」『古代文化』12巻第 4号 日本古代学会 1941 『月夜 野町古窟跡群』 月夜野町教育委 1985
45	沢入A支群 (利根郡月夜野町大字月夜野 字藪田)	月夜野古窟跡群の中では最も古く、8世紀後半と考えられる。 壺・甕・蓋・坏・壺・瓦・瓦塔など多量に出土した。	『月夜野町古窟跡群』 月夜野町教 育委員会 1985

遺跡 No	遺 跡 名 (所 在 地)	遺 跡 の 概 要	文 献
46	須磨野A支群 (利根郡月夜野町大字月夜野 字須磨野)	10世紀代の坏・埴・鉢・脚付羽釜が出土した。	『月夜野古窯跡群』 月夜野町教育 委員会 1985
47	水沼A支群 (利根郡月夜野町大字小川字 真沢)	地下式窯体構造を持つ、遺物の出土は見られなかったが、前 中原遺跡に近接し、関連のある窯跡と思われる。	『月夜野古窯跡群』 月夜野町教育 委員会 1985 『十二原遺跡・大原 遺跡・前中原遺跡』 群馬県埋蔵文 化財調査事業団 1982
48	八束脛洞窟遺跡 (利根郡月夜野町大字後閑字 穴切)	大小4つの洞窟と岩陰からなる遺跡。弥生時代中期の土器や 穿孔された人骨が多く出土した。	山崎義男 『群馬県利根郡八束脛遺 跡』『日本考古学年報』 日本考古学 協会 1955
49	塚原古墳群 (利根郡月夜野町大字上津字 塚原・不動)	40余基の古墳が確認されている。	『上毛古墳綜覧』 群馬県 1938 『塚原古墳群調査報告』 尾崎喜左 雄
50	稗田古墳群 (利根郡月夜野町大字後閑字 下稗田)	古馬牧第65墳を宅地造成のため調査。袖無型横穴式石室で露 出しており、残存状態はよくない。副葬品として鉄鏃・玉類・ 馬具などが出土した。	『古馬牧村史』 月夜野町誌編纂委 員会 1972
51	金山古墳群 (利根郡月夜野町大字師字金 山)	13基が現存するが、その内4基を調査し、1、2、3、4号 墳とした。時代は6C末以降と思われる。4号墳のニッ岳軽 石層純堆積下から竪穴住居跡が出現した。	『大釜遺跡・金山古墳群』 群馬県 埋蔵文化財調査事業団 1983
52	糸井宮前遺跡 (利根郡昭和村大字糸井字大 貫原)	縄文時代前期の大規模な住居群・土坑。古墳時代の焼失家屋 を含む住居跡。平安時代の住居跡等を検出。	『糸井宮前遺跡I』 1985 『糸井 宮前遺跡II』 1986 群馬県埋蔵文 化財調査事業団
53	中棚遺跡 (利根郡昭和村大字糸井字中 棚)	縄文時代の住居跡・土坑・包含層。弥生時代終末から古墳時 代初頭の住居跡。平安時代の住居跡を検出した。	『中棚遺跡―長井坂城跡―』 昭和 村教育委員会 1985
54	長井坂城跡遺跡 (利根郡昭和村大字川額字 原)	旧石器時代の土層から遺物を検出。戦国時代の城は、自然の 地形を利用し、南北260m、巾180mの広さを有している。	『中棚遺跡―長井坂城跡―』 昭和 村教育委員会 1985
55	鏡石古墳 (利根郡昭和村大字川額字鏡 石)	6世紀中葉。径7～7.2mの2段築造の小円墳。墳丘は石積み され、埴輪が配列されている。主体部は輝石安山岩自然石を 使用し箱形棺状である。出土人骨は40～50才の男女と推定。	『鏡石古墳発掘調査報告』 群馬県 教育委員会 1974
56	高野原遺跡 (利根郡川場村大字生品字高 野原)	弥生～古墳時代の住居跡・古墳跡・土坑等が出土した。	飯塚卓二 『出現期古墳の地域性』 『第5回三県シンポジウム資料』 1984
57	内手遺跡 (利根郡川場村大字萩室字内 手)	土坑とピット群を検出した。	『内手遺跡発掘調査報告書』 川場 村教育委員会 1981
58	大友館遺跡 (利根郡川場村大字谷地字中 原)	室町時代の城館跡。土塁が東・北・西の一部に残り、その外 側に堀が見られた。	『大友館跡発掘調査報告書』 川場 村教育委員会 1983
59	天神古墳群 (利根郡川場村大字天神字城 越)	鏡・直刀・勾玉・管玉等の出土があった。	『群馬県遺跡台帳I』 東毛編 群馬 県教育委員会 1971
60	寺谷遺跡 (利根郡白沢村大字下古語父 字寺谷)	縄文時代から平安時代の住居跡・炉跡・土坑等を確認した。	『寺谷遺跡発掘調査報告書』 図版編 白沢村教育委員会 1981

## 第3章 検出遺構・遺物

### 第1節 旧石器時代

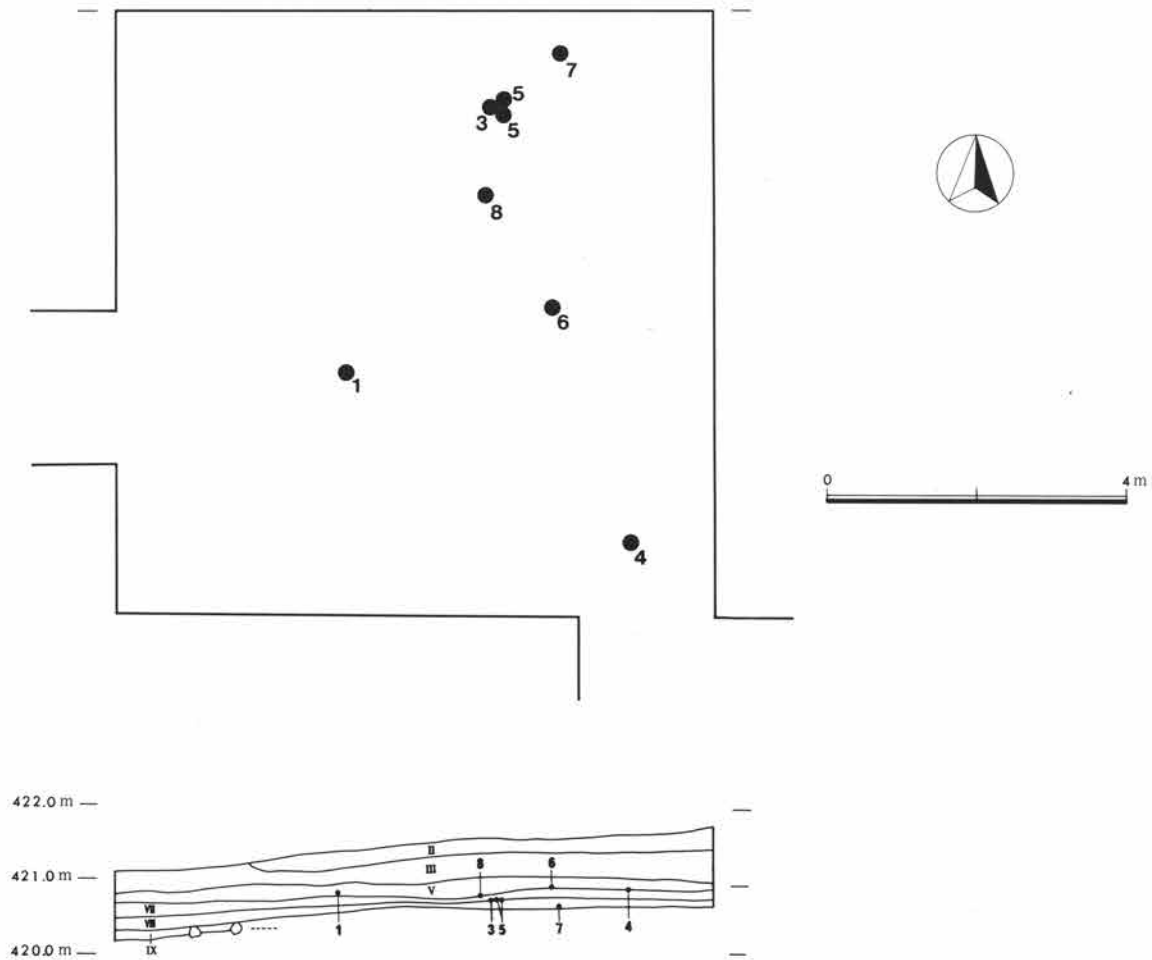
**発掘区域と層位** 本遺跡での旧石器の調査は縄文時代の住居跡の調査終了後に、遺跡の西側に流れる小沢川に接したA区を中心に広がるロームの堆積状態の良い部分を対象に試掘から開始した。第1図の様に幅2mで、東西方向に長さ30mとそれから南北に延びる16mのトレンチを何本も入れた。そして、16A12グリッド付近の地点から石器を検出し、その周辺を8m四方の形で拡張した。その結果、長軸約7m、短軸約4mの不定形の散漫な広がりで、総点数8点が出土した。さらに、台地の中央部から北部分にかけて、やや不規則な千鳥格子状の4m四方の試掘を実施したものの、残念ながらこれ以上の遺物の出土は無く、これをもって旧石器時代調査作業を終了した。

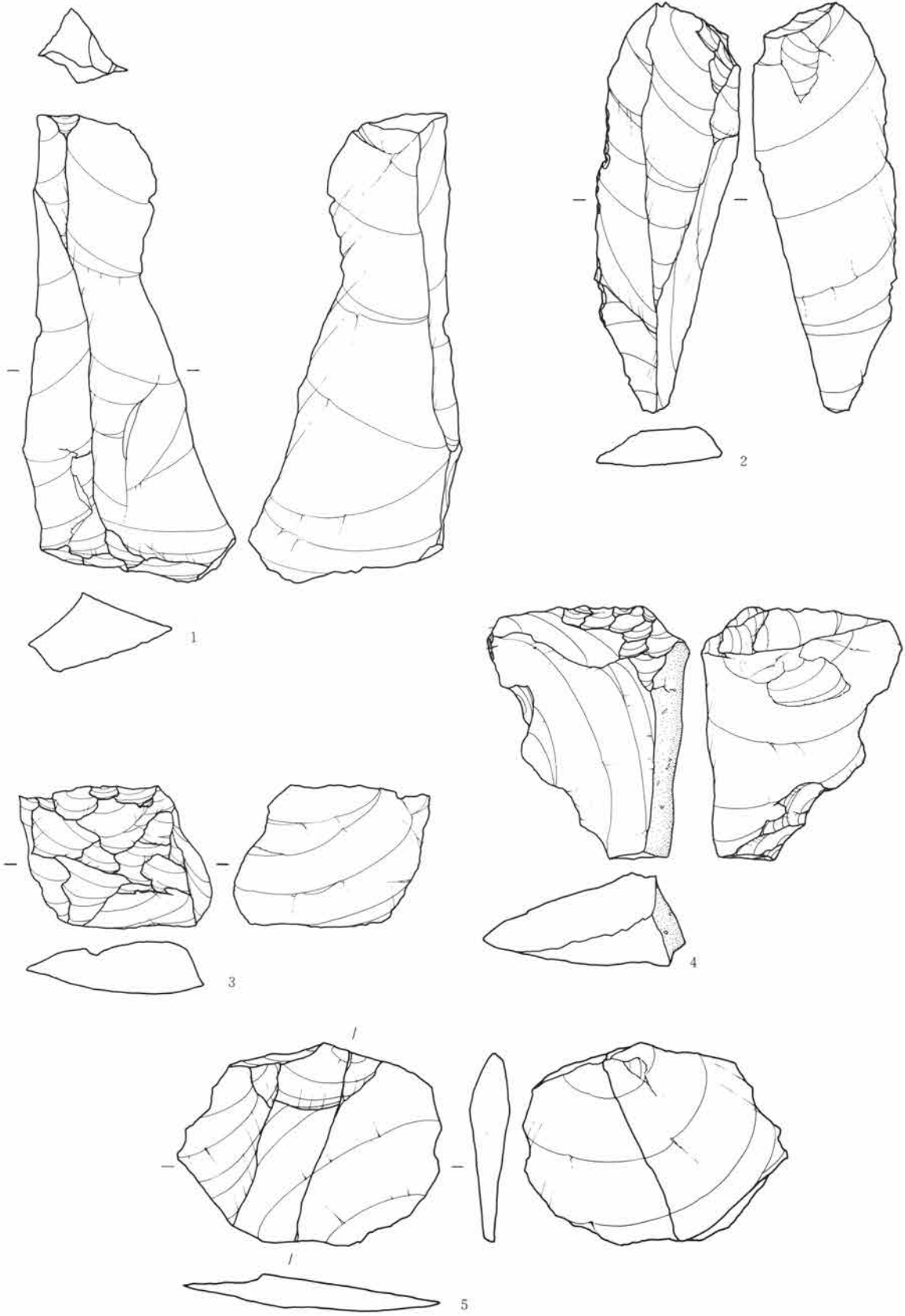


第1図 試掘トレンチ配置図

**出土遺物** 検出された石器の総数は8点で、その組成は石刃1点、剝片7点である。石材は黒色頁岩1点と黒色安山岩6点、それに珪質頁岩の1点であり、特に黒色頁岩と黒色安山岩は群馬県内での在り系の特徴的な石材である。石器群の特徴としては、ナイフ形石器などのように完成された形での石器が存在しない事と、加工痕や使用痕が認められる資料が6点も認められる点、それに不定形の剝片の大部分が黒色安山岩であるのに対して、唯一の石刃のみが黒色頁岩であり、搬入品として遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。ブロックの性格としては、散漫な分布状態や石核や接合資料の欠落などの点からみて、一時的なキャンプ・サイトと考えられる。

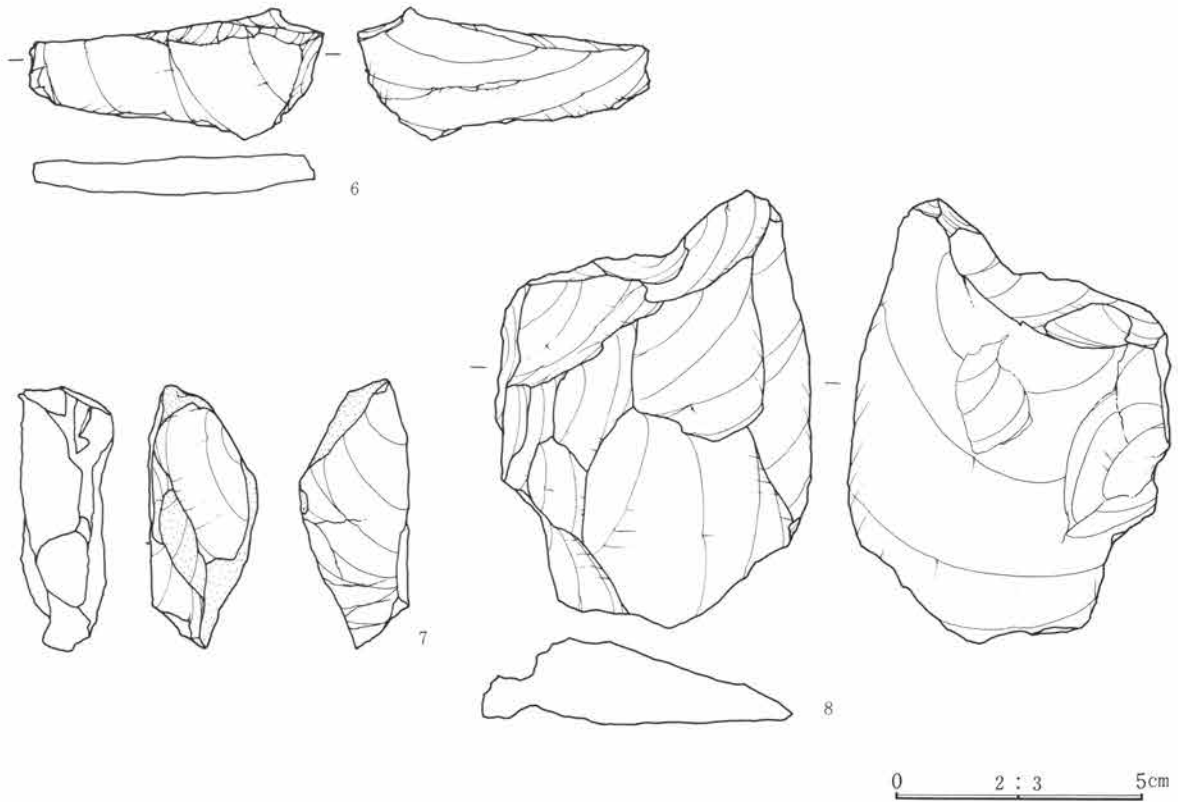
**石器群の位置付け** 本石器群には器種として特徴ある石器が認められないために、編年的位置付けを石器自体からは残念ながら求められない。だが、検出された層位が暗色帯中（註1）であり、垂直分布での出土状態からみても同一時期と考えられる。そこで、本遺跡周辺で旧石器の出土層位が暗色帯前後で検出されている遺跡を選び出して比較してみると、利根郡月夜野町の大竹・小竹A、大友館址・善上・三峰神社裏・後田の各遺跡があげられる。これらの遺跡との対比から、それらの出土層位がAT包含層である暗色帯中というあり方からと考え合わせても、広域火山灰であるAT降下以前の時期であるのは間違いないと言える。さらに、前記した後田遺跡での石器群の様相と類似する点が多い事から、ほぼ南関東編年でのVII層段階の「後田段階」（註2）に相当すると考えられる。





0 2 : 3 5 cm





No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	打角	備考
1	剥片	黒色安山岩	11.6	5.6	2.3	108.0	126°	縦長、表面に同一方向の剥片剥離、打瘤と左側縁は打撃時の衝撃で破損。加工痕。
2	石刃	黒色頁岩	9.6	3.5	0.9	35.6	115°	単面打面、縦長、表面の剥離作業面から両設打面、両左側縁に使用痕。
3	剥片	黒色安山岩	3.7	4.9	1.3	24.0	—	不定形、裏面からの加工により打面及び打瘤を欠落。
4	剥片	黒色安山岩	5.5	5.1	2.3	59.6	116°	礫面打面の剥離面に打面転移、頭部調整が顕著、左側縁に表裏面からの加工痕。
5	剥片	黒色安山岩	5.3	6.5	1.0	29.8	105°	礫面打面、不定形、折断、表面に求心剥離の痕跡。石核は片面の円盤状か。
6	剥片	黒色安山岩	5.9	2.5	0.8	12.9	—	不定形、折断により打面部を欠落。
7	剥片	珪質頁岩	2.4	5.2	1.8	22.3	—	礫面打面の剥離作業面に打面転移。一部に微細な使用痕。
8	剥片	黒色安山岩	6.3	8.8	1.8	87.3	133°	右側縁に表面からの加工痕。

註1. 暗色帯については、A Tとの関係からほぼ2.2万年以前の年代が想定されるが、県内の他遺跡での堆積状態からみて、南関東の武蔵野台地での第1及び第2黒色帯のどちらに相当するものであるかがはっきりしていない。

2. 「後田段階」については、須藤隆司(1986)、佐藤宏之(1988)らが提唱しており、その内容は武蔵野台地の第VII層に対比され、縦長の剥片剥離技術を主体とし、二側縁加工のナイフ形石器の確立した石器群の段階と考えられている。

参考文献

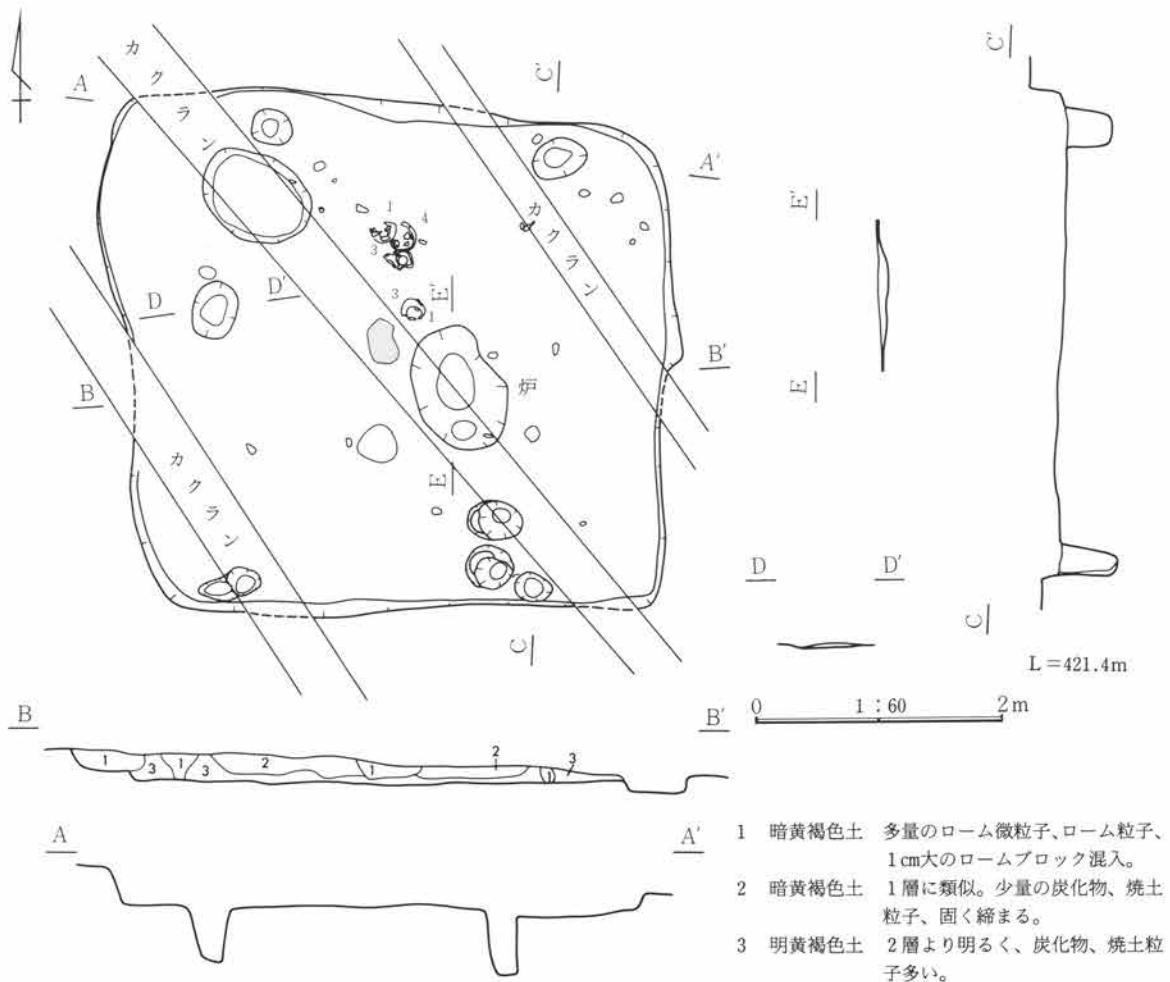
小安和順・新倉明彦 1983「戸神諏訪遺跡」『年報』2:58-59 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、群馬  
 須藤隆司 1986「群馬県薮塚遺跡の石器文化—ナイフ形石器の型式的考察—」『明治大学考古学博物館館報』2:27-50 明治大学考古学博物館、東京  
 麻生敏隆 1987『後田遺跡(旧石器編)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、群馬  
 佐藤宏之 1988「台形様石器研究序論」『考古学雑誌』第73巻第3号:1-37 日本考古学会、東京

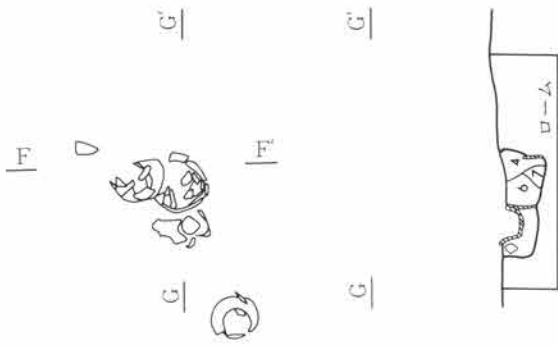
## 第2節 縄文時代

### 第1項 竪穴住居跡

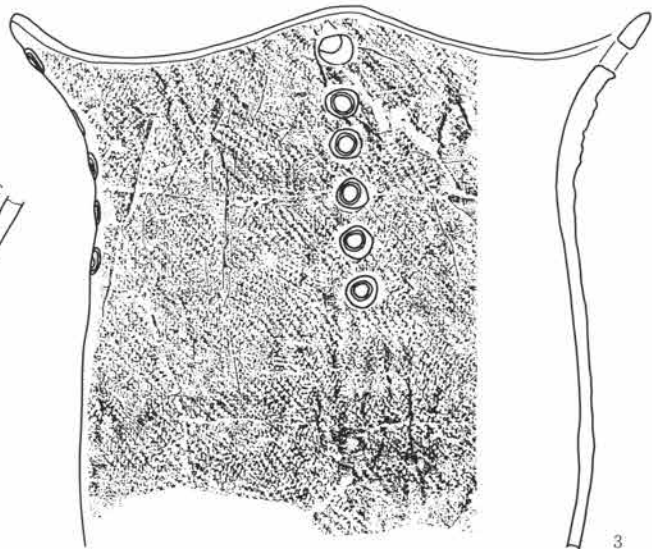
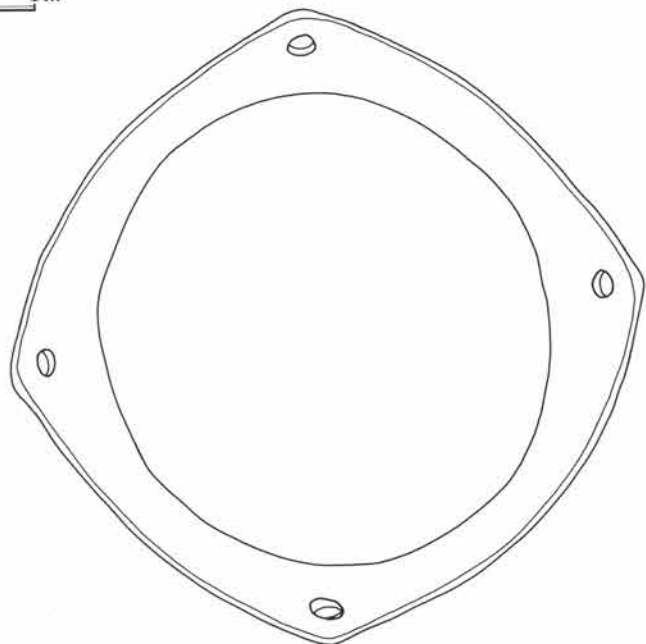
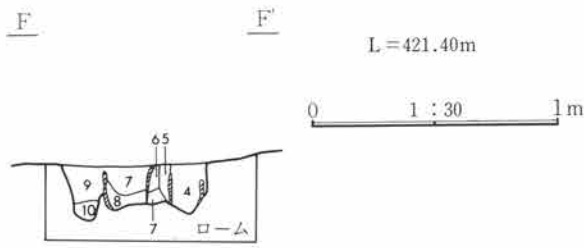
#### 34号住居跡

位置 13A-13グリッド 方位 N-75°-W 形状 414×462cmを測る。面積17.4平方。方形を呈する。壁高は北側で24cmを測り、ローム壁で垂直に近い角度で立ち上がる。西側の一部は攪乱により壊されている。床面 床はローム層を利用しており、中央部は硬くしまっているが周辺部に向かい柔らかくなっている。周溝等の施設は確認されなかった。北西隅に土坑が確認された。住居の新旧関係は土層断面では確認されなかったが、土坑の覆土の状態から掘り込みは住居の床面からのもので、住居に付属する土坑と考えられる。土坑の規模は、径98×69cm、深さ49cmの長楕円形を呈する。柱は各隅に確認された。 炉 径40cm程の焼土が、北西寄りに、床面に径102×84cm、深さ5～8cmの焼土化した部分が中央東寄りに確認された。また、これの北側に隣接して埋設土器が4個体検出されている。埋設土器は二か所に分けて埋設され、3個連続して埋設されているものと、1個が単独で埋設されているものがある。埋設土器の中には炭化物、焼土がふくまれることから、炉との関係も考える必要がある。 遺物 埋設土器が4個体出土した。諸磯a式である。

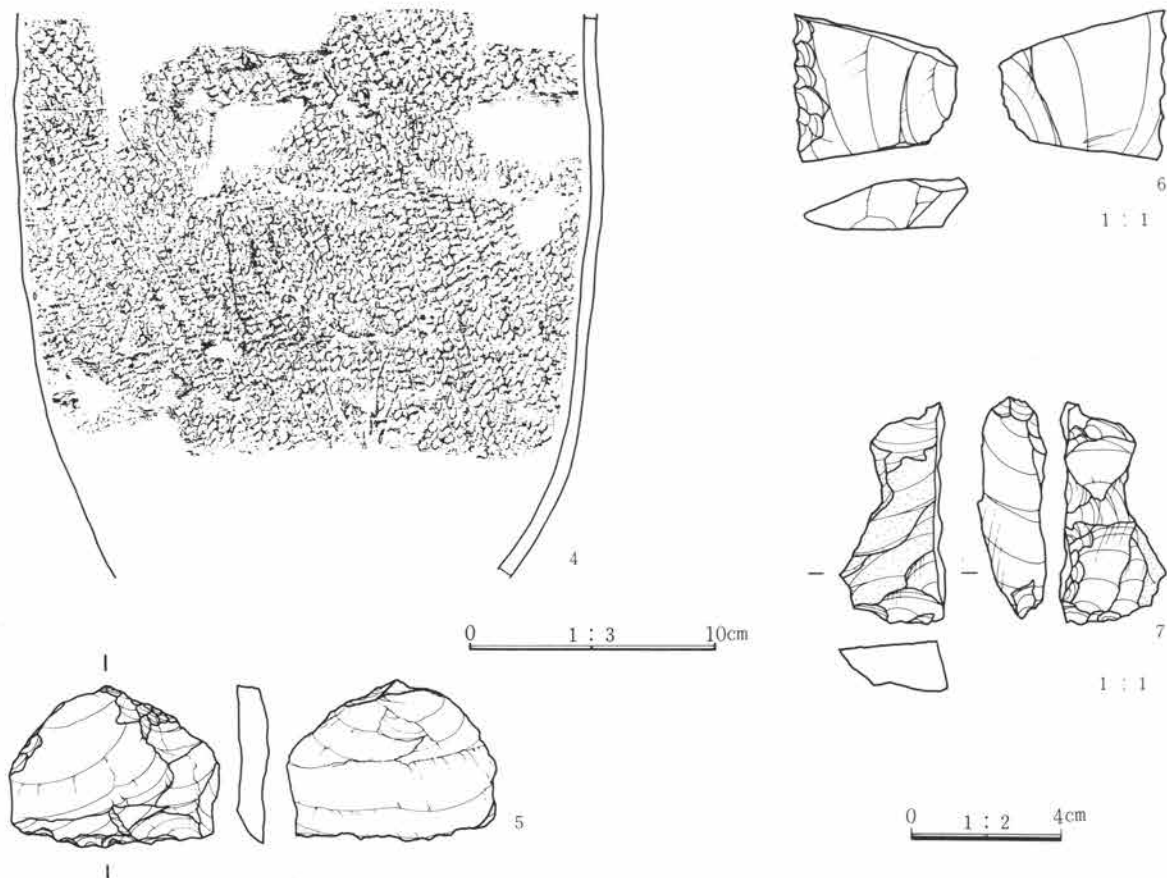




- 4 暗褐色土 ローム漸移層土にローム粒子、ローム微粒子を全体の30%混入する。又若干の炭化物・焼土粒子。稍締まり有り。
- 5 暗褐色土 4層より若干明るいが類似する。
- 6 黄褐色土 黄色味がかり赤味おびた色調。YP多量混入。
- 7 暗褐色土 炭化物混入。
- 8 明褐色土 ローム多量混入。
- 9 暗褐色土 ローム多量混入。
- 10 明褐色土 ローム・YPを多量混入。



34号住居跡出土遺物(1)



34号住居跡出土遺物(2)

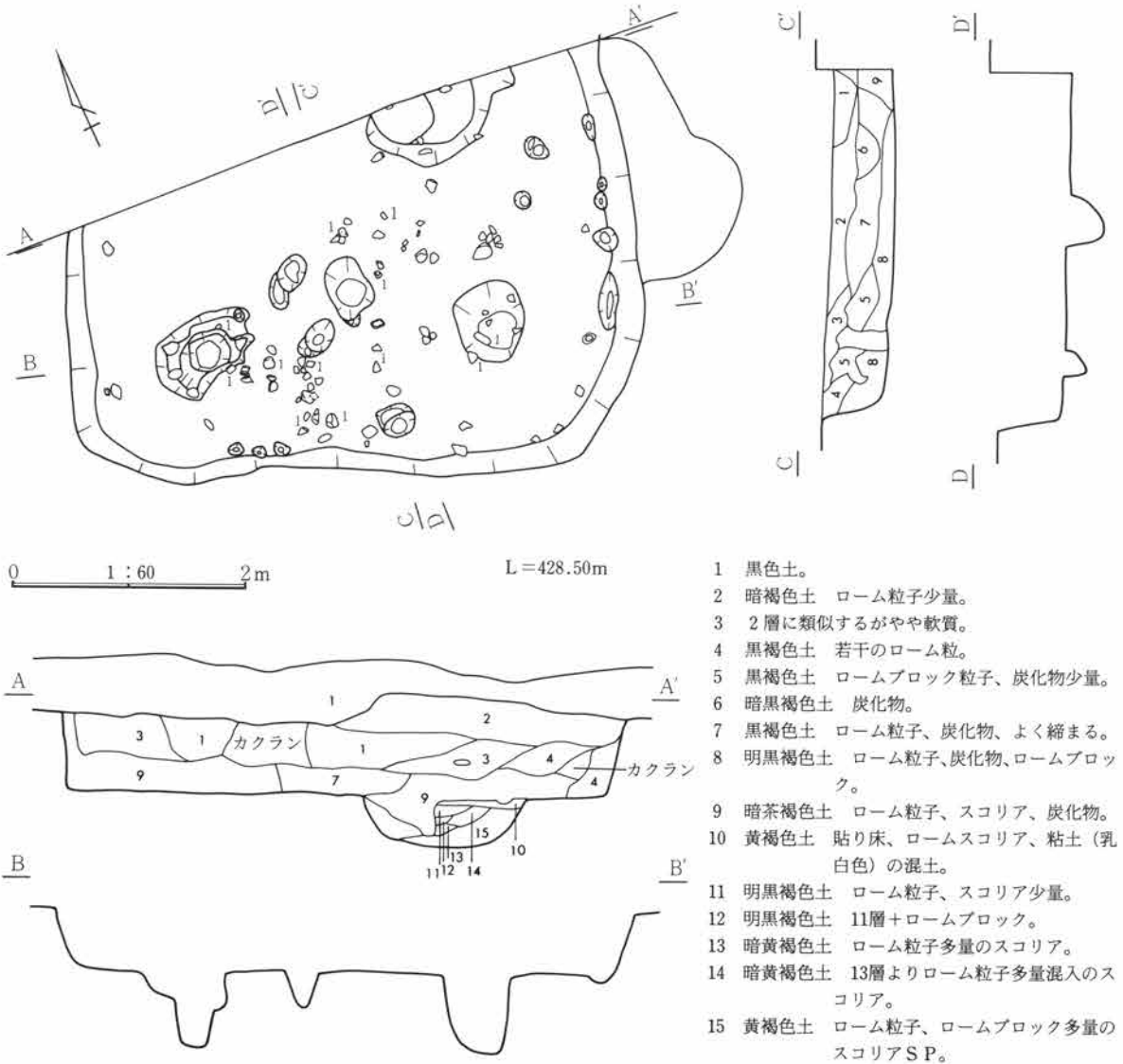
34号住居出土遺物

本住居から出土した遺物は、埋設土器4個体と石器3個体が主なものである。

1は深鉢の胴部である。中央部にやや膨らみを持ち胴上部で外反する。文様は0段多条で単節RLの斜行縄文が施文される。土器の遺存状態は良く硬い感じがする。内面は良く研磨されている。色調は、明赤褐色から赤褐色を呈するが、外面には中段に黒色の煤が付着している。また、内面中段も黒色に変色している部分が認められる。胎土には極少量の砂粒が認められる他、繊維の剥落した痕跡も土器の表面にわずかであるが認められる。2は深鉢の胴部下半から底部にかけての部分である。底部から大きく外反して広がる。文様は単節RLの斜行縄文が施文される。土器の遺存状態は良いが、内面はザラツク。色調は、外面は明赤褐色、内面橙色である。胎土には砂粒が含まれる。3は口縁部が外反し胴部に膨らみを持つ深鉢である。口縁部は4単位の波状になる。文様は、地文に単節RLの斜行縄文が施文される。原体は他の土器に比べて短い。波頂部からは、竹管による円形の刺突が垂下する。波頂部に施文される円形の刺突は貫通している。土器の遺存状態は良い。内面は良く研磨されている。色調は内外面とも橙色から明赤褐色に近い色を呈する。外面胴部の膨らみ部は黒色の煤が付着している。内面は、口縁部下のくびれ部から下が黒色に変色している。胎土は少量の砂粒が認められる。4は口縁部と底部の欠損した胴部片のみの深鉢である。文様は、複節のRLRである。遺存状態は良く、内面に横方向研磨が見られる。色調は赤褐色からにぶい赤褐色である。外面胴部下半部に黒色の煤の付着が認められる。何れも諸磯a式であろう。5は加工痕のある剥片で底辺に表から刃部を細かく調整している。黒色頁岩、重さ76.4g。6は加工痕のある剥片。側片部に表から刃部を作りだしている。黒色頁岩、重さ3.3g。7は黒曜石で細かい調整が加えられた剥片。重さ2.6g。

164号住居跡

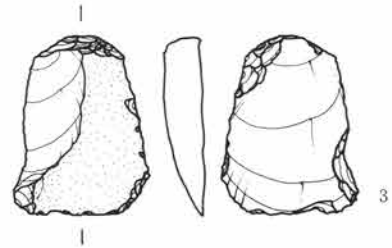
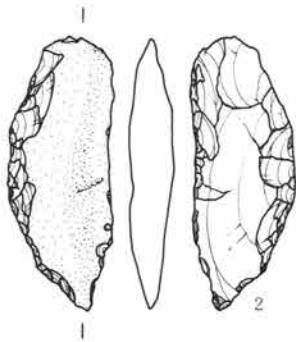
位置 12E-17グリッド 形状 遺構の北半分が調査区外のため調査できなかったが、現状から推定して隅の丸くなる方形を呈すると思われる。南側の壁長が465cmの規模である。 床面 ロームを床面としており中央部は硬くしまっているが、周辺部は柔らかくなっている。壁高は、比較的高く確認面から48cm程である。立ち上がりは垂直に近い鋭角でロームを壁面とする。覆土と壁の区別は明瞭であった。周溝は確認されなかった。土坑が北東寄りに確認された。土層断面からこの土坑は、床面から掘りこまれ住居の覆土と土坑の覆土が共通し、土坑の上面に住居の床が貼り付けてあることから、同時期のものと思われる。住居に付属する施設と考えられる。土坑の規模は、径130cm、深さ48cm程である。柱は、壁の直下に小ピットが巡り、支柱穴は住居の隅にあるピットになる。 炉 明確なものは検出されなかったが、ピットに炭化物や焼土が入り込むものもあった。おそらく床に直接火を燃やした地床炉になると考えられる。 遺物 埋設土器は検出されず、覆土中から床面にかけて同一個体の土器片が入り込んでいた。ほぼ土器半分の個体になった。石器は、図示したもの以外は自然石である。土器の時期は諸磯a式である。





0 1 : 3 10cm

164号住居跡出土遺物

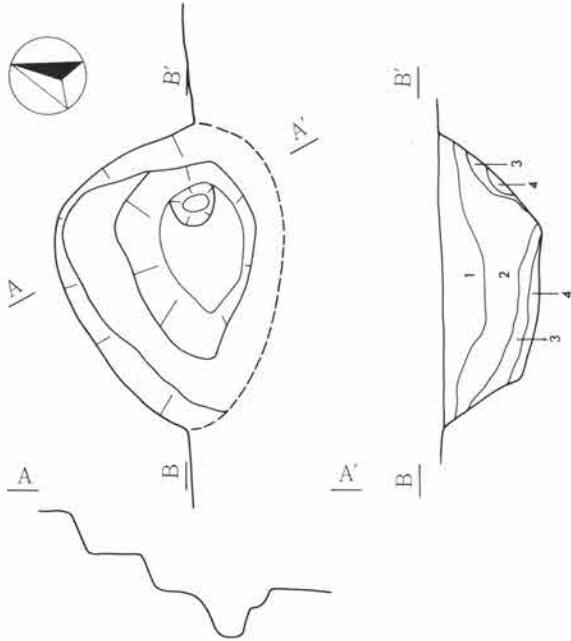


### 164号住居出土遺物

1は口縁部が内湾し中央でくびれ胴部下半部に膨らみを持つ深鉢。口唇部が小波状を呈する。文様は、口唇部に接するように楯状の工具による集合沈線を施し、それ以下くびれ部までを竹管による円形の刺突を縦位に垂下させている。円形の刺突からは集合沈線が弧を描くように施文され沈線間には沈線と同じ原体による刺突が施される。胴部下半部は集合沈線が横位に施文されている。縄文は認められない。土器の遺存状況は良くなく、脆弱である。色調は暗褐色であるが、底部に近い部分は淡赤橙色である。胎土には繊維が認められる。諸磯a式期になる。2は加工痕のある剝片、全体に細かい調整痕が認められる。黒色頁岩、重さ85.7g。3は加工痕のある剝片、底辺に裏から刃部を細かく調整している。黒色頁岩、重さ59.4g。

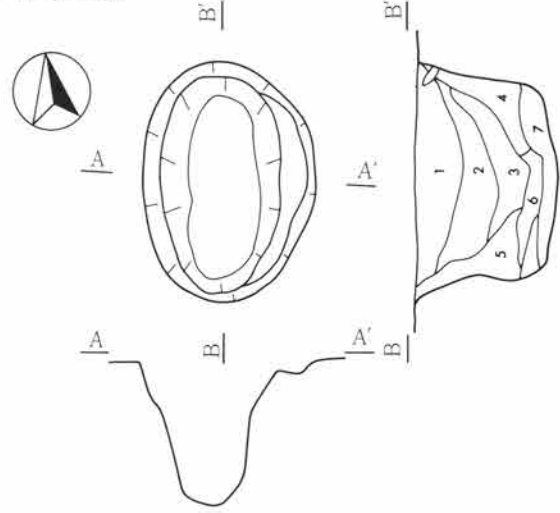
第2項 縄文土坑

22号土坑



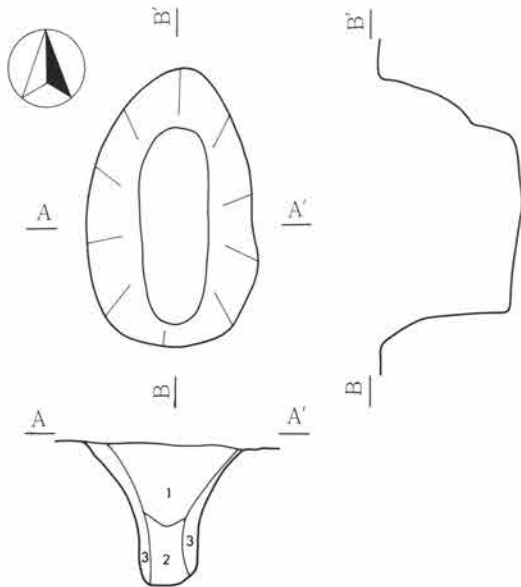
- 1 暗褐色土 少量のローム粒。
- 2 暗褐色土 1層より黒味をおびる。
- 3 明褐色土 多量のローム粒、大粒のロームブロック。
- 4 黄褐色土 多量のロームブロック。

50号土坑



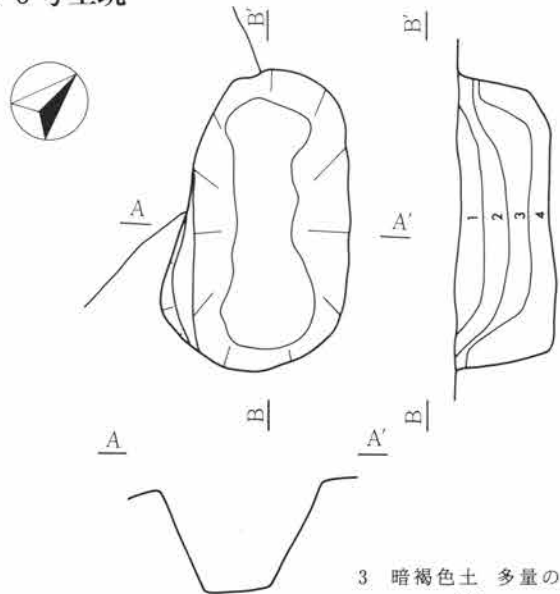
- 1 暗褐色土 少量のローム微粒子。
- 2 暗褐色土 1層より黒味強。多量のローム微粒子。
- 3 暗褐色土 1層より明。多量のローム粒、微粒子。
- 4 明褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロック。
- 5 明褐色土 4層よりローム粒少ない。
- 6 黄色土 硬ロームブロック層。
- 7 明褐色土 4層より多量のローム粒。

54号土坑



- 1 黒褐色土 少量のローム粒。
- 2 暗褐色土 1層より明。少量のローム粒。
- 3 明褐色土 多量のローム粒、大粒で少量のソフトロームブロック。

56号土坑



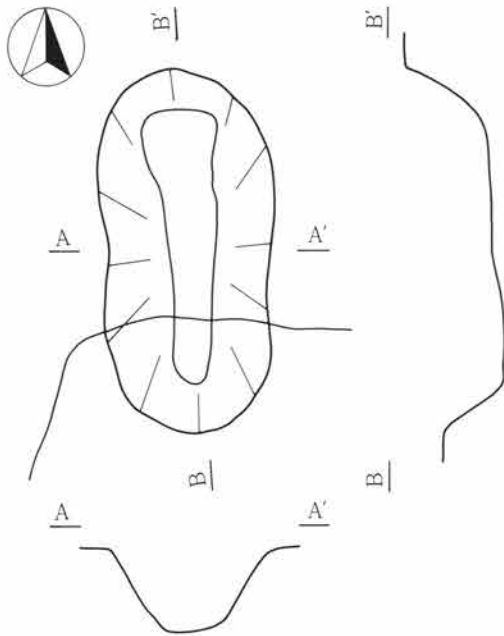
- 1 黒褐色土 微量のローム粒。
- 2 黒褐色土 1層より明。少量のローム粒。

- 3 暗褐色土 多量のローム粒。
- 4 明褐色土 3層より多量のローム粒。

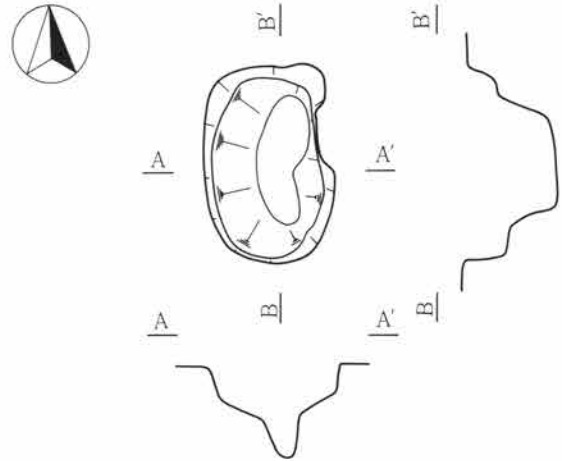
縄文土坑(1)

0 1:60 2m

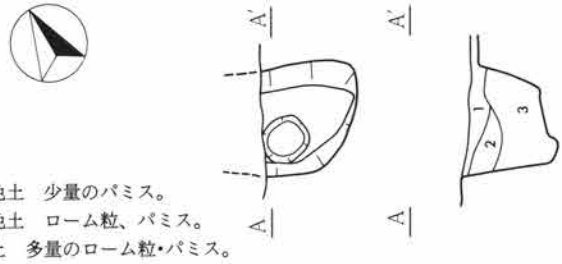
57号土坑



60号土坑

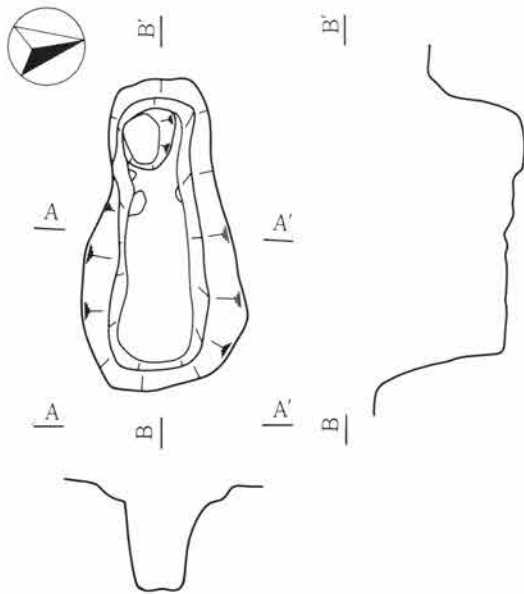


63号土坑

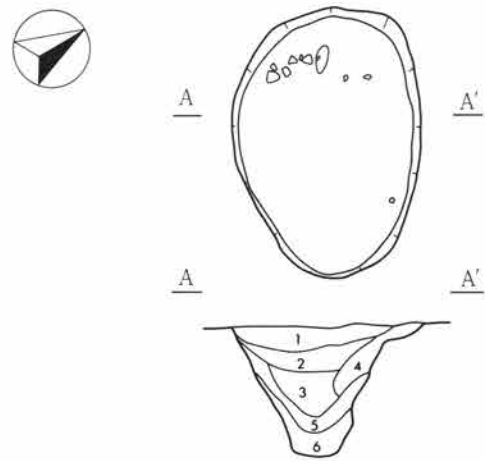


- 1 暗茶褐色土 少量のパミス。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒、パミス。
- 3 黄褐色土 多量のローム粒・パミス。

61号土坑



67号土坑



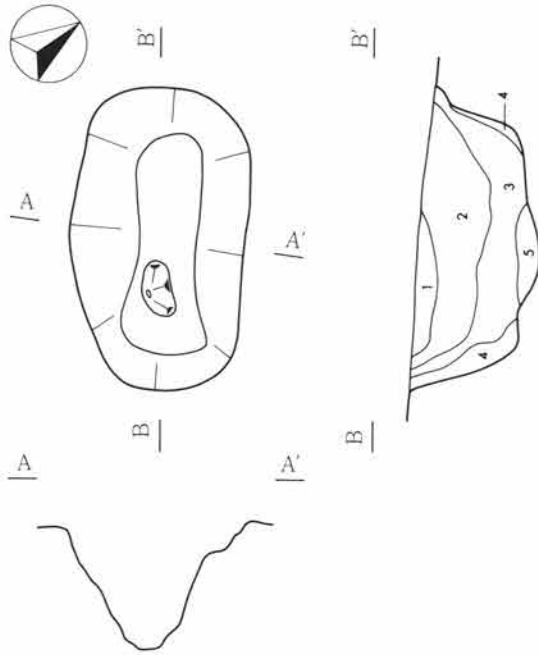
- 1 暗褐色土 ローム漸移層をベースに少量のローム粒、炭化物。
- 2 暗褐色土 1層より黒味強。ローム粒、炭化物。
- 3 黒褐色土 2層より黒味強。ローム粒2層より多。
- 4 暗黄褐色土 多量のローム粒。
- 5 暗黄褐色土 4層に類似。BP。
- 6 暗黄白色土 ローム下の粘土をベースに多量のローム粒、BP。

0 1:60 2m

縄文土坑(2)

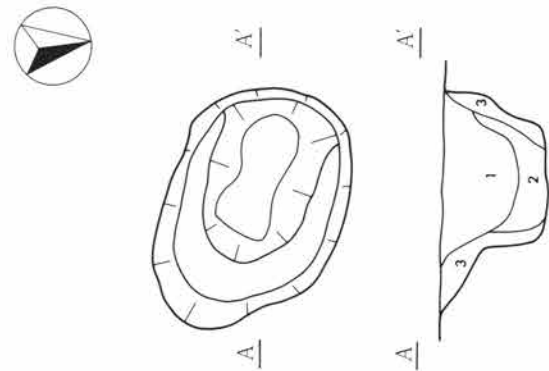


70号土坑



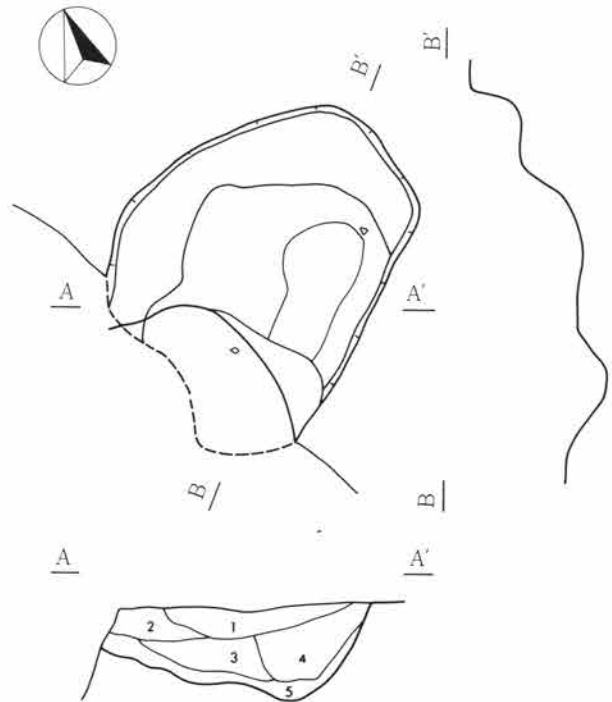
- 1 黒褐色土 細粒。
- 2 黒褐色土 1層より黒味強。
- 3 黄褐色土 ローム粒、小ブロック。
- 4 黄褐色土 多量のローム。
- 5 黄褐色土 粘性が強いローム。

81号土坑



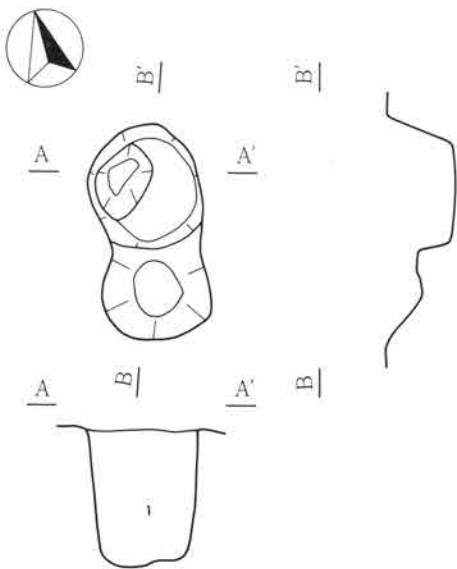
- 1 黒色土 少量の粘性土。
- 2 黄褐色土 ローム。
- 3 黄褐色土 ロームブロック。

91号土坑



- 1 茶褐色土 少量のローム粒。
- 2 茶褐色土 1層より黒味強。
- 3 黒色土 少量のローム粒。
- 4 黒色土 2層より茶色味強。
- 5 暗黄褐色土 多量のローム粒、ロームブロック。

86号土坑

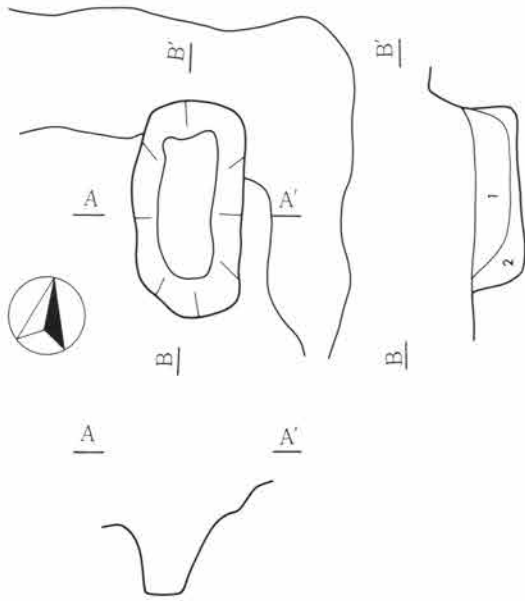


- 1 明茶褐色土 多量のロームブロック、極少量の炭化物。

0 1:60 2m

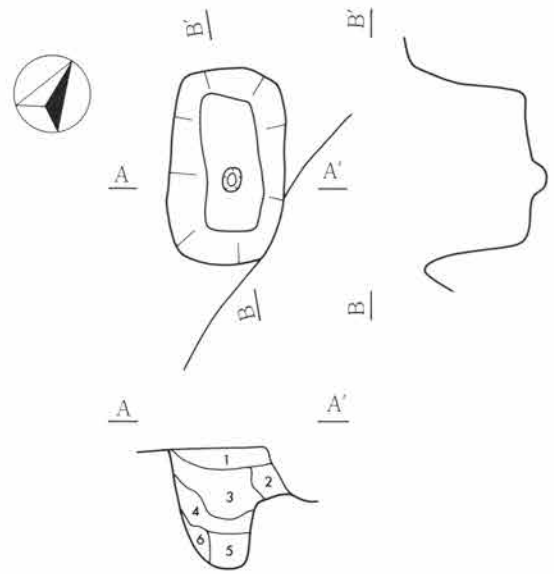
縄文土坑(3)

9 2号土坑



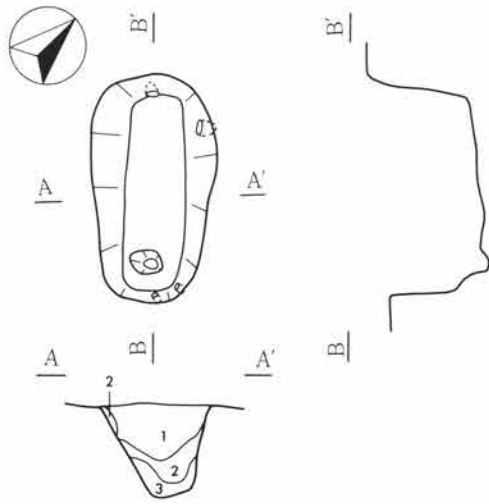
- 1 黒色土 少量のローム粒、ローム漸移層ブロック。
- 2 暗茶褐色土 多量のローム粒、ローム小ブロック、ローム漸移層土ブロック。

9 3号土坑



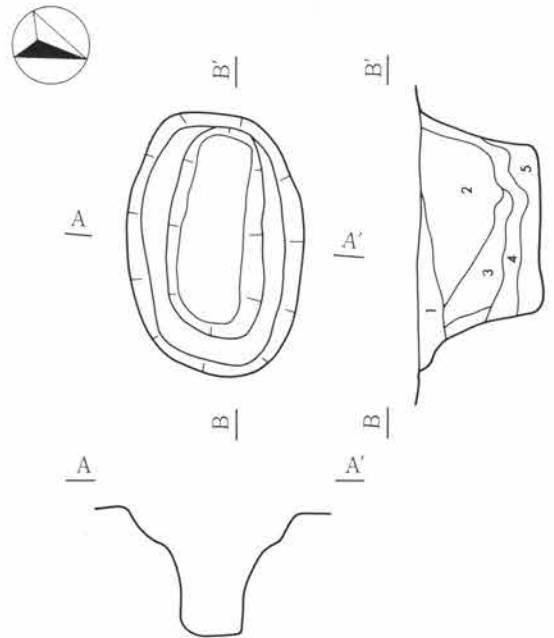
- 1 黒色土 微量の軽石。
- 2 黒褐色土 少量のローム粒。
- 3 黒褐色土 ロームブロック。
- 4 暗褐色土 少量のローム粒。
- 5 暗褐色土 4層より黒味強。
- 6 黄褐色土 少量のローム。

9 4号土坑



- 1 黒色土 炭化物。
- 2 淡褐色土 ローム。
- 3 橙褐色土 ロームブロック 粘土ブロック。

9 5号土坑

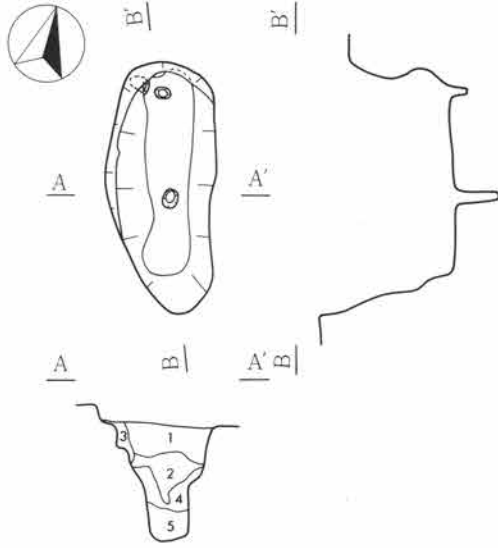


- 1 暗茶褐色土 少量のローム粒。
- 2 黒色土 少量のローム粒、パミス。
- 3 茶褐色土 ローム粒、パミス。
- 4 黄褐色土 多量のローム粒、ロームブロック。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒、粘土。

0 1 : 60 2m

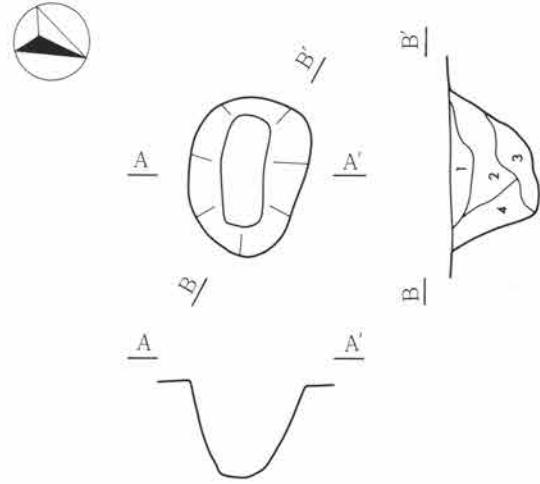
縄文土坑(4)

97号土坑



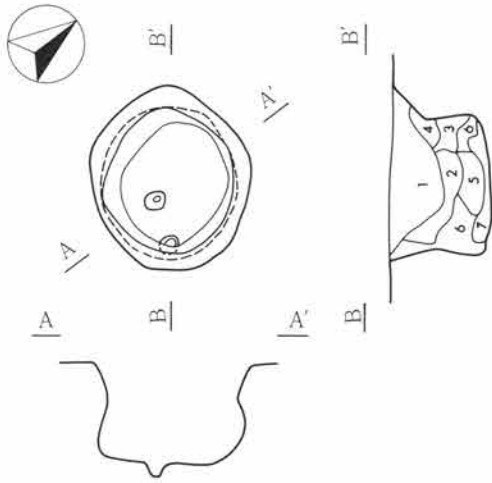
- 1 黒褐色土 少量の炭化物。
- 2 黒褐色土 少量の炭化物、ロームブロック。
- 3 明褐色土 多量のローム粒。
- 4 黄褐色土 ロームブロック主体で少量の炭化物。
- 5 灰褐色土 地山の灰褐色土層主体で少量の炭化物。

98号土坑



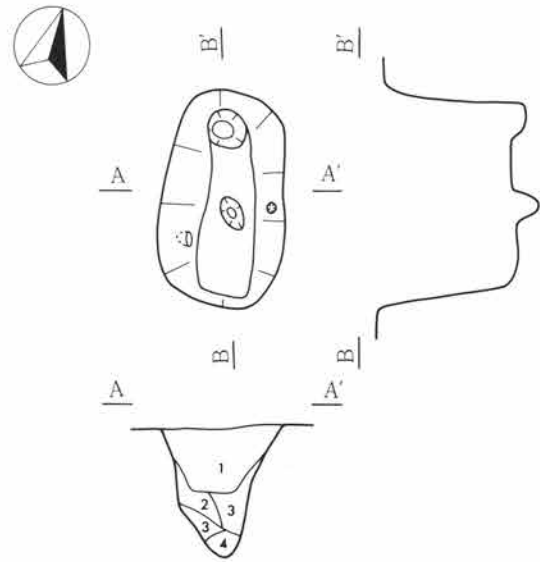
- 1 黒褐色土。
- 2 黒褐色土 少量の炭化物、ローム粒。
- 3 黄褐色土 少量のロームブロック。
- 4 黄褐色土 ロームブロック。

99号土坑



- 1 暗茶褐色土 ローム粒、ローム漸移層土ブロック。
- 2 暗茶褐色土 1層よりローム粒多い。
- 3 暗茶褐色土 2層よりローム粒多い。
- 4 暗茶褐色土 3層より更にローム粒多い。
- 5 暗褐色土 若干黒味をおび、少量のローム粒。
- 6 暗黄褐色土 多量のローム粒、ロームブロック。
- 7 黒褐色土 少量のローム粒。

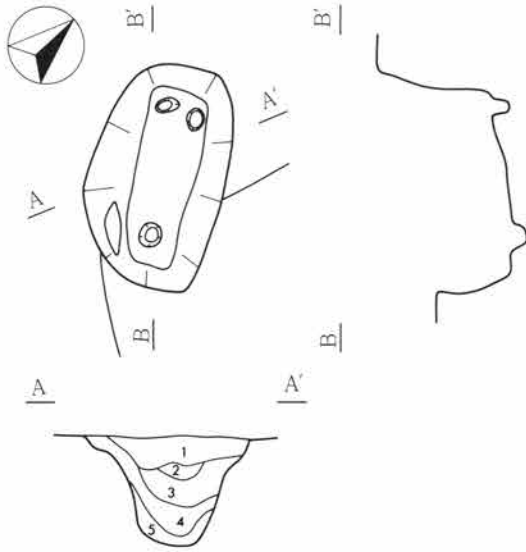
101号土坑



- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 黄色土 ロームの崩落土。
- 3 黄褐色土 ローム漸移層、ローム粒。

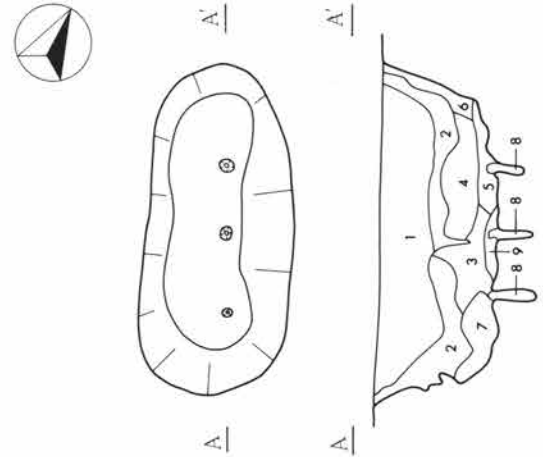
0 1:60 2m

106号土坑



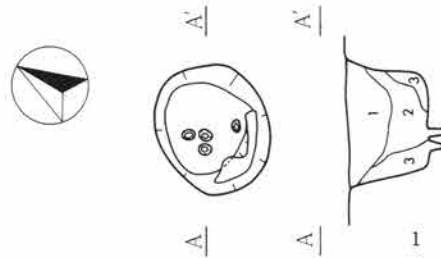
- 1 黒色土 微量のローム粒。
- 2 黒色土 ロームブロック。
- 3 暗褐色土 ローム粒。
- 4 暗褐色土 3層より弱明。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック、ローム粒。

107号土坑



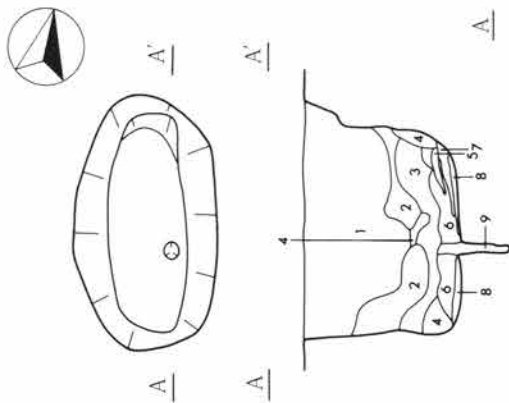
- 1 黒色土 ローム粒、ローム漸移層のブロック。
- 2 暗茶褐色土 多量のローム粒。
- 3 黄色土 多量のBP等のローム。
- 4 暗黄褐色土 BPのロームと多量のローム粒。
- 5 BP等のロームの崩落土。
- 6 明黄褐色土 ローム粒、ロームブロック。
- 7 明茶褐色土 ローム漸移層にローム粒、粘土。
- 8 黄白色土 少量の炭化物らしき物。
- 9 ロームの崩落土。

110号土坑



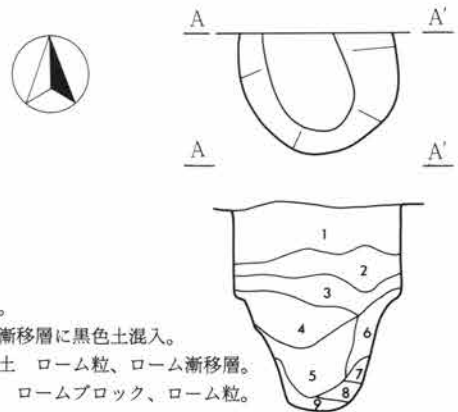
- 1 暗黒褐色土 少量のローム粒。
- 2 暗黒褐色土 少量のロームブロック粒。
- 3 明黒褐色土 ロームブロック、ローム粒。

108号土坑



- 1 黒色土 少量の炭化物。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ブロック。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック、黒色土。
- 4 黄褐色土 崩落ロームブロック。
- 5 黒褐色土 ローム粒。
- 6 灰褐色土 ロームブロック、灰褐色粘土ブロック。
- 7 黄褐色土 ローム主体の粘性土。
- 8 灰黒色土 粘性土。
- 9 白色粘土を下方に多量に含み上部はロームブロック。

111号土坑

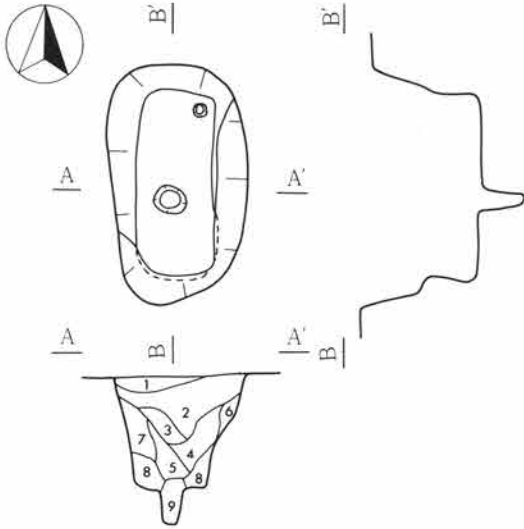


- 1 表土。
- 2 黒色土。
- 3 ローム漸移層に黒色土混入。
- 4 暗褐色土 ローム粒、ローム漸移層。
- 5 褐色土 ロームブロック、ローム粒。
- 6 ロームブロックに少量のローム漸移層。
- 7 ローム崩落土。
- 8 ローム 白色粘土。
- 9 ローム粒 ローム漸移層、白色粘土。

縄文土坑(6)

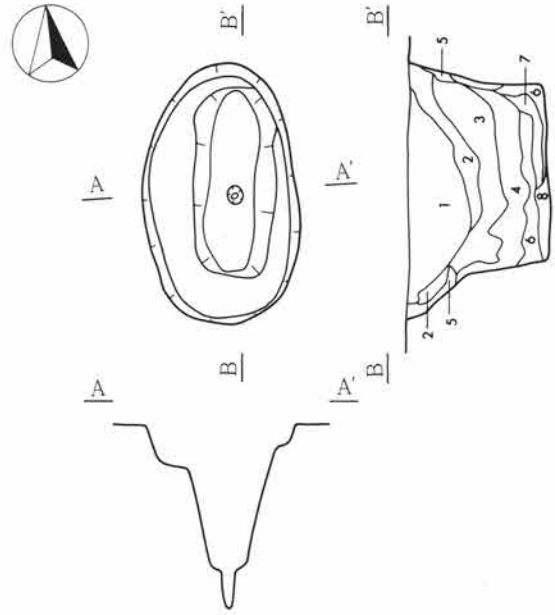
0 1:60 2m

112号土坑



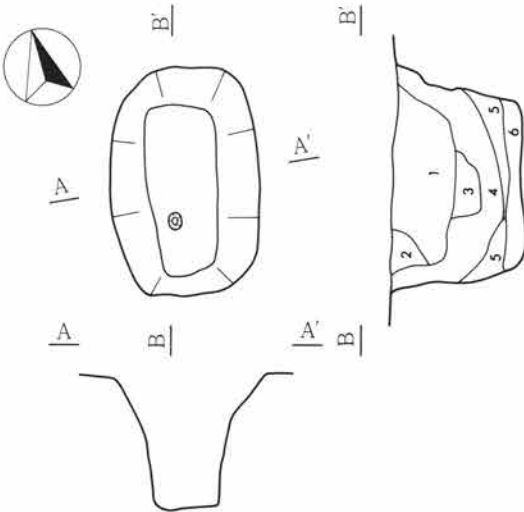
- 1 暗茶褐色土 少量のローム粒、ローム漸移層。
- 2 褐色土 少量のローム粒、ローム漸移層、黒色土。
- 3 褐色土 ロームブロック、ローム粒、黒色土。
- 4 茶褐色土 ローム粒、ローム漸移層。
- 5 明褐色土 ローム粒、黒色土。
- 6 ローム漸移層の崩落土。
- 7 黄褐色土 ローム漸移層と茶褐色土の混土。
- 8 ロームの崩落土。
- 9 黄茶褐色土 強粘性、少量のローム粒。

115号土坑



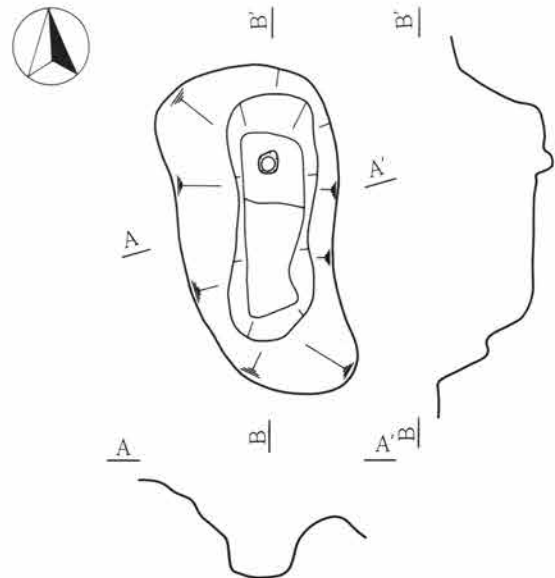
- 1 黒褐色土 ローム漸移層土、少量のローム粒、スコリア。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒、スコリア、ローム小ブロック。
- 3 黒褐色土 1層より若干多いローム粒、スコリア。
- 4 暗黄褐色土 乳白色粘土、ローム粒、ローム小ブロック。
- 5 暗茶褐色土 大粒のロームブロック。
- 6 灰茶褐色土 灰色粘土層にロームブロック。
- 7 灰茶褐色土 多量の粘土。
- 8 灰茶褐色土 7層より多量の粘土、少量のロームブロック。  
強粘性。

116号土坑



- 1 黒褐色土 少量のローム粒、白色スコリア。
- 2 黒褐色土 1層より茶色味強。
- 3 暗茶褐色土 少量のローム粒、白色スコリア1層より多い。
- 4 暗黄褐色土 多量のローム粒、スコリア、ロームブロック。
- 5 暗黄褐色土 微量のローム粒、スコリア、多量のロームブロック。
- 6 黄褐色土 多量のロームブロック、乳白色粘土ブロック。

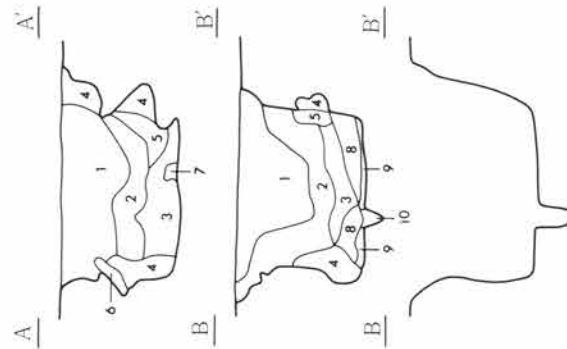
117号土坑



縄文土坑(7)

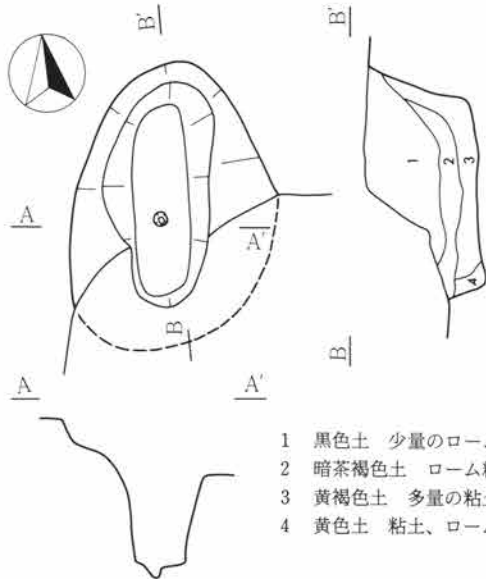
0 1:60 2m

119号土坑



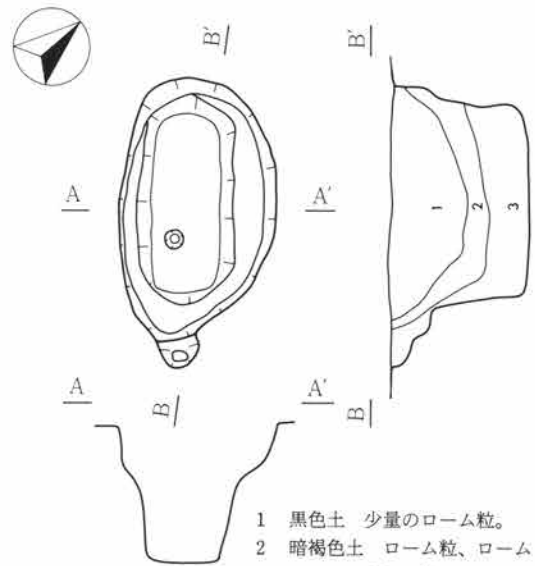
- 1 黒色土 ローム粒、パミス。
- 2 暗茶褐色土 多量のローム粒、パミス、ロームブロック。
- 3 黄褐色土 多量のローム粒、パミス、粘土。
- 4 黄褐色土 ロームブロック、ローム漸移層。
- 5 茶褐色土 多量のロームブロック、パミス。
- 6 褐色土 ローム粒。
- 7 粘土ブロック。
- 8 灰褐色土 ロームブロック。
- 9 暗灰褐色土 粘性のロームブロック。
- 10 灰褐色土粘土。

120号土坑



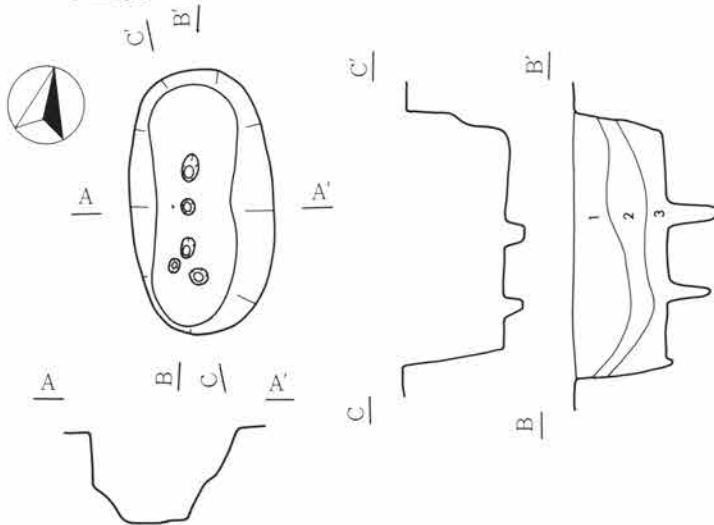
- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒、粘土粒。
- 3 黄褐色土 多量の粘土、ローム粒。
- 4 黄色土 粘土、ロームの崩落土。

122号土坑



- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック。
- 3 黄色土 多量のローム粒、粘土、ロームブロック。

121号土坑

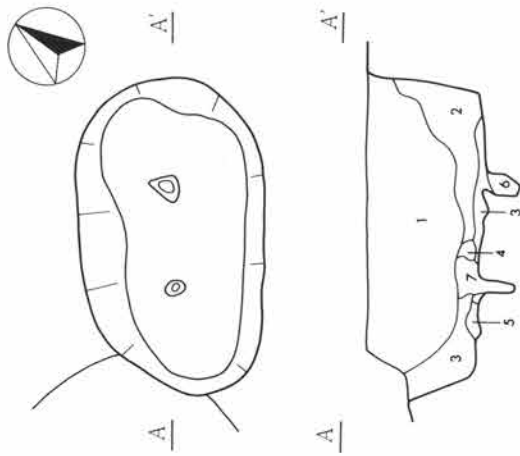


- 1 黒色土 若干のローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 ローム粘土、ブロック。

0 1:60 2m

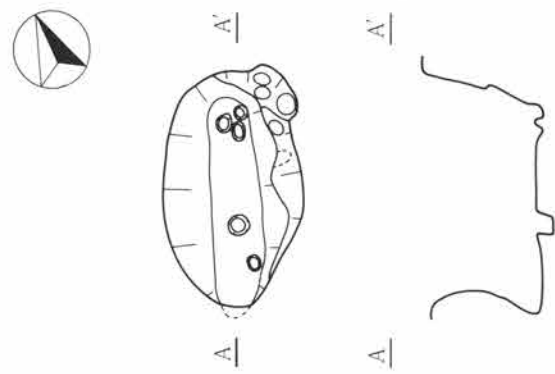
縄文土坑(8)

129号土坑

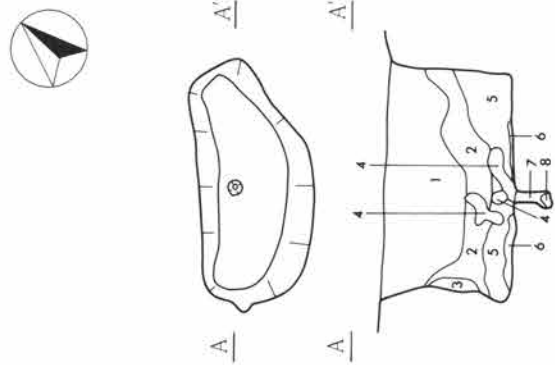


- 1 黒色土 少量のローム小粒。
- 2 暗黒褐色土 黄色パミス、ロームブロック。
- 3 暗黒褐色土 多量のロームブロック。
- 4 黄褐色土 崩落ロームブロック。
- 5 暗黄褐色粘性土 ロームブロック。
- 6 暗黄色土 粘土、炭化物。
- 7 暗黒褐色土 白色のパミス、粘土の混土層。

123号土坑

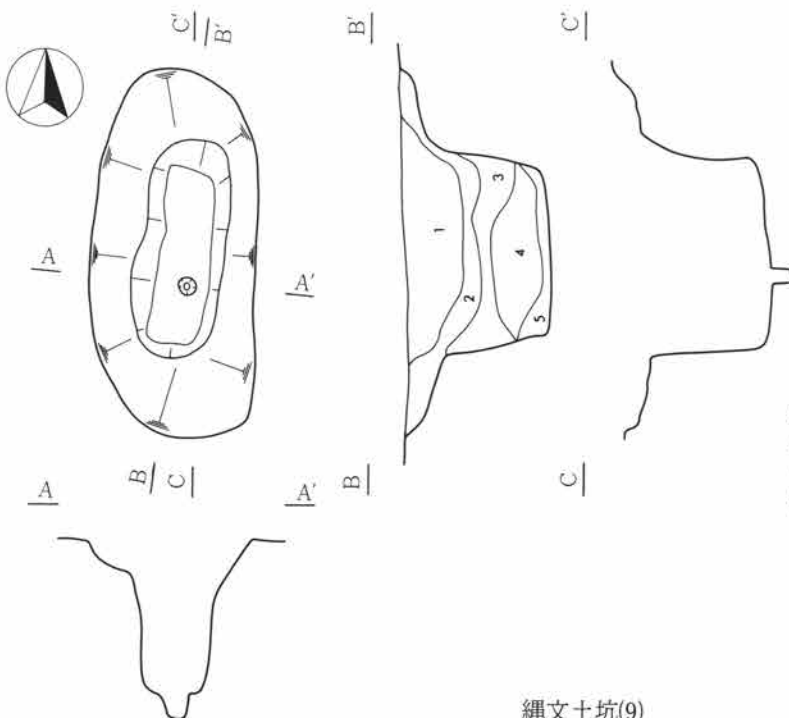


131号土坑



- 1 黒色土。
- 2 淡黒色土。
- 3 黄褐色土 ローム粒。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック。
- 5 淡黒褐色土 多量のローム。
- 6 暗黒褐色土 粘性強い。
- 7 灰白色粘土 粘性強い。
- 8 明灰白色粘土 粘性強い。

132号土坑

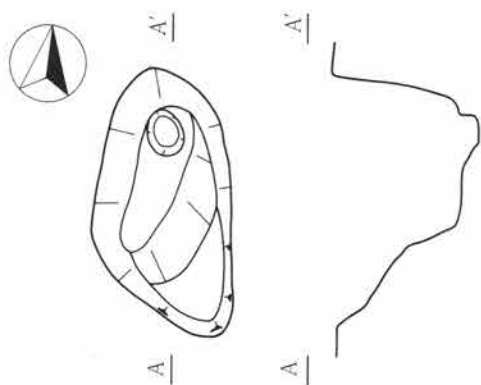


- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 暗茶褐色土 ロームブロック、ローム粒。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロック。
- 4 黄褐色土 多量のローム、粘土。
- 5 黒色土 少量のローム、粘土。

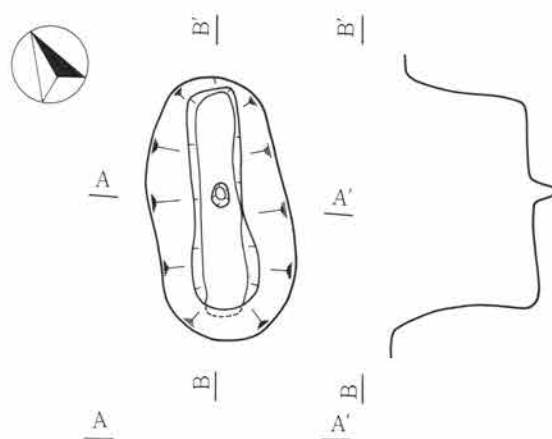
0 1:60 2m

縄文土坑(9)

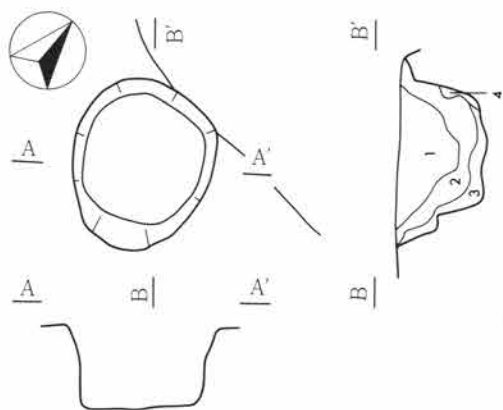
134号土坑



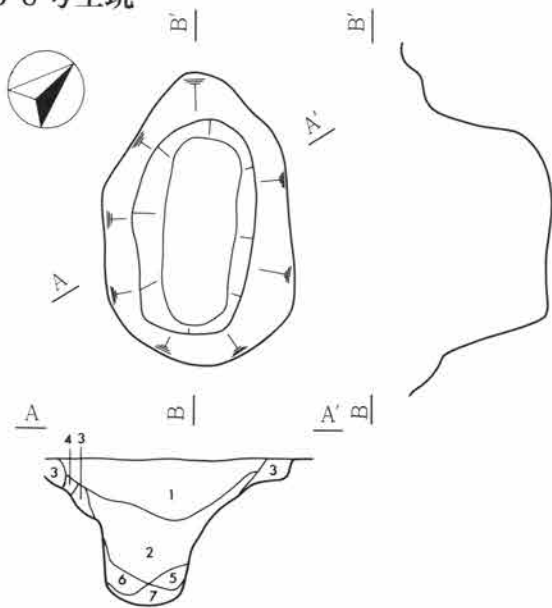
135号土坑



136号土坑

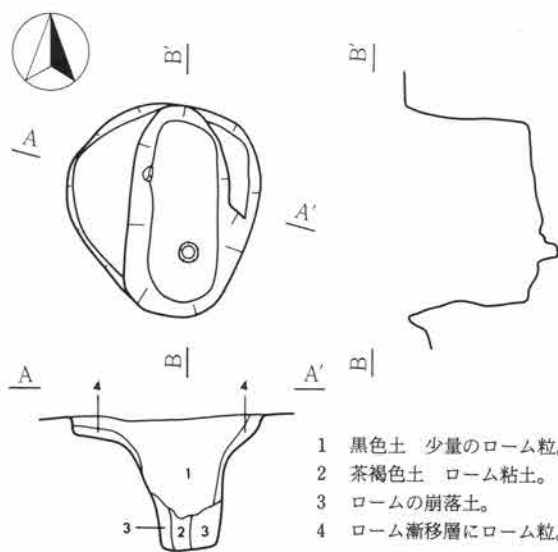


138号土坑



- 1 暗黒褐色土。
- 2 暗黒褐色土 少量のローム。
- 3 暗黒褐色土 少量のロームブロック。
- 4 黄黒褐色土 ロームブロック。

137号土坑



- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 茶褐色土 ローム粘土。
- 3 ロームの崩落土。
- 4 ローム漸移層にローム粒。

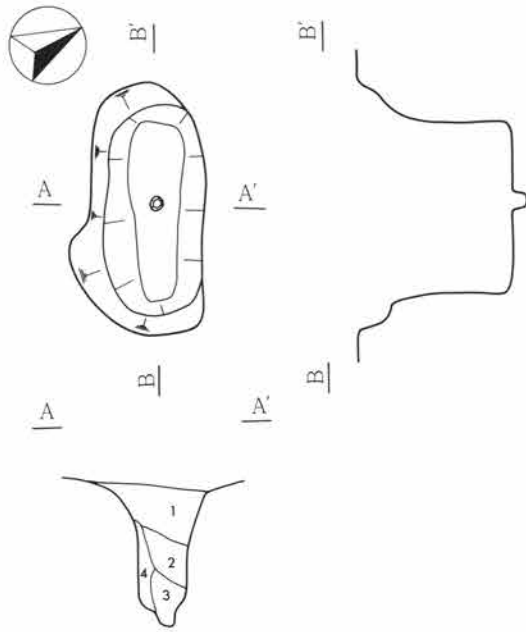
- 1 黒褐色土 少量のローム漸移層、ローム微粒子。
- 2 黒褐色土 ローム粒、多量のローム微粒子。
- 3 暗茶褐色土 ローム粒、ローム小ブロック。
- 4 攪乱。
- 5 暗黄褐色土 多量のローム粒。
- 6 暗黄褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロック。
- 7 暗黄灰褐色土 多量のローム粒、粘土。

0 1:60 2m

縄文土坑(10)

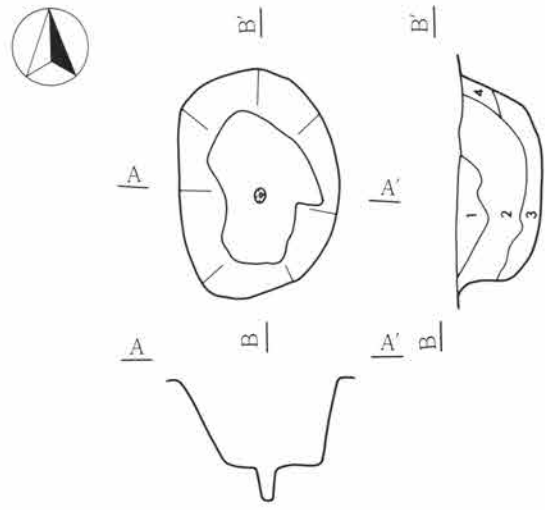


139号土坑



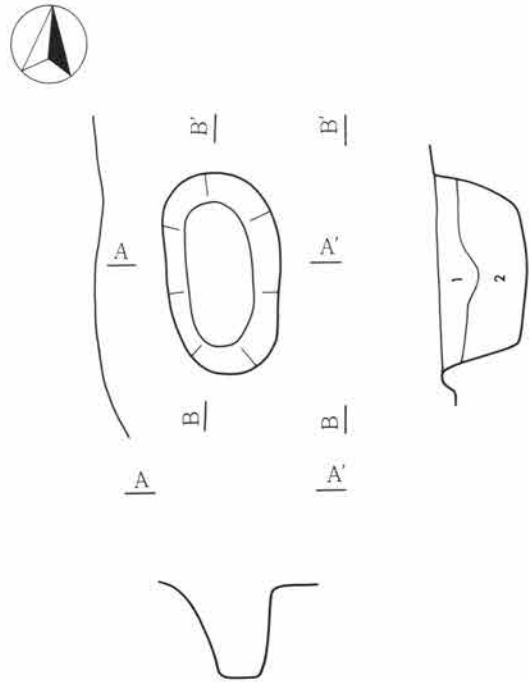
- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 暗褐色土 ローム粒、少量の粘土。
- 3 暗茶褐色土 ローム粒、粘土ブロック。
- 4 ローム漸移層の崩落土。

141号土坑



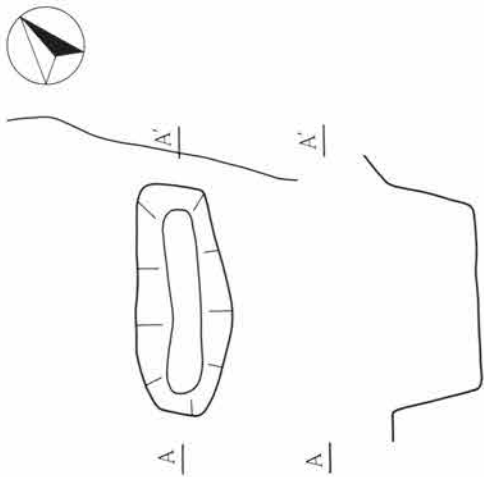
- 1 暗茶褐色土 ローム漸移層、ローム粒。
- 2 黒色土 ローム粒。
- 3 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック。
- 4 茶褐色土 ローム粒、ローム漸移層の崩落土。

149号土坑



- 1 黒色土 少量のローム粒。
- 2 暗茶褐色土 ロームブロック。

145号土坑

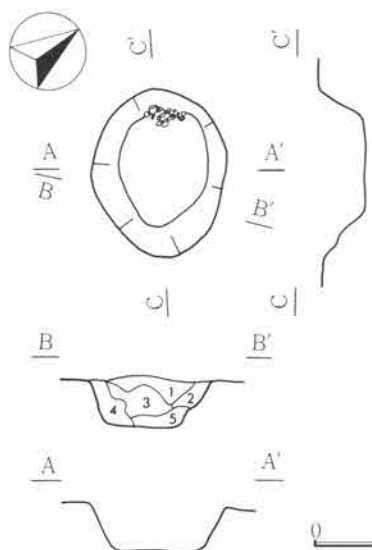


0 1:60 2m

縄文土坑(1)

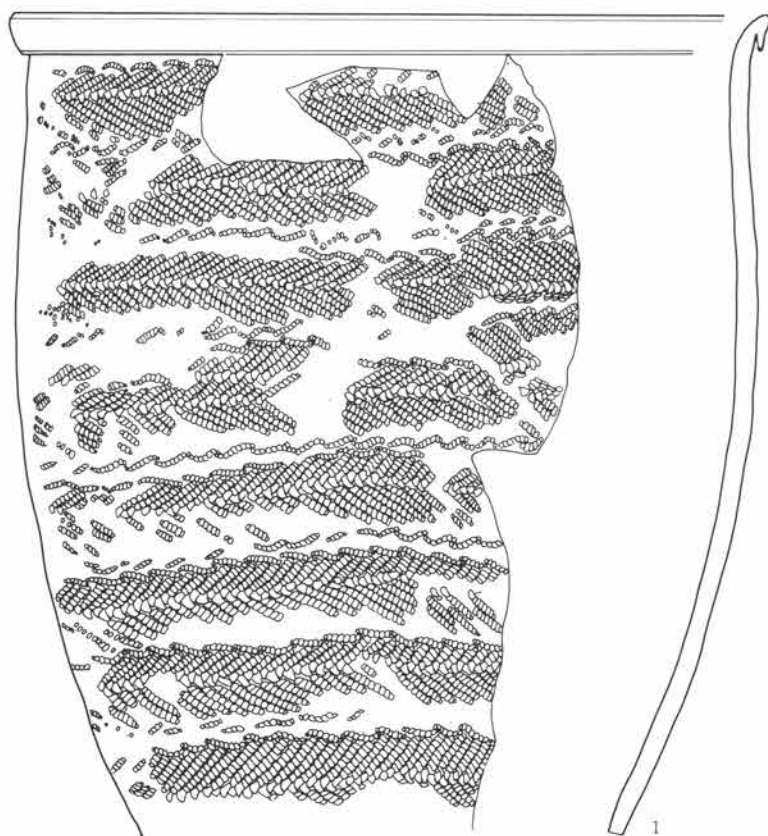
(2) 土 坑

109号土坑



長楕円形の土坑である。掘り方はしっかりしており、ロームまで掘り込まれているため、壁面の確認は容易であった。土層はロームブロックを含み乱れた堆積状態を示す。北側の壁面直下に同一個体の土器片がまとまって出土した。

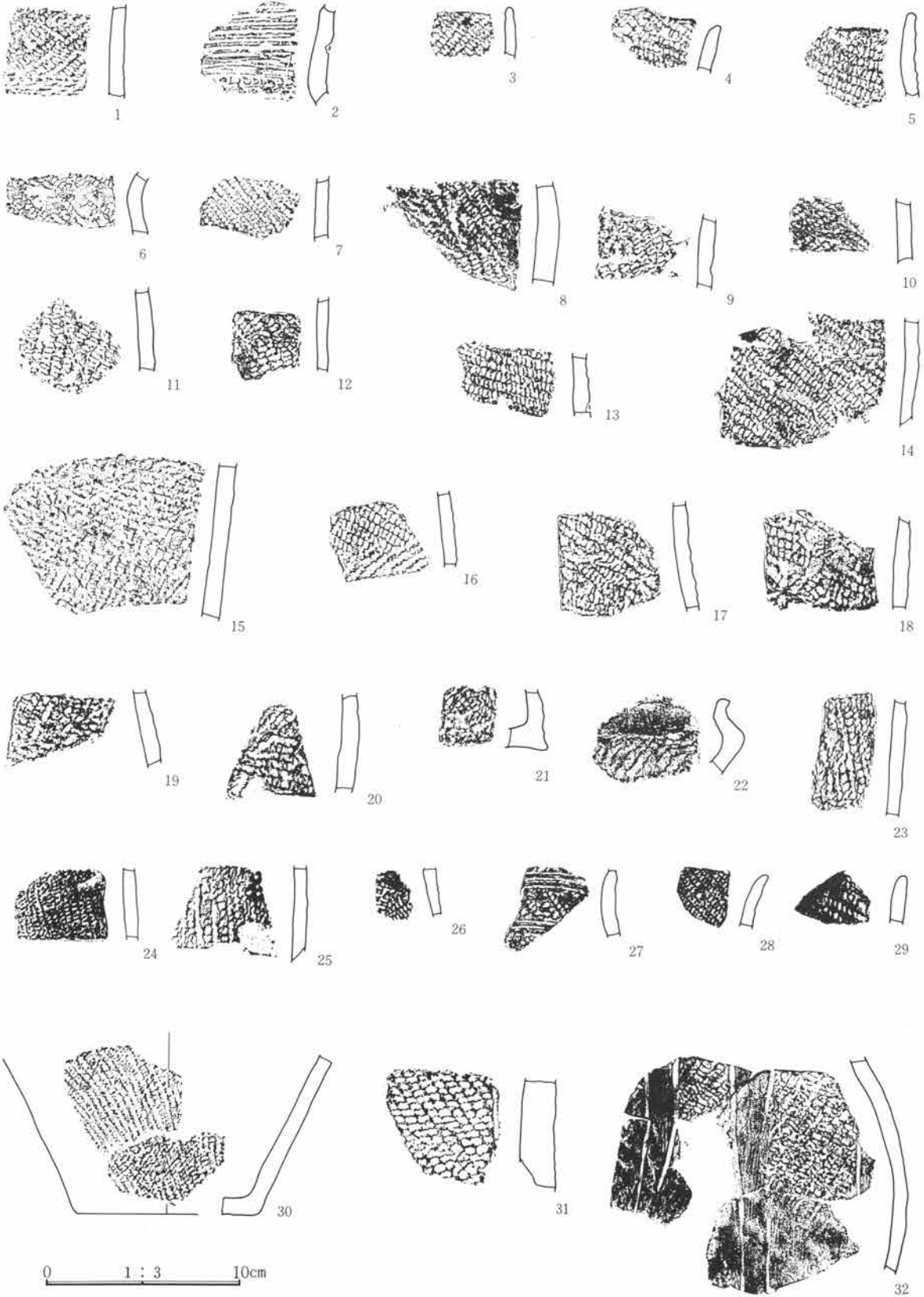
- 1 黒色土
- 2 暗黒褐色土 ロームブロック含む。
- 3 暗黒褐色土 ローム粒子含む。
- 4 明黒褐色土 ロームブロック含む。
- 5 明黒褐色土 ロームブロック含む。4より黒味が強い。



109号土坑出土遺物

口縁部を折り返し、胴部が若干膨らむ深鉢。縄文は単節のRLとLRを結束し、さらにRLの原体両端部分を結節にした原体を横位に施文している。色調は外面が赤褐色、内面が橙色を呈する。外面は黒色の煤が付着する。胎土は砂粒を若干含む。前期終末に比定される。

第3項 遺構外出土遺物



遺構外出土繩文土器

遺構外出土遺物の観察

戸神諏訪遺跡から出土した縄文土器は少なく遺跡の主体をなすものではない。文様を持つものは少なく縄文施文のみの土器が大部分であった。図示した土器以外は細片であり土器の観察が不可能である。

出土した遺物は前期後半の有尾黒浜式土器から諸磯式土器、後期の堀之内式土器である。前期の遺構は住居跡や土坑が確認されているが後期の遺構は確認されておらず周辺に当該期の遺構の存在を予想させる。

1から21、26は繊維を多量に含み、遺存状態も悪い土器である。色調は全体に暗褐色から暗赤褐色を呈する。有尾・黒浜式土器になる。

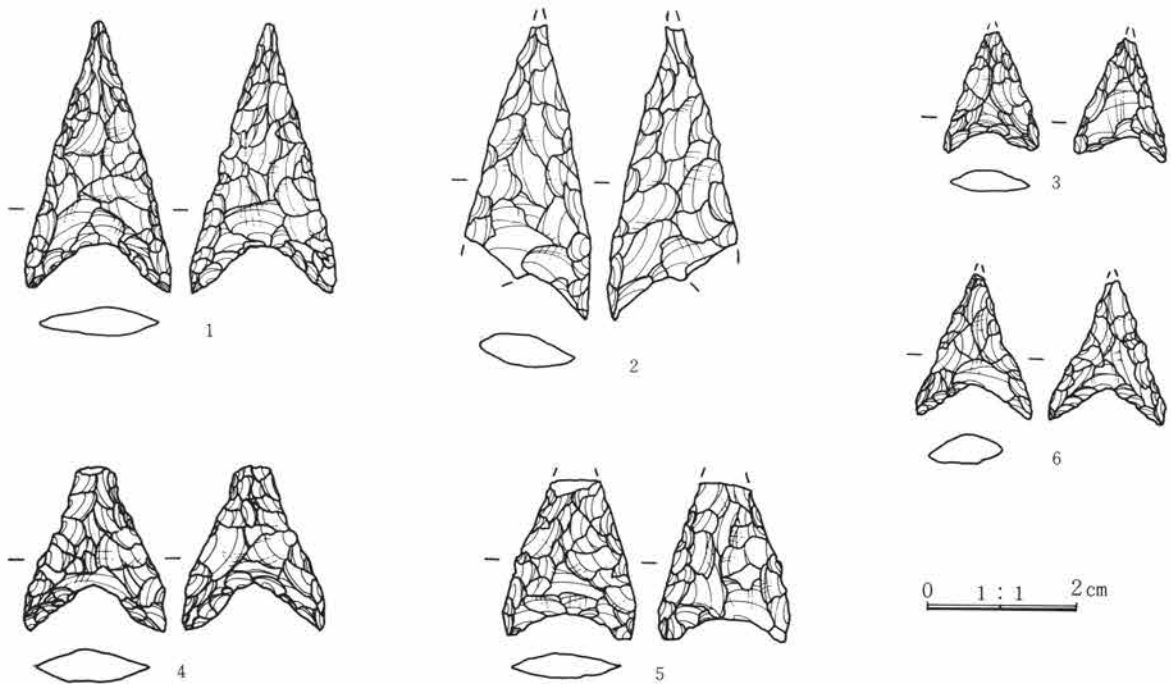
1は単節LRの縄文を施文し横位に半載竹管による平行沈線が二条施される。上段の平行沈線には爪形文が充鎮される。2は半載竹管による平行沈線と頸部に爪形文1条が横位に施文される。26は地文にRLの斜行縄文を持ち、いわゆる「米字」状の文様を半載竹管による爪形によって施文される。

3以下は縄文施文の土器である。3から9、11、13、14、17、21は単節RLの斜行縄文。10は単節LRの斜行縄文・15、19は単節LRとR1の羽状縄文。16、18、20は単節RL、LRの羽状縄文が施文される。

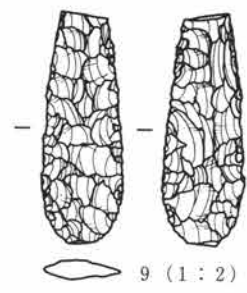
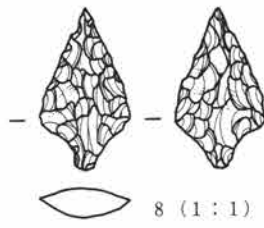
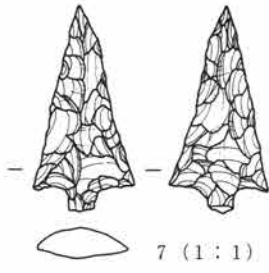
22から31は26を除き胎土に繊維を含まない遺存状況も良い。色調は明赤褐色から橙色を呈する。諸磯式になる。何れも縄文施文の土器である。

22はLRの無節の斜行縄文。23から31はRLの斜行縄文。28は平行沈線により弧状の文様が施文される。また、22は口縁部が屈曲していることからこれらは諸磯b式と考えられる。29は口縁部片で半載竹管による円形の刺突が加えられる。22を除き諸磯a式土器である。

32は後期堀之内式土器と考えられる。遺存状況は良い。胎土に若干の砂粒を含む。色調は明赤褐色を呈する。器形は胴部が丸く膨らむ深鉢。地文に単節RLの斜行縄文を持ち、沈線が垂下する。沈線間と胴部下半部は縄文が擦り消されている。

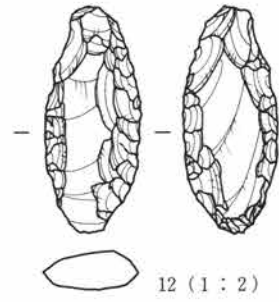
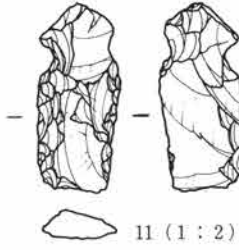
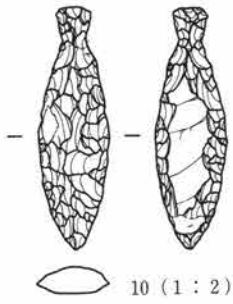


遺構外出土石器(1)

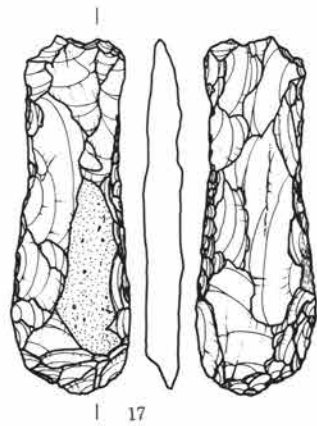
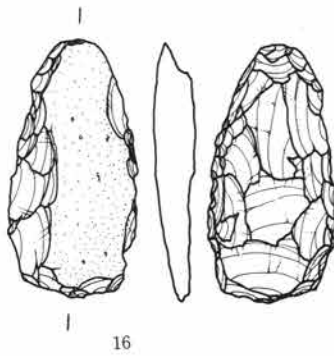
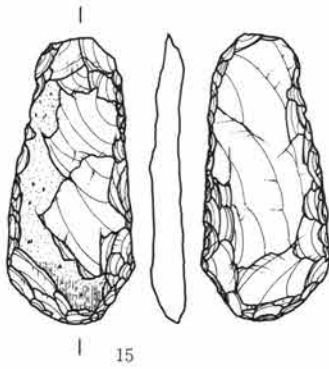
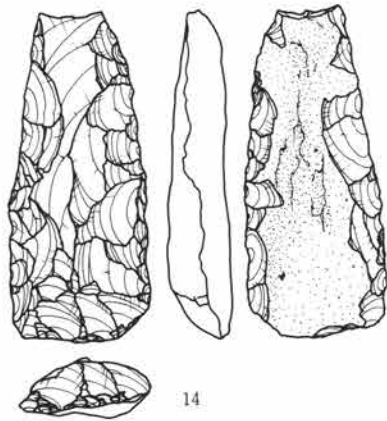
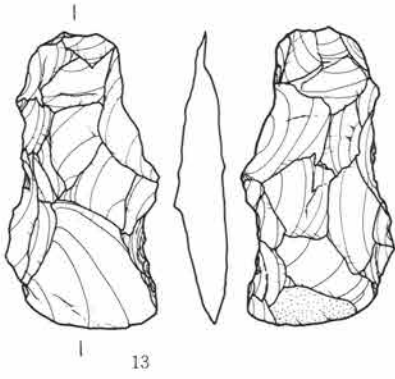


0 1:1 2cm

0 1:2 4cm

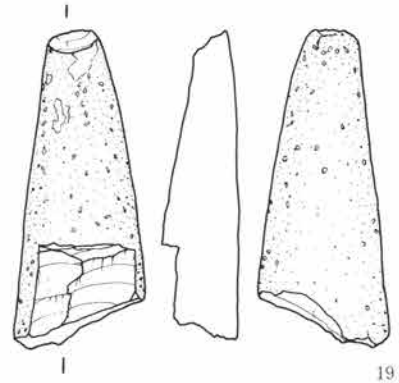
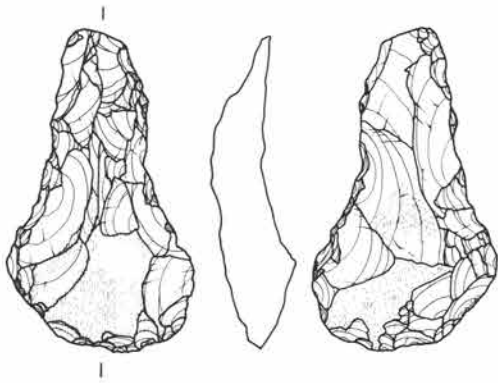


0 1:2 4cm

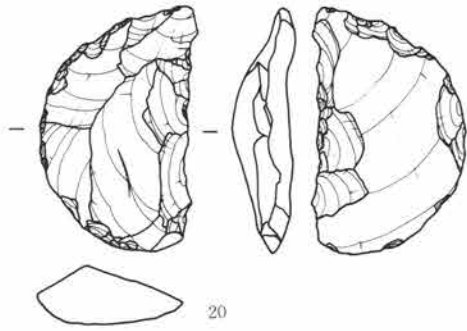


0 1:3 10cm

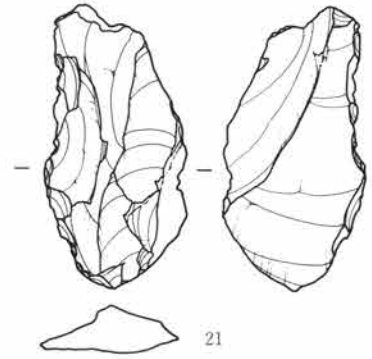
遺構外出土石器(2)



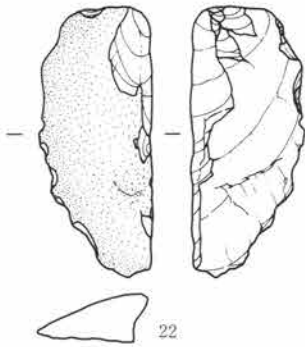
19



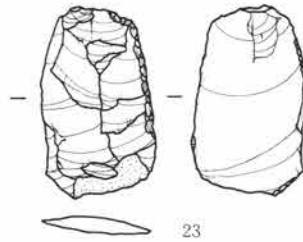
20



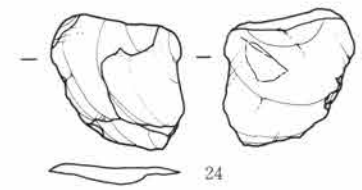
21



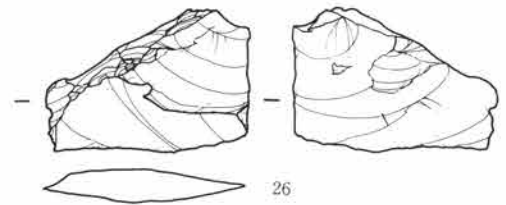
22



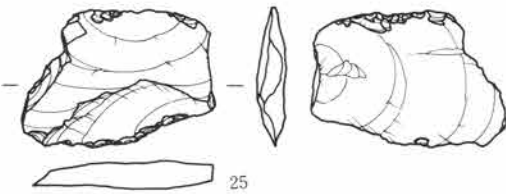
23



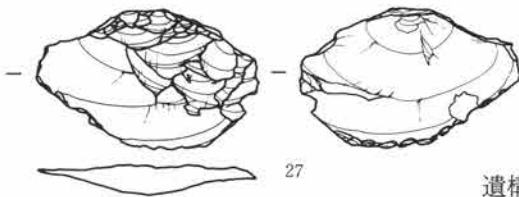
24



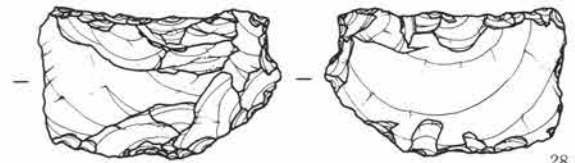
26



25



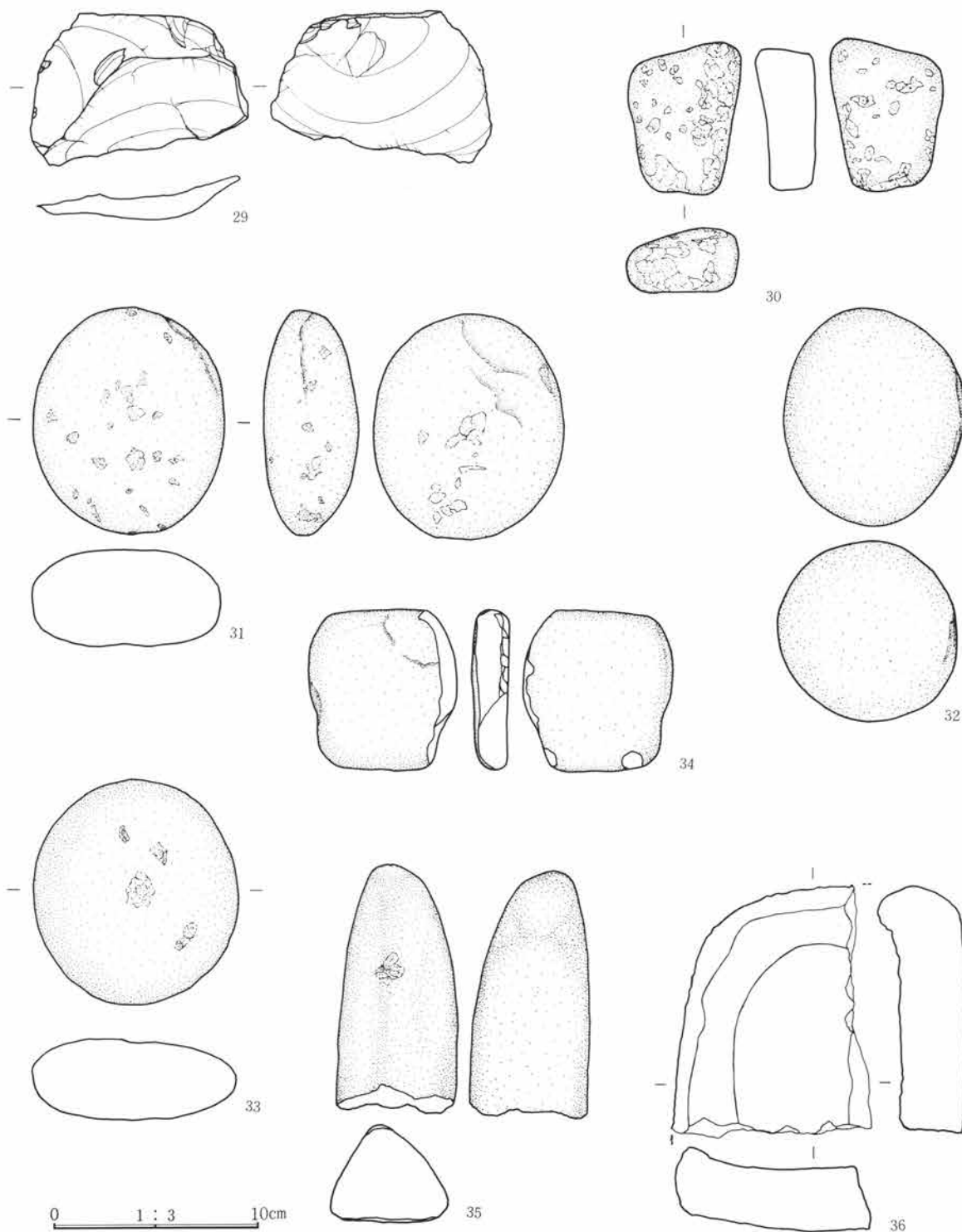
27



28

遺構外出土石器(3)

0 1 : 3 10cm



石器観察表

遺構外出土石器(4)

図版頁番号 写真頁番号	石器の種類 長さ(cm)	説明 幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	出土位置
40-1 19	石鏃 3.5	基部は無茎で抉りが深い、二等辺三角形を呈する。 2.0	0.4	1.8	黒色頁岩	
40-2 19	石鏃 3.9	基部の抉りは深い。基部の一部を欠損する。 1.7	0.4	2.0	黒色頁岩	

第3章 検出遺構・遺物

図版頁番号 写真頁番号	石器の種類 長さ (cm)	説 明 幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	出土位置
40-3 19	石鏃 1.2	基部の抉りは浅い。 1.3	0.3	0.4	黒耀石	
40-4 19	石鏃 2.2	基部の抉りは深い。先端部を欠損する。 1.9	0.4	1.2	チャート	
40-5 19	石鏃 2.1	基部の抉りは浅く緩い弧状。先端部を欠損する。 1.8	0.3	1.1	黒色安山岩	
40-6 19	石鏃 1.9	基部の抉りは深く細部の調整も丁寧である。 1.55	0.4	0.6	黒色頁岩	
41-7 19	石鏃 2.6	凸基有形石鏃 1.3	0.4		黒色頁岩	
41-8 19	石鏃 2.1	凸基有形石鏃 1.2	0.4	0.8	チャート	
41-9 19	石槍 6.1	先端部を欠損する。側縁部は細かい剝離調整を行っている。 2.2	0.5		珩質頁岩	
41-10 19	石匙 0.6	縦長で両側縁部に細かい剝離調整を行っている。 2.5	1.0	16.7	黒色頁岩	
41-11 19	石匙 5.0	縦形、つまみ部の抉りは深い。先端部を欠損する。 2.2	0.8	10.6	チャート	
41-12 19	スクレーパー 6.0	側縁の刃部には両面から細かい剝離調整を行っている。 2.5	1.0	16.7	黒色頁岩	
41-13 19	打製石斧 11.7	刃部、側縁部とも粗い調整のみである。 6.2	2.1	130.7	黒色頁岩	
41-14 19	打製石斧 13.1	表面には自然面が残る。刃部から側縁に細かい調整を行っている。 5.6	2.5	220.9	黒色頁岩	
41-15 19	打製石斧 10.4	自然面が残り刃部に近い部分に擦痕が認められる。 5.1	1.4	96.8	細粒安山岩	
41-16 19	打製石斧 10.2	表面に自然面が残り、裏面から刃部と側縁部分に細かい剝離調整をする。 5.1	1.7	103.9	黒色頁岩	
41-17 19	打製石斧 14.2	自然面を残す。刃部と側縁中央部分に細かい剝離調整を裏面から施す。 4.7	1.5	158.4	黒色頁岩	
42-18 19	打製石斧 12.8	両面に自然面を残し、刃部に細かい剝離調整を施す。 7.3	3.3	228.2	黒色頁岩	
42-19 19	磨製石斧 12.6	先端部を欠損する。 5.2	3.1	254.5	変玄武岩	
42-20 19	使用痕の有る剥片 9.6	半円を呈し弧状の部分に細かい剝離痕が認められる。 6.2	2.3	135.1	黒色頁岩	
42-21 19	横刃形削器 11.3	側縁部に細かい剝離調整を行っている。 5.7	1.9	103.7	黒色頁岩	
42-22 19	使用痕の有る剥片 10.7	外縁部に細かい剝離痕が認められる。 4.5	1.9	101.7	輝緑岩	



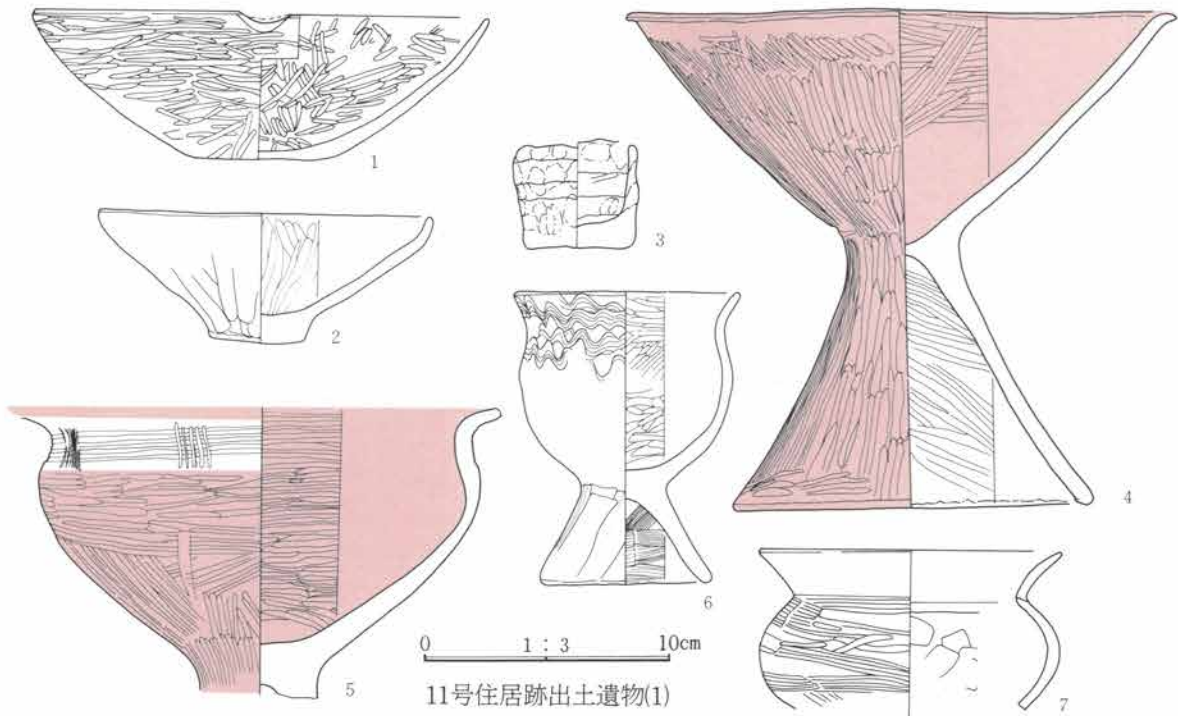
図版頁番号 写真頁番号	石器の種類 長さ(cm)	説明			重さ(g)	石質	出土位置
		幅(cm)	厚さ(cm)				
4 2 -23 1 9	横刃形削器 7.6	4.6	0.7	31.2	黒色頁岩		自然面が残る。側縁に細かい剥離がある。
4 2 -24 1 9	加工痕の有る剥片 5.3	5.3	0.8	23.0	黒色頁岩		粗い剥離調整である。
4 2 -25 1 9	加工痕の有る剥片 5.4	7.7	1.2	45.9	黒色安山岩		側縁部に細かい剥離が見られる。
4 2 -26 1 9	使用痕の有る剥片 5.7	8.0	1.3	65.5	黒色頁岩		刃部に使用痕が見られる。
4 2 -27 1 9	加工痕の有る剥片 5.6	8.9	1.2	57.8	黒色頁岩		刃部に細かい剥離調整が行われる。
4 2 -28 1 9	加工痕の有る剥片 4.0	9.6	1.8	83.3	黒色頁岩		全体に粗い剥離である。
4 3 -29 1 9	使用痕の有る剥片 7.2	10.5	2.1	123.0	黒色頁岩		底辺部に使用痕が認められる。
4 3 -30	タタキ石 7.3	7.15	1.8	172	石英閃緑岩		側縁部に敲打痕が認められる。
4 3 -31	凹み石 10.8	9.1	4.6	646	粗粒安山岩		両面、側面ともに浅い凹が見られる。
4 3 -32	磨石 10.3	8.7	8.6	1040.7	砂岩		ほぼ球状で全体に磨られている。
4 3 -33	凹み石 10.7	9.9	3.9	488.8	粗粒安山岩		片面に浅い凹みが見られる。
4 3 -34	タタキ石 7.65	7.15	1.8	172	粗粒安山岩		側縁部に敲打痕が見られる。
4 3 -35	タタキ石 9.7	5.7	4.6	431.8	石英閃緑岩		先端部を欠く。表面に敲打痕が見られる。
4 3 -36	石皿 11.7	9.2	3.0	450.0	粗粒安山岩		一部を欠損する。

### 第3節 古墳時代前期

#### 第1項 竪穴住居跡

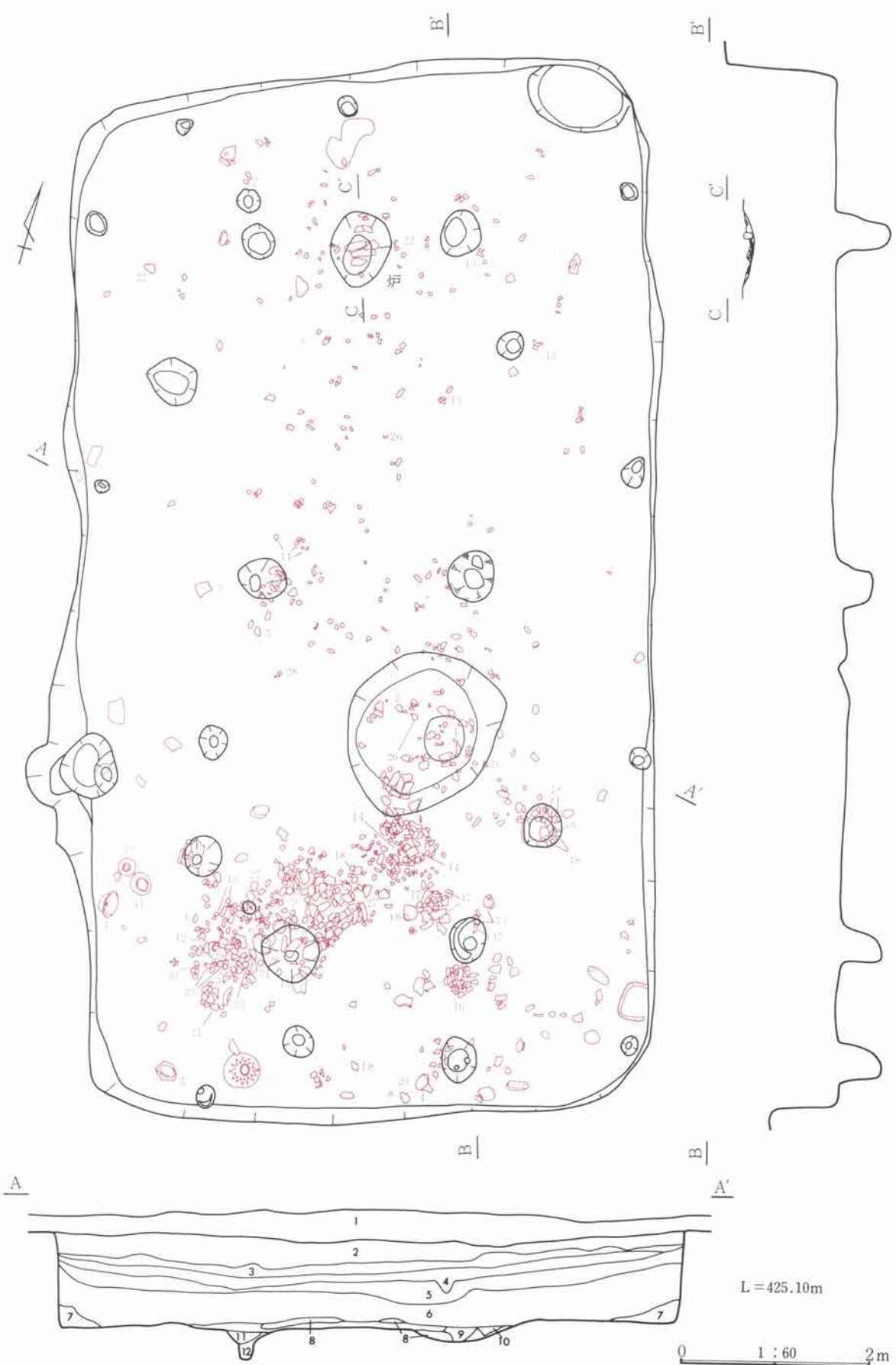
##### 11号住居跡 (写真図版20~21頁、83~87頁)

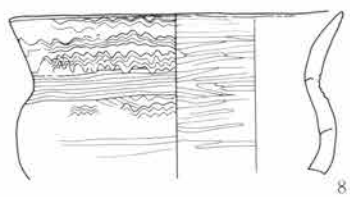
位置 2C-9グリッド 方位 N-22.0°-W 形状 660×1080cmを測る長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は73cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強く、平坦。柱穴 6穴検出され、径35~58cm、深度34~63cmを測る。柱穴間は南北軸方向に350~385cm、東西軸方向に185~250cmを測る。貯蔵穴 なし。炉 北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径75×90cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礎を置く。重複 重複する遺構はない。備考 本遺構は埋没の最終段階近くに、榛名山ニッ岳軽石(FP)の堆積が見られ、埋没の時間幅が窺える。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて多く、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居全面に散乱し、出土する。出土遺物中、壺(No28)は床面直上付近よりの出土である。他の遺物の胎土・器形も類似しているものが多く、一括性が高いものと考えられる。特筆すべき出土遺物として、前記の壺(No28)は下半部を欠し、南西コーナー付近の床面に1cm程埋め込まれた状態で出土し、その痕跡が床面上に明瞭に残ることから、住居使用時より下半部を欠いた形で設置されていたものと考えられる。また、赤井戸式甕(No22)が25号住居出土遺物と、高坏(No5)が16号住居出土遺物と接合する。



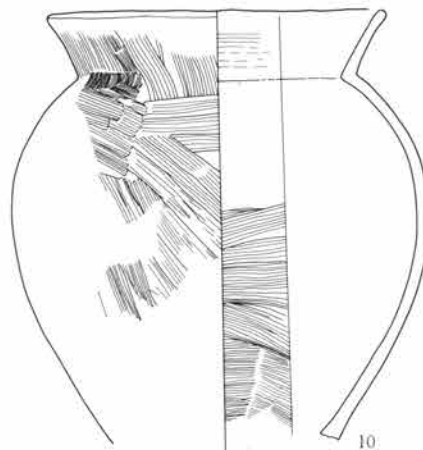
11号住居跡出土遺物(1)

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 表土(耕作土)。<br/>2 暗褐色土 小粒で少量のFP、若干の黄色スコリア。<br/>3 FP純層 1mm~5mmのFP主、まれに橙色スコリア。<br/>4 FP純層 3mm~30mmのFP主、小粒で橙色の小石も混じる。<br/>5 明黒褐色土 細粒子、少量のFP。弾力あり。<br/>6 明黒褐色土 5層より明。細粒子、若干のローム粒、黄色スコリア。軟質。</p> | <p>7 明黒褐色土 5層より暗。極細粒子、少量のローム粒、黄色スコリア。軟質。<br/>8 黄色土 ロームブロック層。<br/>9 黄色土 ロームブロック層、暗黄色土混入。<br/>10 暗褐色土 ローム漸移層土に多量のローム粒子。<br/>11 明褐色土 9層以上にローム粒子、若干の黄色スコリア。<br/>12 明褐色土 10層以上にローム粒子混入。</p> |
|---|--|

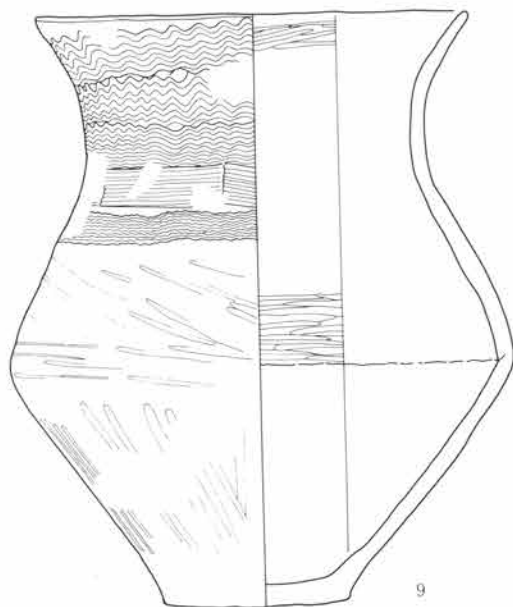




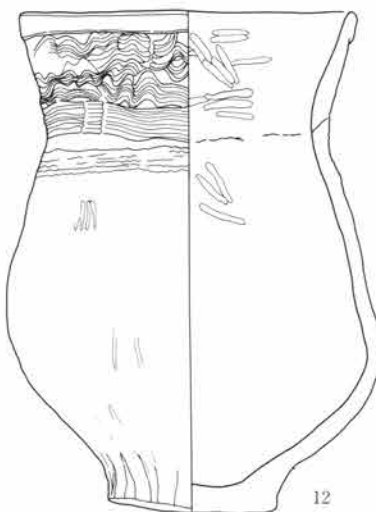
8



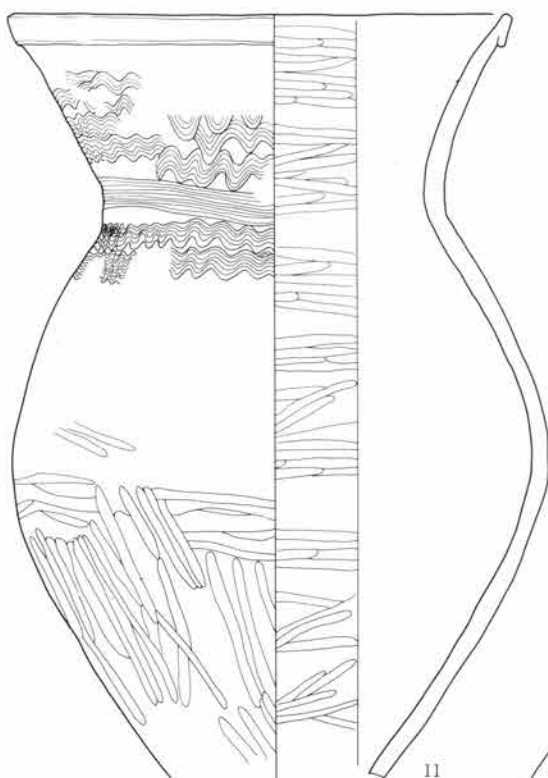
10



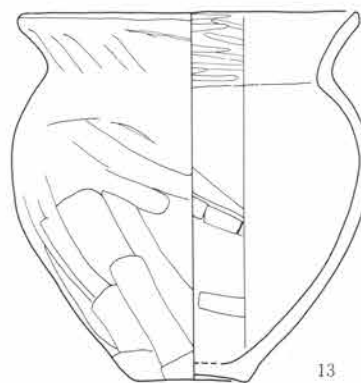
9



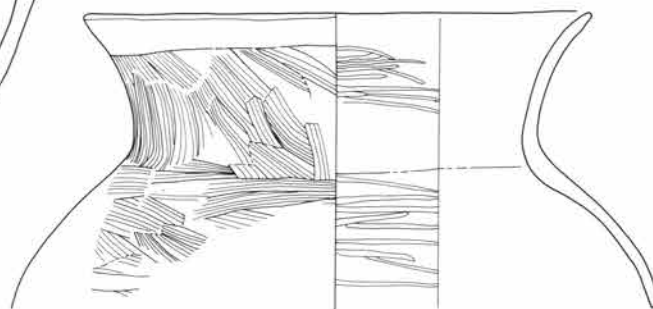
12



11



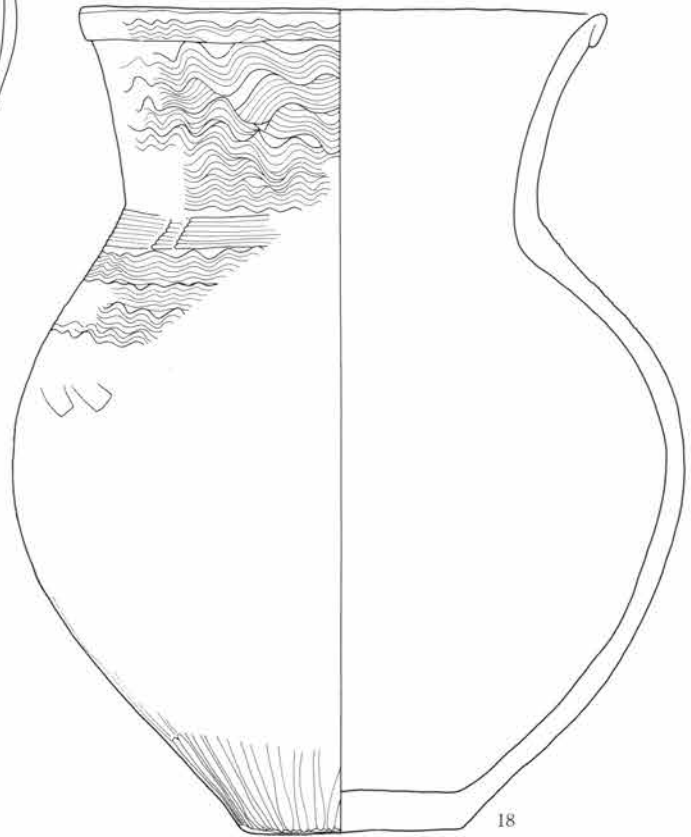
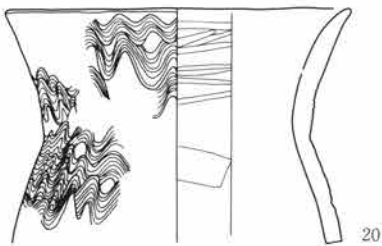
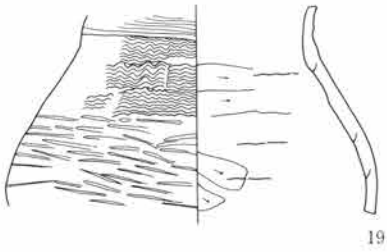
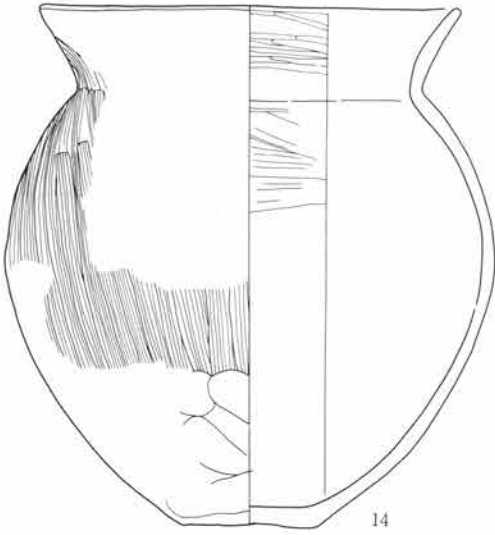
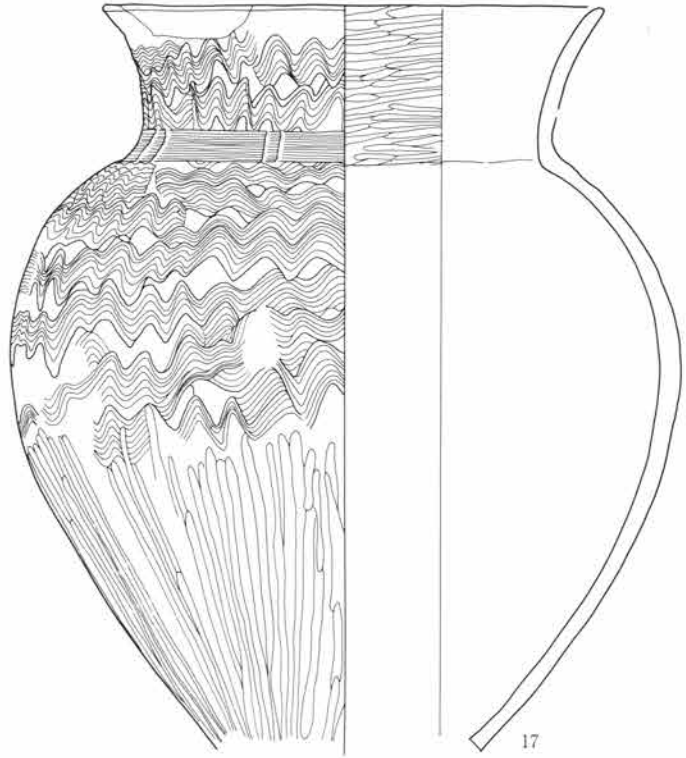
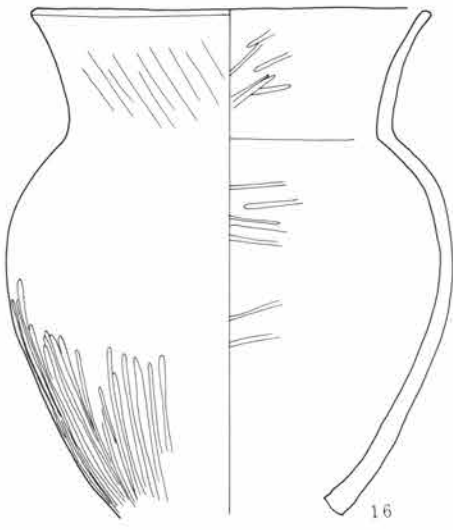
13



15

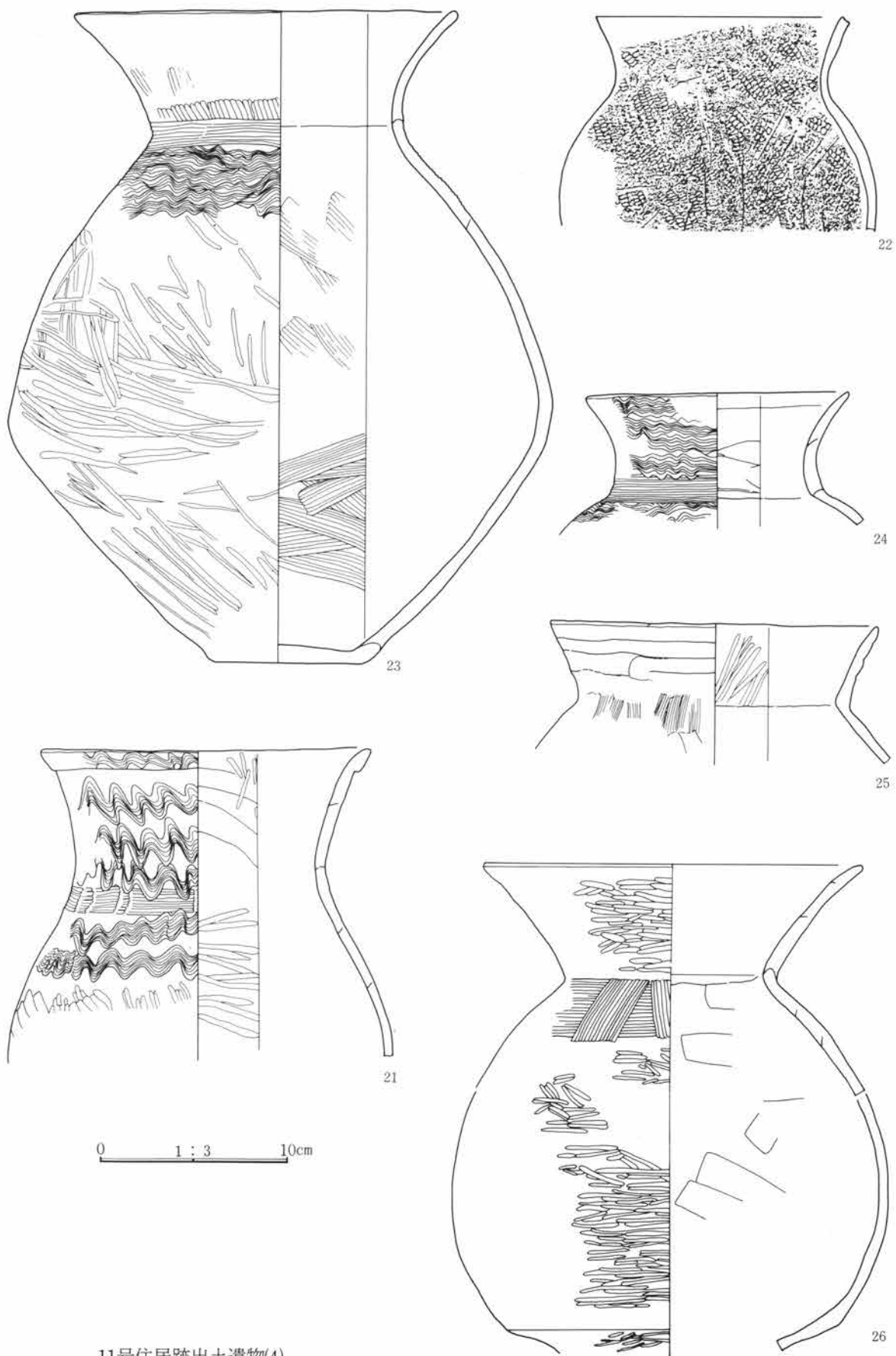
0 1 : 3 10cm

11号住居跡出土遺物(2)

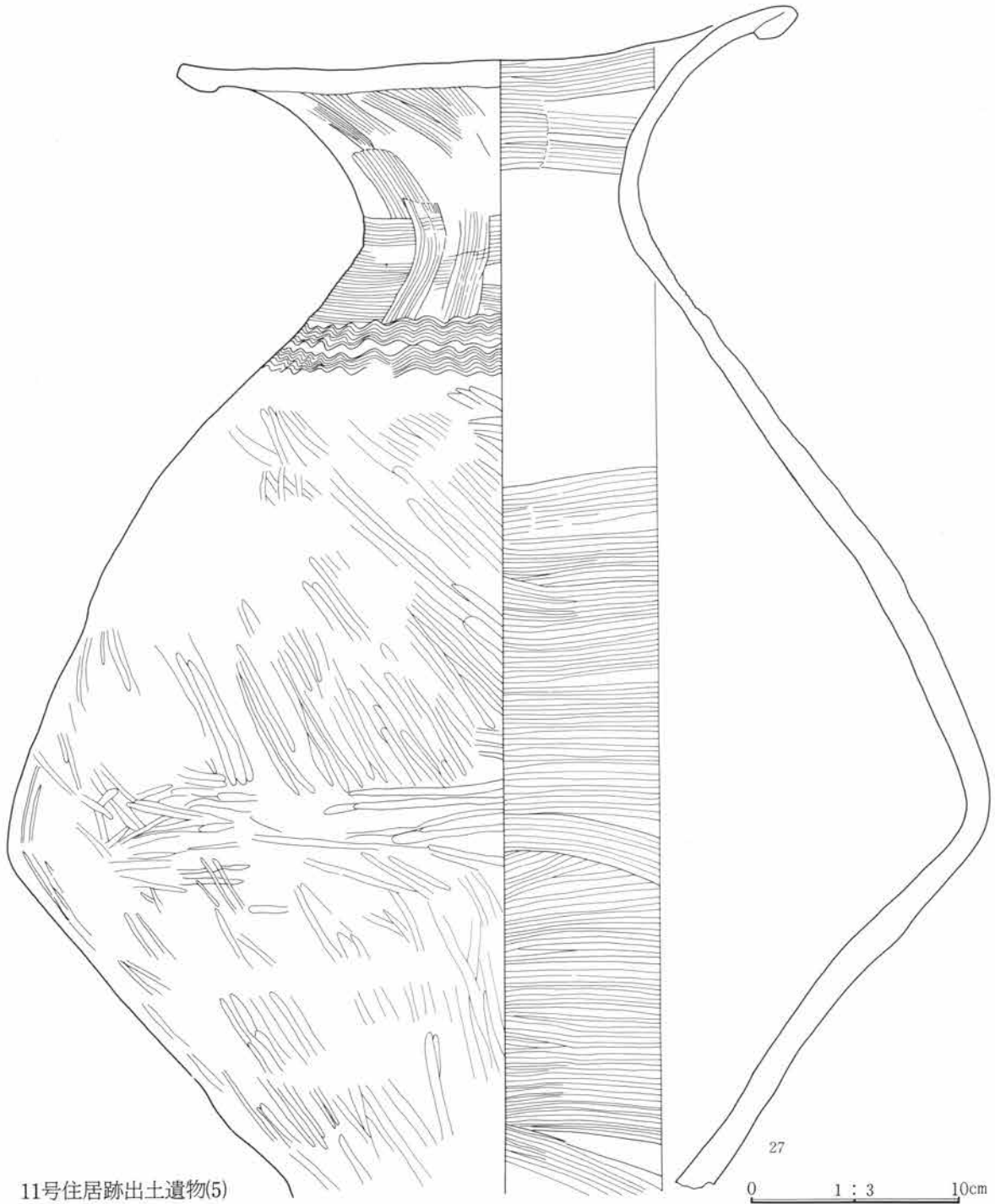


11号住居跡出土遺物(3)

0 1 : 3 10cm

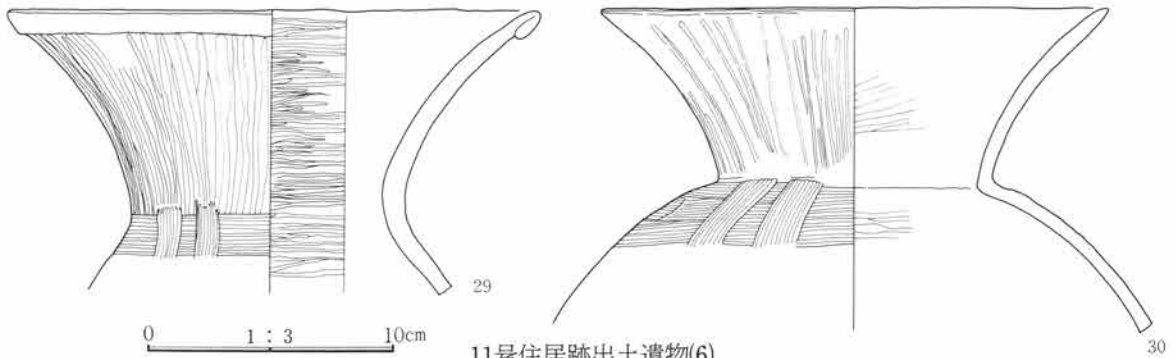
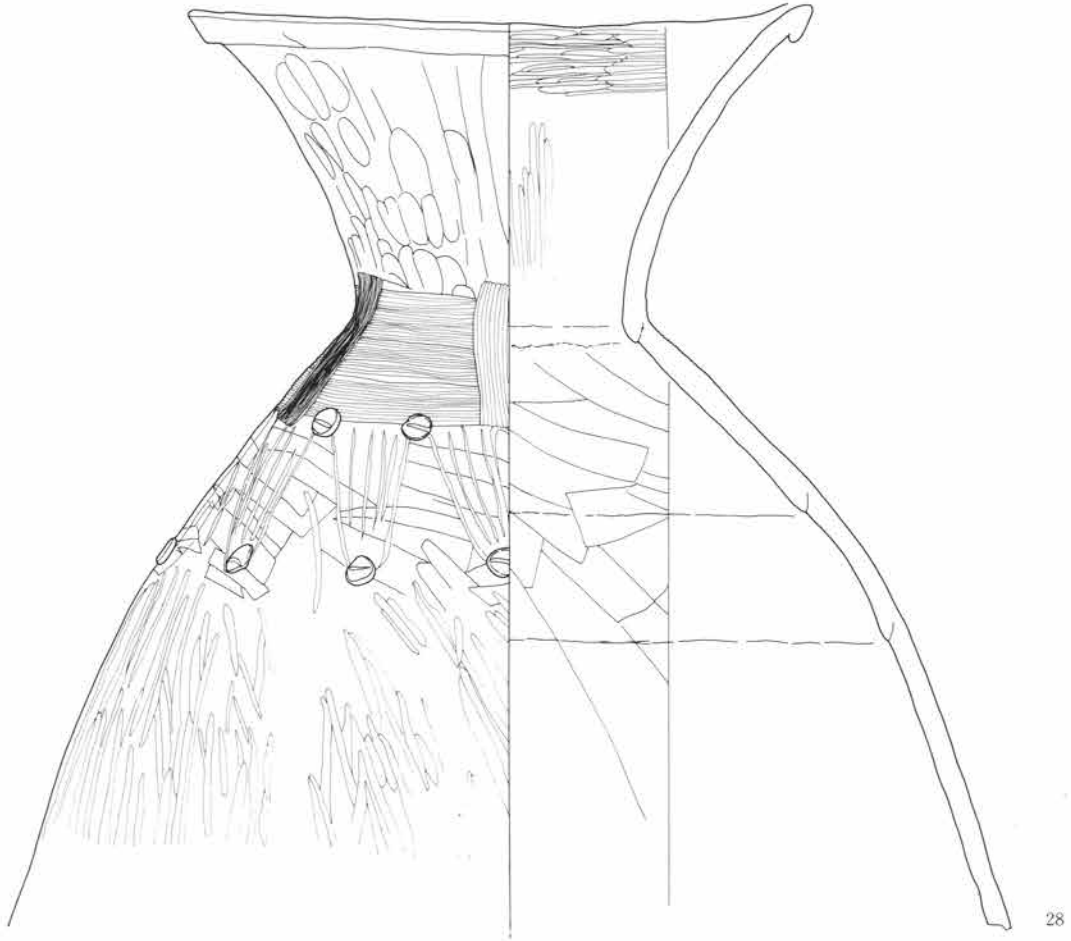


11号住居跡出土遺物(4)



11号住居跡出土遺物(5)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢 (片口)	11.5~20.5 cm埋	18.2・5.8・4.8	白色細砂粒、少量の石英細礫 普通 におい橙色	内外面・底部研磨。片口。
②	鉢	2、36cm 埋土	13.2・5.1・3.2 2/3残存	多量の白色細砂粒、少量の石英 細・粗砂粒 普通 橙色	底部削り→撫で。外面体部篋削り→粗い撫で 内面研磨。口縁部横撫で。
③	ミニチュア	19cm	4.7・4.2・4.0 完形	少量の白色・石英細砂粒 良好 におい橙色	体部に4段の輪積み・巻き上げ痕、全体に指 頭痕が残る。底部は撫で。



11号住居跡出土遺物(6)

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
④	高坏	3、23.5cm	21.8・19.1・14.3 完形	多量の白色細砂粒、少量の石英細 礫 良好 赤色	内外面とも丁寧な研磨、全体に赤色塗彩。脚 部内面は放射線状の粗い刷毛目を残し未塗 彩。
⑤	台付甕 (高坏)	11、28cm	19.1・ - ・ - 口唇部、台部欠損	多量の白色細砂粒、少量の石英細 礫 良好 赤色	内外面とも丁寧な研磨、全体に赤色塗彩。外 面柳描T字文部と台部内面は未塗彩。
⑥	小型 台付甕	-11~2cm 埋土	9.0・11.4・6.8 口~体一部欠損	多量の石英・白色細砂粒 普通 におい橙色	外面台部~体部中位篋削り→篋撫で。体部上 位~口縁部波状文。内面体部研磨 台部内面 粗い刷毛目。
⑦	小型壺	埋土	12.0・ - ・ - 胴上位~口縁部 1/3	白色・石英細・粗砂粒 普通 赤褐色	口縁部内外面横撫で、胴部外面刷毛目の上粗 く研磨、内面撫で。

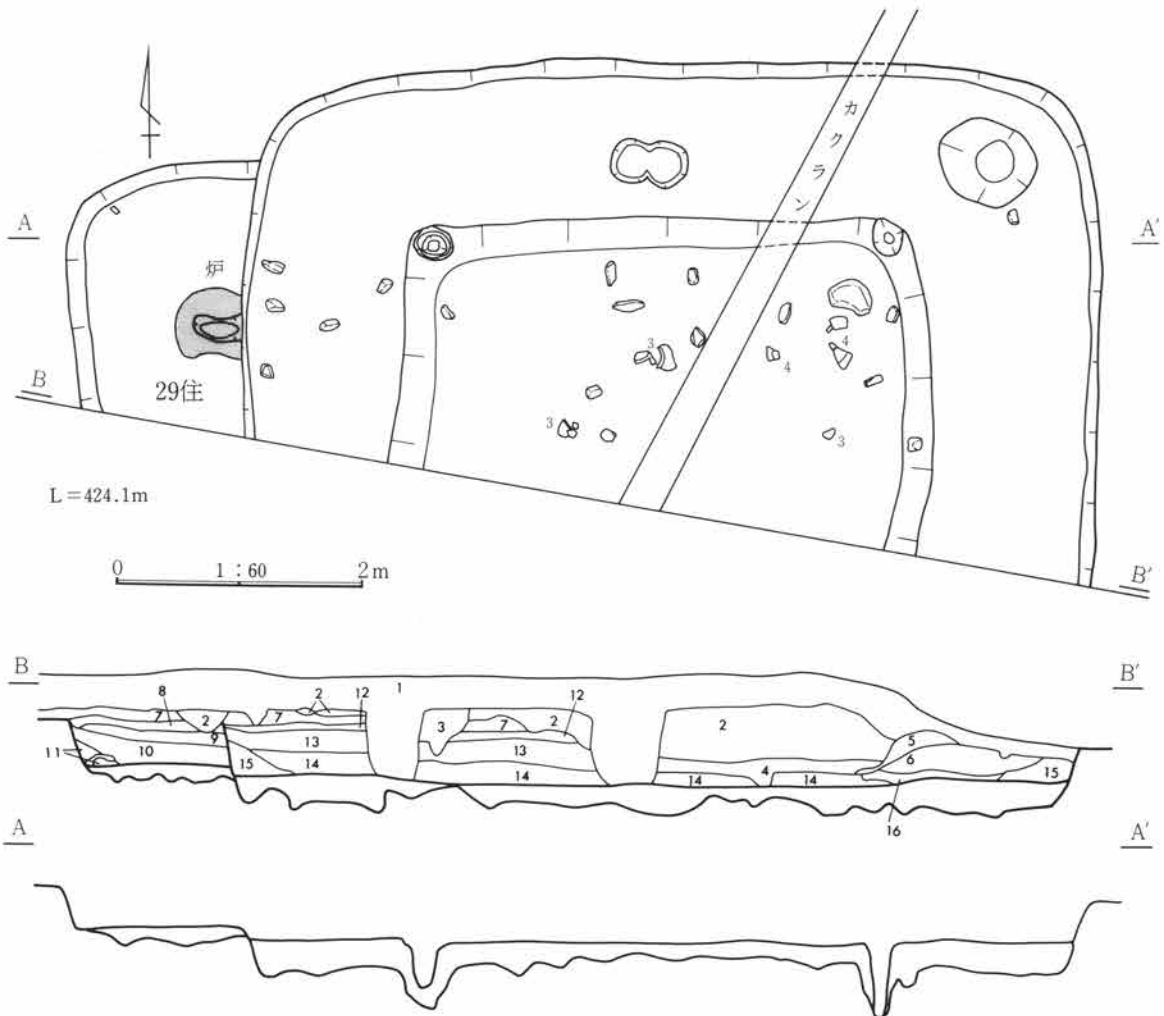


遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑧	台付甕	ピット内 -5~-7cm	13.3・ - ・ - 体上位~口縁1/3 残	白色・石英砂粒~粗砂粒 普通 灰黄褐色	外面括れ部分に不止簾状文施文(横線)→簾状文の上下に波状文。内面研磨。
⑨	甕	1~23cm	17.1・23.4・7.5 体部1/4欠損	白色・石英細砂~粗砂粒 良好 暗赤褐色	外面底部削り→撫で。胴下位~中位研磨。胴部上位~口縁部等間隔止簾状文の上下に波状文。内面研磨。
⑩	甕	埋土	13.2・ - ・ - 体下位~口縁1/4 残	石英細砂~粗砂粒、白色細砂粒少 普通 橙色	外面胴下位篋削り→撫で。胴中位~口縁部粗い刷毛目。内面底~胴中位刷毛目、口縁部研磨。口唇部に平坦面。
⑪	甕	1cm 埋土	19.6・ - ・ - 底部欠損	白色細砂・石英細砂~粗砂粒 普通 におい橙色	外面胴部下位~中位研磨、頸部不止簾状文→上下に波状文。口縁部折り返し→波状文。内面全体に研磨。
⑫	甕	1、8cm 埋土	13.3・19.8・6.7 口~頸部1/2欠損	白色・石英細砂~粗砂粒 普通 橙色	外面底部削り→撫で、胴部下位~上位研磨。頸部~口縁2連止め簾状文→上位に波状文。口縁部折返し内面研磨
⑬	甕	8~29cm 埋土	13.1・14.4・4.5 1/4欠損	多量の白~灰白細砂・石英粗砂粒 普通 橙色	底部篋削り、外面体部~口縁部篋削り。内面底部~体部中位篋撫で、体部上位撫で。口縁部研磨
⑭	甕	2.5~17.5 cm 埋土	16.7・20.5・5.4 1/3残存	多量の白~灰白細砂・石英細・粗砂粒 普通 赤褐色	底部篋削り→篋撫で。外面上半幅細の刷毛目、下半篋撫で。内面体部篋撫で。頸部~口縁部研磨。
⑮	甕	10~29cm 埋土	20.3・ - ・ - 体上位~口縁1/2 残	白色・石英細砂粒、角閃石 普通 褐色	外面粗い刷毛目、口縁部横撫で。内面研磨。
⑯	甕	18.5~24cm	15.7・ - ・ - 2/3残存	白色細砂~粗砂粒、石英少 普通 黒褐色	外面胴部下半研磨。胴部上半~口縁部撫で。内面全体に研磨。口唇部に平坦面をもつ。
⑰	甕	1.6~18.5 cm	20.0・ - ・ - 底部欠損	白色・赤褐色・石英細~粗砂粒 普通 灰褐~橙色	外面胴下半縦方向に研磨。胴上半~口縁波状文→頸部2連止め簾状文。口縁部撫で内面胴篋撫で、口縁横研磨。
⑱	甕	-3~53cm ピット内	20.9・32.4・8.7 体部一部欠損	白色細砂、石英細~粗砂粒 普通 黄褐~橙色	外面底部~胴下半研磨。頸部2連止簾状文→上下に波状文。口縁部折り返し→波状文。内面全面研磨。
⑲	甕	1cm	- ・ - ・ - 体中間部のみ残	石英・白色細・粗砂粒 普通 黒褐色	外面胴部下半横研磨。胴部上半波状文→頸部2連止め簾状文。内面篋撫で。
⑳	甕	9~17cm 埋土	13.7・ - ・ - 口縁~胴上半1/3 残	多量の白色細砂粒、石英細・粗砂粒 普通 褐色	外面は波状文のみ施文。内面研磨。
㉑	甕	1~24cm	17.2・ - ・ - 上半部残存	石英砂粒、多量の白色細~粗砂粒 普通 褐灰色	外面胴中間部篋撫で。頸部2連止め簾状文→上下に波状文。口唇部折り返し、波状文施文内面研磨。
㉒	甕	5~37cm 埋土	- ・ - ・ - 口縁~胴上部1/4 残	白色・石英細~粗砂粒 普通 におい黄橙~褐灰色	外面下部撫で。口縁部~胴部上位に縄文。内面篋撫で一部研磨、口唇部にも縄文。
㉓	壺	17cm 床直	19.9・33.6・7.5 口縁一部欠損	石英・白色細~粗砂粒 普通 橙色 明黄褐色	外面底部~胴部中位研磨。頸部不止簾状文(横線)→簾状文下胴部上位波状文。内面粗い刷毛目。口縁部研磨。
㉔	甕	埋土	13.8・ - ・ - 口縁~肩部の1/2 残	石英・白色細~粗砂粒 普通 黒褐~褐色	外面肩部~口縁部波状文→頸部不止簾状文。内面篋撫で。
㉕	甕	埋土	17.0・ - ・ - 口縁部~胴上半	白色細砂粒、赤褐色円粗砂粒 普通 におい黄橙色	外面篋削り。口縁部に輪積痕4段とそれを押えた指頭痕とが克明に残る。内面口縁部研磨。
26	壺	-4~32cm	- ・ - ・ - 胴部1/3	白色細砂粒、赤褐色円粗砂粒 普通 におい橙色	胴部上位、1単位13条の櫛描2段よりなるT字文を施文。外面研磨、内面口縁部研磨、胴部撫で。
㉗	壺	埋土	28.9・ - ・ - 底部欠損	普通 灰白色~褐色	外面胴部研磨。頸部櫛描T字文→下位に波状文。T字文~口縁部粗い刷毛目。口縁部折り返し内面粗い刷毛目。

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
㊸	壺	-6~21cm	24.9・ - ・ - 胴部下半欠損	白色・石英細砂・粗砂粒 普通 浅黄橙色	頸部下T字文・舌状に近い鋸歯文+平行沈線+円板状浮文。文様の上下は研磨。内面胴部篋撫で。口縁部研磨。
㊹	壺	1cm 埋土	21.2・ - ・ - 口縁部~頸部	多量の白色・石英細・粗砂粒 普通 にふい橙色	外面頸部T字文。口縁縦方向に篋磨き。折り返し口縁。内面は丁寧な研磨。
㊺	壺	3.0~41cm 埋土	20.2・ - ・ - 口縁部~胴部上半	白・石英・角閃石・赤褐 細~粗粒 普通 明赤褐~黒褐	外面研磨。肩部に1単位13条の櫛描2段よりなるT字文。内面撫で。口縁接合部~口縁部のみ研磨。

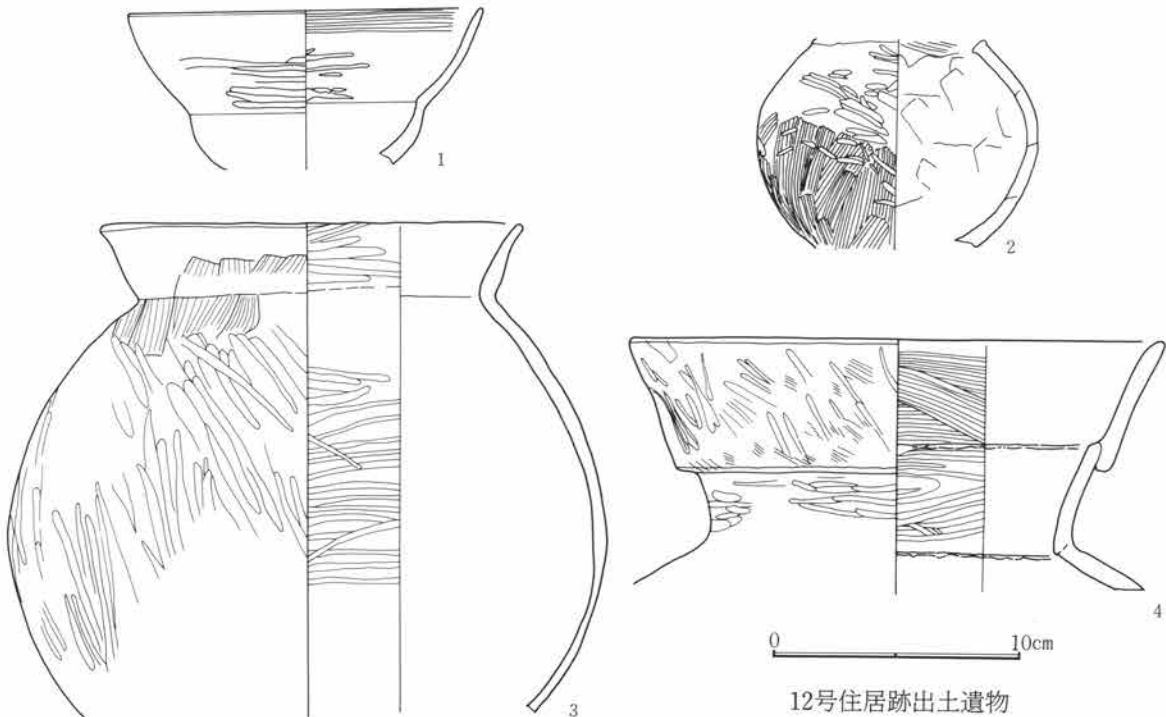
12・29号住居跡 (写真図版22頁、88頁)

位置 20B-21グリッド 方位 不明。 形状 663×319+αcmを測る隅丸方形のプランを呈すると思われるが、南側を調査区域外に残すため、その全容は明らかではない。壁は直線的に巡り、壁高は44cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。 床面 床はローム地床。やや軟質。 柱穴 調査範囲内において、2穴検出され、径25~30cm、深度40~58cmを測る。柱穴間は東西軸方向に368cmを測る。また、柱穴を結ぶラインより内側が方形に一段低い床面となる。 貯蔵穴 なし。 炉 調査範囲内においては検出されていない。 重複 29号住居跡と重複し、新旧関係は埋土断面より本遺構の方が新しいと判断される。この29号住居跡は南側を調査区域外に残し、かつ、東側を12号住居に切られるため、遺構の一部を検出した



にすぎない。29号住の炉は、一部を12号住に切られ検出され、楕円形を呈し、径50×65cmを測る地床炉である。29号住の時期は、重複の新旧関係と埋土より、弥生時代後半と考えられる。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居中央部に散乱し、出土する。出土遺物中、床面直上よりの出土はみられない。

- 1 耕作土 FP混。
- 2 暗褐色土 小粒FP、黄色スコリア若干含。良く締まる。
- 3 明黒褐色土 小粒で若干のFP、所々黄色粒、少量の浅間山B軽石。
- 4 明黒褐色土 3層より若干明。小粒で少量のFP、所々ローム粒締まる。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒少量、ロームブロック。
- 6 暗黄褐色土 5層より黄強く明。多量のローム粒、所々にロームブロック。
- 7 暗褐色土 2層より暗。若干のFP、僅かの黄色粒。
- 8 明黒褐色土 若干のローム粒、細粒子。29住覆土。良く締まる。
- 9 明黒褐色土 8層より若干明。若干のローム粒、細粒子。弾力あり。
- 10 暗黄褐色土 5層より明。多量のローム粒、所々に小粒のロームブロック。軟質。細粒子。
- 11 黒褐色土 所々にローム粒。軟らかい。
- 12 明黒褐色土 8層より若干明。細粒子、8層より多いローム粒良く締まる。
- 13 明黒褐色土 9層より若干明。細粒子、少量のローム粒締まる。
- 14 明黒褐色土 8～14層内で一番の明。細粒子、多量のローム粒、若干のロームブロック。
- 15 黒褐色土 11層より若干明。若干のローム粒。稍軟らかい。
- 16 黒褐色土 1層より明。所々にローム粒。稍締まる。

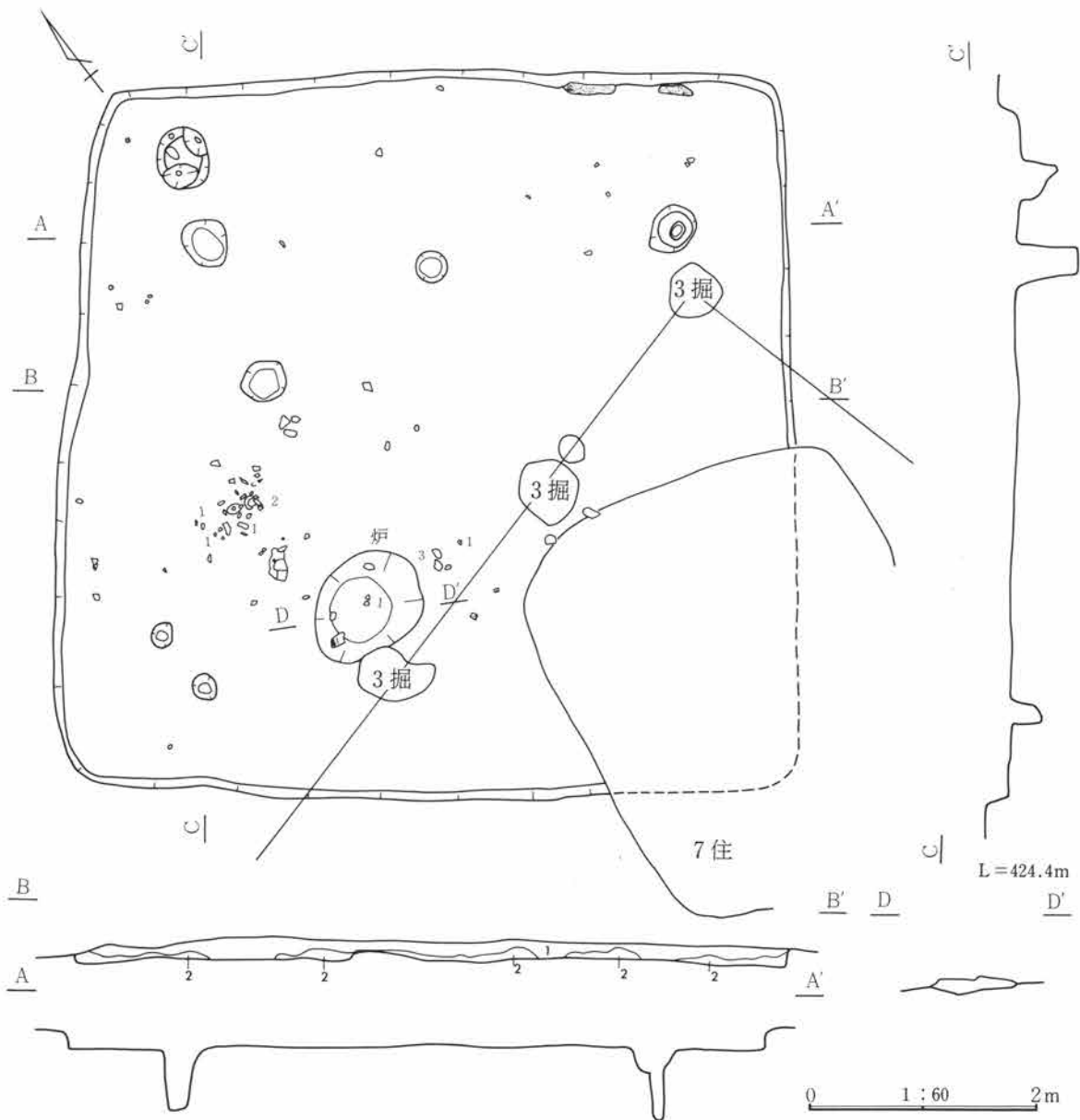


12号住居跡出土遺物

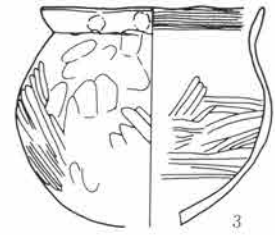
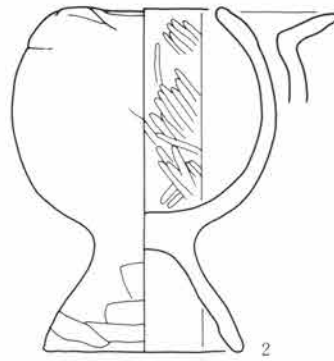
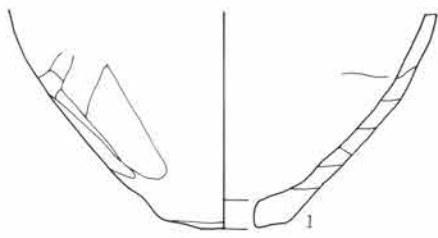
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
1	埴	埋土	14.2・ - ・ - 口縁部～体部1/4	多量の白～灰色・石英細・粗砂粒 普通 明黄褐色	外面篋削り後研磨、内面撫で後粗い研磨。
2	小型台付甕	ピット底面	6.4・ - ・ - 1/2 底部欠損	白色・石英細・粗砂粒 普通 灰褐色	外面胴部上位刷毛目後研磨、下位刷毛目、内面は撫で。
③	甕	13～17cm 床直埋土	16.5・ - ・ - 口縁～胴下半1/3 残	白～灰色・石英細～粗砂粒 普通 におい黄橙色	外面体部刷毛目→研磨。口縁部横撫で、平坦面をもつ。内面体部研磨。口縁部刷毛目→横研磨。
④	壺	30～40cm	21.1・ - ・ - 口縁部のみ1/2残	白色・石英細・粗砂粒 普通 におい褐～褐灰色	有段口縁部。内外面とも刷毛目→研磨。内面肩部篋撫で。

1 3号住居跡 (写真図版23頁、88頁)

位置 19B-17グリッド 方位 N-51.5°-W 形状 625×630cmを測る正方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は20cmを測り、壁溝はなし。 床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。  
 柱穴 3穴検出され、径20~47cm、深度26~58cmを測る。柱穴間は、東西軸方向に385~423cmを測る。  
 貯蔵穴 なし。 炉 住居中央南寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径80×108cmを測る地床炉。  
 重複 7号住居跡・3号掘立柱建物(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より両遺構より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は一部が住居中央南西部に集中し、他は全面に散乱し、出土する。出土遺物中、床面直上よりの出土は見られない。



- 1 黒褐色土 黒色ローム漸移層に若干のローム粒子、所々にロームブロック、10mm内の軽石締まりあり。
- 2 暗褐色土 暗褐色ローム漸移層に多量のローム粒子。1層と類似。

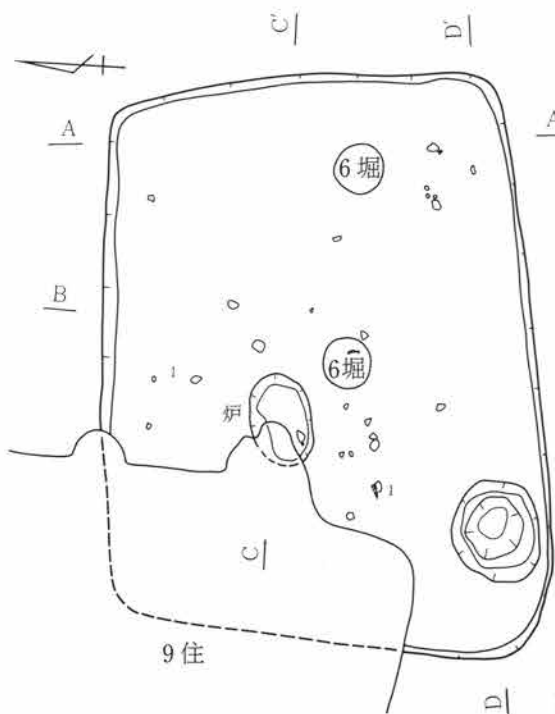


0 1:3 10cm

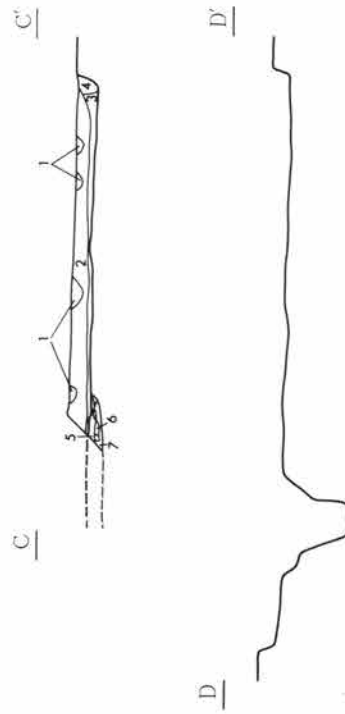
13号住居跡出土遺物

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	甌	9~14cm	- - - 4.8 底部~胴部中位	白色細砂粒 普通 におい褐色	輪積痕で明瞭に割れている。外面削りの後撫で。内面撫で。底部孔φ1.2~1.8cm
②	台付片口	8~14cm 埋土	6.5・13.5・7.9 3/4残	白色・石英細砂粒 普通 におい赤褐色	外面台部粗い刷毛目。体部粗い刷毛目→粗雑な研磨。内面粗雑な研磨。口縁部折り返し。
③	埴	15、17cm 埋土	8.9・- - - 底部~口縁部2/3	少量の白色細砂粒、石英粗砂粒 普通 におい黄褐色	外面口縁部撫で、指頭痕が残る。体部は撫で後、粗い研磨。内面口縁部刷毛目、体部研磨。

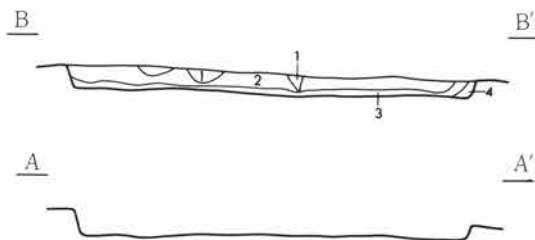
14号住居跡 (写真図版24~25頁、88頁)



L=424.4m

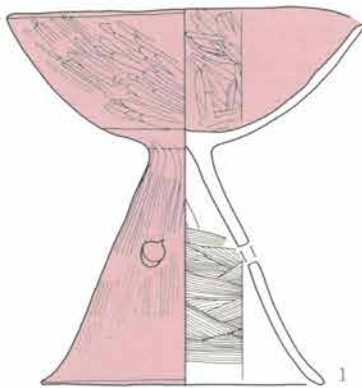


0 1:60 2m



- 1 明黒褐色土 細粒子、小粒のFP若干。締まりあり。
- 2 黒褐色土 細粒子、所々にローム粒。弾力あり。
- 3 明黒褐色土 細粒子、少量のローム粒。
- 4 黒褐色土 2層より暗。細粒子、若干のローム粒。
- 5 明黒褐色土 1層より明。細粒子、少量の焼土粒。締まり。
- 6 焼土 締まりあり。
- 7 暗黄褐色土 細粒子、焼土粒、明褐色土所々混じる。

位置 23B-16グリッド 方位 N-79.5°-E 形状 466×323cmを測る隅丸長形状のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は24cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。 柱穴 なし。 貯蔵穴 南西コーナー付近に検出され、円形を呈し、径70~85cm、深度53cmを測る。 炉 住居中央やや北西寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径50×82cmを測る。炉は地床炉。 重複 9号住居跡、及び6号掘立柱建物（平安時代）と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は住居全面に散乱し出土するが、出土遺物中、床面直上よりの出土は見られない。



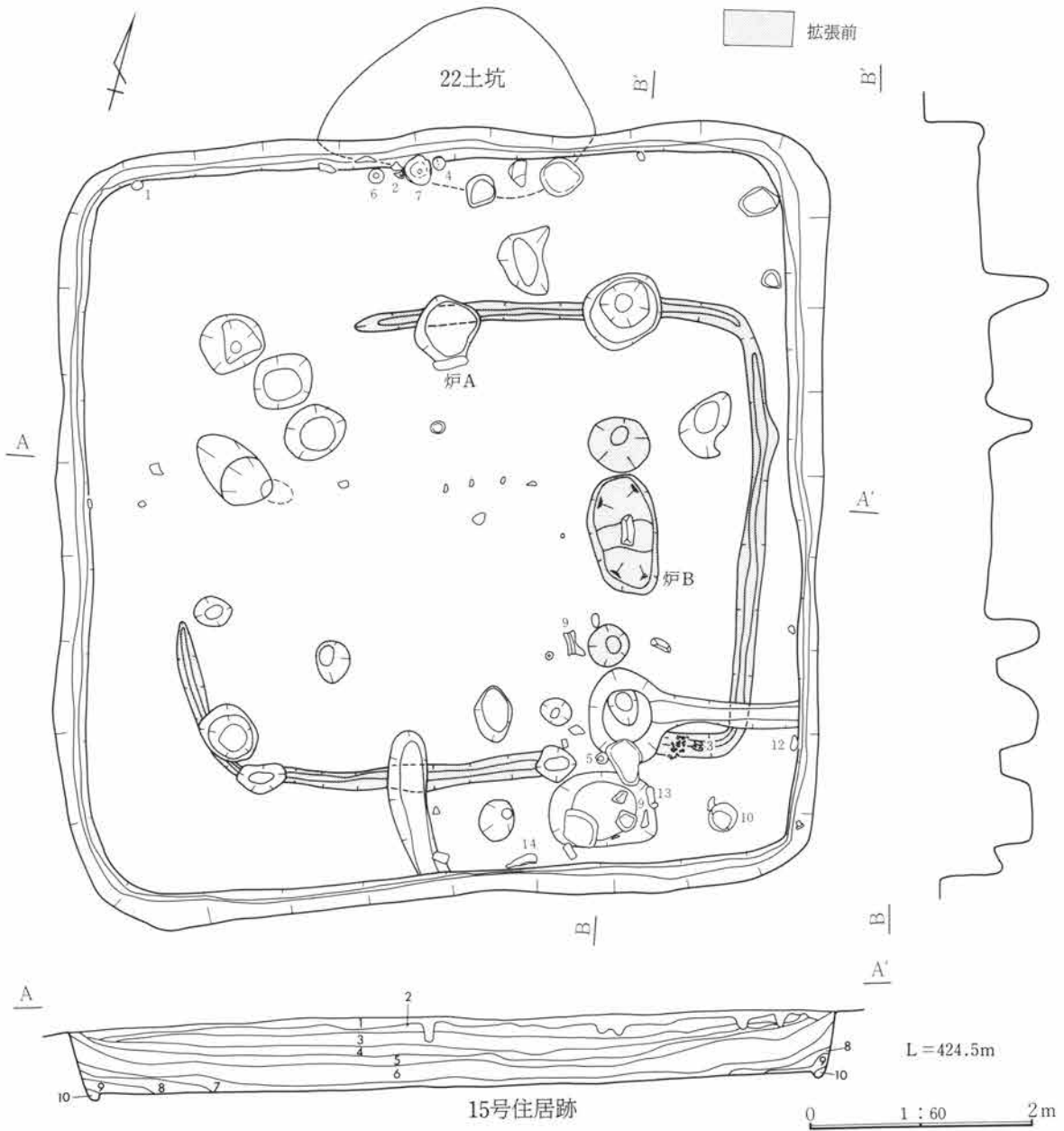
番号 器種	出土位置 残存率 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
① 高坏	10cm 埋土 14.1・14.7・11.2 坏部1/2欠損 脚部1/3欠損	少量の白色・石英・角閃石・細砂粒 普通 赤色	脚部外面刷毛目→赤色塗彩研磨、脚部内面粗い刷毛目。坏部内外面とも丁寧な研磨→全体に赤色塗彩。脚部3穴穿孔。

14号住居跡出土遺物

0 1 : 3 10cm

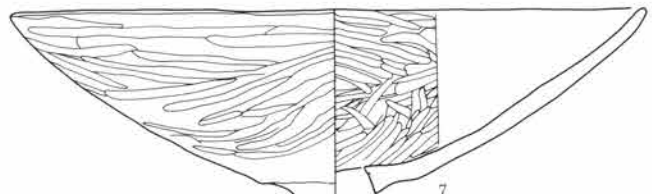
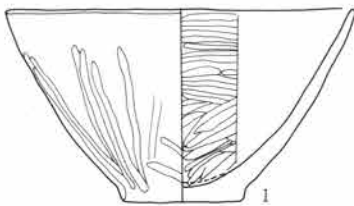
### 15号住居跡 (写真図版24~25頁、88~89頁)

位置 22B-13グリッド 方位 N-76.0°-E 形状 684×670cmを測る正方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は62cmを測り、直に立ち上がる。幅14cm、深度13cmを測る溝がほぼ全周する。また、この他に遺構内には450×370cmを測る方形のプランを呈し、幅23cm、深度53cmを測る溝が内側に巡る。 床面 床はローム地床。平坦で堅く締まりが強い。 柱穴 8穴検出され、径30~85cm、深度40~90cmを測る。8本の柱穴は4本1組の2組に分けられ、外側の柱穴の柱穴間は南北軸方向に350~355cm、東西軸方向に340~360cmを測り、内側の柱穴の柱穴間は南北軸方向に245~280cm、東西軸方向に185~205cmを測る。 貯蔵穴 南東コーナー付近に検出され、楕円形を呈し、径35~65cm、深度11cmを測る。 炉 2ヶ所に検出され、炉Aは外側柱穴の北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径60×65cmを測る地床炉。炉Bは同柱穴の東側柱穴間のほぼ中央に設けられ、楕円形を呈し、径57×105cmを測る地床炉。 重複 22号土坑と重複し、新旧関係は埋土断面より本遺構の方が新しいと判断される。 備考 当遺構は前記のとおり2軒の住居の存在が考えられるが、床面にレベル差はなく土層断面にも重複を示す痕跡もないことから、拡張に伴う建て替えと考えられ、内側を巡る壁溝の上に炉Aを設けていることから、炉はBからAへ、壁溝・柱穴は内から外へ、造り替えられていると考えられる。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少ないが、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居北壁直下に集中し出土する。出土遺物中、甕 (No.9)・壺 (No.10)・高坏 (No.6、7)・片口鉢 (No.4)・砥石 (No.12、13、14) は床面直上よりの出土であり、特筆すべき出土遺物として、南東コーナー付近に壺 (No.10) が11号住居跡の例と同様に下半部を欠き、床面に1cm程埋め込まれた状態で出土した。



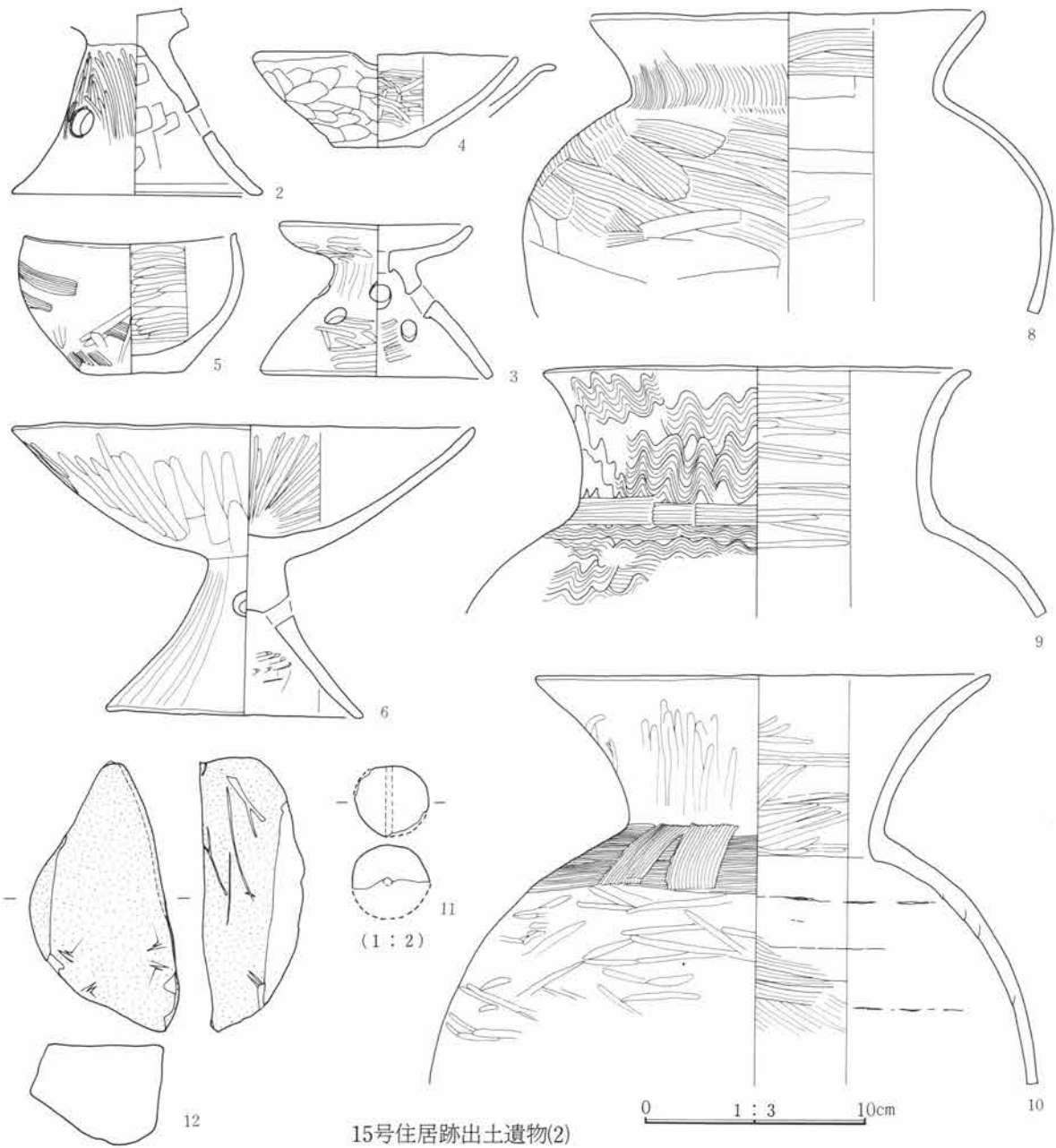
- 1 暗褐色土 小粒で若干のFP・ローム粒。
- 2 明黒褐色土 細粒子、若干の黄色粒・ローム粒。
- 3 明黒褐色土 2層より明。細粒子、僅かの黄・橙色粒、若干のローム粒。
- 4 明黒褐色土 3層より若干明。細粒子、若干の黄・橙色粒、ローム粒。
- 5 明黒褐色土 4層より明。細粒子、僅かに黄・橙色粒、ローム粒、若干のロームブロック。

- 6 明黒褐色土 一番明るく黄色強い。細粒子、少量の黄橙色粒、稍多めのローム粒、ロームブロック。
- 7 明黒褐色土 2層より暗。細粒子、少量の黄・橙色、所々ローム粒。
- 8 明黒褐色土 7層より暗。細粒子、ローム粒、若干の黄・橙色粒。
- 9 黒褐色土 細粒子、若干のローム粒。
- 10 ローム 所々に9層混在。壁溝内覆土。



15号住居跡出土遺物(1)

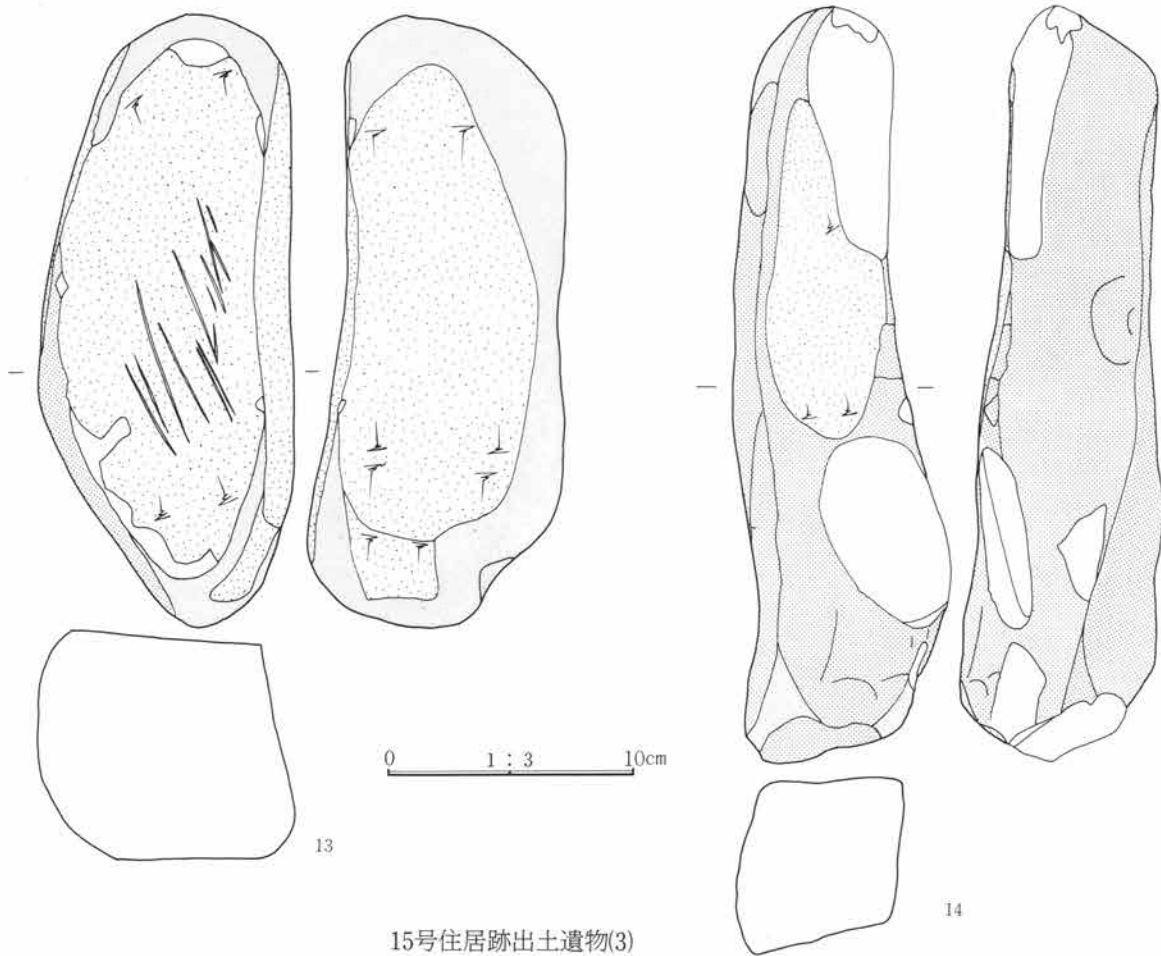
0 1 : 3 10cm



15号住居跡出土遺物(2)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	2 cm	13.8・7.6・4.8 1/3残	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	底部篋削り→研磨。体部内外面とも研磨。口縁部横撫で。内面に赤色塗彩若干残。
2	高坏	2 cm	- - - 11.3 脚部のみ残存	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	脚部中位に3つの穿孔。外面研磨。内面撫で。坏部の底部内面は研磨。
③	器台	- 7 cm	8.5・6.6・10.4 完形	多量の白色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	脚部に2段8つ、受部中心に1つの穿孔。脚部外面研磨、内面撫で。受部外面研磨、内面撫で。中央部磨減。
④	鉢 (片口)	床直	11.8・4.1・4.2 完形	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色	底部篋削り。体部外面篋撫で。内面撫で→研磨。片口。
⑤	鉢 (椀)	床直	9.3・5.7・4.5 体～口一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 赤褐色円 細礫 普通 におい橙色	底部篋削り。体部外面刷毛目→研磨。体部内面篋撫で→研磨。口縁部横撫で。



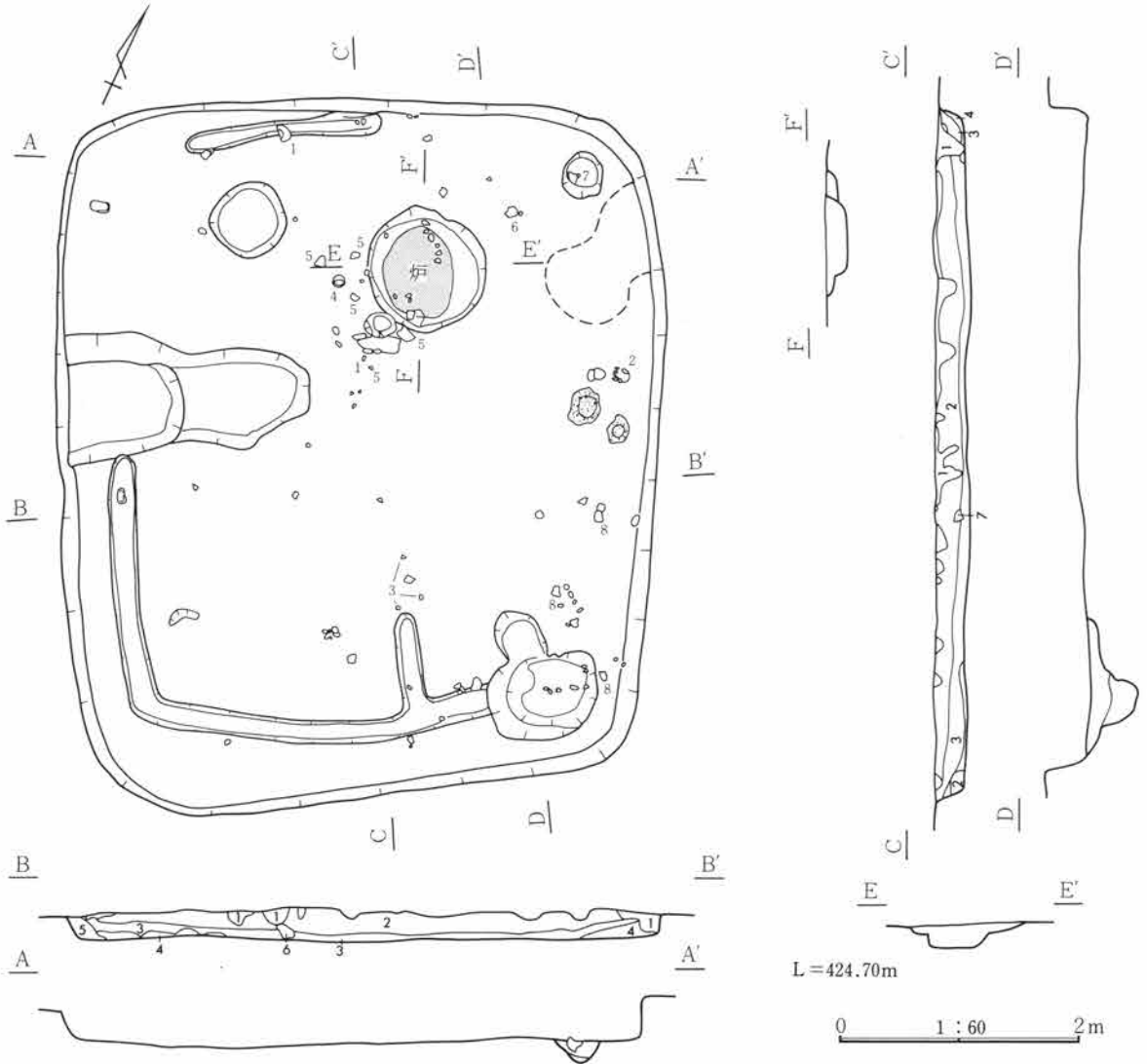


15号住居跡出土遺物(3)

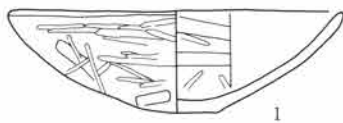
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑥	高坏	床直埋土	20.4・12.7・11.4 2/3残	白色・石英・角閃石細砂粒 普通 明赤褐色 褐灰色	脚部に3つの穿孔。脚部外面刷毛目→研磨。脚部内面篋撫で。坏部内外面刷毛目→放射状研磨。
⑦	高坏	床直	25.2・ - ・ - 坏部のみ残存	白色～灰色・石英細～粗砂粒 普通 灰褐色	内外面とも篋撫で→研磨。口縁部横撫で。
⑧	壺	埋土	17.6・ - ・ - 胴上位～口縁1/3	白色・石英細砂粒、赤褐色細礫 普通 橙色	外面胴部～口縁部刷毛目調整、内面胴部篋撫で、口縁部刷毛目調整、口唇部横撫で。
⑨	甕	床直埋土	19.5・ - ・ - 胴上位～口縁部残	白～灰色・石英細～粗砂粒 良好 におい褐色	口唇部横撫で。外面口縁部から肩部に波状文→頸部等間隔止簾状文。内面胴部篋撫で、口縁部横研磨。
⑩	壺	床直	20.2・ - ・ - 胴上位～口縁部残	白～灰色・石英細～粗砂粒 赤褐色円細礫 普通 明赤褐	外面胴部・口縁部篋撫で→研磨。肩部1単位14条よりなる櫛描T字文。内面粗い刷毛目、口縁刷毛目→横研磨。
11	玉	不明		土師器質の土玉の半欠品である。色は暗褐色を呈し、胎土はわずかに夾雑物粒を含む。焼成はやや硬めである。穿孔は細い枝様の道具で一方向から。直径2.0cm。	
⑫	砥石	床直		自然石利用の砥石で、図裏面側は自然石面を残す。使用面は図平面の表面、左右側部である。表面には擦痕がある。裏面は丸みがあり置砥か。極めて軟質で金属でなくても可。材質は細粒凝灰岩(凝灰質泥岩)。	
⑭	砥石	床直		自然石(河原石)利用の砥石で、図表面左右側部を用いて刃均し傷がある。他の自然石面にも刃均し傷がある。大ききから置砥である。質は硬い大村級。材質はデイサイト質凝灰岩。	

遺物番号	種別 器種	出土位置	観察
⑭	砥石	床直 10cm	自然石利用の砥石で、図表面左側部を主に用い、他は自然石面が残る。大ききから置砥。石の凹凸成りに摩耗面があるので研磨主体は金属でない可能性大。極めて軟か。材質は細粒凝灰岩（凝灰質泥岩）。

16号住居跡 (写真図版26~27頁、90頁)



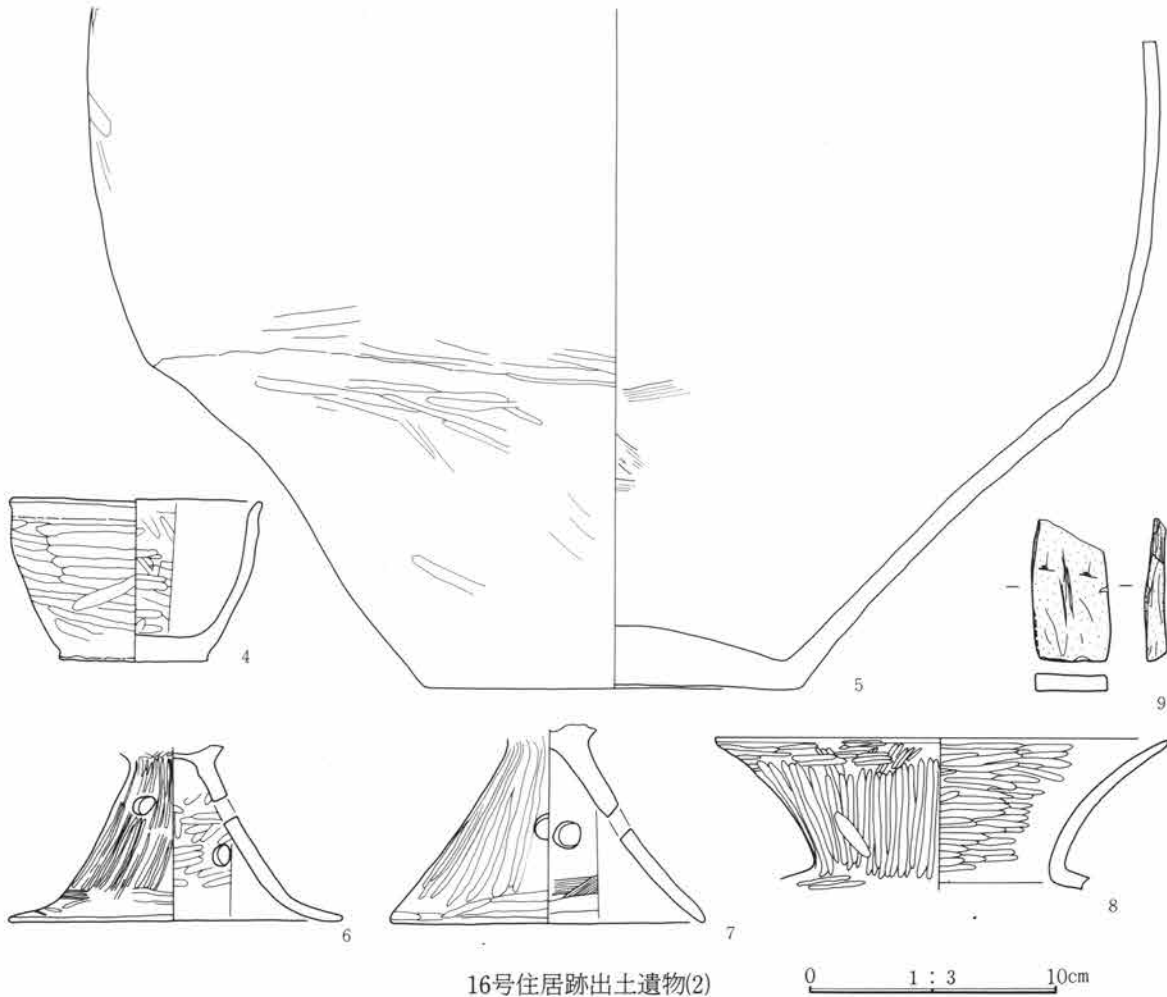
- |   |   |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 若干のFP、所々ローム粒。軟らか。</p> <p>2 明黒褐色土 極細の粒子、少量の黄・橙色粒。軟質。</p> <p>3 明黒褐色土 2層より暗、細粒子、若干の黄・橙色粒子、所々ローム粒。稍軟。</p> | <p>4 明黒褐色土 3層より暗。細粒子、所々ローム粒。B-B'のB寄りの4層は多量のローム粒。</p> <p>5 暗黄褐色土 ロームと黒褐色との混土。稍固く締まる。</p> <p>6 暗黄褐色土 5層より暗。4層とローム粒との混土。</p> <p>7 暗黄褐色土 6層より若干明。多量のローム粒、ロームブロック。</p> |
|---|---|



16号住居跡出土遺物(1)

0 1 : 3 10cm

位置 24B-10グリッド 方位 N-29.0°-W 形状 582×495cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、北側壁に比べ南側壁がやや短い。壁高は38.5cmを測る。壁溝は幅16cm、深度6cmを測る溝が住居南西部と北壁の一部に巡り、南側においては間仕切り状の溝を検出する。床面 床はローム地床で、やや軟質。柱穴 小ピットを数穴検出するも、深度が浅く、柱穴とは考えられない。貯蔵穴 南東コーナー付近に検出され、楕円形を呈し、径65~95cm、深度41cmを測る。炉 住居中央北壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径55×73cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はないが、北東コーナー付近に風倒木の痕跡と思われるものを検出し、本遺構より古いものと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少ないが、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、壺 (No. 5、8)・鉢 (No. 1、2、3) は床面直上付近よりの出土であり、特に鉢類は胎土・器形も類似しているものが多く、一括性が高いものと考えられ、口径・容積が一回りづつ異なる。また、出土遺物中の高坏破片が11号住居出土遺物の高坏 (No. 5) と接合する。

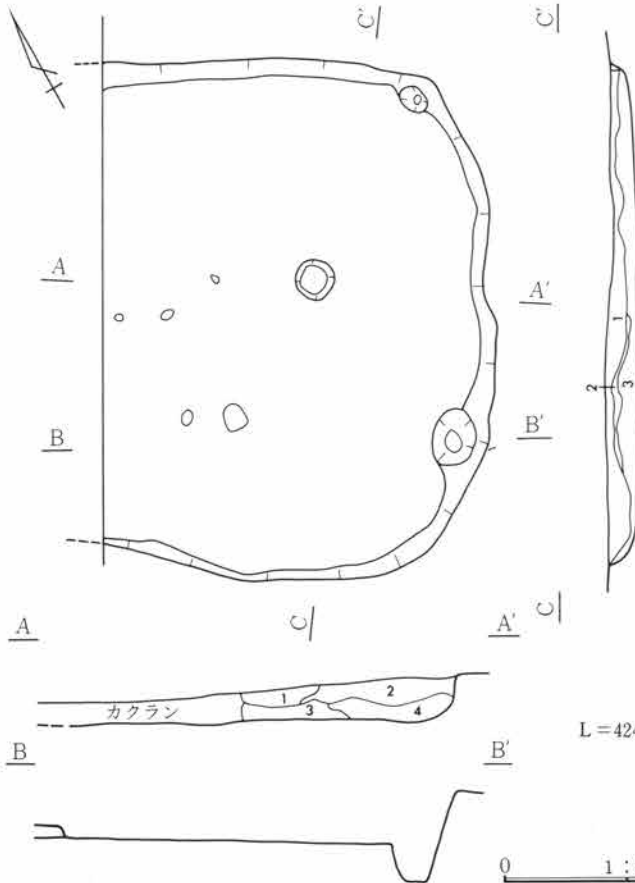


16号住居跡出土遺物(2)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	3、10cm埋土	13.1・4.0・3.2 体部一部欠損	白色細砂粒、石英細礫 普通 ぶい黄橙色	底部篋削り。体部内外面とも篋削り→篋研磨。

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
②	鉢	4cm 埋土	12.2・3.0・3.9 底部と口縁一部欠	白色細砂粒、石英細礫 普通 ぶい赤褐色	底部篋削り→篋撫で。体部外面篋削り→篋撫で。体部内面篋撫で→研磨。
③	鉢	3~6cm 埋土	11.3・2.8・3.2 一部欠損	白色細砂粒、石英細礫 普通 ぶい赤褐色	底部篋削り。体部外面篋削り。体部内面研磨。口縁部横撫で。
④	鉢	6cm	10.1・6.2・6.0 完形	白色細砂粒、赤褐色円細礫 石英細礫 普通 橙色	底部篋削り→撫で。体部内外面とも篋撫で。口縁部横撫で。
5	壺	1~12cm	-・-・14.8 胴下半部のみ残存	不良 明赤褐色	外面-篋削り→篋研磨。 内面-刷毛目整形(著しく剝離している)
⑥	高坏	8cm	-・-・15.4 脚部のみ残	石英細礫、白色細砂粒 普通 ぶい黄橙色	穿孔は3ヶ所×2段。外面刷毛目調整→篋撫で。内面篋撫で。
⑦	高坏	-16cm ピット内	-・-・12.7 脚部のみ残	石英細礫、少量の角閃石 白色細砂粒 普通 橙色	外面篋撫で→篋研磨。内面篋撫で。穿孔4ヶ所。
8	壺	-1~27cm	18.0・-・- 頸部~口縁部	白色細砂粒、少量の赤褐色円細礫、 石英細礫 普通 ぶい橙色	口縁部内外面研磨。
⑨	砥石	10cm		自然石(壊石)利用砥か。古代では数少ない精仕上げ用の頁岩砥石。使用は全面にわたる。図表裏面に刃傷あり。大きさから見て手持ち砥か。質は硬く刃先部の研磨可で鳴滝級。材質は頁岩。	

19号住居跡 (写真図版27頁)



位置 2C-15グリッド 方位 不明。

形状 413×312+αcmを測り、西側を市道に切られるため、形状等は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は29cmを測る。壁溝はなし。床面 ローム混じりの黒褐色土を叩く貼り床で、やや軟質。柱穴 東壁の南寄りに壁柱穴を1穴検出し、径35cm、深度25cmを測る。炉 不明。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は少なく、自然石を数個出土するのみである。備考 遺構の形状等は明らかでなく出土物もないため、時期決定が明確ではないが埋土中にFPを含まないことから、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての住居跡と判断される。

- 1 耕作土 FP、ローム混。
- 2 明黒褐色土 細粒子、所々にローム粒。弾力あり。
- 3 暗黄褐色土 多量のローム粒。締まる。
- 4 明黒褐色土 2層より暗。所々ローム粒(2層より多)弾力。

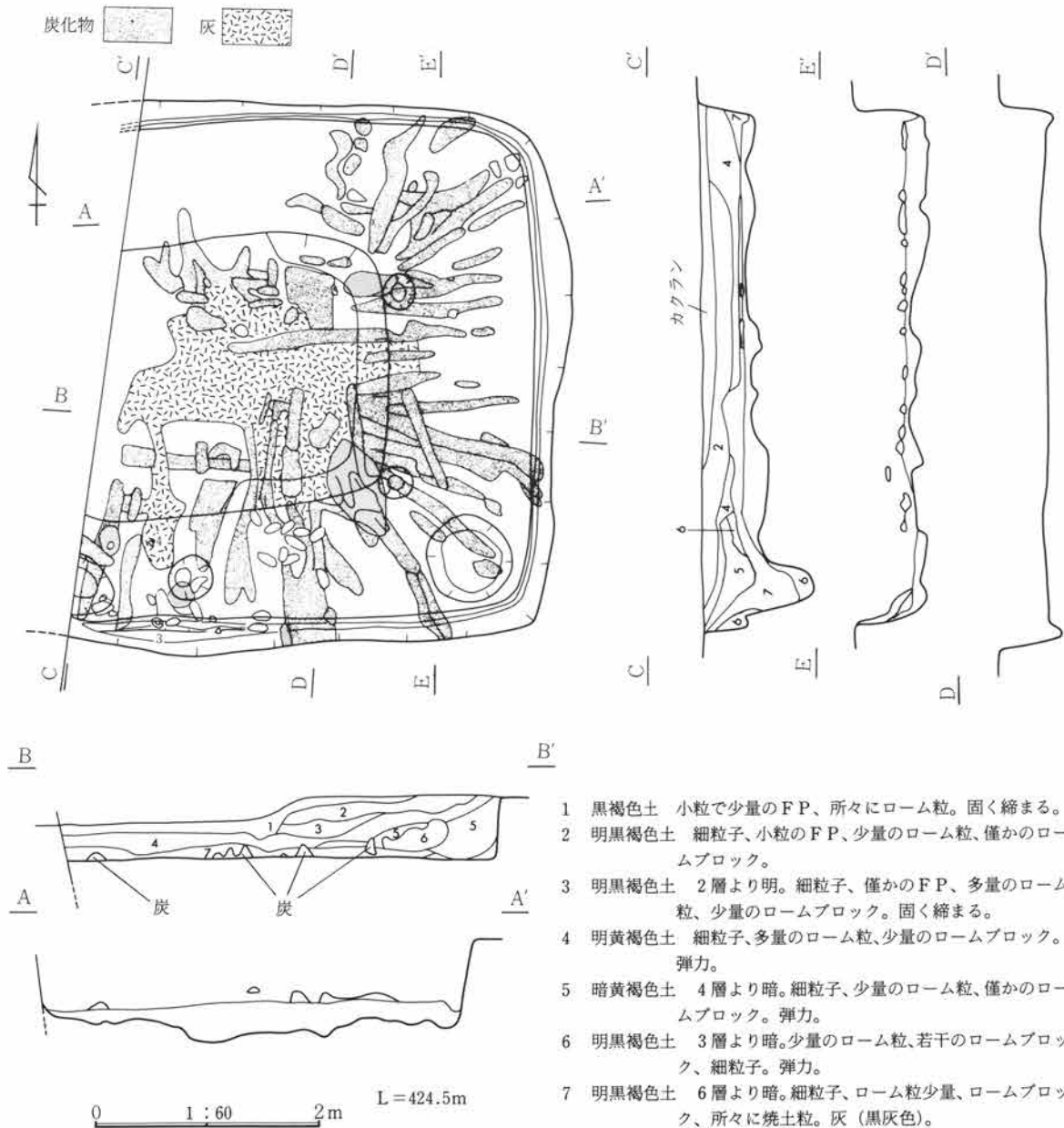
22号住居跡 (写真図版28頁、90頁)

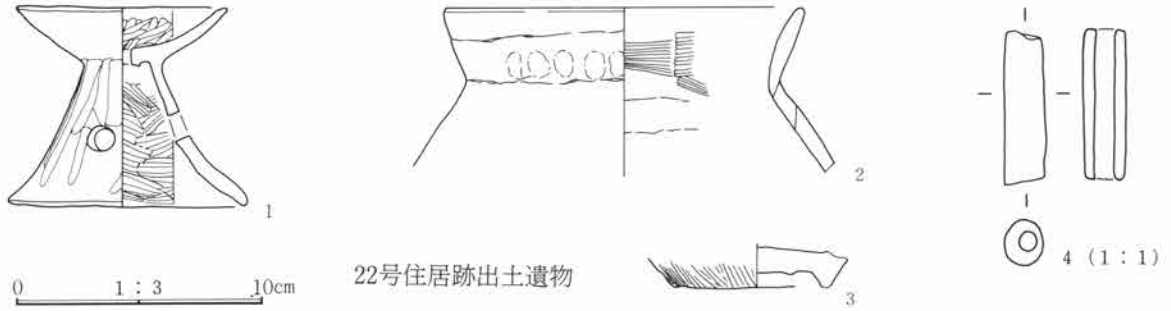
位置 24B-20グリッド他 方位 N-69.5°-W 形状 484×396+αcmを測る長方形のプランを呈すと考えられる。壁高は72.5cmを測り直に立ち上がる。壁溝は幅10cm、深度15cmを測る溝が巡る。

床面 床はローム地床で堅く締まりが強い。また、柱穴を結ぶラインの内側が一段低い状態である。

柱穴 2穴検出され、径55~80cm、深度41~63cmを測る。柱穴間は南北軸方向に350cmを測り、床の状況より、4本柱穴の可能性が高い。 炉 調査範囲内においては検出されていない。 重複 重複する遺構はない。

備考 本遺構は、床面上に多量の棒状ないし板状の炭化材を放射状に残し、焼土をも検出することから焼失家屋と考えられる。また、炭化材の直上より楕円形の自然石を出土し、合わせて焼土ブロックを出土することから、礫、及び粘土が上屋の一部に使用されていた可能性も考えられる。 遺物 出土する遺物の量は比較的少ない。出土遺物中、器台(No.1)・管玉(No.4)は床面直上付近よりの出土である。

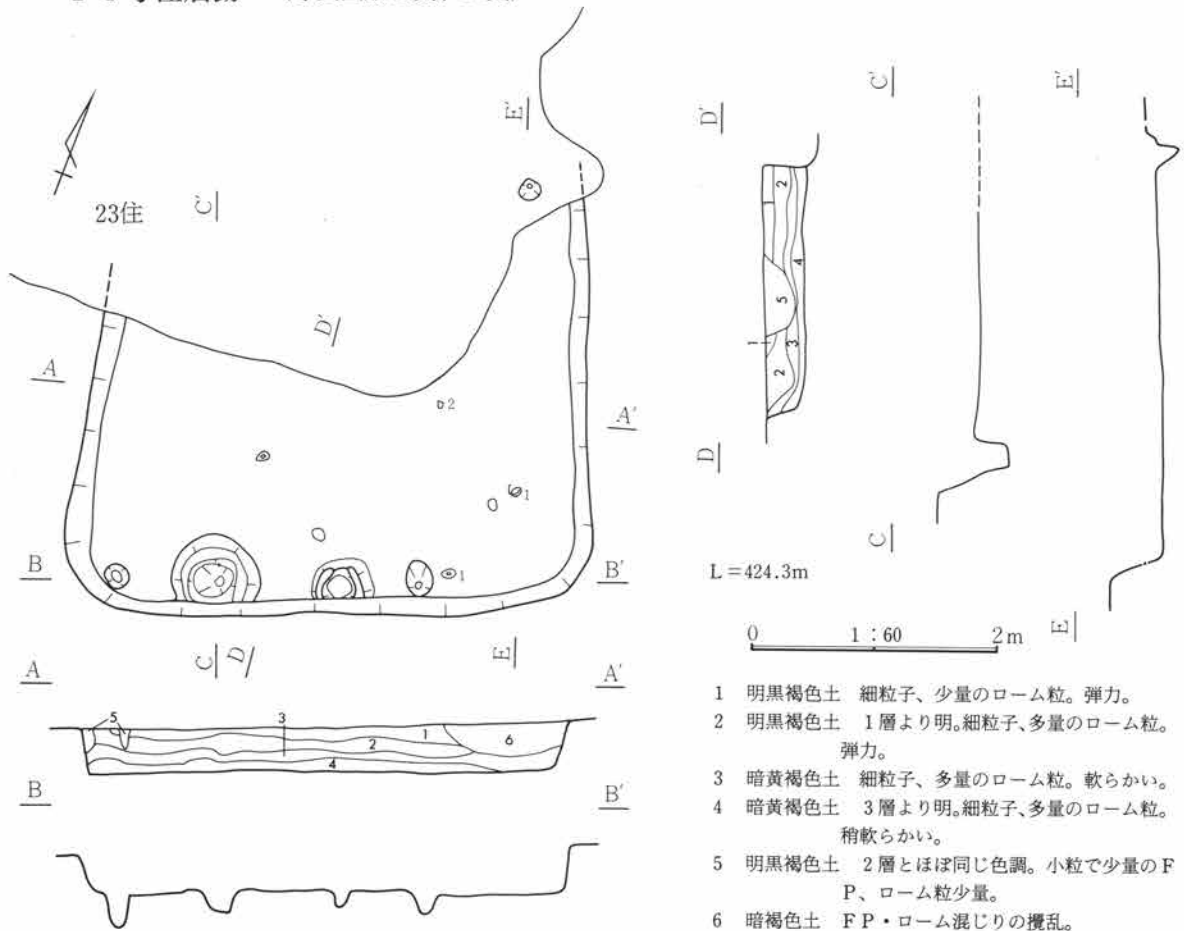




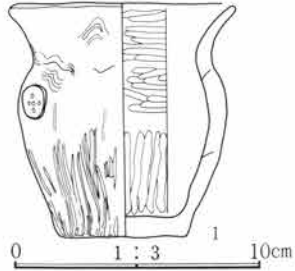
22号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	器台	床直	8.3・7.8・9.5 2/3残存	白色細砂粒、石英細礫 普通 橙色	脚部～受部外面寛撫で。脚部内面粗い刷毛目。受部内面研磨中心に1つ、脚部に3つの穿孔。
2	甕	埋土	14.4・-・-	白色・石英細・粗砂粒 普通 褐灰色	外面口縁部撫で、輪積痕・指頭痕を残す。胴部撫で。内面口縁部刷毛目。胴部撫で。
3	壺?	18cm (壁溝内)	-・-・- 6.3 底部のみ残存	石英・赤褐色粗砂粒、少量の金雲母 普通 におい橙色	外面底部は高台状を呈す。外面撫で、内面研磨。
④	管玉	床直			短めの管玉で、外面の整形は丁寧でほとんど擦痕は見えない。穿孔は両方向から、小口面は軸に対して直角ではなく、やや斜めになっている。大きさは直径0.5cm、長さ2.0cm。材質は蛇紋岩。

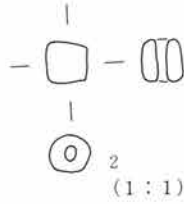
24号住居跡 (写真図版29頁、90頁)



位置 0C-21グリッド 方位 N-66.5°-E 形状 400cm×不明を測る隅丸長方形のプランを呈すると考えられるが、北側を重複遺構に切られ全体の形状等は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は41cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床で堅く締まりが強い。柱穴 残存部分において1穴検出され、径70cm、深度24cmを測る。ピット周囲は土堤状に地山を残す。炉 残存部分内においては検出されなかった。重複 23号住居跡（平安時代）と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する量は極めて少ない。出土遺物中、甕（No.1）・ビーズ玉（No.2）は床面直上付近よりの出土である。

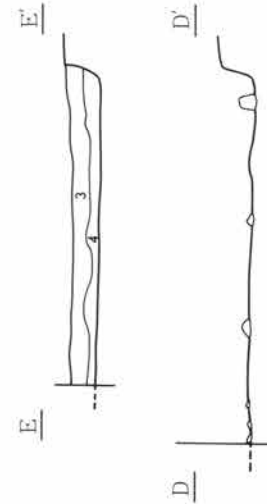
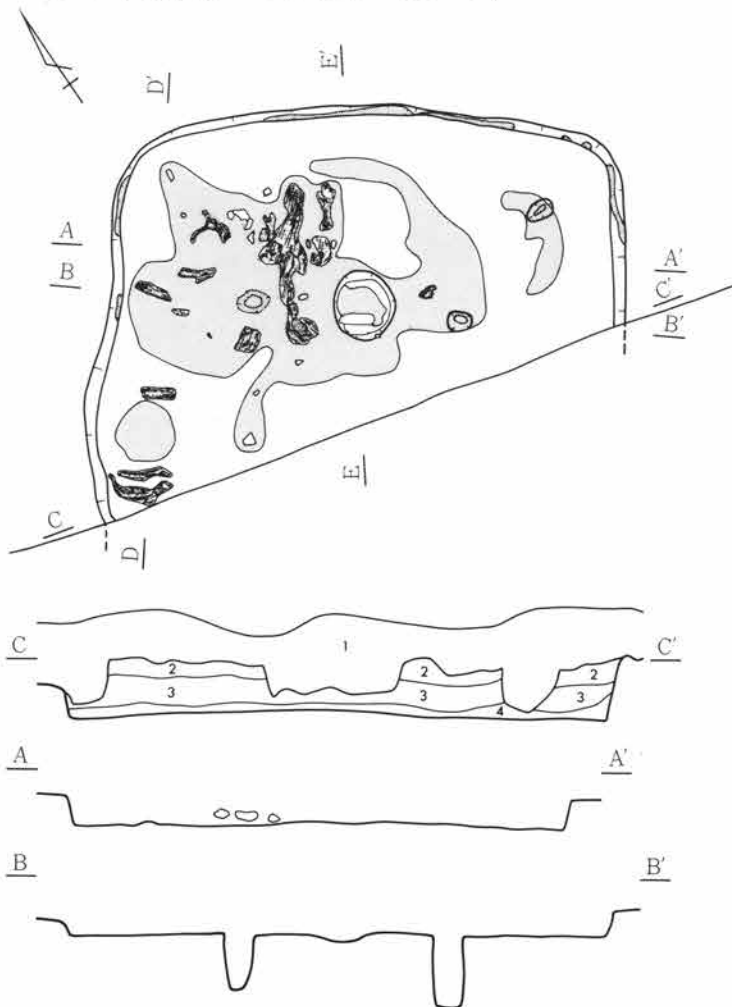


24号住居跡出土遺物



番号 器種	出土位置 残存率	口径・器高・底径 胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
① 小形甕	床直	9.0・9.2・5.1 白色細砂粒、石英細砂粒 普通 にぶい褐色	底部篋撫で。外面-胴下半研磨、胴上半波状文→円板状浮文。内面研磨。
② ガラス玉	床直	色調は濃紺色。ガラス内には小さな気泡が多く、細長い気泡は目立たない。穿孔は一方向。穿孔内は白い穿孔時の傷がある。	

25号住居跡 (写真図版30頁、90頁)

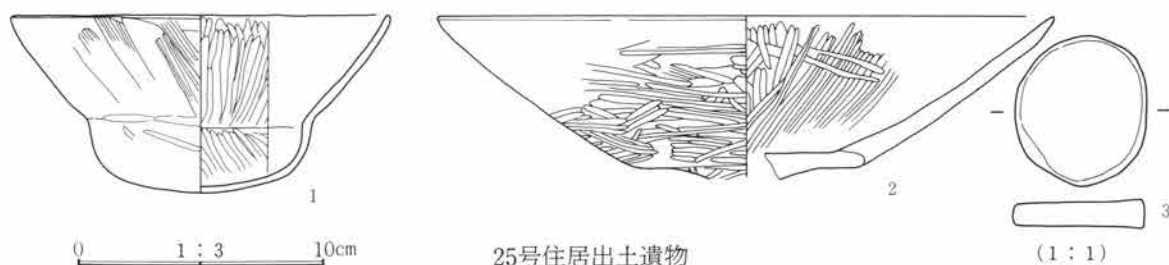


L=424.0m

0 1:60 2m

- 1 耕作土（暗褐色土） FP。
- 2 明黒褐色土 細粒子、若干のローム粒。硬く締まる。
- 3 黒褐色土 細粒子、所々にローム粒。弾力。
- 4 黒褐色土 3層より若干暗。所々にローム粒、焼土粒。灰（黒灰色）。

位置 24B-23グリッド 方位 N-55.5°-W 形状 414×298+αcmを測り、南側部分が調査区域外に残るため、全体の形状等は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は30cmを測る。調査範囲内において壁溝はなし。 床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。 柱穴 調査範囲内においては検出されていない。 炉 東・西壁間のほぼ中央、北壁より約150cmの位置に設けられ、楕円形を呈し、径48×58cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の磔を置く。 重複 重複する遺構はない。 備考 本遺構は床面上に少量ではあるが棒状の炭化材を残し、一部床面、及び壁の焼土化も見られることから、火災等による焼失家屋である可能性が高いものと考えられる。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、出土遺物中、床面直上よりの出土は見られない。また、埋土内出土遺物のうち、甕破片が11号住居の甕 (No.22) と、壺破片が32号住居の壺 (No.15) と、器台破片が32号住居の器台 (No.3) と、壺破片が32号住居の壺 (No.13) と接合する。本遺構と32号住居との位置関係は、直線距離にして約25mを測り北西方向に位置し、11号住居は直線距離にして約60mを測り北方向に位置する。このように、位置的にはやや距離をおく遺構ではあるが、遺物の接合関係より、時期的には近接し存在した可能性が高いものと考えられる。



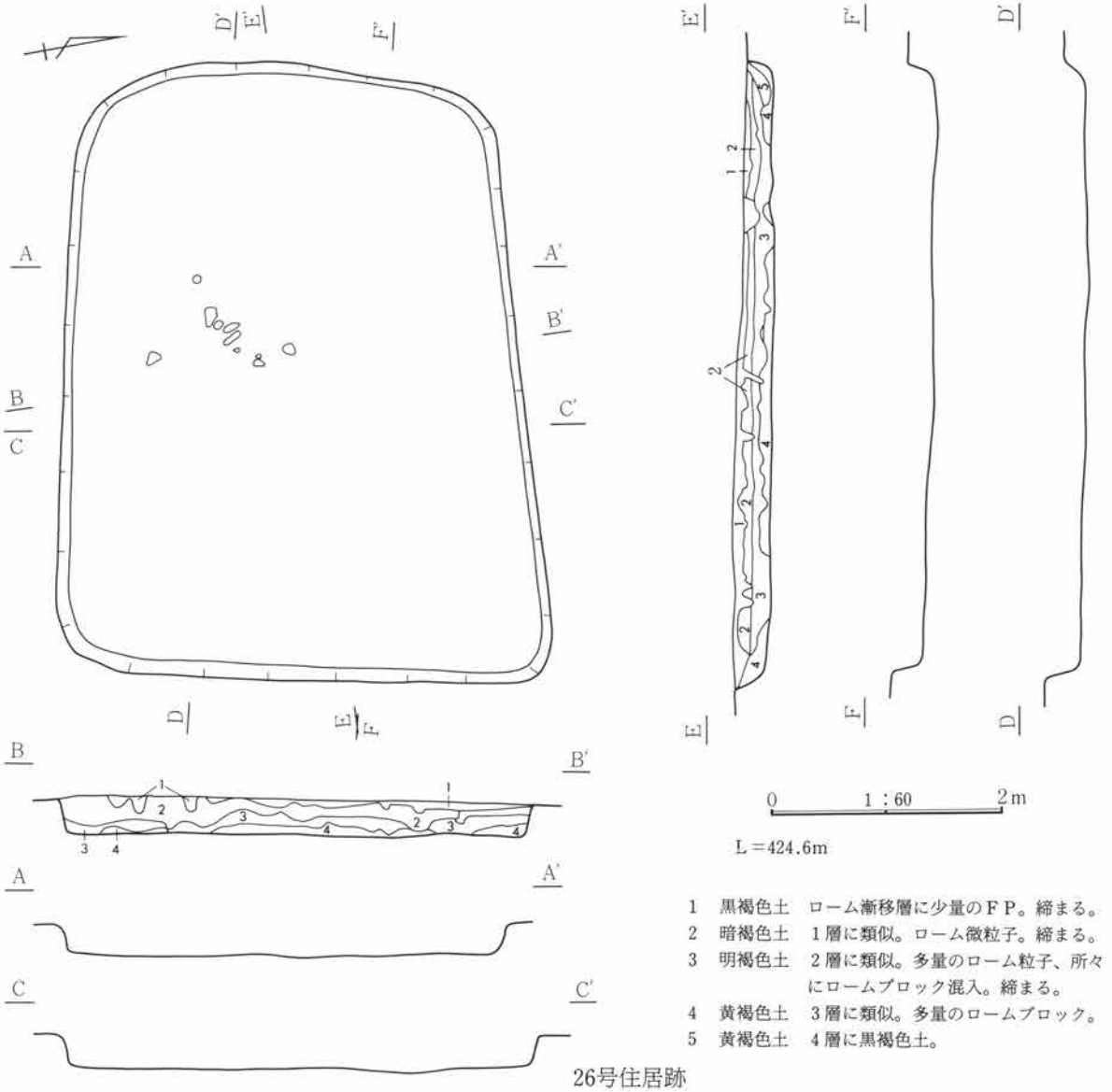
25号住居出土遺物

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	埋土	14.9・7.1・ - 1/3残存	少量の白色細砂粒・石英細砂粒 普通 明褐色	底部篋撫で。外面口縁部刷毛目調整→篋撫で。 内面篋撫で→研磨。口唇部横撫で。
②	高坏	埋土	24.0・ - ・ - 坏部のみ残	赤褐色円粗砂粒、白色細砂粒 普通 にぶい橙色	内外面細かい刷毛目→丁寧な研磨。
③	石製円板	不明		微細な円形の砥石と考えられる製品で、表裏・側部ともに研磨を受けている。硬さは軟らかく研磨主体は金属・石等ではなく軟質の素材と考えられる。材質は細粒凝灰岩。	

### 26号住居跡 (写真図版31頁)

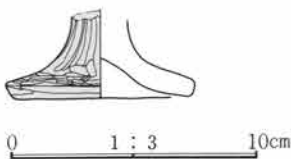
位置 3C-20グリッド他 方位 N-80.0°-W 形状 517×398cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はほぼ直線的に巡るが、東壁に対し西壁が短いため、台形に近い形状となる。壁高は21cmを測り、壁溝はなし。 床面 床はローム地床で、堅く締まりが強い。 柱穴 なし。 貯蔵穴 なし。 炉 なし。 重複 重複する遺構はない。 備考 本遺構の時期については、埋土内にFPを混入しないことから、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺構であると判断されるが、遺構の性格については、前記のように床面の状態が堅く締り良好である反面、柱穴・炉・貯蔵穴等の施設が一切検出されておらず、また平面上のプランも方形を呈していないことなどから、住居跡と確定するには至らない。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、床面より離れた位置で土師器片を数片出土するのみである。



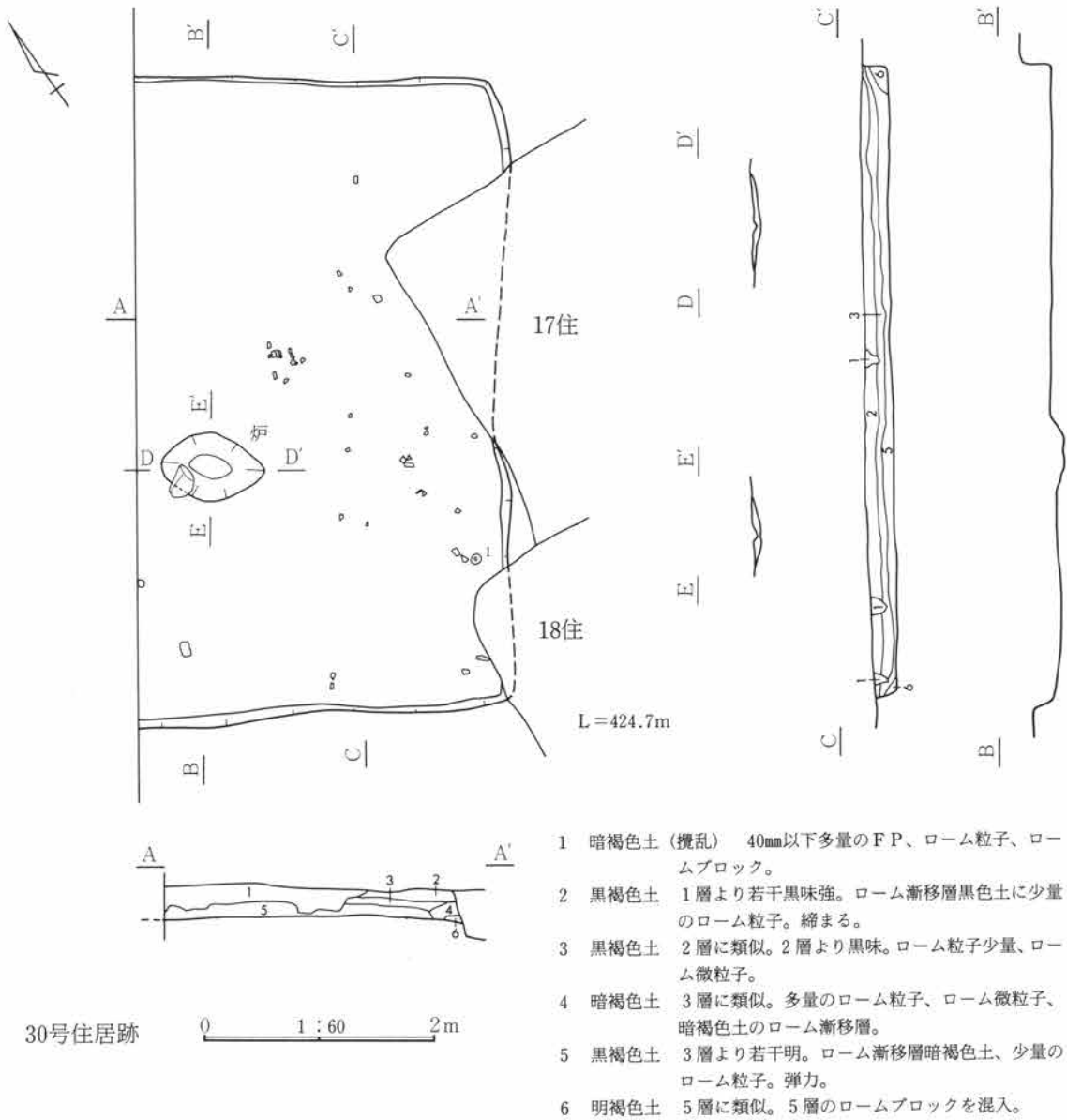


30号住居跡 (写真図版31頁)

位置 3C-13グリッド 方位 N-28.5°-E 形状 554cm×不明を測る隅丸長形状のプランを呈すると考えられるが、西側を市道に切られ、その全容は明らかではない。壁は直線的にやや蛇行して巡る。壁高は20cmを測り、壁溝はなし。床面 床はローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床で、やや軟質。柱穴 調査範囲内においては検出されていない。炉 楕円形を呈し、径55~90cm、深度10cmを測る地床炉。重複 17号・18号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物は極めて少なく、床面直上からの出土も見られない。

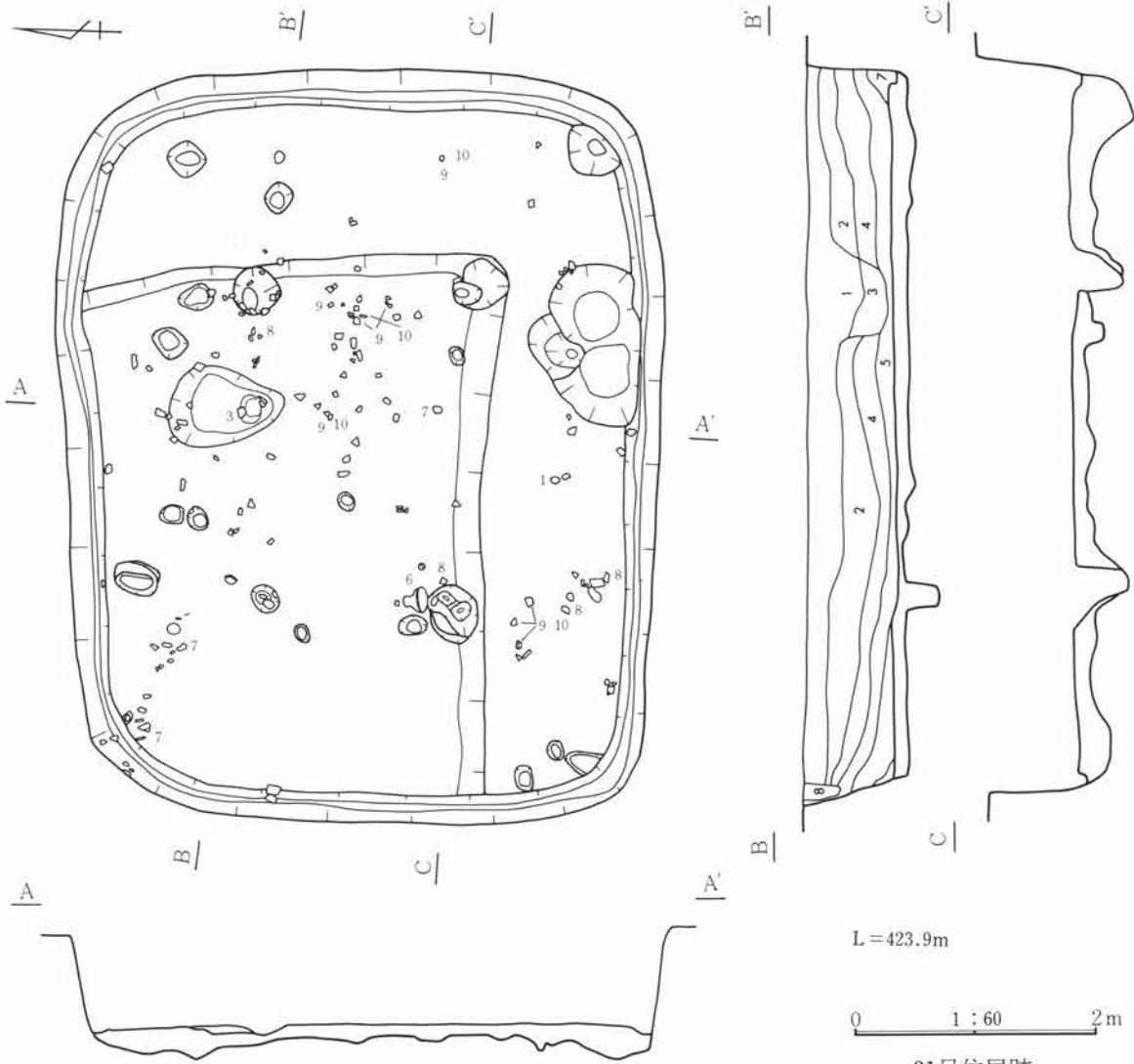


番号 器種	口径・器高・底径 残存率	胎土・焼成・色調 器形・整形の特徴
① 高坏	- · - · 7.4 脚部のみ残存	白色・石英細砂粒 良好 赤色 外面甍撫で→研磨→赤色塗彩 内面甍撫で。



### 3 1号住居跡（写真図版32頁、90頁）

位置 12B-17グリッド 方位 N-89.5°-E 形状 613×492cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや膨らんで巡る。壁高は90cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅13cm、深度17cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床に、一部ローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。堅く縮まりが強い。また、柱穴を結ぶ軸を基に南西側の床面が一段低くなる。柱穴 4穴検出され、径22~50cm、深度36~42cm、南北軸方向に160~170cmを測る。貯蔵穴 東壁直下北寄り付近に検出され、楕円形を呈し、径30~40cm、深度25cmを測る。炉 住居西側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径90~100cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。出土遺物中、S字状口縁台付甕（No.9、10）は床面直上付近よりの出土である。特筆すべき出土遺物として、土製勾玉（No.13）の出土がある。

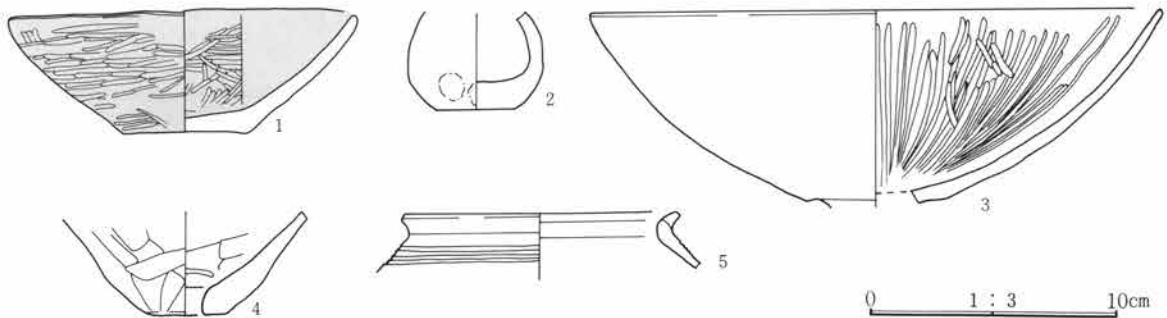


L=423.9m

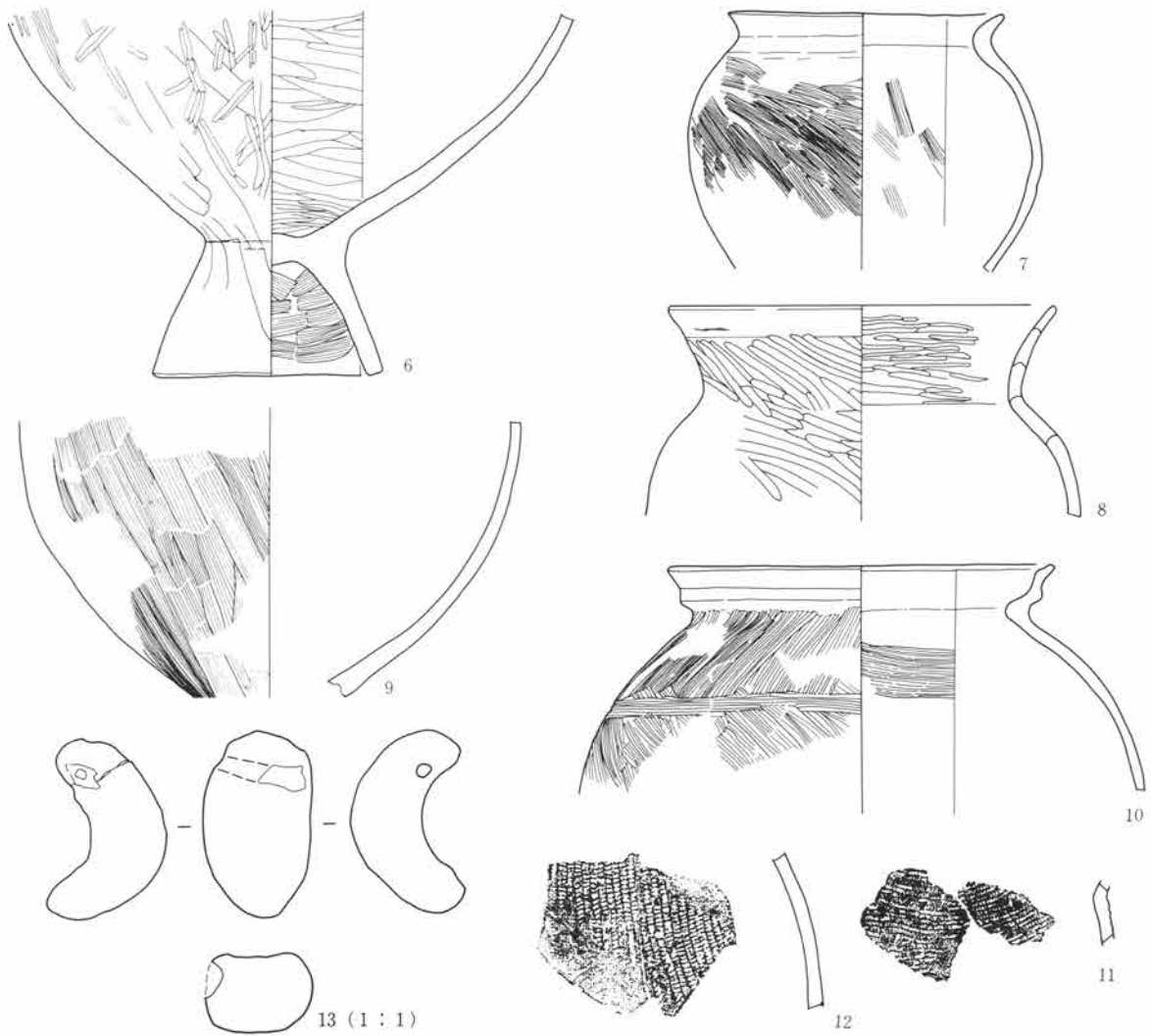
0 1 : 60 2m

31号住居跡

- 1 黒褐色土 少量のローム微粒子、FP粒子。締まりあり。
- 2 黒褐色土 1層に類似。1層より多量のローム微粒子、褐色のローム漸移層ブロック。
- 3 暗褐色土 2層に類似。2層より多量の褐色ローム漸移層混入。
- 4 暗褐色土 3層に類似。多量のロームブロック、ローム粒子、少量の焼土粒子、焼土ブロック。
- 5 黒色土 2層に類似。2層より黒味強。少量の炭化物。
- 6 暗褐色土 4層に類似。4層よりローム粒子多量。少量の炭化物。
- 7 暗褐色土 6層に類似。多量のロームブロック。
- 8 黒褐色土 1層に類似。多量のFP。



31号住居跡出土遺物(1)



31号住居跡出土遺物(2)

0 1:3 10cm

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢 (片口)	9 cm	13.9・4.7・5.1 1/2残存	白色・石英細～粗砂粒 普通 赤色	底部篋削り。体部～口縁部内外面とも丁寧な研磨。赤色塗彩。
2	ミニチュア	埋土	—・—・3.2 底部～体部小片	白色・赤褐色粗砂粒、角閃石 普通 にぶい橙色	内外面撫で。
3	高坏	— 6 cm	22.8・—・— 坏部1/3	石英細砂粒 普通 明赤褐色	内外面研磨、外面研磨(単位不明瞭)。口唇部は刀子で切ったような平坦面をもつ。
4	甌	埋土	—・—・3.4 底部～胴部下位 1/3	灰色・石英粗砂粒・細礫 普通 にぶい黄橙色	底部中央に径1.0cmの円孔が穿たれる。内外面撫で。
5	甕	埋土	—・—・— 口縁部小片	白色細砂粒 普通 にぶい黄橙色	口縁部は短く外反し、端部は平坦。肩部に沈線が5条残る。内外面撫で。
⑥	台付甕	18cm	—・—・9.4 台部～胴中位残存	白色・石英細～粗砂粒 赤褐色細 礫 不良 橙色 褐灰色	外面台部篋撫で、胴部篋撫で→雑な研磨。内面篋撫で。台部内面粗い刷毛目。

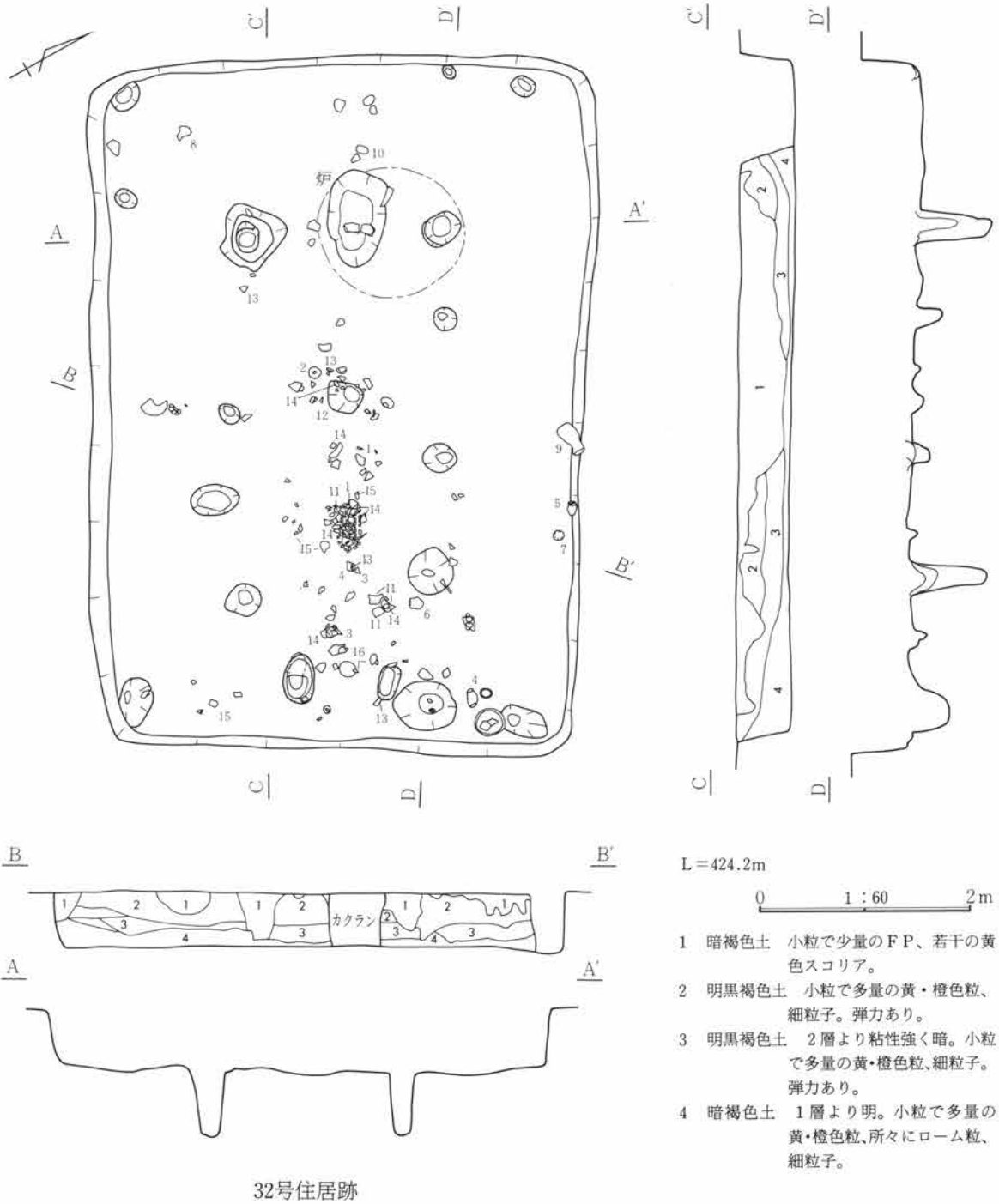
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑦	甕	1~18cm 埋土	11.1・ - ・ - 胴中位~口縁部残	白色細砂粒、石英粗砂粒 普通 にごい橙色	胴部外面刷毛目調整、内面篋撫で。口縁部横撫で。
8	甕	3~9.5cm 埋土	15.9・ - ・ - 胴上位~口縁部 1/2	白色・石英細砂粒 普通 暗赤灰色	口唇部は平坦。外面口縁部上位は横撫で。下位は粗い刷毛目。内面口縁部研磨。
9	台付甕	1~6cm	- ・ - ・ - 胴部下位のみ残存	白・石英細砂粒、赤褐色細礫 普通 明赤褐、オリーブ黒	外面刷毛目整形。内面撫で。接合しないもののNo10と同一個体の可能性大。
⑩	台付甕	1~6cm	15.6・ - ・ - 胴上位~口縁部	白色・石英細砂粒・赤褐色細礫 普通 オリーブ黒	S字状口縁。内外面とも刷毛目調整。口縁部横撫で。外面肩部に横方向刷毛目。
11	甕	埋土	胴部破片		外面縄文施文 (LR) 内面研磨
12	甕	埋土	胴部破片		外面縄文施文 (RL) 内面研磨
⑬	土製勾玉	VI層	土師器質の勾玉で、極めて粗製である。色調は燻が加わっているため、暗褐色。胎土は夾雑物を僅かに含み、やや硬質である。穿孔は一方からである。		

### 3 2号住居跡 (写真図版33~34頁、91~92頁)

位置 18B-20グリッド 方位 N-61.5°-W 形状 650×460cmを測る長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は48cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。床面 床はローム地床。強く締まりが強い。柱穴 7穴検出され、径21~60cm、深度29~77cmを測る。柱穴間は南北軸方向に175~215cm、東西軸方向に105~245cmを測る。また、東壁付近に入口設置の痕跡と考えられるピットが2穴検出され、外側から内側に向いやや角度をもち穿たれている。貯蔵穴 前記の入口ピットの北側部に検出され、円形を呈し、径25~45cm、深度25cmを測る。炉 西側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径54×90cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多く、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居中央部東壁側に散乱し出土する。出土遺物中、甕 (No.4、9、14) は床面直上付近よりの出土であり、他の遺物の胎土・器形も類似しているものが多く、一括性が高いものと考えられる。特筆すべき出土遺物として、扁平の小形の石製品で (No.17) 中央部に両側より穿孔している遺物の出土がある。また、壺 (No.15) (No.13) ・器台 (No.3) の一部が25号住居出土遺物と接合する。備考 本遺構より出土する遺物内には、櫛描による波状文を施した樽式系の甕類が多く見られることから、本遺跡より検出された弥生時代後期から古墳時代前期の遺構のなかでも、比較的古い時期の様相を呈しているものと考えられる。



32号住居跡出土遺物(1)

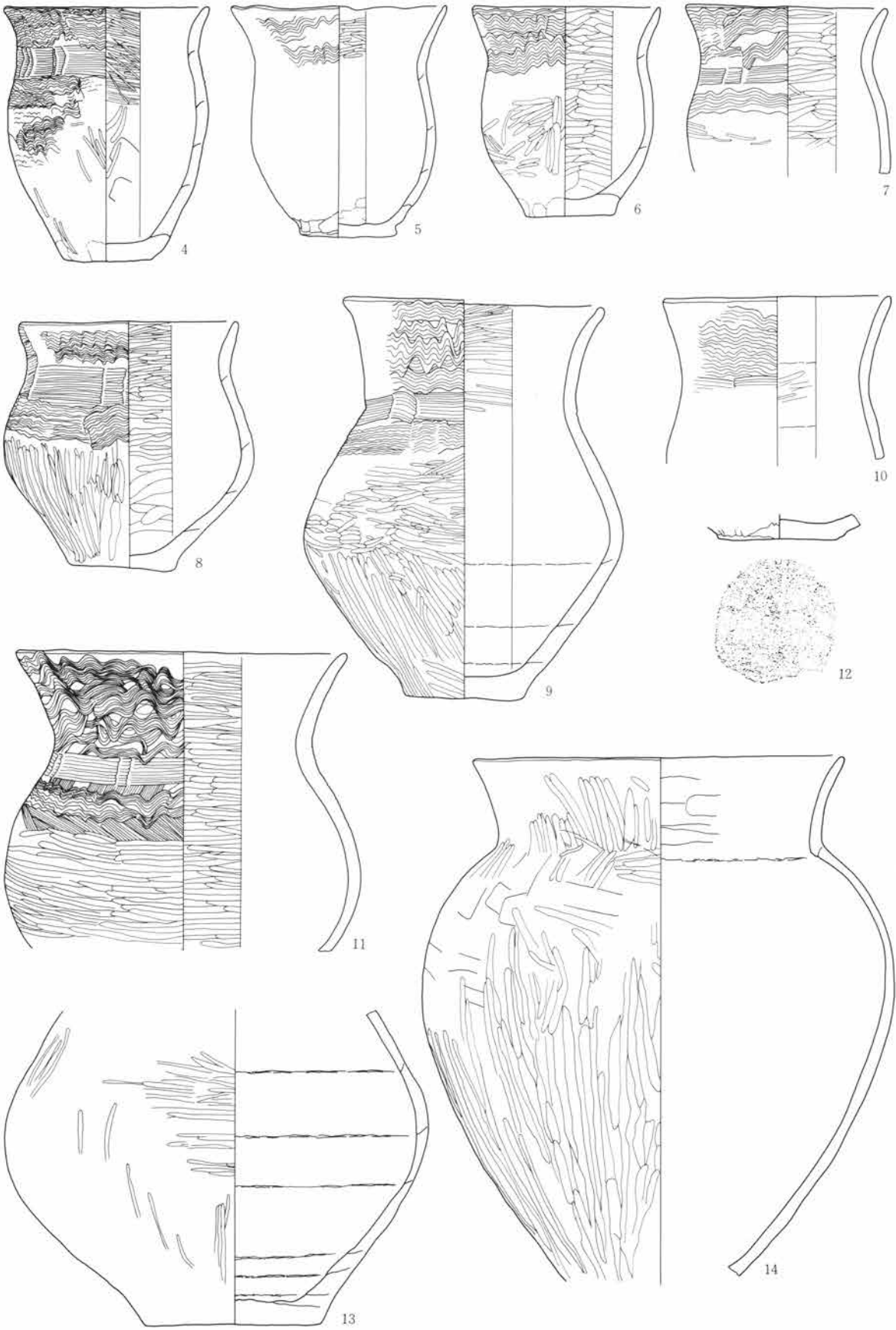


L=424.2m

0 1:60 2m

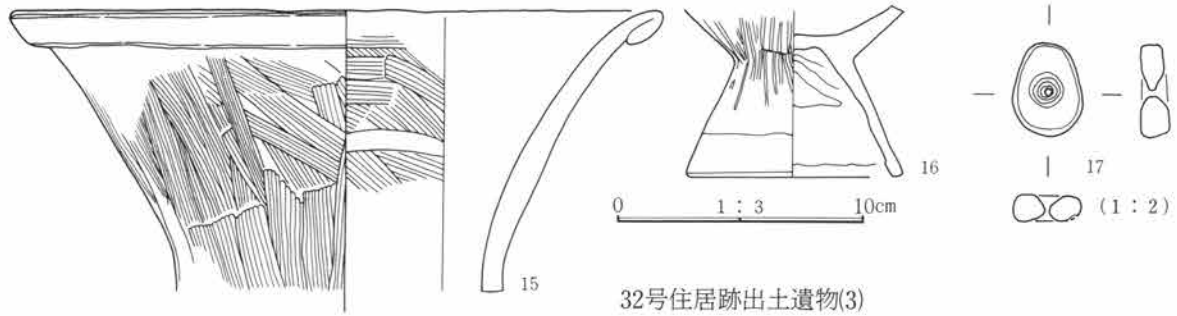
- 1 暗褐色土 小粒で少量のFP、若干の黄色スコリア。
- 2 明黒褐色土 小粒で多量の黄・橙色粒、細粒子。弾力あり。
- 3 明黒褐色土 2層より粘性強く暗。小粒で多量の黄・橙色粒、細粒子。弾力あり。
- 4 暗褐色土 1層より明。小粒で多量の黄・橙色粒、所々にローム粒、細粒子。

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	高坏	21、24cm 埋土	- - - 12.9 脚部のみ残	白色・石英細砂粒 普通 にぶい橙色	外面研磨。内面刷毛目整形。穿孔4ヶ所。
②	高坏	34cm	- - - 12.2 脚部のみ残	白色・石英細砂粒 普通 橙色	外面刷毛目→篋撫で。内面刷毛目整形。穿孔3ヶ所。
③	器台	14~24cm 埋土	- - - 11.8 脚部のみ残	白~灰色・石英細~粗砂粒 普通 にぶい赤褐色	外面雑な研磨、内面刷毛目整形→撫で。穿孔3ヶ所、受部中心に1ヶ所。



32号住居跡出土遺物(2)

0 1 : 3 10cm



32号住居跡出土遺物(3)

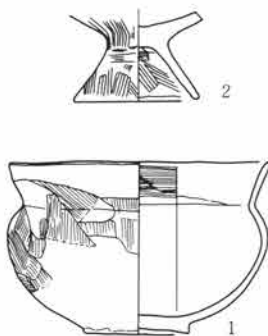
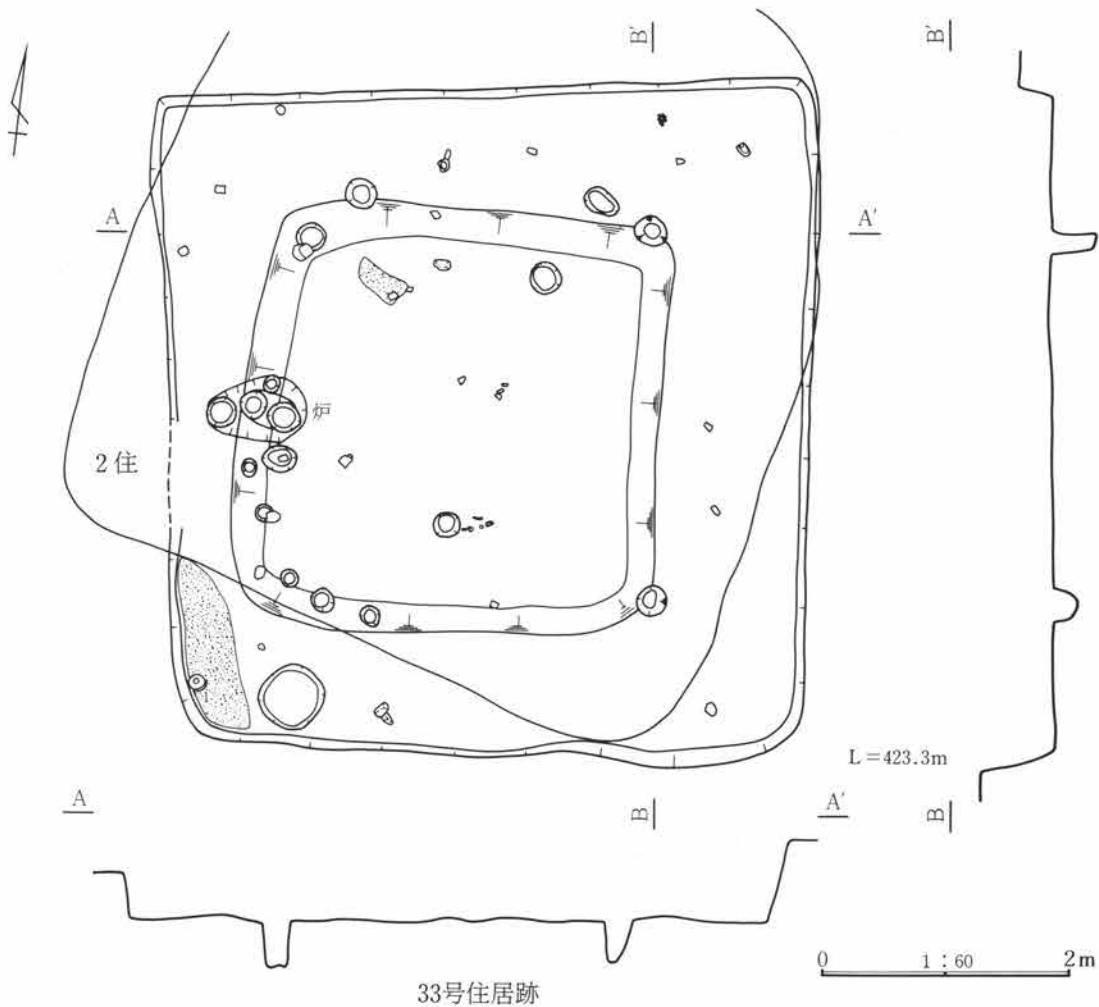
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
④	小型甕	床直	10.6・13.1・4.6 口縁部一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい 橙色、褐色	底部篋撫で。外面胴部下半研磨、胴部上半3連止め簾状文→上下に波状文。内面下半研磨、上半刷毛目→研磨。
⑤	小型甕	床直	11.3・11.7・5.1 完形	白色・石英細～粗砂粒 普通 赤灰褐色	底部篋削り。外面胴部篋撫で。口縁部下波状文のみ施文。内面全体に篋研磨。
⑥	小型甕	床直	9.8・10.7・4.7 完形	白色・石英細～粗砂 角閃石 雲母少 普通 黒褐・橙色	底部篋削り。外面胴部篋研磨、口縁部波状文のみ施文。内面全体篋撫で。
⑦	小型甕	床直	10.5・ - ・ - 胴上位～口縁部残	白色・石英細～粗砂粒 普通 灰褐色、明赤褐色	外面胴部研磨。頸部2連止め簾状文→口縁部・肩部波状文。内面丁寧な研磨。
⑧	小型甕	15cm	11.4・12.7・5.4 完形	白色・石英細砂粒 良好 灰黄褐色	底部篋研磨。外面胴下半縦研磨。上半2連止め簾状文→波状文口唇部撫で。内面底部篋撫で、胴～口縁部横研磨。
⑨	甕	床直	13.5・20.5・6.2 完形	白色細砂・細砂粒・石英細砂粒 良好 橙色	底部篋撫で。外面胴部研磨。頸部2連止め簾状文→口縁部。肩部波状文。内面全体に研磨。口唇部外反。
⑩	甕	5、8cm 埋土	11.8・ - ・ - 胴上位～口縁部1/3	白色・石英細砂粒 普通 におい 褐色	外面頸部2連止め簾状文→口縁部～胴部波状文。内面胴部篋撫で、口縁部研磨。
⑪	甕	4～26cm	17.2・ - ・ - 胴上位～口縁部1/2	白色・石英・金色細砂粒 良好 におい 褐色	外面頸部2連止め簾状文→口縁部・肩部波状文→胴部下研磨。内面胴部～口縁部丁寧な研磨。
12	壺?	17cm	- ・ - ・ 6.2 底部のみ残存	白～灰色・石英細砂粒 普通 におい 黄褐色	底部に木葉痕あり。一部に篋削り。
13	壺	床直 30cm	- ・ - ・ 9.2 底部～胴上位残	白色・石英細～粗砂粒 不良 におい 橙色	底部撫で。外面研磨。内面輪積痕を顕著に残す。内面調整は剥離で不明。
⑭	甕	2～29cm 埋土	19.2・ - ・ - 底部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色、黒色	外面篋削り→細い篋撫で。内面篋撫で。口縁部横撫で。
⑮	壺	6～30cm 埋土	26.0・ - ・ - 口縁部のみ1/2残存	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色	口縁部折り返し→横撫で。口縁部下内外面とも粗い刷毛目調整。
16	台付甕	20、21cm	- ・ - ・ 8.8 台部のみ残存	白色細砂粒 普通 赤褐色	台部貼付部分外面は粗い刷毛目、台部内面撫で、端部は折り返し。底部内面篋撫で。
⑰	石製品 石錘	不明			内・外側部とも丁寧に整形されている。穿孔は両方向からなされる。穿孔の座穴は大きく先端の芯穴は細いので漏斗を呈する。材質は細粒凝灰岩。

3 3号住居跡 (写真図版34頁)

位置 8B-16グリッド 方位 N-84.5°-E 形状 527×514cmを測る長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は61cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。 床面 床は中央部ローム地床。周



辺はローム混じりの黒褐色土を叩く貼り床で、全体に堅く締まりが強い。後記の4本の柱穴を結ぶラインの内側が一段低い床面となる。 柱穴 4穴検出され、径17~25cm、深度20~39cmを測る。柱穴間は南北軸方向に234~295cm、東西軸方向に270~275cmを測る。その他小ピットが数穴検出されるが深度が浅い。 貯蔵穴 南西コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径51~53cm、深度32cmを測る。 炉 西側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられているが、床が焼土化しておらず焼土・炭化物もほとんど残っていない。 重複 2号住居跡（平安時代）と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少ない。出土遺物中、埴（No.1）は床面直上付近よりの出土である。



33号住居跡出土遺物

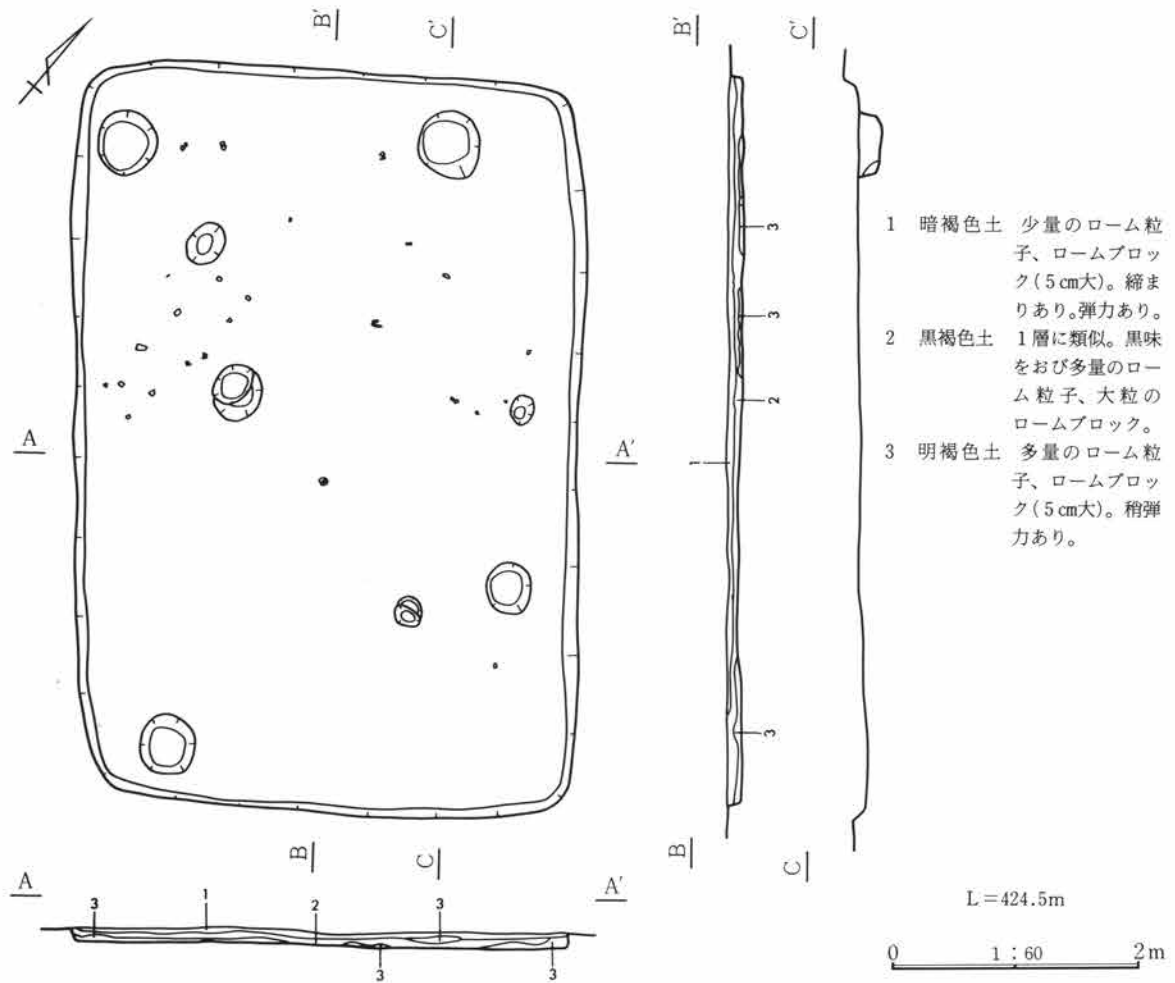
番号 器種	出土位置	口径・器高・底径 残存率	胎土・焼成・色調 器形・整形の特徴
① 埴	-2cm	10.2・6.8・4.2 完形	少量の白色細砂・石英粗粒。不良 橙色 底部撫で。外面体部~口縁部刷毛目→撫で。内面刷毛 目寛撫で。口唇部横撫で。
2 台付甕	埋土	- - - 4.9 台部~胴部下位	白色・石英細・粗砂粒 普通 にぶい黄橙色 台部内外面刷毛目。内面底部撫で。

0 1:3 10cm

35号住居跡 (写真図版35頁)

位置 0C-12グリッド 方位 N-46.0°-W 形状 590×410cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は10cmを測り、壁溝はなし。 床面 床はローム地床。やや軟質。

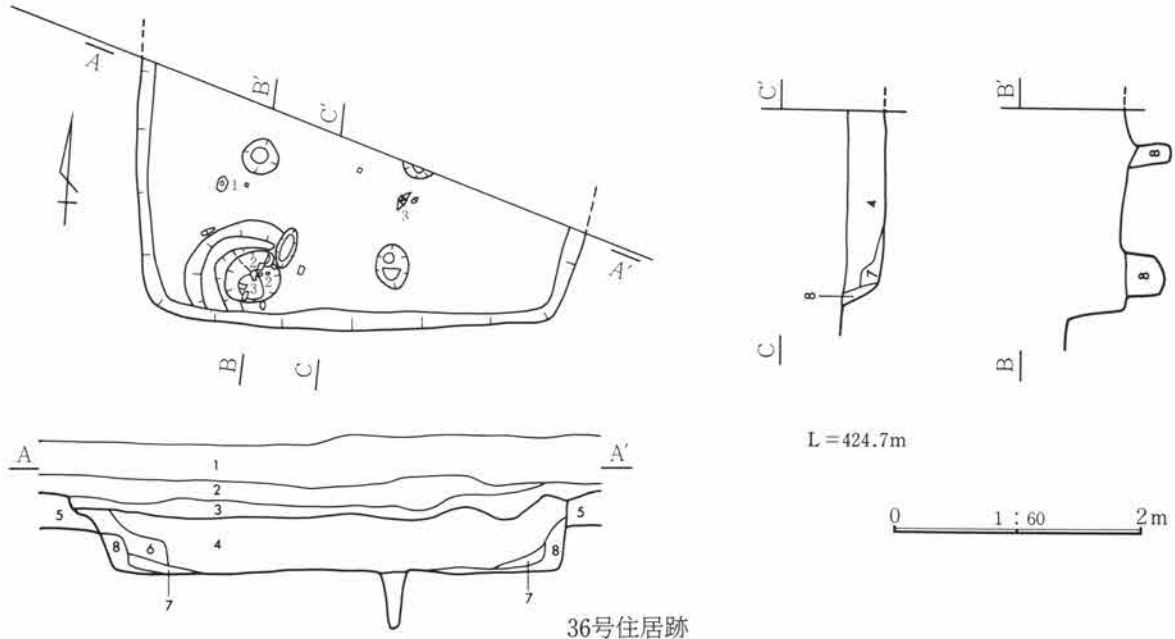
柱穴 なし。 貯蔵穴 なし。 炉 位置・形状共に明らかではない。 重複 重複する遺構はない。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存はない。遺物は、住居全面に散乱出土し、出土位置も床面上から数cm高い位置よりの出土である。



36号住居跡 (写真図版35頁、92頁)

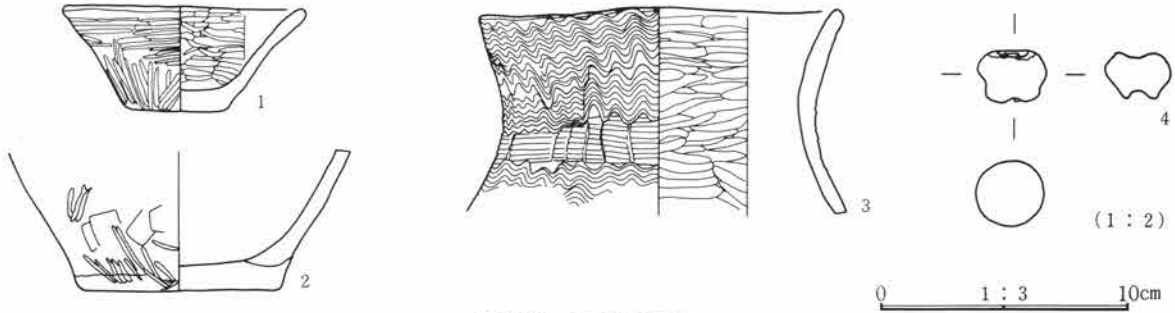
位置 24B-9グリッド 方位 N-88.5°-E 形状 360cm×不明を測る隅丸方形のプランを呈すと思われるが、住居北側を調査区域外に残すため、その全容は明らかではない。調査範囲内での壁は、やや弓状に膨らみ巡る。壁高は35cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。 床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。 柱穴 2穴検出され、径28~40cmを測る。柱穴間は東西軸方向に135cmを測り、支柱穴と考えられる。また、この他に南壁付近には入口施設の痕跡と考えられるピット2穴と、周囲が土堤状に高まるピット1穴を検出する。 炉 調査範囲内においては検出されていない。 重複 重複する遺構はな

い。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少ない。出土遺物中、甕 (No.3) は床面直上ピット内の出土であり、鉢 (No.1) は床面よりやや高い位置よりの出土である。



36号住居跡

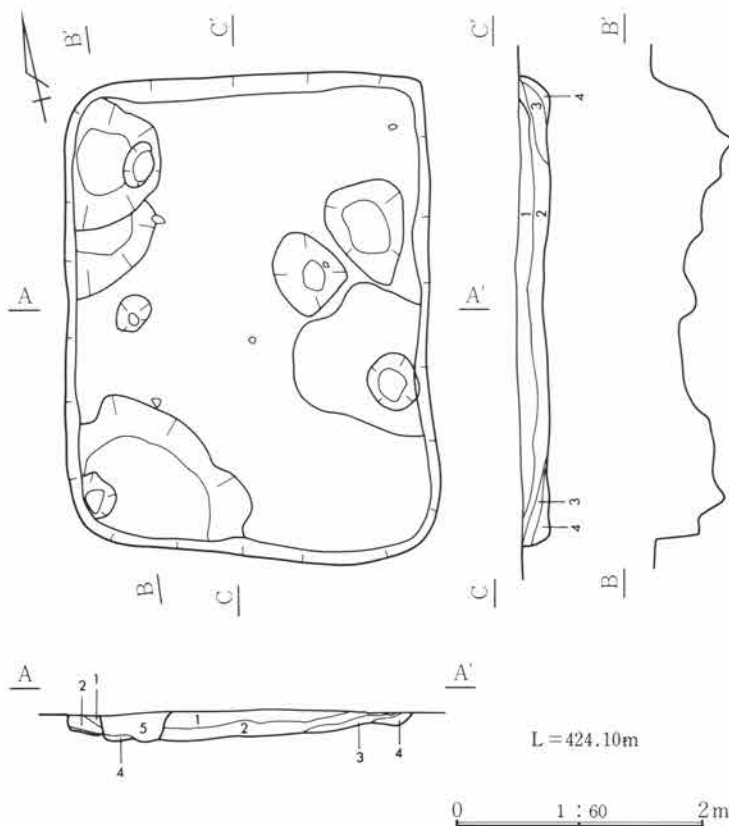
- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 耕作土 大粒のF.P。   | 5 暗褐色土 ローム漸移層土。                     |
| 2 黒褐色土 少量のF.P小粒子、ローム微粒子。F.Pと同大の炭化物。1層より締まりあり。                | 6 黒褐色土 4層に類似。ローム小粒子。色調は4層より黒味がかかる。  |
| 3 黒褐色土 2層に類似。F.P混入量は2層より少なく、ローム微粒子が多い。                       | 7 黒色土 少量のローム微粒子。色調は黒味が強。            |
| 4 暗褐色土 3層に類似。多量のローム微粒子、ローム粒子、大粒のロームブロック。7層を所々ベルト状に混入。若干の炭化物。 | 8 黒褐色土 7層に類似。より多量のローム粒子、少量のロームブロック。 |



36号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	10.5cm	9.6・4.1・4.0 完形	石英・白色細砂粒 金雲母 普通 におい橙色	底部研磨、体部外面下半縦研磨、上半横研磨、内面底部～体部横研磨。口唇部横撫で。
2	甕	-4cm ピット内	-・-・8.2 底部～胴部下位	多量の白色・石英細砂粒 普通 褐灰色	内外面研磨。内面は底部を除き黒色。
③	甕	床直 ピット内	14.4・-・- 胴上位～口縁部残	多量の白色・石英細砂粒 普通 黒褐色	外面多連止め簾状文の上下に波状文を施文。内面横方向研磨。
④	土製品 ミニチュア	埋土		用途不明の土製品である。形は円形の両端をやや押しつぶしたような形で、両端に浅い凹があり、指圧痕のように見える。長径1.7cm、短径1.2cmである。	

38号住居跡



位置 21B-16グリッド

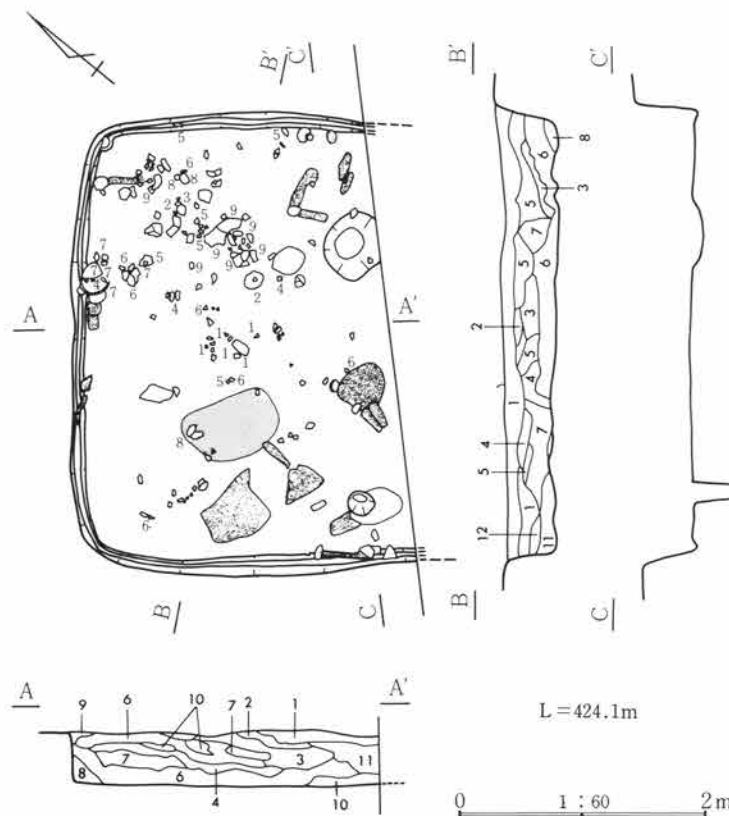
方位 N-10.8°-E

規模 359×290cmを測る隅丸方形状のプランを呈し、壁高は20cmを測る。

所見 本遺構は、遺構確認時において、その平面プラン、及び埋土より住居跡として調査を行なったが、床面は検出されず、炉・カマド・柱穴・貯蔵穴等の一切の施設も検出されなかった。しかし、南西コーナー部付近よりローム混じりの暗黄褐色土ブロックが多く見られ、貼り床の一部であり、構築途上の住居と考えられ、時期は埋土にFPを混入することから平安時代である可能性が高い。

- 1 暗褐色土 少量のFP、ローム粒。
- 2 暗褐色土 1層より暗。FP・ローム粒少量。
- 3 暗褐色土 2層より暗。FP・ローム粒少量。
- 4 暗黄褐色土 強粘性。少量のローム粒。
- 5 暗黄褐色土 若干のFP、ローム粒、15mm大のロームブロック多量。

39号住居跡 (写真図版36頁、92頁)

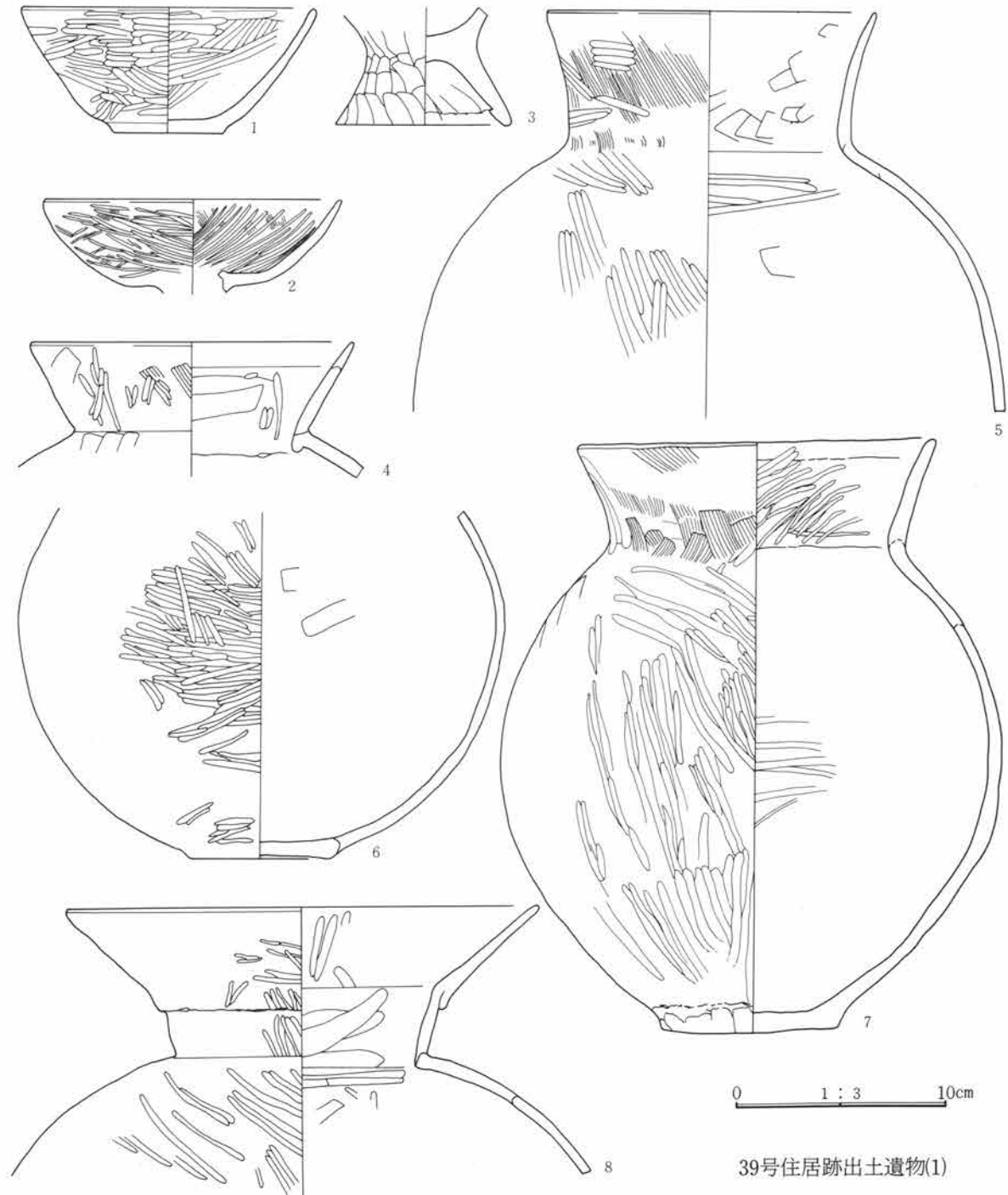


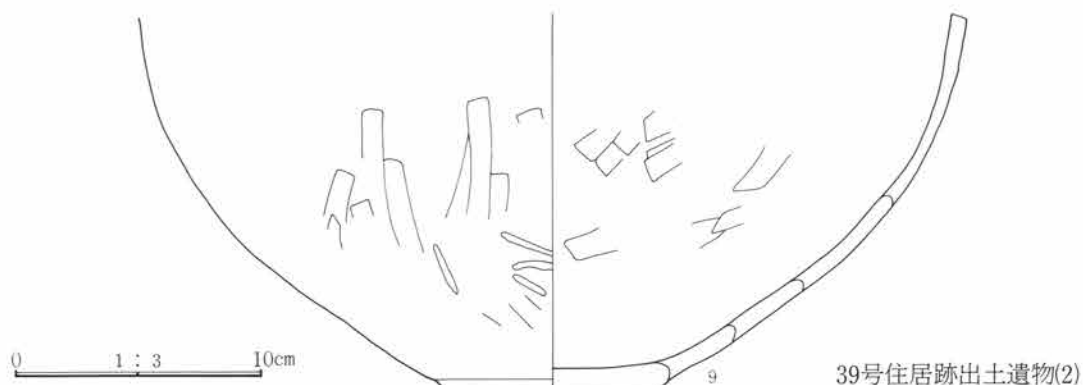
- 1 暗褐色土 (攪乱) 多量のFP、若干のローム粒子、ロームブロック。
- 2 明褐色土 少量のローム粒子、小粒のロームブロック。
- 3 暗褐色土 2層より暗。僅かのローム粒子。弾力あり。
- 4 暗褐色土 3層に類似。より若干明。多量のローム微粒子、3~5cm大のロームブロック。弾力。
- 5 暗褐色土 4層に類似。ロームブロックが入らない。
- 6 暗黄褐色土 2層に類似。多量のローム微粒子、大粒のロームブロック少量混入。
- 7 明黄褐色土 6層と類似。多量のロームブロック。
- 8 暗黄褐色土 6層に類似。ローム粒、ロームブロック6層より少ない。
- 9 明褐色土 ローム漸移層に若干のロームブロック。
- 10 暗褐色土 3層に類似。稍明。少量のローム粒子。
- 11 明褐色土 9層に類似。黒色土が斑状に混入。
- 12 黄色土 ロームブロック層。

位置 22B-19グリッド 方位 不明。 形状 370×270+αcmを測る隅丸方形のプランを呈すると思われるが、住居南側を調査区域外に残すため、その全容は明らかではない。壁は弓状にやや膨らみながら巡る。壁高は40cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅7cm、深度4cmを測る溝が巡る。 床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。 柱穴・貯蔵穴・炉は調査範囲内においては検出されていない。

重複 重複する遺構はない。 備考 本遺構は床面に炭化物が検出され、焼失家屋の可能性がある。

遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多いが、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居北東コーナー部から中央にかけて、すべて前記の炭化物の上より出土しており、出土状態からみて北東コーナー部付近よりの投げ込みが推察される。

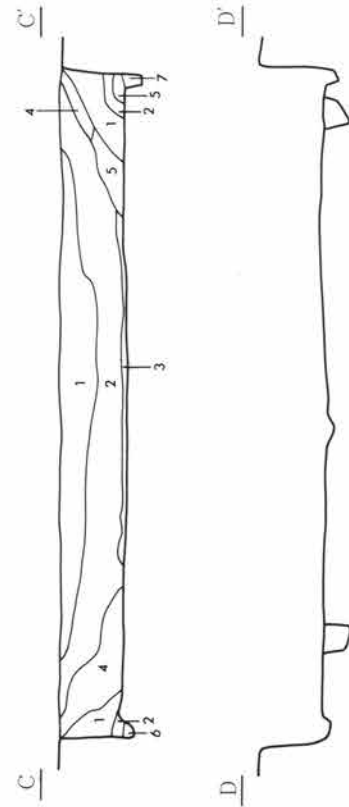
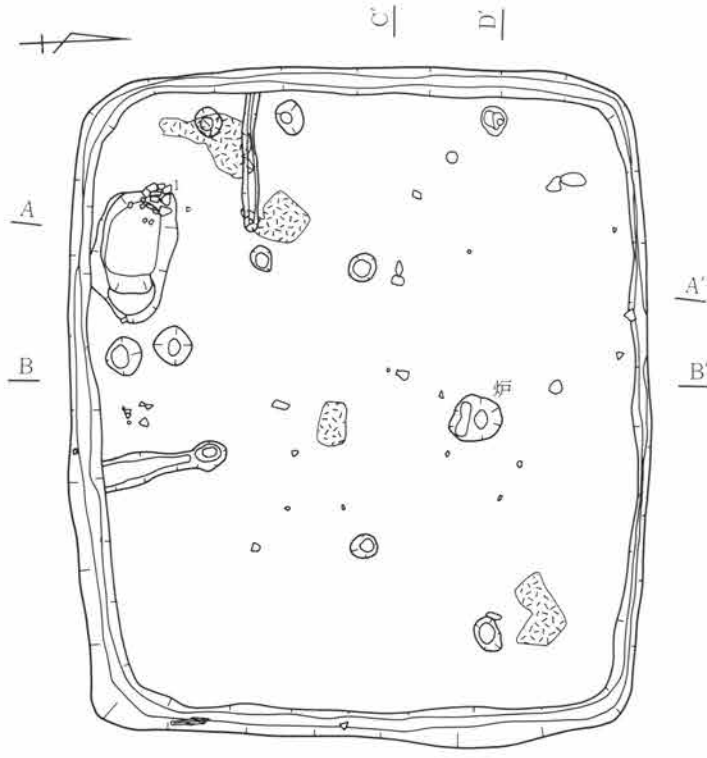




遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	4～13cm	—・5.8・— 底部～口縁部1/2	多量の石英粗砂粒 普通 橙色、明褐色	底部削り後撫で。体部内外面研磨。
②	高坏	5、7cm	14.0・—・— 脚部欠損	白色・石英・赤褐色細・粗砂粒 普通 にぶい赤褐色	内外面刷毛目の上研磨、底部は剝離。
3	台付 甕?	6cm	—・—・— 8.1 台部のみ残存	白色・石英細・粗砂粒 普通 浅黄色	台部内面折り返し線がみられる。内外面鏡撫で。
④	壺	6～21cm	15.2・—・— 頸部～口縁部1/3	多量の白～灰色細・粗砂粒 普通 橙色	口縁部上位横撫で。体部撫で。
⑤	甕	3～27cm	15.6・—・— 胴中位～口縁部 1/4	多量の石英細・粗砂粒 細礫 普通 灰黄色	口縁部内外面刷毛目後、部分的研磨。胴部外面弱い刷毛目、内面撫で。
6	壺	5～16cm	—・—・— 6.6 底部～胴中位1/2	白色・石英細砂粒 普通 にぶい橙色	外面研磨、底部は撫で。内面は撫で。
⑦	甕	4～24cm	16.6・27.5・8.1 完形	白色・石英細～粗砂粒～細礫 普通 浅黄色	底部鏡削り。外面胴部鏡撫で、口縁部刷毛目を残す。内面胴部撫で、口縁部粗雑な研磨。
8	壺	9～12.5cm	22.0・—・— 胴上位～口縁部 1/5	白～灰色細・粗砂粒 普通 橙色	有段口縁部(複合口縁部)、外面は研磨、内面は鏡撫で。
9	壺	2～10cm	—・—・— 8.0 底部～胴下位	少量の白色・石英細砂粒 普通 橙色	外面研磨、内面撫で。底部外面は撫で。

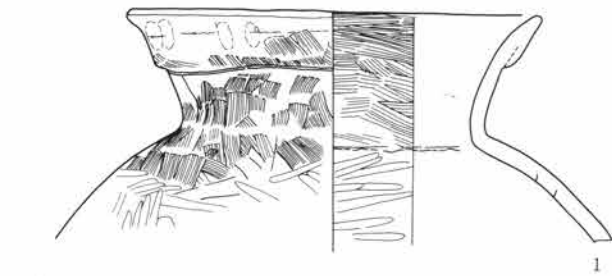
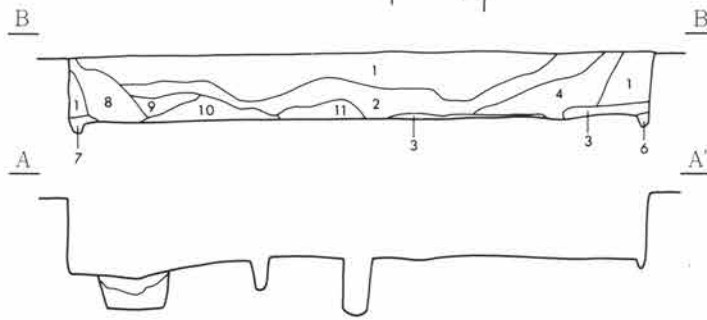
#### 40号住居跡 (写真図版37～38頁、92頁)

位置 3C-17グリッド 方位 N-84.5°-E 形状 528×460cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はほぼ直線的に巡る。壁高は55cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅15cm、深度10cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 住居中央付近に2穴検出され、径20～23cm、深度32cmを測る。柱穴間は東西軸方向に225cmを測る。貯蔵穴 南西コーナー東寄り付近に検出され、隅丸方形を呈し、径55～103cm、深度32cmを測る。炉 住居中央やや北壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径35×40cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の磔を置く。重複 4号・5号掘立柱建物跡(平安時代)と重複するが掘立柱の深度は床面上まで至っていない。新旧関係は遺構確認時の埋土より、本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、壺(No.1)は貯蔵穴脇の床面直上付近よりの出土である。



L=424.50m

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

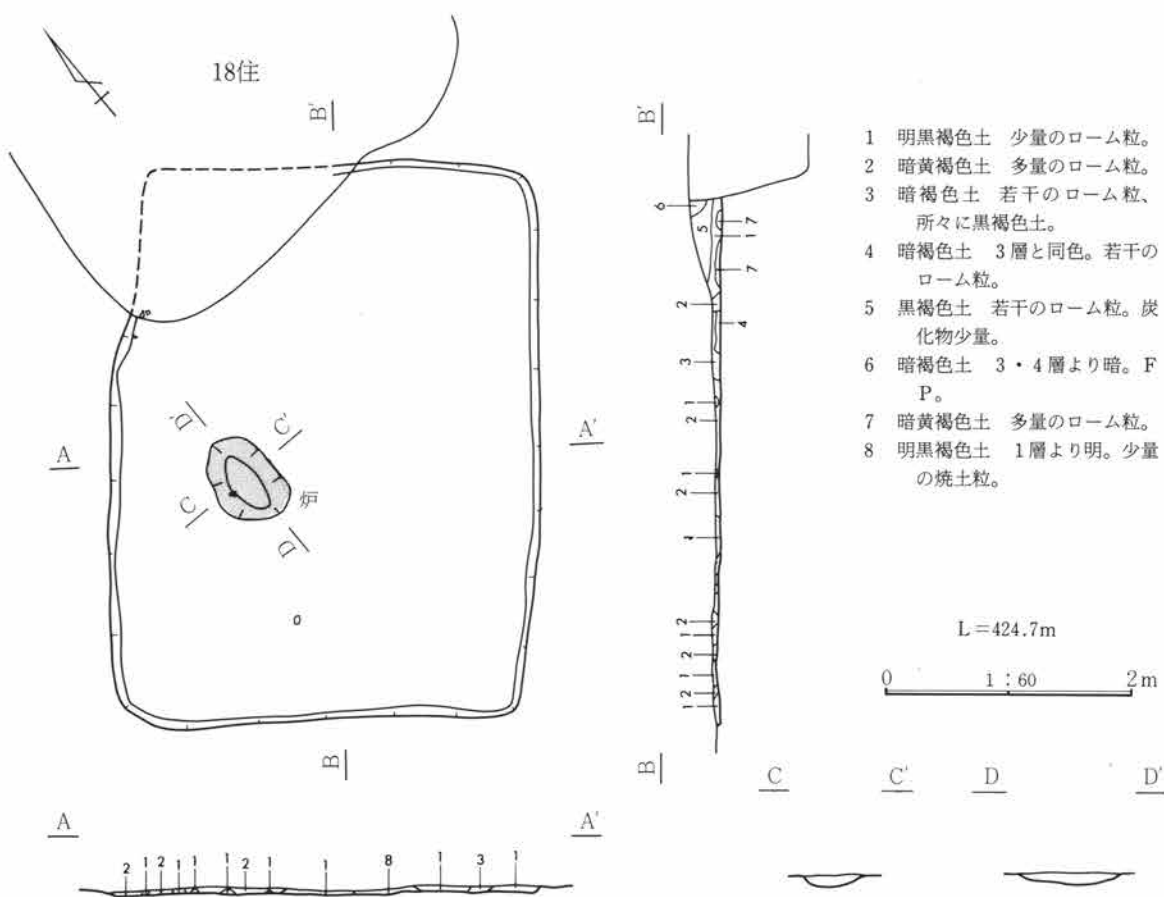
40号住居跡出土遺物

- 1 暗褐色土 ローム粒 1~50mm以下のロームブロック少量。
- 2 明黒褐色土 1層と同じロームブロック多量混在。
- 3 黒褐色土 全体にローム粒。
- 4 褐色土 ローム粒、多量のロームブロック(10mm大)。
- 5 暗褐色土 1層より明。多量のローム粒、ロームブロック(20mm大)所々黒褐色土。
- 6 黄褐色土 強粘性。多量のローム粒。
- 7 明黒褐色土 2層より若干明。多量のローム粒、ロームブロック。
- 8 暗黄褐色土 多量のローム粒、ロームブロック(1層と同じだが20mm大前後)。
- 9 暗黄褐色土 8層より暗。1層と同じ多量のロームブロック。
- 10 暗褐色土 1層より暗。少量のローム粒、ロームブロック、所々黒褐色土。
- 11 暗黄褐色土 8層と同じ色。多量のローム。1層と同じロームブロック多量。

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	壺	床直	16.4・ - ・ - 胴上位~口縁部残	白色・石英細~粗砂粒 普通 におい黄橙色	複合口縁部外面胴部上位研磨。肩~口縁部刷毛目。口縁部の一部に輪積痕残す。内面胴部寛撫で、口縁部刷毛目。

4 1号住居跡 (写真図版38頁)

位置 3C-15グリッド 方位 N-40.0°-E 形状 434×325cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は5cmを測り、壁溝はなし。床面 床はローム地床でやや軟質。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径55×77cmを測る地床炉。重複 18号住居跡・4号掘立柱建物跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より、本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物はない。

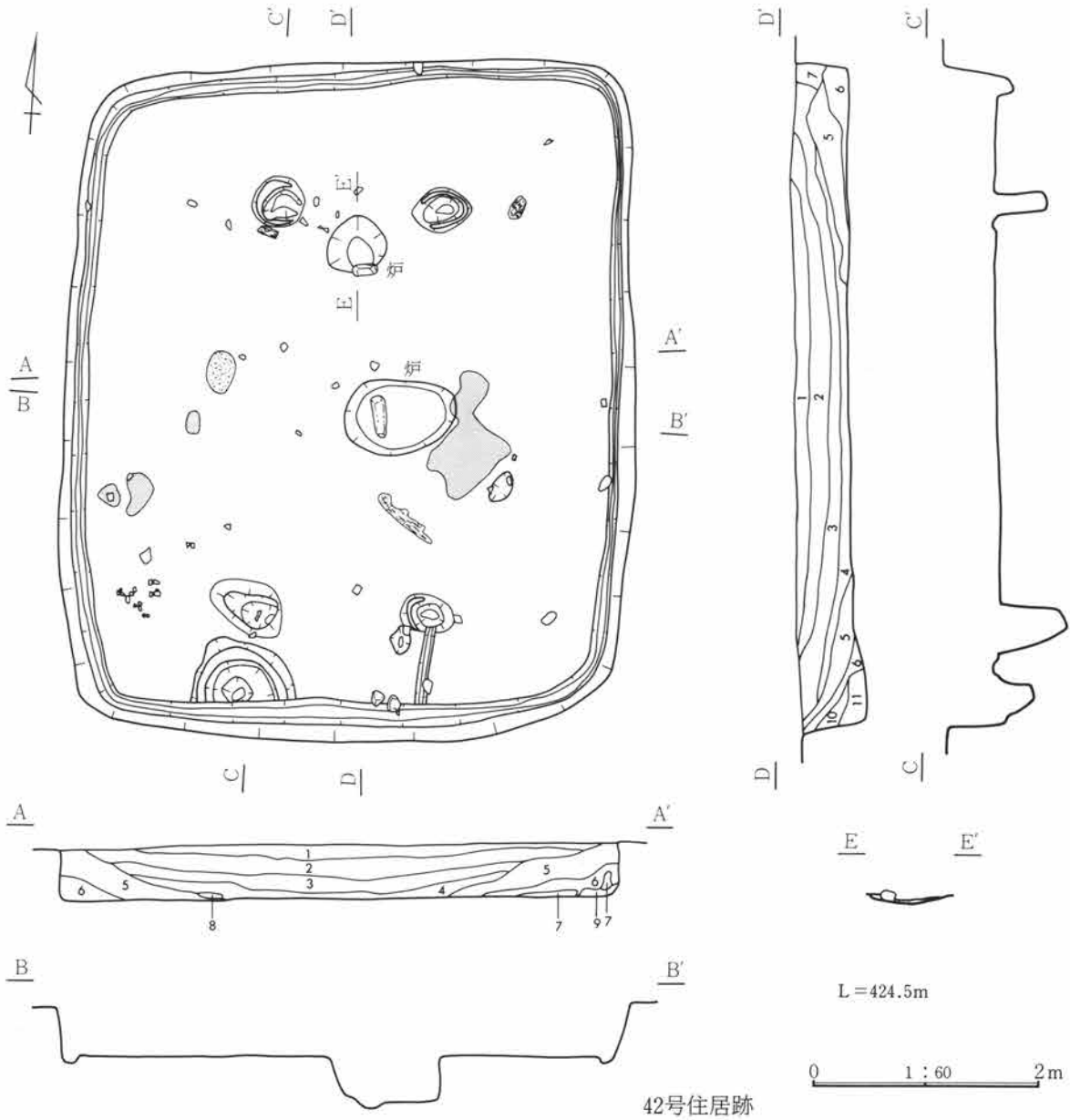


4 2号住居跡 (写真図版39頁)

位置 5C-17グリッド 方位 N-9.0°-W 形状 586×482cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は51cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅13cm、深度15cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床で強く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径35~68cm、深度44~59cmを測る。柱穴間は南北軸方向に350~355cm、東西軸方向に150~145cmを測る。炉 北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径50×55cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の磔を置く。また、住居中央東寄りの位置にもう一ヶ所炉を検出する。楕円形を呈し、径65×100cmを測る地床炉。中央西側に楕円形の磔を置く。重複 重複する遺構はない。備考 南壁の西寄りにピットが1穴検出され、周囲を土堤状に高く地山を掘り残す。また、前記の住居中央付近の炉の床下より径100×64cm、深度39cmを測



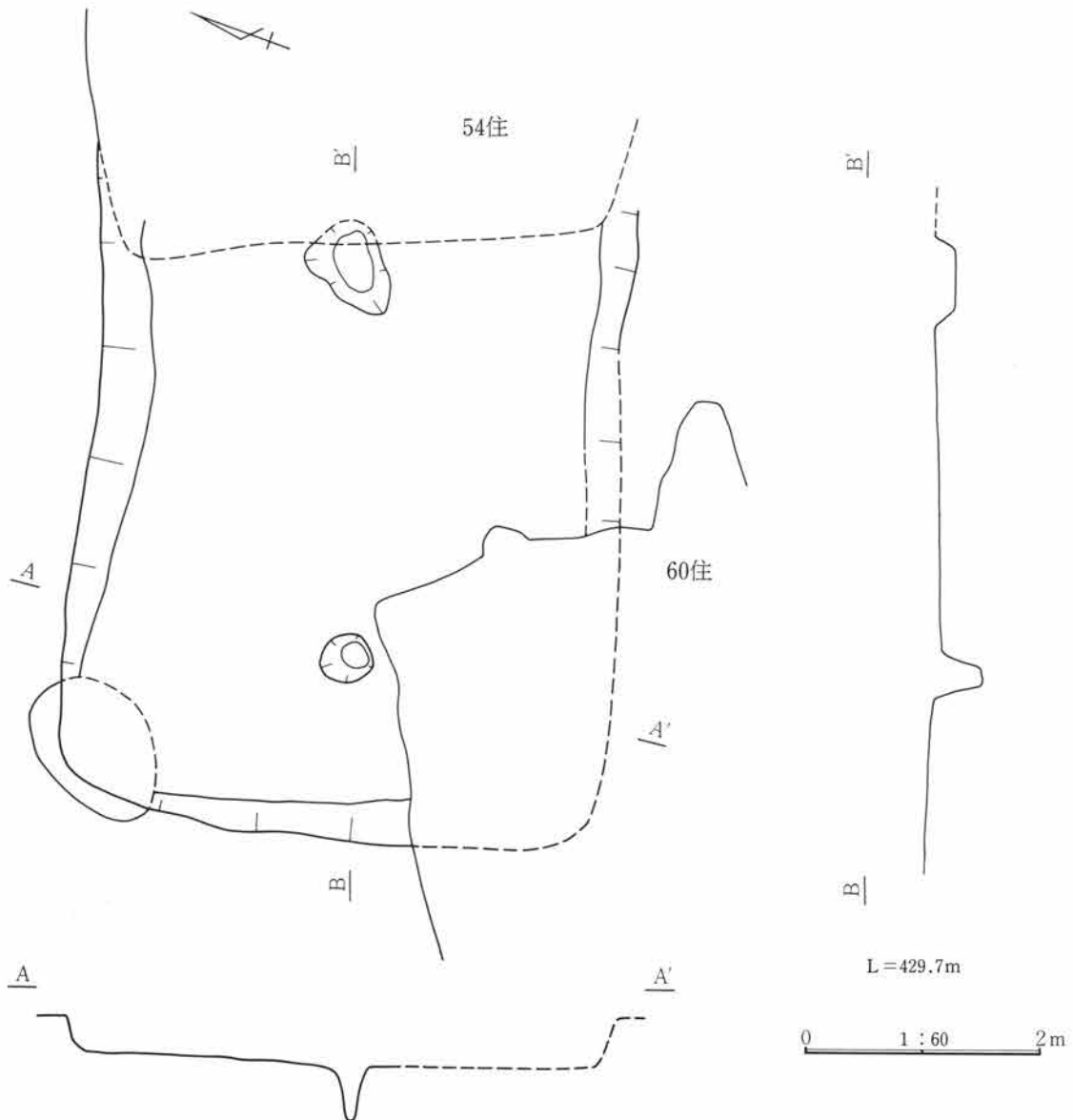
る土坑を1基検出する。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が波状文を有する破片等であり、完形品の遺存は少ない。



- 1 明黒褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、若干の黄色スコリア。
- 2 明黒褐色土 1層より明。ローム粒、多量のロームブロック、若干の黄色スコリア。
- 3 明黒褐色土 1層より明。ローム粒、少量のロームブロック、黄色スコリア。
- 4 黒褐色土 ローム粒、少量のロームブロック、若干の黄色スコリア。
- 5 暗褐色土 ローム粒、多量のロームブロック、若干の黄色スコリア、炭化物。
- 6 黒褐色土 4層より暗。ローム粒、若干のロームブロック。弾力あり。
- 7 暗褐色土 5層より暗。若干のローム粒、黄色スコリア。所々6を混入。
- 8 乳灰色粘質土 強粘性。純層の粘土。
- 9 ローム 住居壁の崩れ。
- 10 暗黄褐色土 ローム粒、多量のロームブロック、若干の黄色スコリア。
- 11 黒褐色土 4層より暗。多量のロームブロック。

6 1号住居跡 (写真図版41頁)

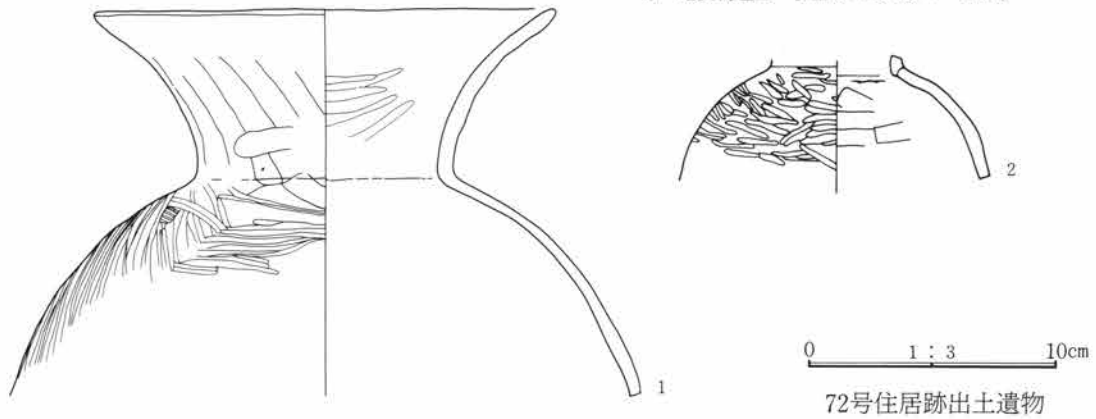
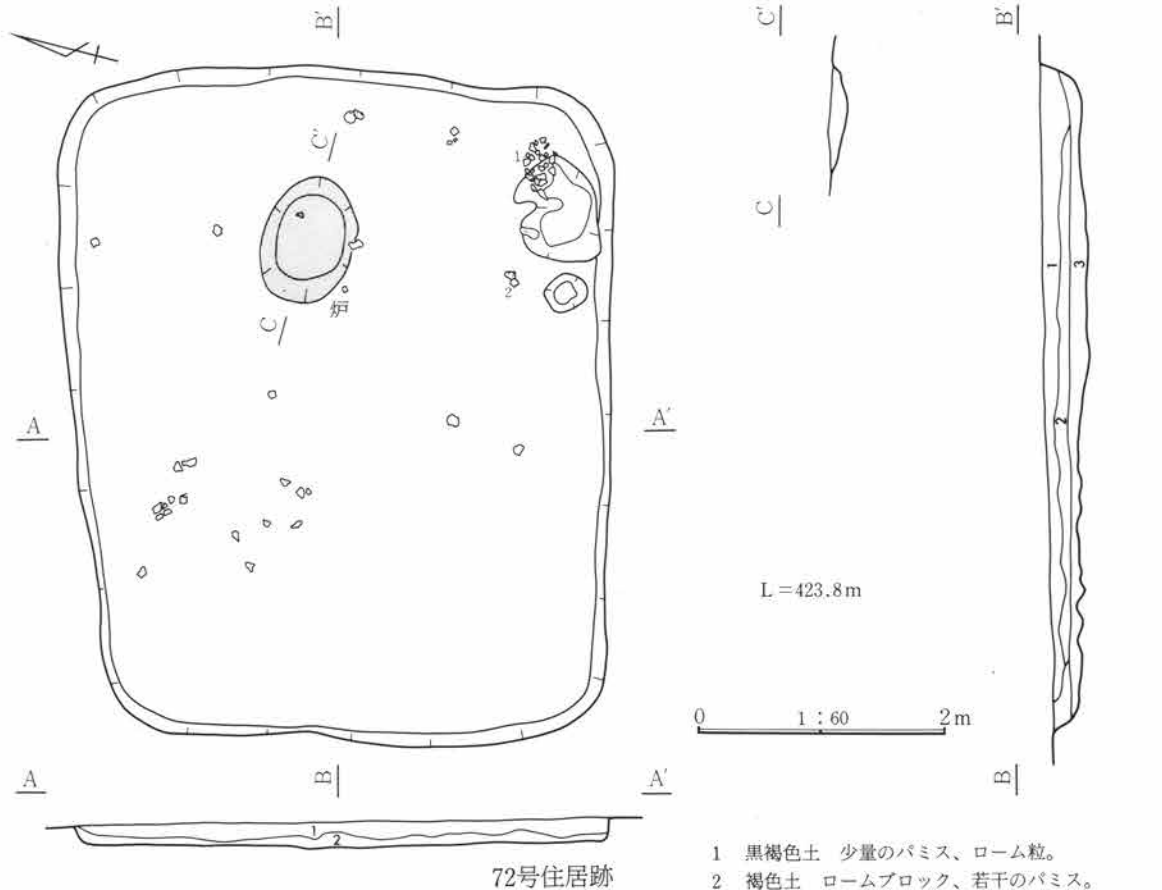
位置 22I-6グリッド 方位 不明。 形状 不明×430cmを測る。南北方向は南壁の一部が残ることで推定でき得るが、東西方向は東側が重複遺構にかかり不明。壁高は28cmを測る。 床面 床はローム地床。壁溝はなし。 柱穴 住居中央東・南側に2穴を検出する。 貯蔵穴 不明。 掘り方 なし。 重複 54号住居跡(平安時代)・60号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物は極めて少なく、出土位置も床面よりかなり高い位置での出土である。



7 2号住居跡 (写真図版41頁、93頁)

位置 13B-11グリッド 方位 N-75.0°-E 形状 535×440cmを測る隅丸長形状のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は18.5cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム地床でやや軟質。 柱穴 なし。 貯蔵穴 南東コーナー付近に検出され不定形を呈し、径60~85cm、深度23cmを測る。

炉 住居中央東壁寄りに検出され、楕円形を呈し、径65×100cmを測る地床炉。 重複 重複する遺構はない。  
 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が古式土師器の破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、北東コーナー部に集中し出土する。



遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	壺	2~9cm	18.4・ - ・ - 胴上位~口縁部残	白~灰色・石英細砂粒 普通、明赤褐色	外面胴部研磨。口縁部刷毛目→口縁部上位横撫で。内面胴部寛撫で、口縁部研磨。
②	埴 埋土	1~2cm	- ・ - ・ - 胴中位~頸部1/2	白色・石英細・粗砂粒 普通 におい黄橙色	外面は研磨、内面は無で。

73号住居跡 (写真図版41頁、93頁)

位置 14B-9 グリッド

方位 N-11.5°-E

形状 447×293cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は35cmを測り、壁溝はなし。

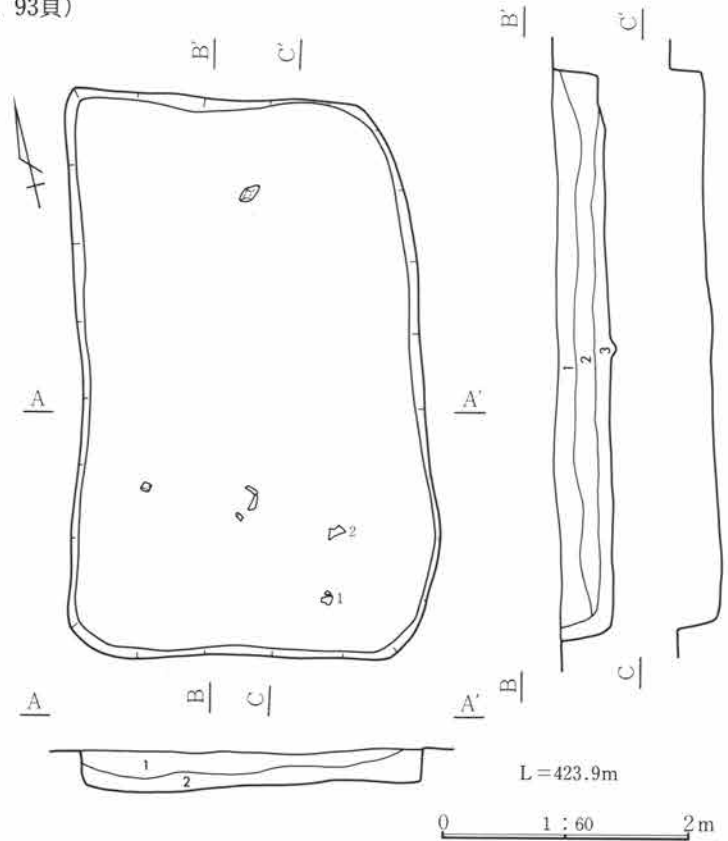
床面 床はローム地床でやや軟質。

柱穴 なし。 貯蔵穴 なし。

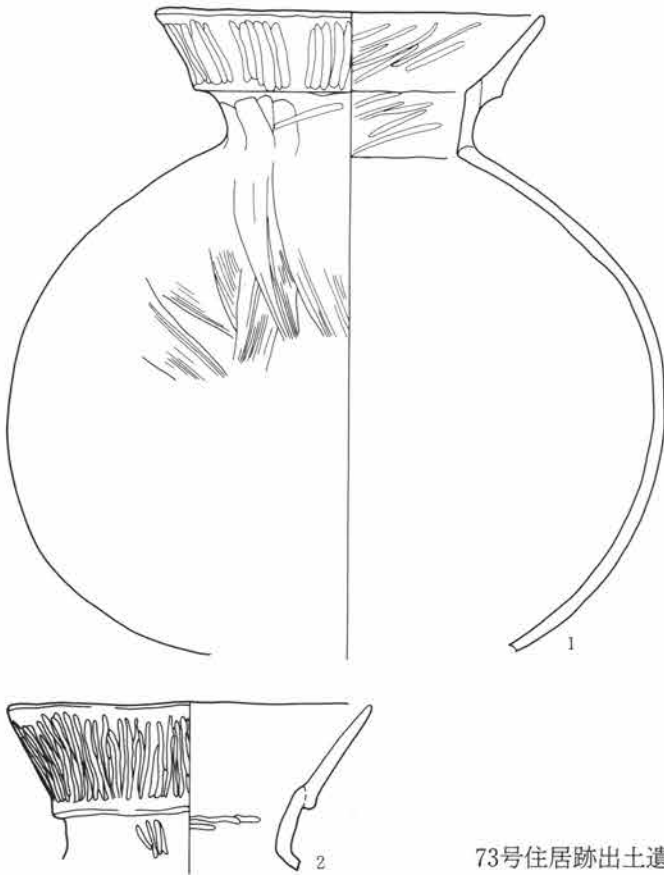
炉 検出されなかった。

重複 重複する遺構はない。

遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が古式土師器の破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土し、出土位置は床よりやや離れる。



- 1 暗茶褐色土 極少量のパミス。
- 2 黒褐色土 少量のローム、パミス。
- 3 黒褐色土 ソフトロームをブロック状。



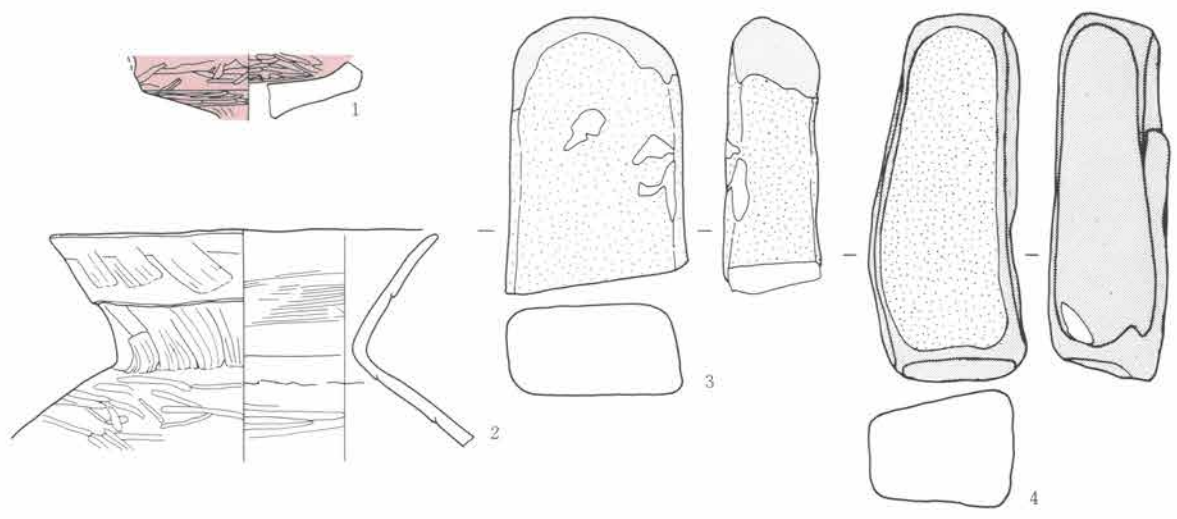
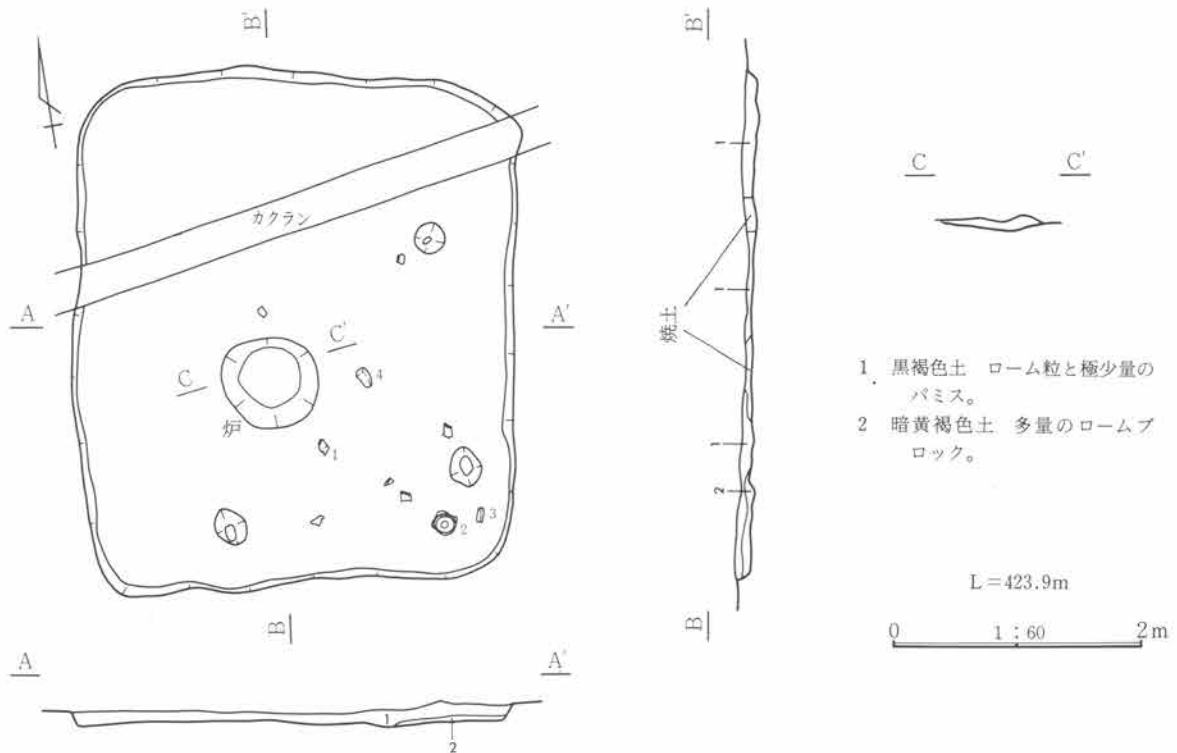
番号 器種	量目・残存率 胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
① 壺	15.4・ - - - 胴部下位～口縁部1/ 3 残 白・赤褐・黒 色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	二重(有段)口縁部。 外面全体に弱い刷毛 目→口縁部縦方向の 篋撫で。内面胴部篋 撫で。口縁部研磨。
② 壺	14.5・ - - - 頸部～口縁部 白色細砂粒・石英細 礫 普通 におい黄 橙色	二重口縁(段部折り 返し)。外面口縁部撫 での後研磨、頸部撫 で。内面は撫で。

0 1 : 3 10cm

73号住居跡出土遺物

74号住居跡 (写真図版42頁、93頁)

位置 14B-13グリッド 方位 N-8.0°-E 形状 412×354cmを測る隅丸形状のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は13cmを測り、壁溝はなし。床面 床はローム地床で凹凸がありやや軟質。柱穴 なし。床面よりピット3穴を検出するが、いずれも浅いものである。貯蔵穴 なし。炉 住居中央南壁寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径78cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はないが、耕作による溝により一部攪乱を受ける。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は住居全面に散乱し、出土する。

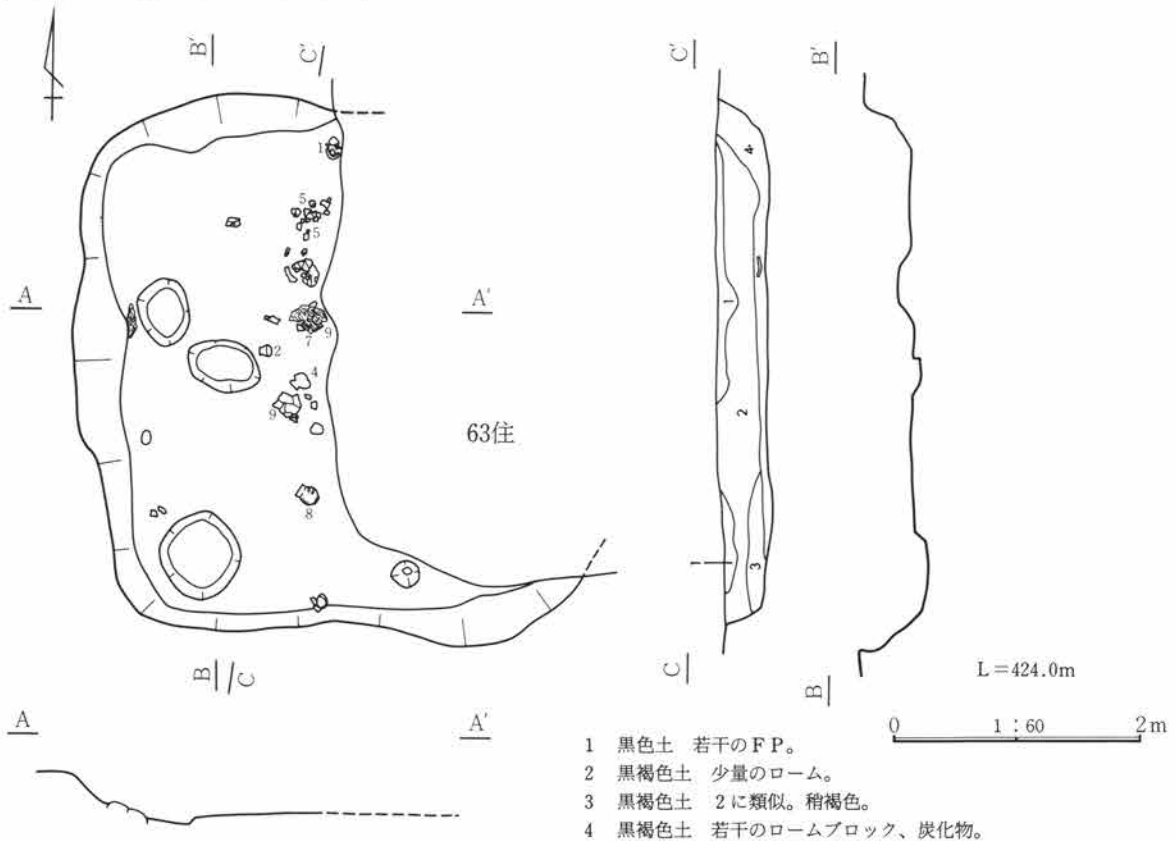


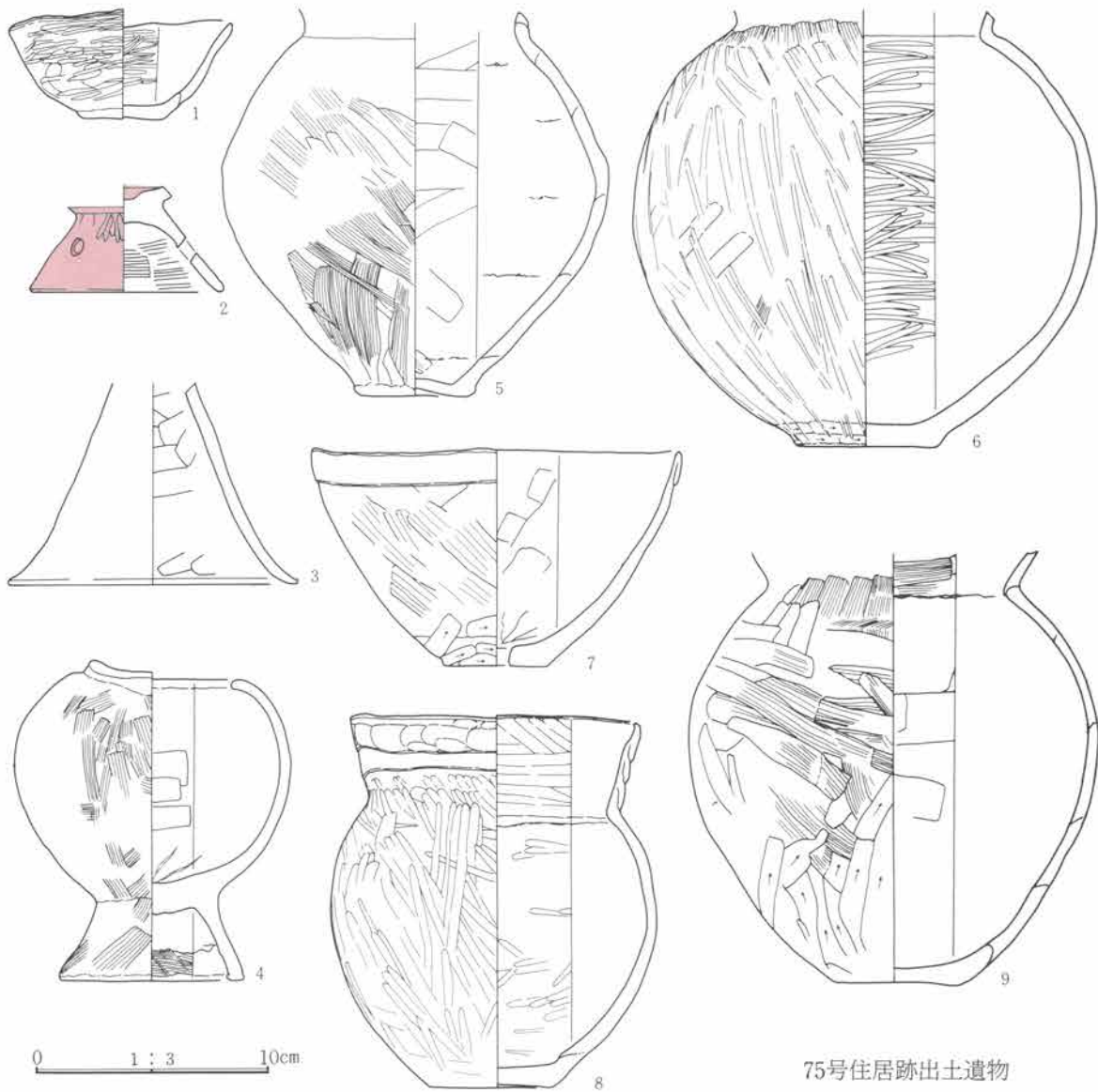
74号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
1	器台	8.0cm	-・-・- 坏部小片	少量の白色細・粗砂粒 普通 にぶい赤褐色	受部上方に4つの円孔が穿たれる。内外面研磨、赤色塗彩。
②	壺	6.5cm	15.2・-・- 胴上位〜口縁部残	少量の白色・石英粗砂粒 普通 灰白色	折り込し口縁部。外面胴部篋撫で、頸部〜口縁部刷毛目。内面胴部篋撫で、口縁部刷毛目、口縁部上位横撫で。
③	砥石	10.0cm			自然石（河原石）砥石で使用は表裏、左右側部。表裏面には細かな凍ハゼ様の剝落がある。金属の研磨用砥とは平滑な摩耗がないため考えがたい。質は極めて硬い。材質は文象斑岩（グラノファイアー）。
④	砥石	床直			自然石（河原石）で使用は図表面のみである。擦痕の状況は硬い研磨主体と考えられる平滑具合である。質は極めて硬く鉄・石等の硬質の研磨主体が考えられる。材質は粗粒安山岩。

### 75号住居跡（写真図版43頁、93〜94頁）

位置 16B-9グリッド 方位 不明。 形状 423×360+αcmを測る隅丸方形のプランを呈すると考えられるが、後記のとおり重複遺構に切られ、全容は不明。壁はやや蛇行して巡り、壁高は42cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム地床でやや軟質。 柱穴 残存範囲よりは1穴検出され、径20cm、深度24cmを測る。 貯蔵穴 床面より3穴の土坑状の掘り込みを検出するが、いずれも浅く、貯蔵穴とは判断できない。 炉 残存部分よりは検出されていない。 重複 63号住居跡（平安時代）と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多く、完形品の遺存度が高い。遺物は中央部に集中し、出土する。出土遺物中、鉢(No.1)は床面直上付近よりの出土である。





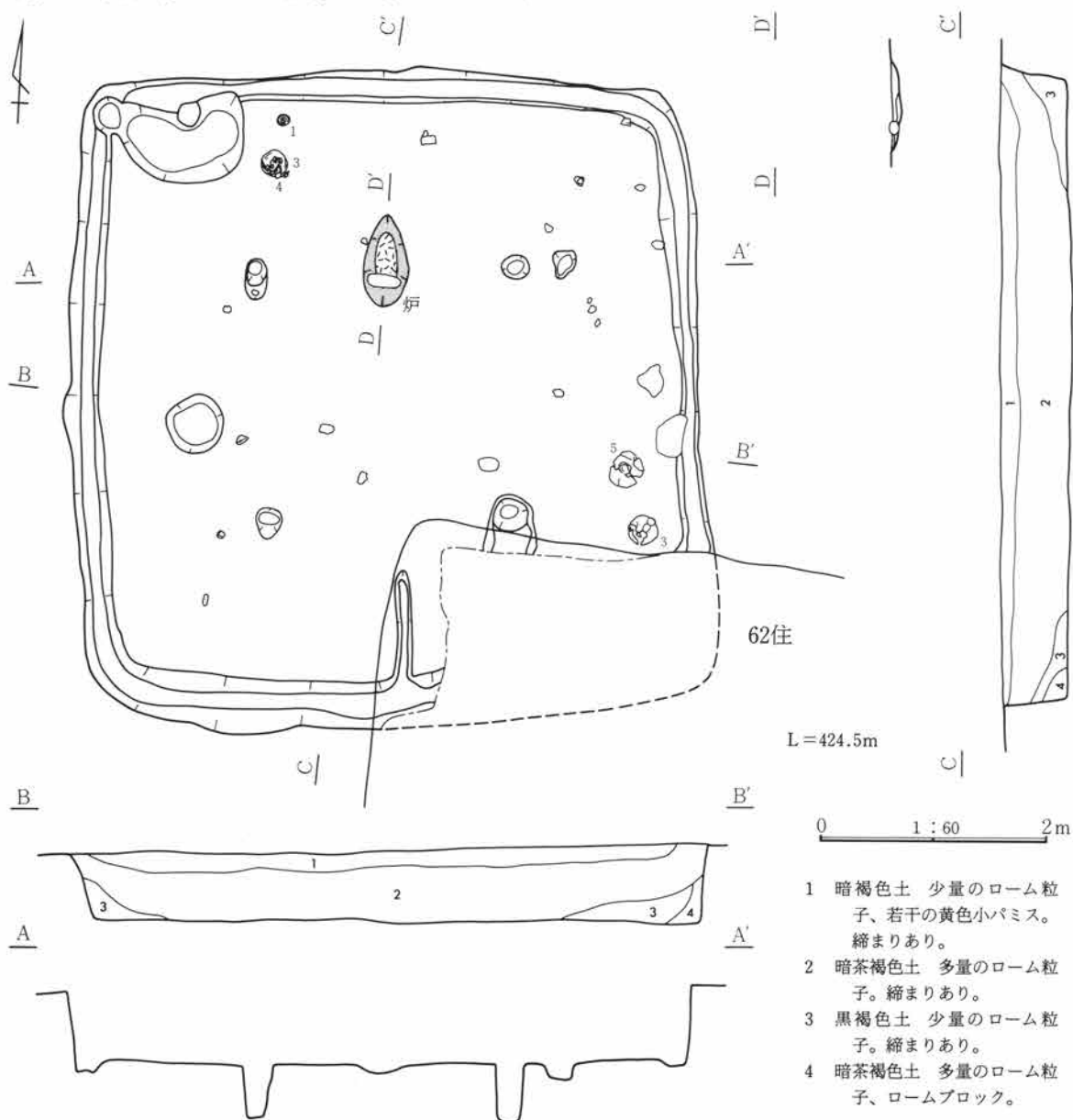
75号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	3.0cm	9.4・4.5・3.6 完形	白色・石英細・粗砂粒 普通 外-橙色、内-黒褐色	内外面全面研磨器形のゆがみ大。
②	器台	7.0cm	-・-・8.3 脚部のみ残	白色・石英細砂粒 普通 赤色・褐色	脚部に3つの円孔を穿つ。坏部・脚部外面赤色塗彩。外面研磨。脚部内面刷毛目。
③	高坏	埋土	-・-・12.4 脚部1/2	白色・石英細砂粒 普通 にぶい黄橙色	脚部外面、裾部内面は器面が滑らかで整形単位不明。脚部内面は撫で。
④	台付甕 (片口)	5.0cm	6.0・12.8・7.8 口縁部一部欠損	白色・石英細・粗砂粒 普通 明黄褐色	外面は刷毛目、所々撫で。片口部の内側、台部内側下半刷毛目、上半は撫で。内面鏡撫で。
5	壺	4.0cm 埋土	-・-・4.5 底部～頸部1/3	白色・石英細・粗砂粒 普通 褐灰色、浅黄橙色	胴部外面刷毛目。内面鏡撫で。
⑥	壺	埋土	-・-・5.9 口縁部欠損	白～灰色・石英細・粗砂粒 普通 赤橙色	胴部は球状を呈す。内外面とも鏡研磨。

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑦	甔	5.0cm	15.5・9.0・4.4 口縁部1/2欠損	白色・石英細・粗砂粒 普通 淡赤橙色	折り返し口縁部。底部に径1cmの円孔が穿たれる。内外面撫で、口縁部横撫で。
⑧	甔	5.0cm	12.1・15.4・5.2 完形	白～灰色・石英細・粗砂粒 普通 橙色、一部褐灰色	胴部外面下半研磨、上半甔撫で。底部甔撫で。口縁部に輪積痕3段残す。内面甔撫で、口縁部粗い刷毛目。
⑨	甔	4～5cm	5.4・ - ・ - 底部～頸部1/2	白～灰色・石英細・粗砂粒 雲母 普通 (明)褐灰色	外面底部・胴部下半甔撫で、上半～頸部は刷毛目。口縁部輪積痕を残す。内面胴部甔撫で、口縁部刷毛目。

76号住居跡 (写真図版44頁、94～95頁)

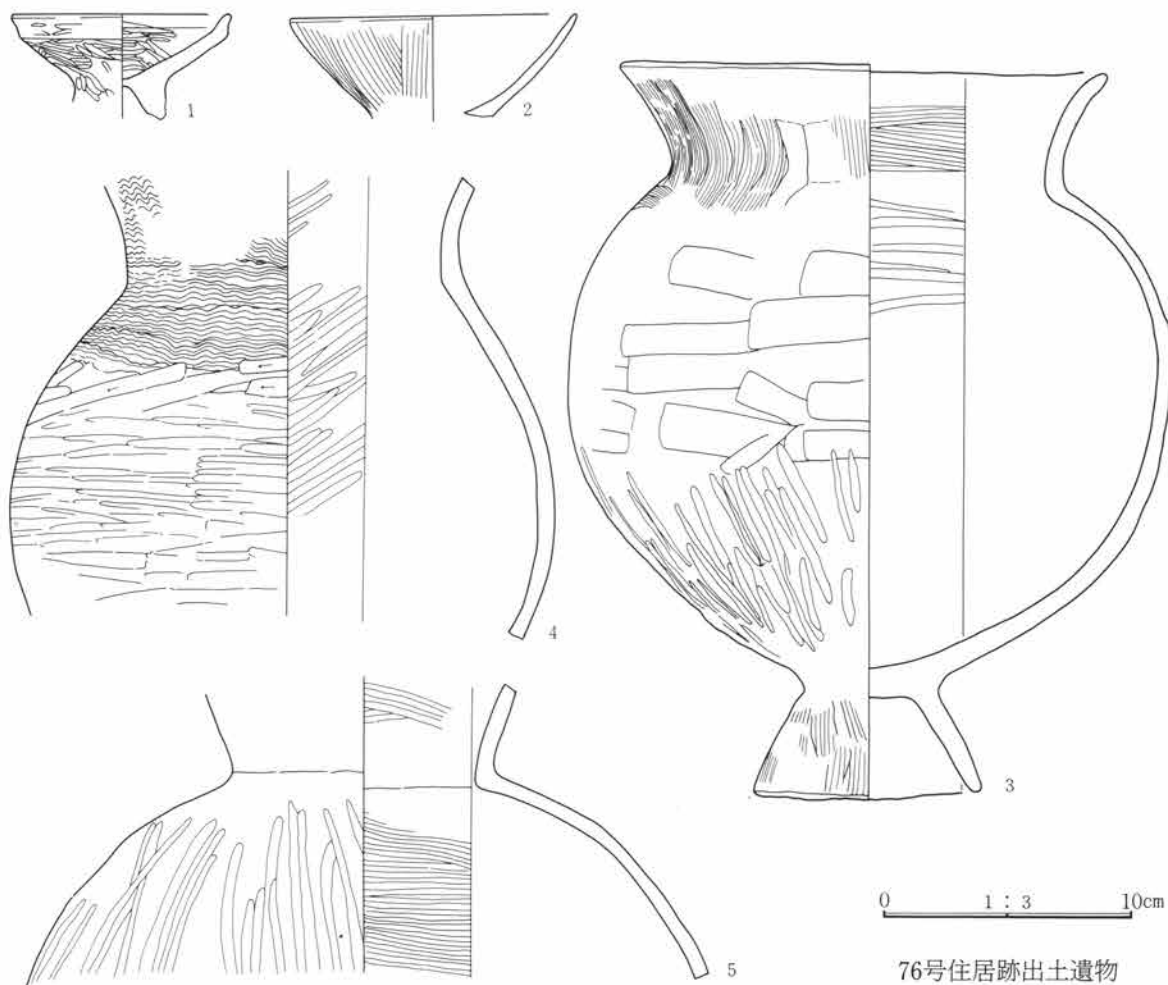
位置 18B-11グリッド 方位 N-0°-E 形状 565×555cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は68.5cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅30cm、深度12cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床。堅く締めりが強い。柱穴 4穴検出され、径21～30cm、深度16～62cm





を測る。柱穴間は南北軸方向に210～210cm、東西軸方向に225～210cmを測る。貯蔵穴 北西コーナー付近に検出され、楕円形を呈し、径63～110cm、深度49cmを測る。 炉 住居北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径38×79cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礫を置く。

重複 62号住居跡（平安時代）と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する出土位置は床面上より1～7cm程度を測る。

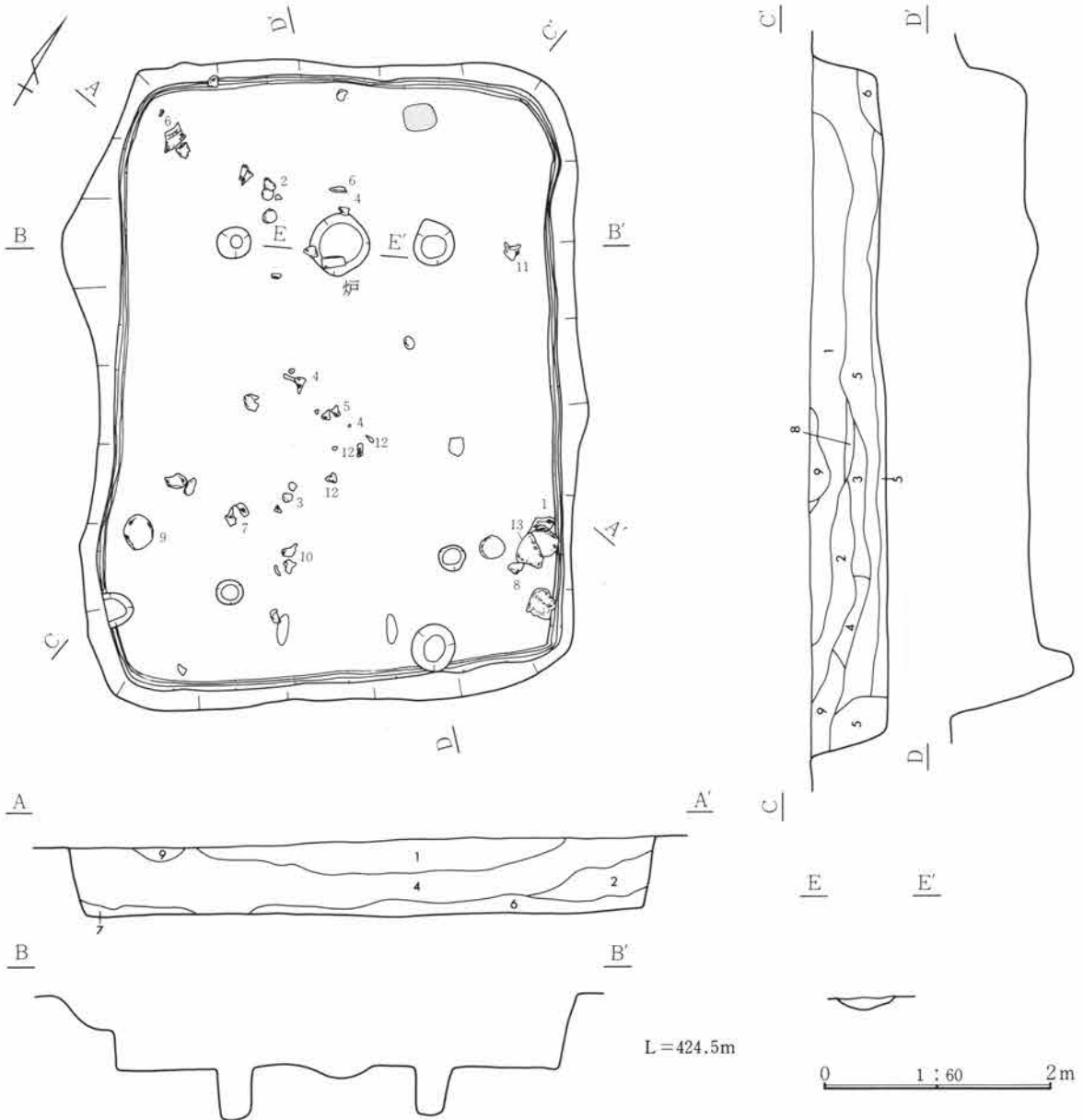


76号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	器台	2.5cm	8.7・ - ・ - 脚部欠損	白～灰・赤褐色粗砂粒 普通 橙色	内外面鏡研磨。
②	高坏	埋土	11.4・ - ・ - 体部～口縁部1/2	多量の白～灰色・石英細・粗砂粒 普通 橙色	外面縦方向の刷毛目、内面撫で。
③	台付甕	1.0～6.5cm	19.1・29.0・8.9 完形	白～灰色・石英細・粗砂粒、赤褐色細礫 普通 赤褐色	外面台と口縁部刷毛目、胴部下半研磨上半鏡撫で。内面胴部撫で、口縁刷毛目。内面口縁と外面胴上部に煤附着。
④	甕	床直	- ・ - ・ - 胴下半欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色、黒褐色	外面胴部中位鏡研磨か鏡撫で。胴部上位～口縁部波状文を施文。内面胴部～口縁部鏡磨き。

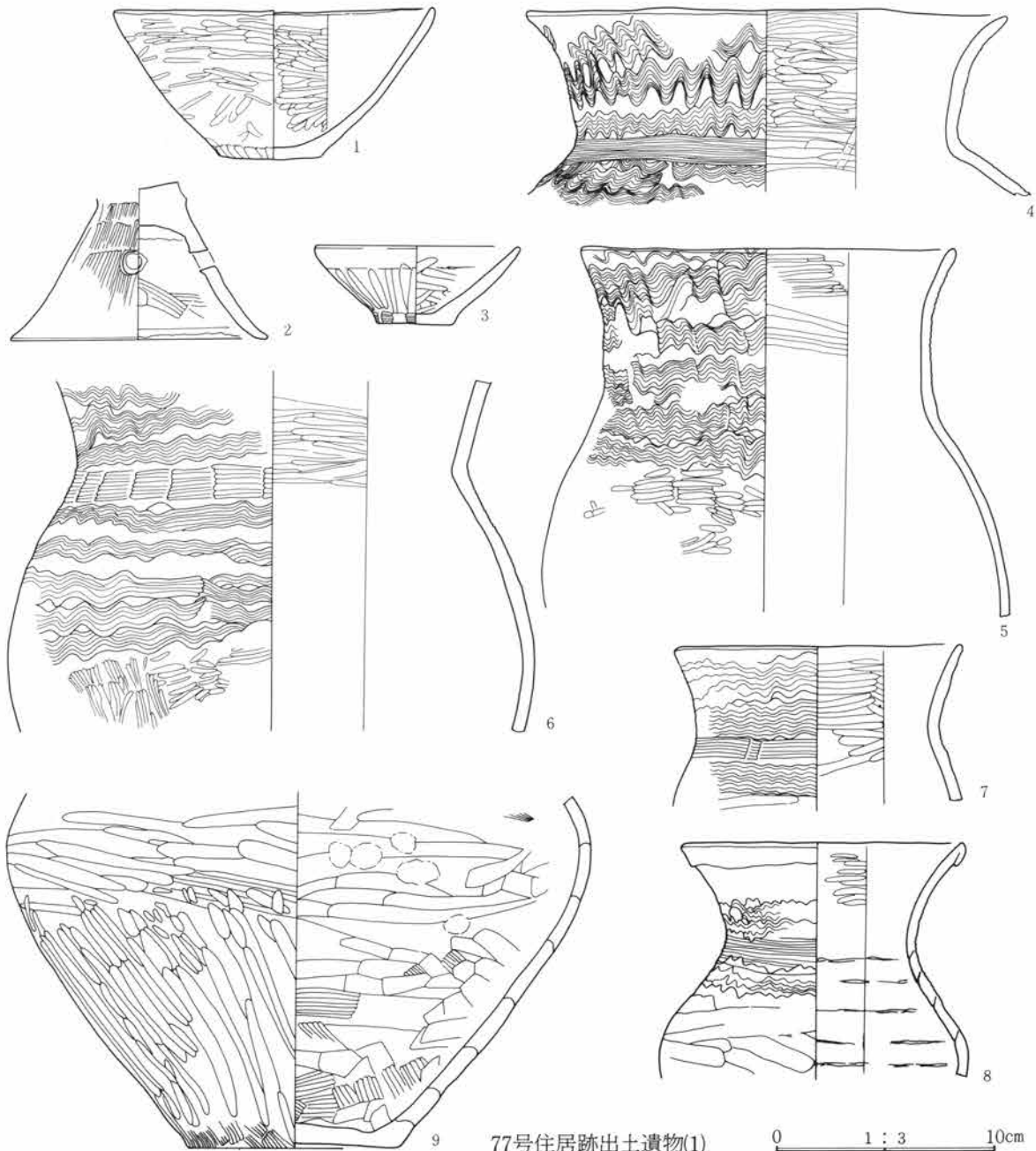
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑤	壺	床直	- - - - 胴上半口径一部欠	白色・石英細砂粒、灰色細礫 普通 におい褐色	外面胴部は雑な篋磨き、頸部横撫で、口径部粗い刷毛目。内面胴部～口径部刷毛目整形。

77号住居跡 (写真図版45頁、95～96頁)



- 1 暗褐色土 ローム漸移層土をベースに、若干のローム微粒子、パミス、炭化物。
- 2 暗茶褐色土 多量のローム粒子、少量のロームブロック (2cm大)。
- 3 暗茶褐色土 多量のロームブロック (5cm大)。
- 4 暗黄褐色土 全体の90%におよぶ多量のロームブロック。
- 5 暗褐色土 1層に類似。より多量のローム微粒子。
- 6 暗褐色土 4層+若干のロームブロック。
- 7 暗茶褐色土 4層+ローム粒子、ロームブロック。
- 8 黒褐色土 ローム微粒子少量。
- 9 暗褐色土 畑のサク。FP、ローム粒子を多量。

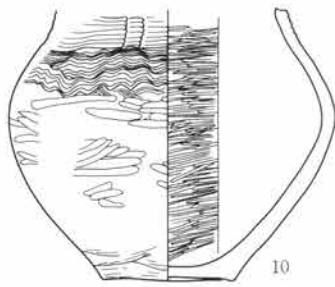
位置 21B-11グリッド 方位 N-30.0°-W 形状 550×440cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は70cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は東壁下のみに幅7cm、深度4cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径21～35cm、深度31～47cmを測る。柱穴間は東西軸方向に172～195cm、南北軸方向に267～300cmを測る。また、南壁の中央付近に2穴のピットが検出され、入口施設の痕跡と考えられる。貯蔵穴 前記の入口ピットの東側に検出され、円形を呈し、径40cm、深度35cmを測る。炉 北側柱穴間のほぼ中央に設けられ、円形を呈し、径53cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礫を置く。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多いが、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、甕 (No.8)・壺 (No.13)・鉢 (No.1) は床面直上、及び付近よりの出土である。



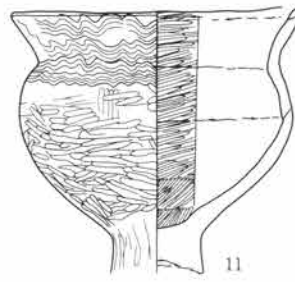
77号住居跡出土遺物(1)

0 1:3 10cm

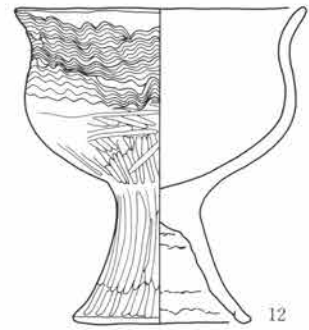
第3章 検出遺構・遺物



10

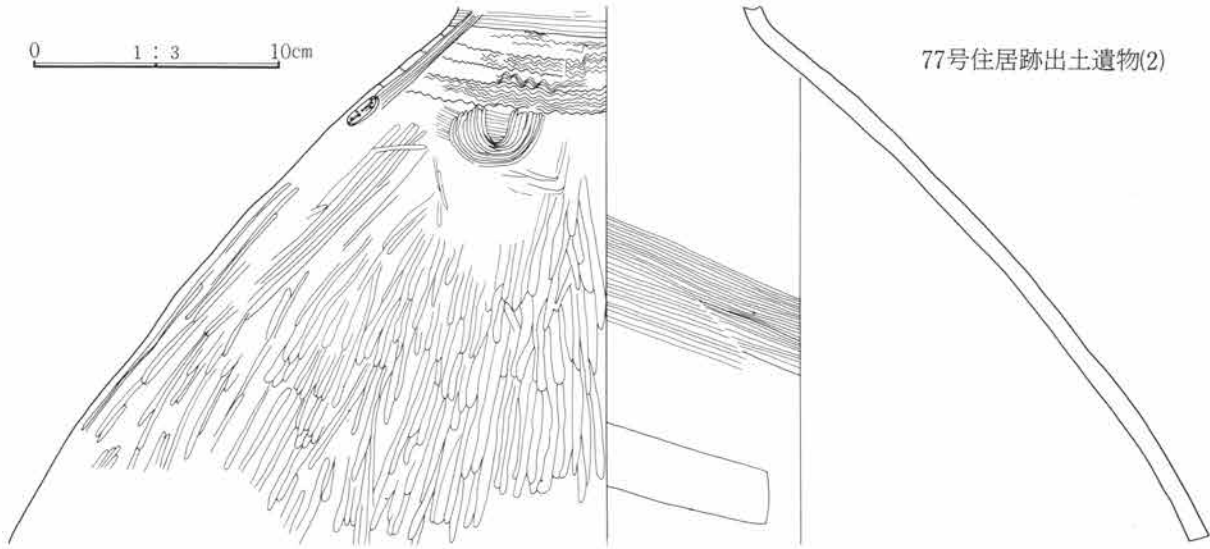


11



12

0 1 : 3 10cm



77号住居跡出土遺物(2)

13

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	床直	14.5・6.6・4.5 1/3欠損	少量の白色・石英・雲母細砂粒 良好 におい黄橙色	内外面全体に篋削り→篋磨き。外面底部篋撫で。
②	高坏	25.5cm	—・—・11.6 脚部2/3	白色・石英細・粗砂粒 普通 におい橙色	脚部中位に4つの円孔が穿たれる。内外面不明瞭な刷毛目。内面底部磨き。
③	鉢	4.0cm	9.2・3.5・3.4 口縁部2/3欠損	白色細砂粒 普通 におい褐色	外面口縁部横撫で、体部縦方向撫で。内面横撫で。
④	甕	3～51.5cm 埋土	21.5・—・— 肩部～口縁部1/2残	白色・石英細砂粒 普通 赤褐色	外面波状文→頸部不定止め簾状文。内面篋撫で、口縁部横方向の研磨。
⑤	甕	3.0cm 埋土	16.7・—・— 胴上半残存	白色・石英細砂粒 普通 オリーブ黒色、橙色	外面胴部上位研磨、肩部～口縁部波状文。内面横方向研磨。
⑥	甕	20～51.5cm 埋土	—・—・— 胴部上位1/2残	黒色細砂粒多、白色・石英細砂粒 普通 におい黄橙色	外面粗い刷毛目→等間隔止め簾状文→上下に波状文を施す。内面横方向の研磨。
⑦	小形甕	10.0cm	12.6・—・— 肩部～口縁部残存	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい褐色	外面頸部2連止め簾状文→上下に波状文。内面横方向研磨。
⑧	甕	5.5cm	12.6・—・— 胴上位～口縁部残	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色	外面胴部上位篋撫で、肩部～頸部2連止め簾状文→上下に波状文。内面篋撫で、口縁部折り返し、横撫で。
⑨	壺	8.5cm	—・—・9.2 底部～胴部中位	白色・石英細砂粒 普通 明黄褐色	外面胴部中位横方向刷毛目の後研磨、下位は縦方向刷毛目の後研磨。内面刷毛目、撫で。

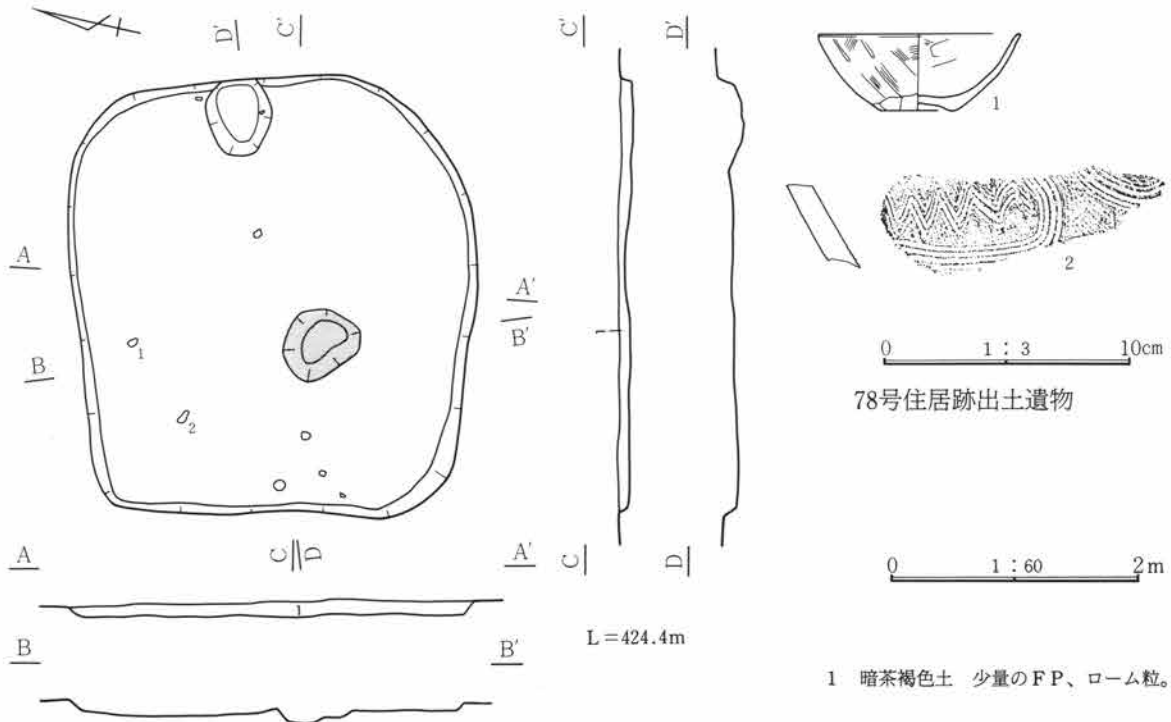
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑩	甕	5.5cm 埋土	- - - 5.3 胴部のみ残存	白色石英細砂粒 普通 にぶい褐色	外面底部～胴部下位篋削り。胴部研磨、肩部～頸部2連止め簾状文→上下に波状文。内面丁寧な研磨。
11	台付甕	床直	11.6・ - - - 台部欠損	白色・石英細砂粒 普通 灰褐色	外面胴部篋削り→研磨、口縁部波状文。内面全体に篋研磨。
12	台付甕	3～4cm 埋土	11.6・12.4・7.1 1/5欠損	多量の白色・石英細砂粒 普通 にぶい褐色	外面台部～胴部上位研磨、頸部～口縁部波状文。内面撫で、口縁部横撫で。台部内面弱く雑な刷毛目。
13	壺	1cm	- - - - 胴部一部残存	褐～黒細砂粒多 白色・石英 細砂粒少 普通 にぶい橙色	外面胴研磨、頸部にT字文横線→下波状文上にT字文垂線下に円板状浮文→浮文間に櫛描U字文内面粗い刷毛目。

78号住居跡 (写真図版46頁、96頁)

位置 19B-14グリッド 方位 N-74.5°-E 形状 350×325cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は11cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床でやや軟質。

柱穴 なし。貯蔵穴 東壁中央部に径50cm、深度9cmの土坑を検出するが、貯蔵穴か否かは不明。

炉 住居中央南壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径53×62cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土するが、出土位置は床よりやや離れる。



遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	10.0cm	8.0・3.0・3.0 底部～口縁部1/2	少量の白色細砂粒、赤褐色 粗砂粒 普通 明赤褐色	外面口縁部～体部、及び内面全体は、細かい刷毛目→撫で。外面体部下位・底部削り。
2	壺?	8.0cm	- - - - 胴部小片	多量の石英、白～灰色 粗砂粒 普通 にぶい黄橙色	外面刷毛目後、櫛描文で囲った中に波状文を施文。内面刷毛目。

85号住居跡 (写真図版47頁、96頁)

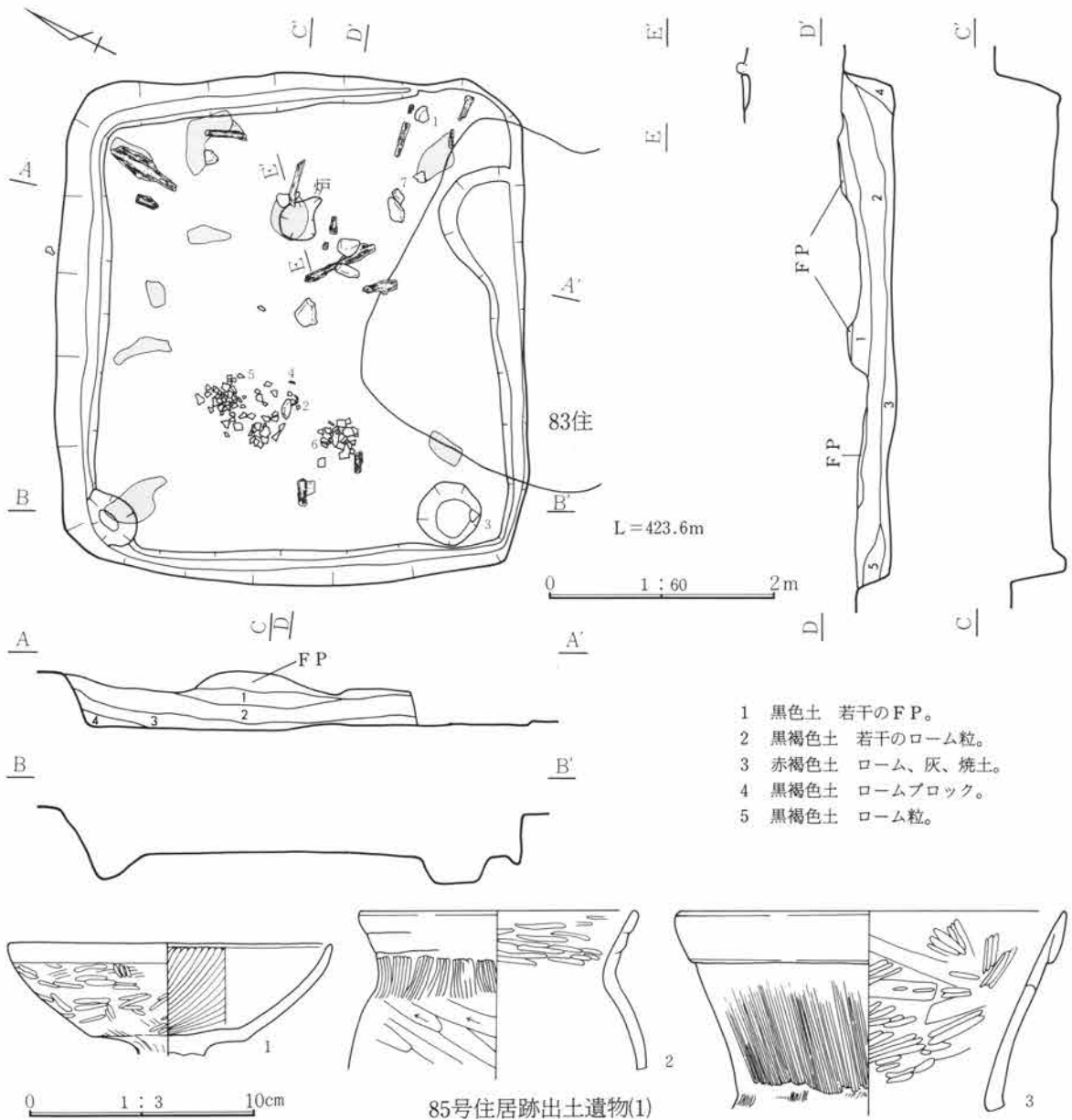
位置 5B-5グリッド 方位 N-68.5°-E 形状 440×410cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は45cmを測る。壁溝は幅15cm、深度5cmを測る溝がほぼ全周する。

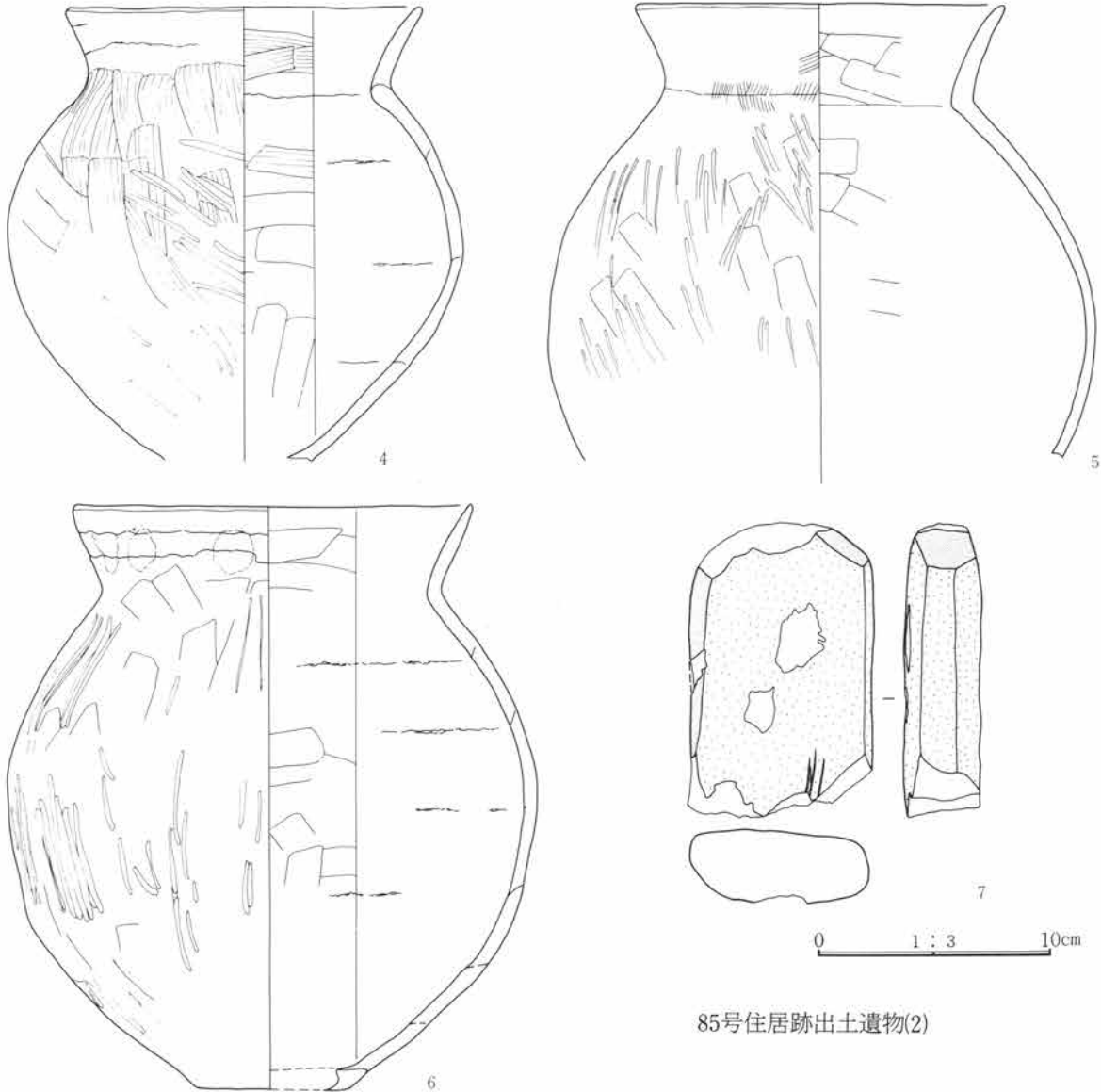
床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。 柱穴 なし。北西コーナー付近にピットを検出するが、深度が浅く柱穴とは考えられない。 貯蔵穴 南西コーナー付近に検出され、円形を呈し、径55cm、深度24cmを測る。

炉 住居中央東壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径25×37cmを測る地床炉。

重複 83号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。 備考 本遺構の床面やや上方より炭化材を検出する。量的には少ないものの、放射状に遺存するため、上屋材の焼失による可能性も考えられる。

遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多いが、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居中央部付近に集中し出土する。出土遺物は大半が前記の炭化材上面よりの出土である。



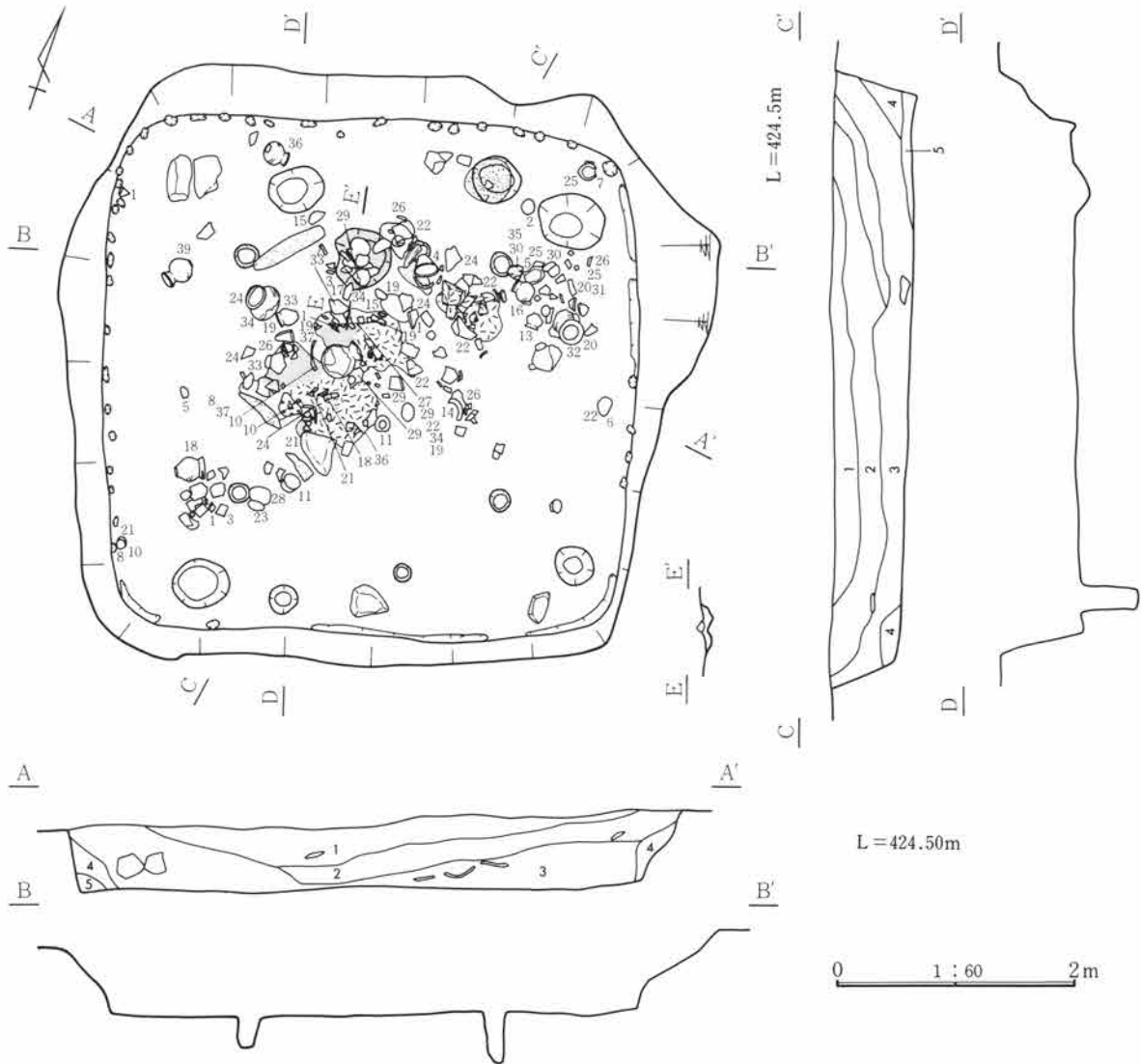


85号住居跡出土遺物(2)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	高坏	9cm	14.1・ - ・ - 坏部のみ残存	白色・石英・角閃石細砂粒 普通 におい橙色	口縁部横撫で。体部篋削り→研磨。外面脚接統部周辺篋削り→篋撫で。内面研磨。
2	小形甕	埋土	13.0・ - ・ - 胴上位～口縁部 1/3	白色・石英細砂粒 普通 におい黄橙色	口縁部3段の輪積痕を残す。外面頸部粗い刷毛目、口唇部に平坦面をもつ。胴部研磨、内面研磨。
3	壺	貯蔵穴内 - 4cm	17.0・ - ・ - 口縁部1/4	白～灰色細・粗砂粒 普通 橙色	折り返し口縁、削りの後撫で、口縁部外面細かい刷毛目、内面研磨。
④	甕	7.5cm 埋土	15.1・ - ・ - 底部欠損	少量の白色、多量の石英細～粗砂粒 不良 におい橙色	外面胴部粗い刷毛目→雑な磨き。口縁部外側に輪積痕3段を残す。内面胴部篋撫で、口縁部刷毛目。
⑤	甕	7.5cm 埋土	15.5・ - ・ - 胴中位～口縁2/3 残	白色・石英細～粗砂粒 不良 におい黄橙色	外面胴部篋削り→雑な磨き。口縁部に輪積痕1段を残す。頸部に粗い刷毛目。内面胴～口縁部横撫で、口縁部横撫で。
⑥	甕	11cm	16.7・24.3・6.2 全体の1/3残存	多量の石英細砂～中礫粒 不良 におい黄橙色	外面-胴部篋削り、雑な磨き。口縁部に輪積痕3段と指頭圧痕を残す。内面-全体に篋撫で。

遺物番号	種別器種	出土位置	観察
⑦	砥石	29.0cm	自然石（河原石）利用の砥石で小口面を除き使用されている。割れは旧時である。表面にわずかな擦傷が残る。研磨主体は硬質の夾雑鉱物が盛り上がり残っているため軟質の研磨主体か。

87号住居跡（写真図版48～51頁、96～101頁）



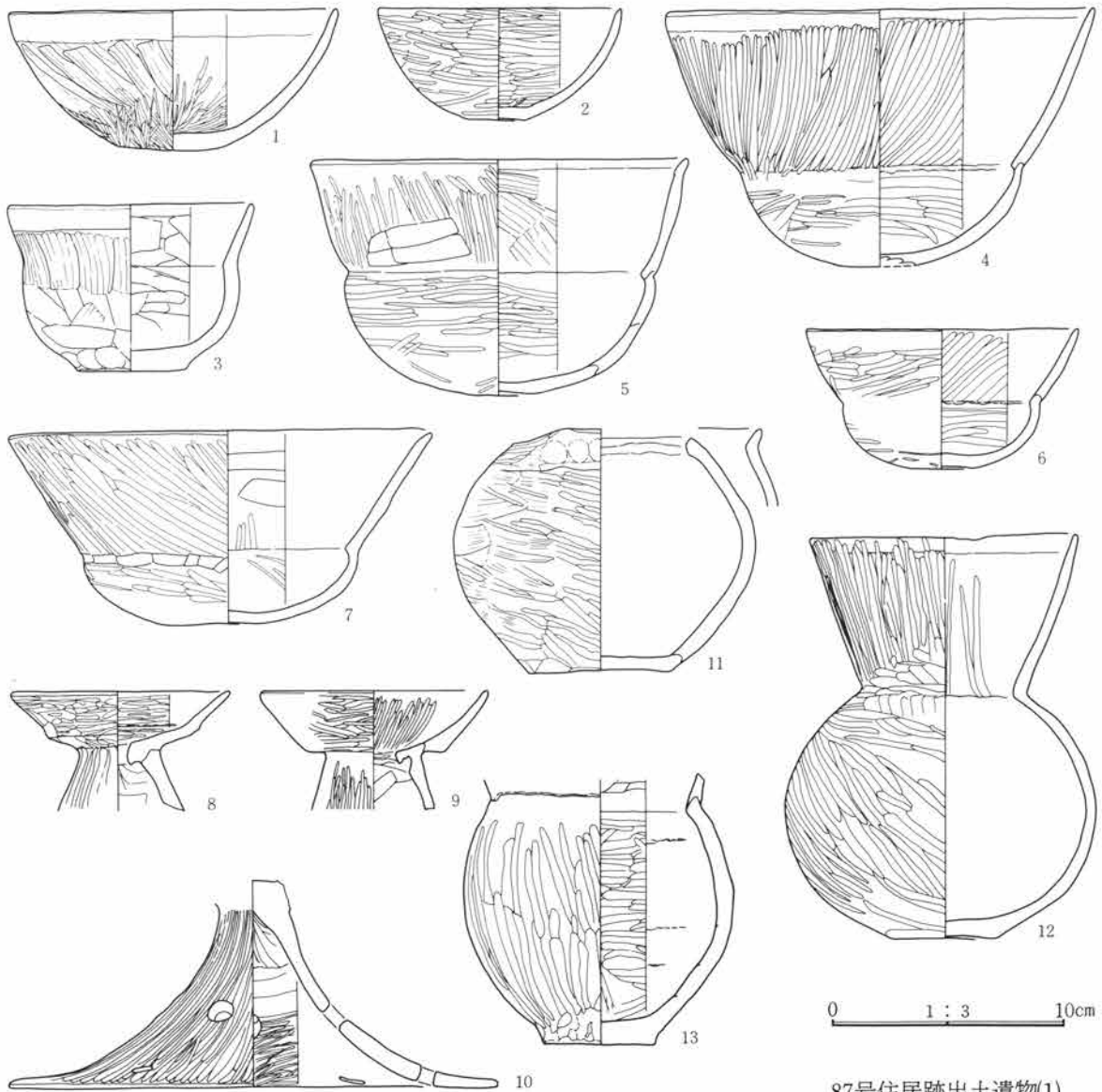
- 1 赤褐色土 少量のローム微粒子。
- 2 暗茶褐色土 多量のローム粒子、ロームブロック（2cm大）。
- 3 暗茶褐色土 2層に類似。多量のロームブロック（3～5cm）多。
- 4 黒褐色土 少量のローム粒子。
- 5 黒褐色土 4層+大粒のローム粒子、ロームブロック（2cm大）。

位置 20B-9 グリッド 方位 N-75.0°-E 形状 485×480cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は66cmを測る。壁溝は幅5cm、深度5cmを測る溝がほぼ全周し、壁溝内には杭の痕跡と思われる小ピットが並列する。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径17～20cm、深度28～44cmを測る。柱穴間は東西軸方向に210～216cm、南北軸方向に194～195

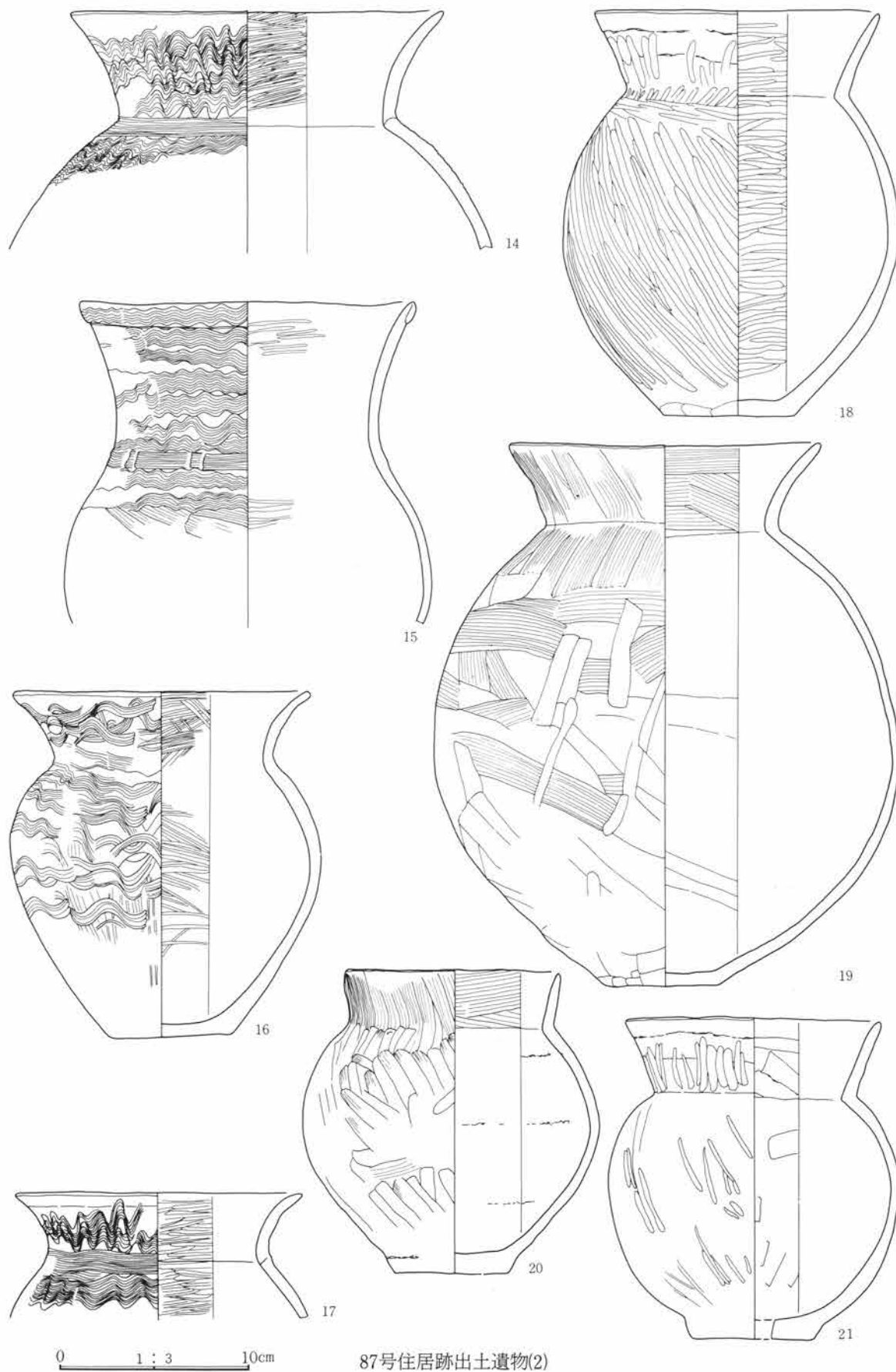


cmを測る。その他小ピットを数穴検出する。 貯蔵穴 南西コーナー付近に検出され、円形を呈し、径43cm、深度28cmを測る。 炉 住居中央北壁寄り、北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径43×52cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礫を置く。 重複 重複する遺構はない。

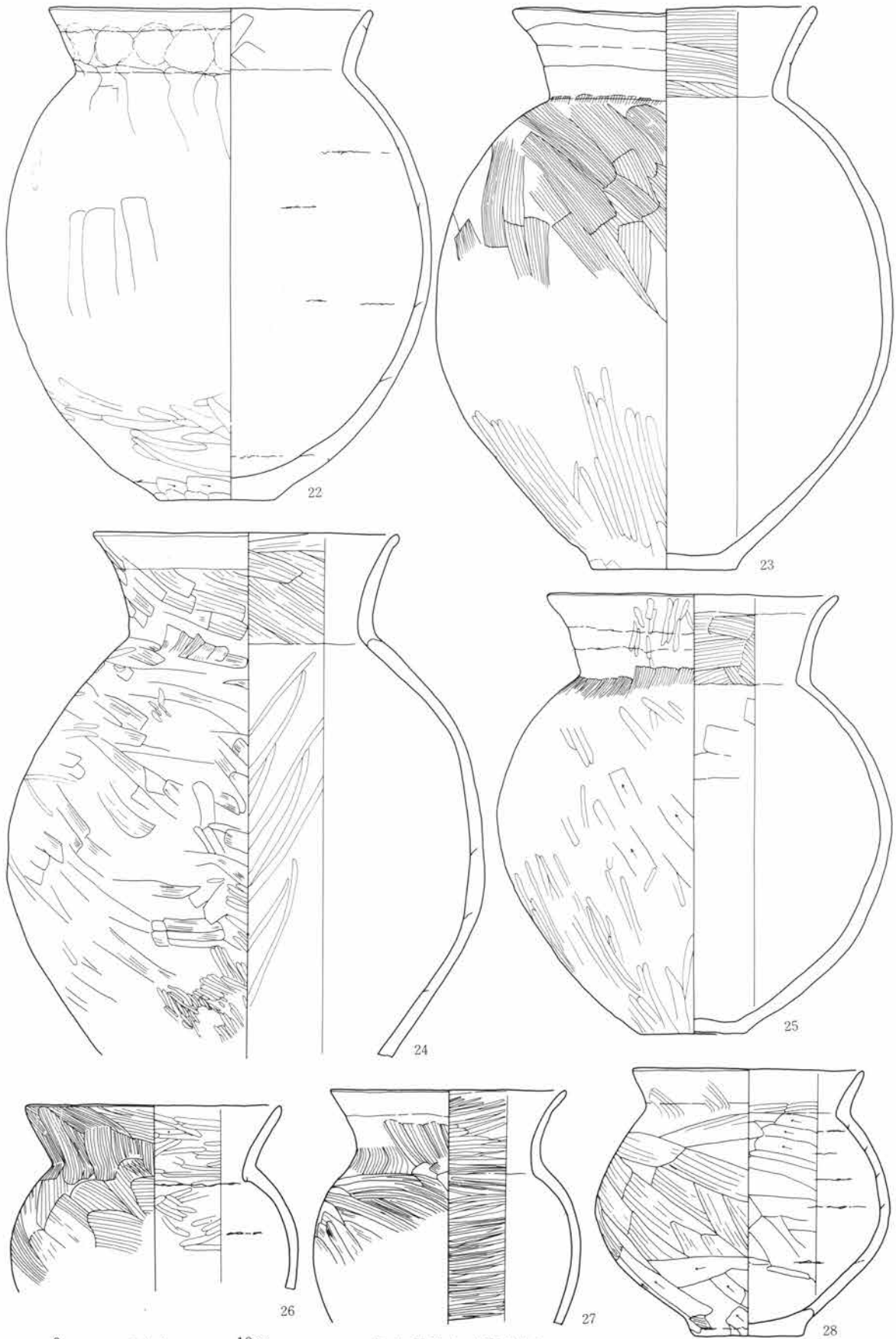
備考 本遺構は床面よりやや離れて多量の炭化物・灰・焼土が皿状に堆積するが、その堆積状況より上屋材の焼失による崩落とは考えられず、住居廃絶後の木材焼却と考えられる。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて多く、完形品の遺存度が極めて高い。遺物は、住居全面に散乱し出土するが、出土遺物はすべて前記の炭化物層の上面に位置し遺構に伴うものではないが、出土層位を同じくし、遺物の胎土・器形も類似しているものが多いことから、廃棄時においての一括性が高いものと考えられ、完形品の遺存度が高いことと、木材の焼却跡などから、廃絶後の住居跡内における何等かの祭祀行為の可能性も考えられる。また、この一括性が高いと考えられる出土遺物内には、弥生後期の樽式系土器から埴をはじめとする古式土師器に至る時間幅が見られると共に、甕 (No.16) のように波状文を施文しつつ器形に変化が見られる過渡期の遺物の出土もあり、遺物に見られる時間幅が実際は少なく、同時存在していたものと考えられる。



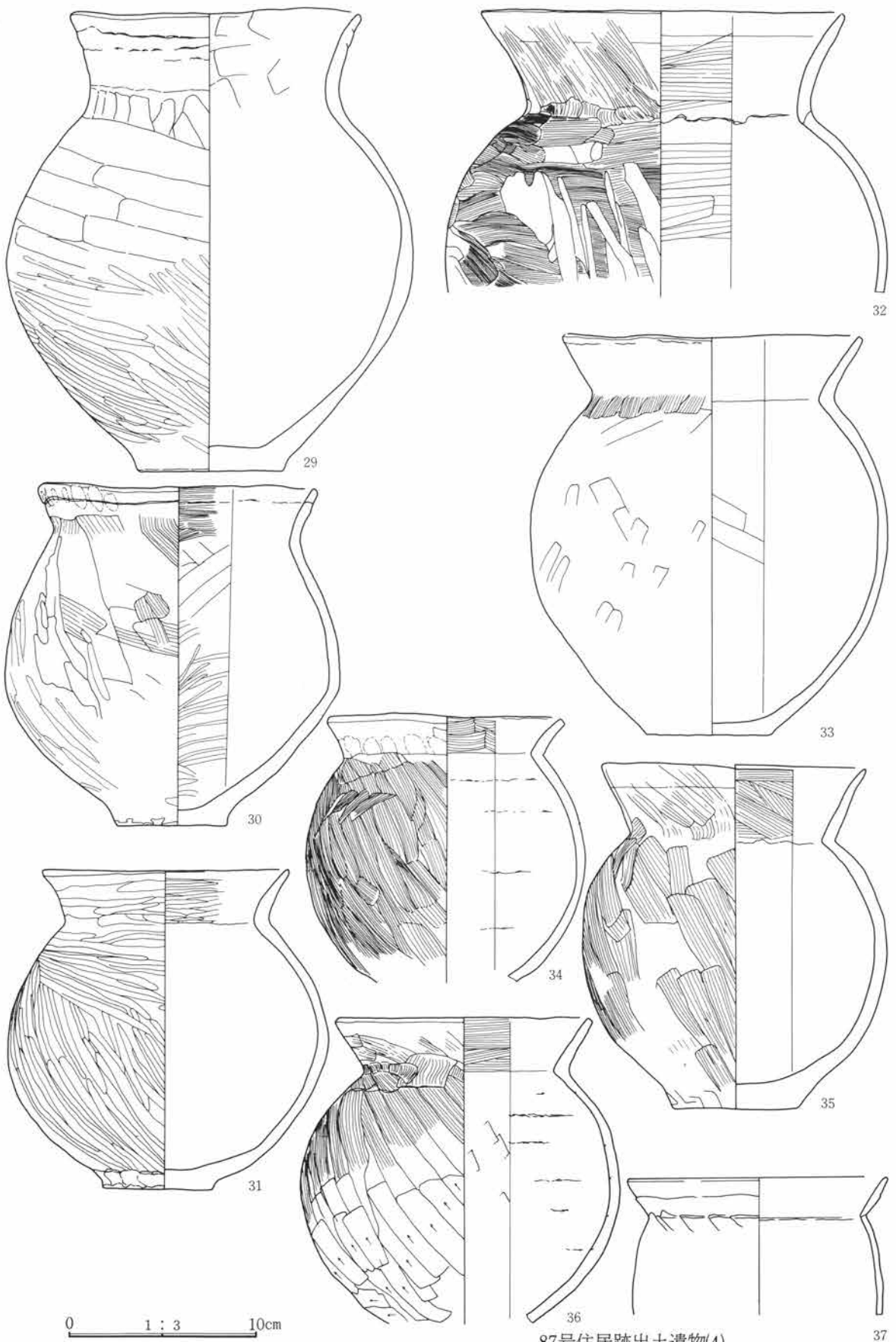
87号住居跡出土遺物(1)



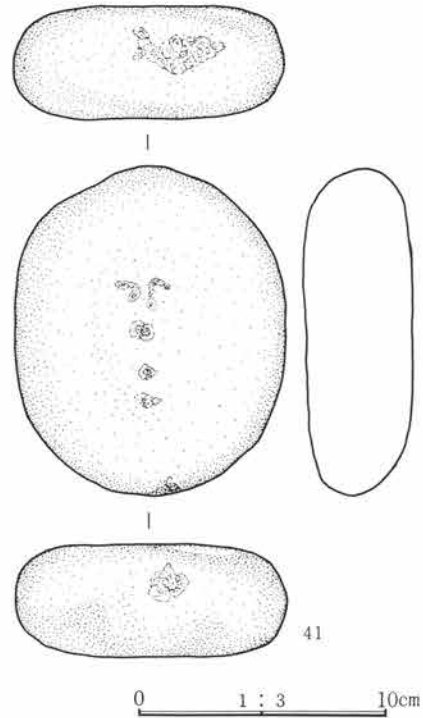
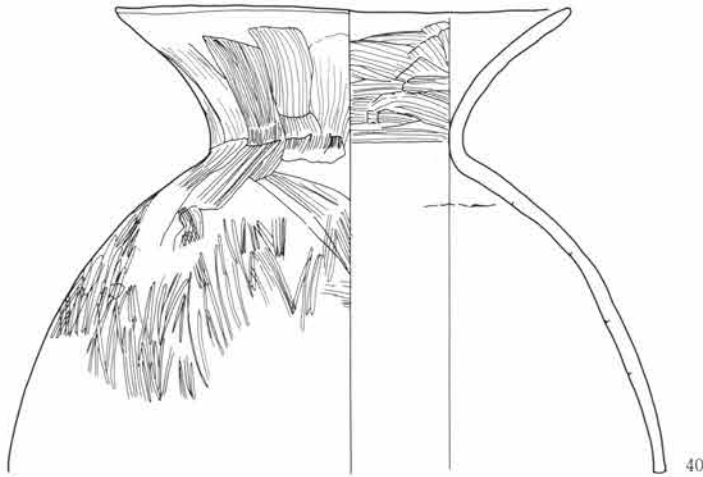
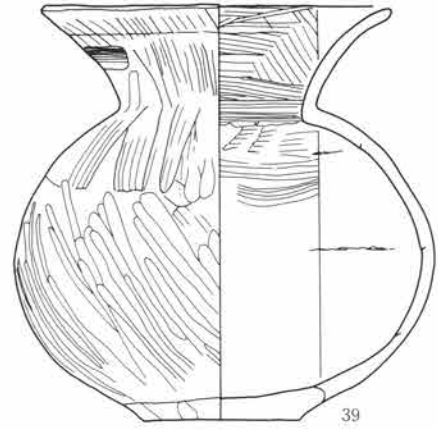
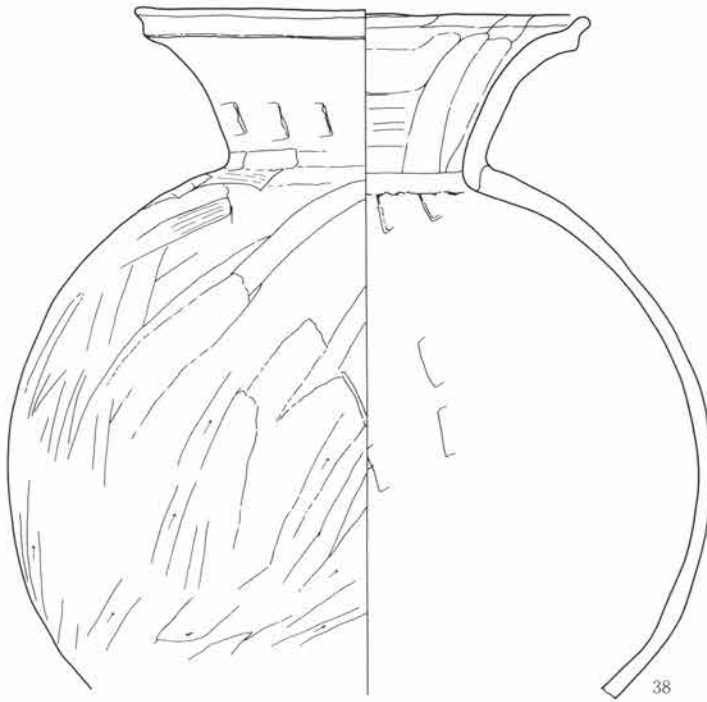
87号住居跡出土遺物(2)



87号住居跡出土遺物(3)



87号住居跡出土遺物(4)



87号住居跡出土遺物(5)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	27~42cm 埋土	13.9・5.8・3.8 口縁部一部欠損	白色~石英細砂粒 普通 にぶい橙~褐色	外面底部周辺篋研磨。体部上位弱い刷毛目。体部内面篋研磨。口縁部横撫で。
②	鉢	6.0cm	10.2・4.7・2.2 完形	白色~石英細砂粒 良好 橙色	外面底部篋削り。体部、内外面ともに丁寧な篋研磨。
③	埴	26.0cm 床直	10.4・6.9・4.6 底部~口縁部2/3 残	白色細砂粒、石英粗砂粒 普通 明赤褐色	外面-底部周辺雑な篋削り、体部は粗い刷毛目と指撫で。内面-撫で。口縁部横撫で。
④	埴	12cm	18.2・ - - - 完形	白色・石英細~粗砂粒 普通 にぶい橙色、灰褐色	内外面とも全体に粗い篋研磨。口縁部上位横撫で。
⑤	埴	8~13cm	16.1・9.8・ - 完形	白色・石英細~粗砂粒 良好 にぶい橙色	内外面とも研磨外面底部周辺一部篋撫で。口縁部上位横撫で。

第3章 検出遺構・遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑥	罎	4.5cm 埋土	11.5・5.8・－ 底部～口縁1/4残存	白色・石英細砂粒 普通 にぶい褐色	底部篋撫で。体部から口縁部は内外面ともに篋研磨、口縁部上位横撫で。
⑦	罎	36cm	18.0・8.0・－ 口縁部一部欠損	白～灰色・石英細～粗砂粒 普通 にぶい橙色、灰褐色	外面－底部周辺篋撫で、体部から口縁部篋研磨。内面－研磨、口縁部横撫で。
⑧	器台	床直埋土	9.3・－・－ 受台部のみ残存	白～灰色・赤褐色・石英細～粗砂粒 不良 赤灰色	受部内外面とも研磨。脚部外面研磨、内面篋削り。
⑨	器台	埋土	9.8・－・－ 脚上位～口縁部1/2	少量の白色細砂粒 普通 灰褐色	体部内外面・脚部外面研磨、脚部内面撫で。
⑩	高坏	床直埋土	－・－・－ 脚部のみ残存	白色・石英・赤褐色細～粗砂粒 良好 にぶい赤褐色	外面－縦方向の研磨。内面－篋撫で、一部研磨。上部しほり目残。脚部に2段、4+6ヶの穿孔。
⑪	鉢 (片口)	16.5cm 床直埋土	－・－・6.0 完形	白色細砂粒、多量の石英細～粗砂粒 普通 にぶい黄褐色	外面底部から口縁部篋削り→雑な研磨。内面－篋撫で。口縁部付近輪積痕残す。
⑫	罎	床直	11.3・16.8・4.4 完形	少量の白色細砂粒、多量の石英細砂粒 良好 橙、明赤褐	底部は篋撫で。外面－底部周辺篋削り、体部～口縁部丁寧な篋研磨。内面－体部篋撫で、口縁部篋研磨。
⑬	小形甕	30cm	－・－・4.6 口唇部欠損	白色・石英細砂粒 良好 橙色	底部篋削り。外面－胴部篋削り、縦方向研磨。口縁部横撫。内面－胴部篋磨き。口縁部刷毛目、輪積痕1段残す。
⑭	甕	20cm	19.2・－・－ 胴上位～口縁部残	白色・石英細砂粒、赤褐色円細礫 普通 明赤褐色	外面口～胴部上位波状文→頸部不直簾状文。口縁部上位横撫で。内面－胴部篋撫で。口縁部は雑な研磨。
⑮	甕	4.5～30.5cm 埋土	17.1・－・－ 胴上位～口縁部残	多量の白色・石英細砂粒 普通 にぶい橙色	外面胴部研磨、肩～口縁部2連止簾状文→上下に波状文施文。口縁部折り返し、波状文施文。内面全体研磨。
⑯	甕	床直	14.9・17.6・6.2 完形	白～灰・赤褐色・石英細砂粒 良好 橙色、灰褐色	外面－底部～胴部下半丁寧な篋撫で、胴部上半波状文を施文。口縁部上位横撫で。内面－全体に横方向の研磨。
⑰	甕	30cm	14.2・－・－ 口縁部小片	白色・石英細砂粒 良好 にぶい赤褐色	外面－波状文→簾状文、口縁部上位横撫で。内面－横方向の研磨。
⑱	甕	床直	14.5・20.6・6.7 完形	白色・石英細砂粒 普通 にぶい黄橙、黒褐色	外面－底部周辺篋削り、胴部篋磨き、口縁部輪積痕3段→篋押え。内面－全体に篋研磨。
⑲	甕	4～42cm 床直	16.0・27.6・5.7 胴部若干欠損	白色・石英・角閃石細～粗砂粒 普通 橙色	底部周辺篋削り。外面－胴部～口縁部刷毛目一部篋削り。内面－篋撫で、口縁部刷毛目。
⑳	甕	28cm	10.9・15.5・5.8 略完形	白色・石英細～粗砂粒 普通 にぶい黄褐、黒褐色	外面－胴部篋削り、口縁部縦方向刷毛目。内面－胴部篋撫で。口縁部横方向刷毛目。
㉑	甕	床直 5.0cm 埋土	13.1・16.4・6.3 胴部一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色、黒褐色	外面－底部～胴部篋削り→雑な篋撫で、口縁部3段の輪積痕→篋押え。内面－篋撫で、口縁部横撫で。
㉒	甕	5～45cm 埋土	16.2・25.4・6.1 胴部一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 にぶい橙色、灰褐色	底部周辺篋削り。外面－篋撫で、煤付着。口縁部輪積痕2段指押え→横撫で。内面－篋撫で。
㉓	甕	4.5cm 床直	15.7・28.6・7.5 略完形	多量の白色・石英細～粗砂粒 普通 にぶい黄橙、灰黄褐	外面－胴部刷毛目→胴部下半雑な磨き。口縁部輪積痕4段指頭圧痕を残す。内面－口縁部刷毛目。
㉔	甕	床直～27cm 埋土	15.7・－・－ 底部欠損	白色・角閃石細砂粒、石英粗砂粒 普通 にぶい黄褐色	外面－底部周辺研磨、胴部～口縁部刷毛目→胴部篋撫で。内面－篋撫で、口縁部横方向刷毛目。
㉕	甕	20～36cm	14.9・22.8・5.4 胴部一部欠損	白色～灰細砂粒、石英細多～粗砂粒 普通 にぶい黄褐色	外面－胴部篋削り→雑な篋磨き、口縁部輪積痕4段篋撫で、篋押え。内面－胴部篋撫で、口縁部刷毛目。

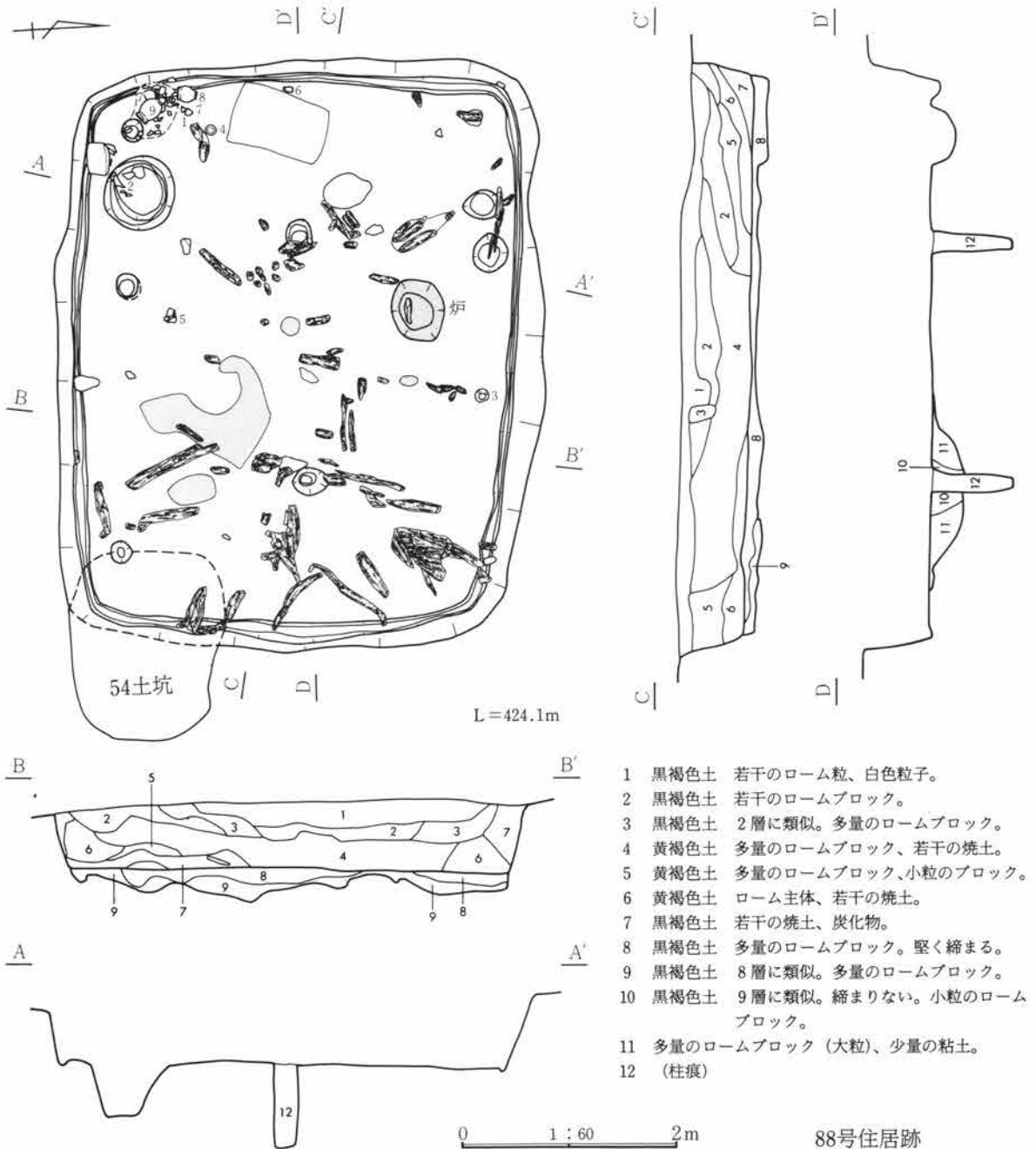
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
②⑥	甕	5～28cm 床直	13.2・ - ・ - 胴上位～口縁部残	白色・石英細～粗砂粒 普通 黒褐色、にぶい赤褐色	外面－全体に粗い刷毛目。内面－胴部横研磨。 口縁部粗い刷毛目→横方向の研磨。
②⑦	甕	42cm 埋土	12.2・ - ・ - 胴上位～口縁1/2 残	白色・赤褐色・石英細砂粒 良好 明赤褐色、黒褐色	外面－胴部～口縁部粗い刷毛目。口縁部上位 横撫で。 内面－胴部～口縁部横方向の研磨。
②⑧	甕	床直	11.9・13.6・ 5.6 完形	多量の白～灰色・石英細砂粒 良好 にぶい橙色	外面－底部～胴部下半篋撫で、胴部上半弱い 刷毛目。 内面－篋撫で、口縁部刷毛目横撫で。全体に 丁寧な調整。
②⑨	甕	24～42cm 床直埋土	15.2・23.4・ 7.5 口縁と胴の一部欠	少量の白色細砂粒、多量の石英細 ～粗砂粒 普通 橙色	外面－胴部下半研磨、上半篋撫で。口縁部撫 で輪積痕3段残す。内面－篋撫で、口縁部横 撫で。
③⑩	甕	21～28cm	14.5・17.5・ 5.7 胴部一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 褐灰色、橙色	外面－胴部刷毛目→雑な研磨。口縁部輪積痕 2段、指頭圧痕→横撫で。内面－篋磨き、口 縁部刷毛目。
③⑪	甕	22～28cm 埋土	12.9・16.4・ 5.7 胴部一部欠損	少量の白色細砂粒、多量の石英細 ～粗砂粒 普通 橙、黒褐	底部篋削り。外面－胴部～口縁部研磨。口縁 部上位横撫で。内面－胴部篋撫で、口縁部研 磨。
③⑫	甕	28cm	18.9・ - ・ - 胴上位～口縁部残	白色細砂粒 普通 灰褐色	外面－胴部上位～口縁部粗い刷毛目。口縁部 上位横撫で。内面－胴部篋撫で、口縁部刷毛 目→横撫で。
③⑬	甕	4～20.5cm 埋土	15.1・20.5・ 6.5 胴部一部欠損	白～灰色・石英細砂粒 普通 橙色、灰褐色	底部周辺篋削り。外面－胴部篋撫で。口縁部 輪積痕若干残し、横撫で。内面－篋撫で。
③⑭	甕	8～42cm 床直埋土	12.3・ - ・ - 底部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 橙色	外面胴部篋削り→刷毛目。口縁部輪積痕を残 し指押え、口唇部外傾する平坦面をもつ。内 面－口縁部粗い刷毛目。
③⑮	甕	9～27cm 埋土	13.8・17.5・ 6.5 胴・底部一部欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 暗褐色	外面・底部篋撫で、胴・口縁部粗い刷毛目。 内面・胴部下半篋削り、上半刷毛目、口縁部 端撫で。
③⑯	甕	24cm	13.3・ - ・ - 底部欠損	白色細～粗砂粒 少量の石英細砂 粒 普通 橙色	外面胴下半篋削り、胴上半粗い刷毛目、口縁 部横撫で。口唇部外傾する平坦面。内面－胴 部篋撫で、口縁刷毛目。
37	甕	- 5 cm	13.6・ - ・ - 胴上位～口縁部 1/2	白色・石英細・粗砂粒 普通 にぶい黄橙色	口縁部に2段輪積痕を残す。口縁部横撫で。 体部内外面撫で。頸部刷毛目を残す。
③⑰	壺	3.5cm 床直	18.0・ - ・ - 胴下半部欠損	黒色・石英細砂粒、雲母 良好 にぶい橙色、褐灰色	胴部内外面とも篋撫で。口縁部横撫で。
③⑱	壺	12cm	13.2・16.3・ 6.1 胴部一部欠損	白色・石英細砂粒 良好 暗赤灰、にぶい橙色	外面－胴部～口縁部粗い刷毛目→雑な研磨。 内面－胴部下半篋撫で、胴部上半粗い刷毛目。 口縁部撫で。
④⑩	壺	5～9.5cm	18.0・ - ・ - 胴下半部欠損	白色・赤褐色、石英細砂粒 普通 にぶい橙色、黒褐色	外面－胴部～口縁部粗い刷毛目。口縁部上位 横撫で。内面－胴部篋撫で、口縁部粗い刷毛 目。
41	円礫	35cm	長径13.0cm、短径10.7cm、厚さ4.2cmを測る。使用面ははっきりせず、表側と両小口に浅い凹が残されている。その凹は人為による。石材は鑑定を経ていないため明瞭でない。		

## 88号住居跡 (写真図版52～53頁、101～102頁)

位置 17B-16グリッド 方位 N-80.5°-W 形状 530×440cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は60cmを測る。壁溝は幅10cm、深度8cmを測る溝がほぼ全周する。

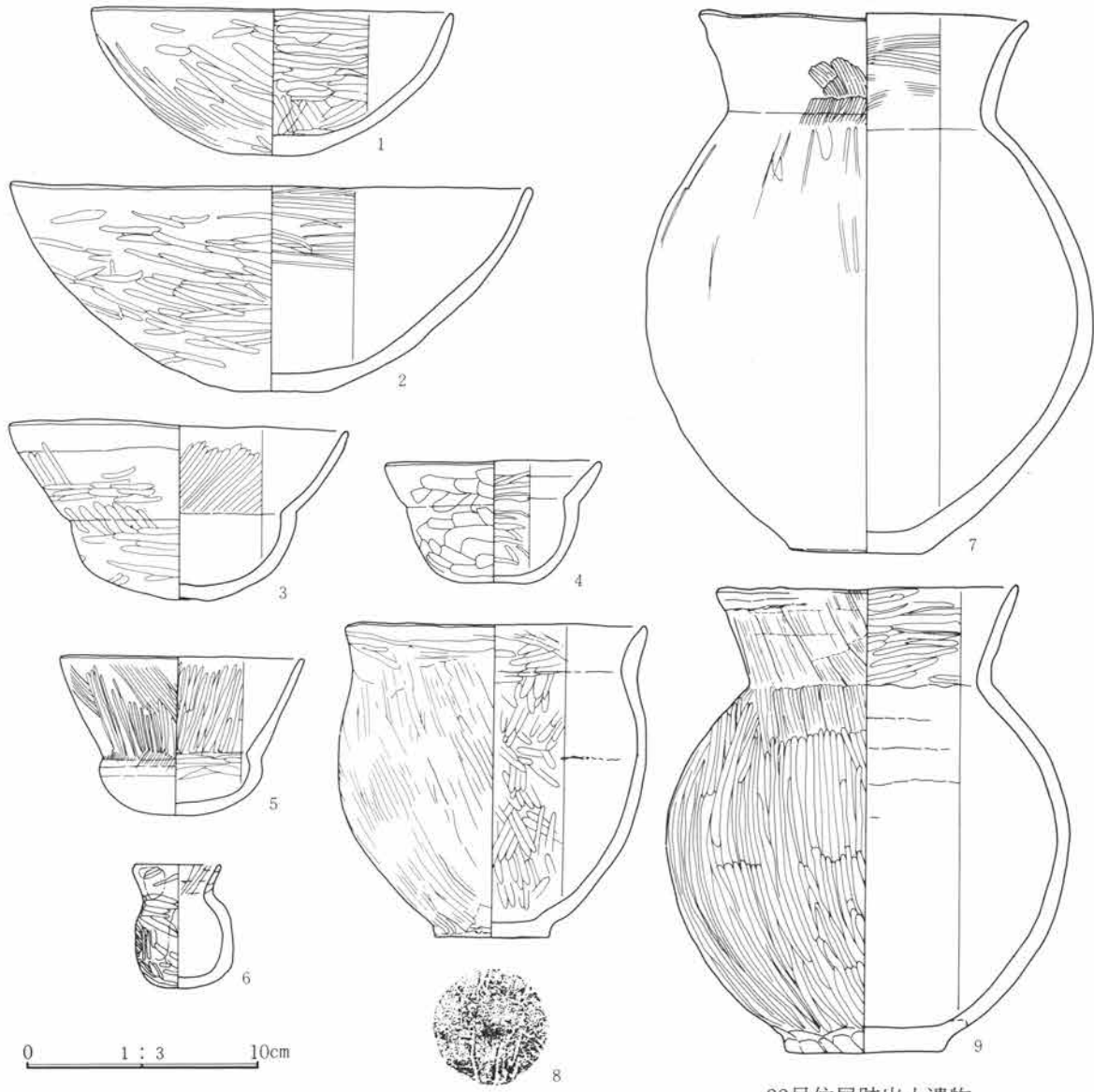
床面 床はローム混じりの黒褐色土を叩く貼り床。堅く締まりが強い。貼り床は住居壁際に近い所ほど厚く貼られ、住居中央部は一部地山を残す。 柱穴 2穴検出され、径23～32cm、深度は深く、76～77cmを測る。柱穴間は東西軸方向に219cmを測る。 貯蔵穴 南西コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径65～

67cm、深度44cmを測る。 炉 住居中央北壁寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径57cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礎を置く。 重複 54号土坑と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が新しいと判断される。また、直接の重複はないものの5号住居跡（平安時代）と近接する。 備考 本遺構の床面上には多量の炭化材が放射状に検出され、その形状は棒状のものから板状のものまであり、上屋根材の焼失による崩落と考えられ、焼失家屋である可能性が高い。しかし、床面、及び壁の焼土化はみられなかった。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多く、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居南西コーナー部に集中し出土するが、出土遺物は、甕（No.7, 8）、鉢（No.1）、埴（No.3, 4）が床面直上壁際付近よりの出土であるほかは、大半が前記の炭化材上面よりの出土であり、住居廃絶後の廃棄によるものと考えられる。特筆すべき出土遺物として、底部に木葉痕をもつ甕（No.8）、ミニチュア壺（No.6）の出土がある。



- 1 黒褐色土 若干のローム粒、白色粒子。
- 2 黒褐色土 若干のロームブロック。
- 3 黒褐色土 2層に類似。多量のロームブロック。
- 4 黄褐色土 多量のロームブロック、若干の焼土。
- 5 黄褐色土 多量のロームブロック、小粒のブロック。
- 6 黄褐色土 ローム主体、若干の焼土。
- 7 黒褐色土 若干の焼土、炭化物。
- 8 黒褐色土 多量のロームブロック。堅く縮まる。
- 9 黒褐色土 8層に類似。多量のロームブロック。
- 10 黒褐色土 9層に類似。縮まりない。小粒のロームブロック。
- 11 多量のロームブロック（大粒）、少量の粘土。
- 12 （柱痕）





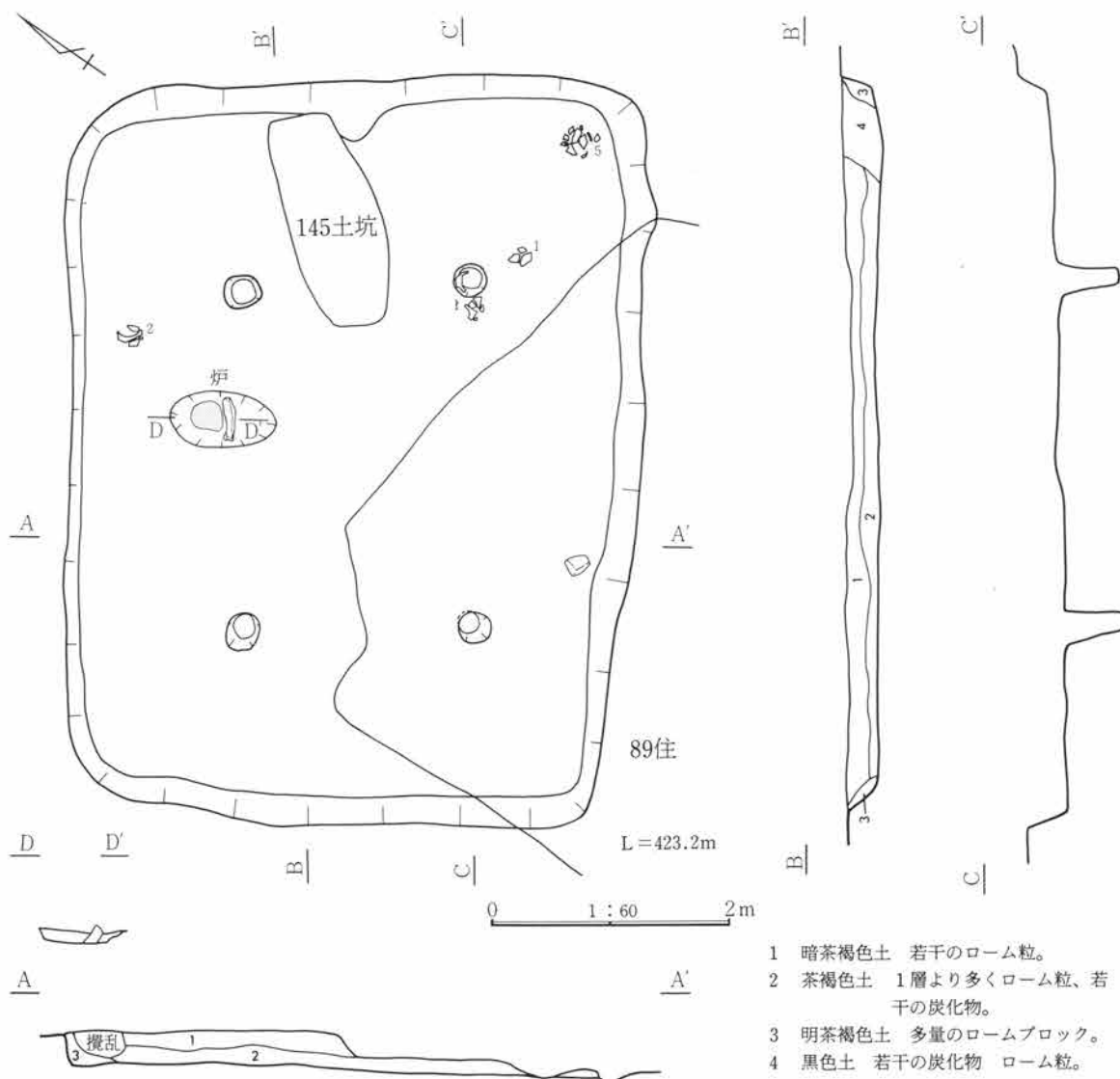
88号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	床直	15.3・6.1・3.3 完形	白色・石英細砂粒 やや不良 におい橙色	底部篋撫で。体部内外面とも研磨。口縁部にやや稜をもち垂直に立ち上がる。
②	鉢	-36.5cm	22.1・8.6・5.1 口縁一部欠損	白色・石英細砂粒 普通 明赤褐色、黒褐色	外面一底部周辺篋撫で。体部内外面とも研磨。口縁部外面上位横撫で。円面底部磨減。
③	柑	床直	14.5・7.2・ 口縁一部欠損	白色・石英細砂粒 普通 におい橙色、黒褐色	底部篋削り。体部〜口縁部、内外面ともに研磨。口縁部上位横撫で。
④	柑	床直	9.1・5.1・ 完形	白色・石英細砂粒 良好 におい橙色、黒色	底部篋削り。外面一体部〜口縁部、刷毛目→篋撫で。内面全体に研磨。
⑤	柑	52.5cm	10.4・6.1・ 全体の1/3残存	白色・石英細砂粒 普通 明赤褐色	外面一体部撫で、口縁部刷毛目→研磨。内面一体部〜口縁部研磨。口唇部横撫で。
⑥	ミニチュア壺	32.5cm	3.7・5.2・ 口縁部一部欠損	少量の白色細砂粒 普通 におい橙色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部内外面、胴部・底部外面丁寧な研磨。胴部内面は撫で。

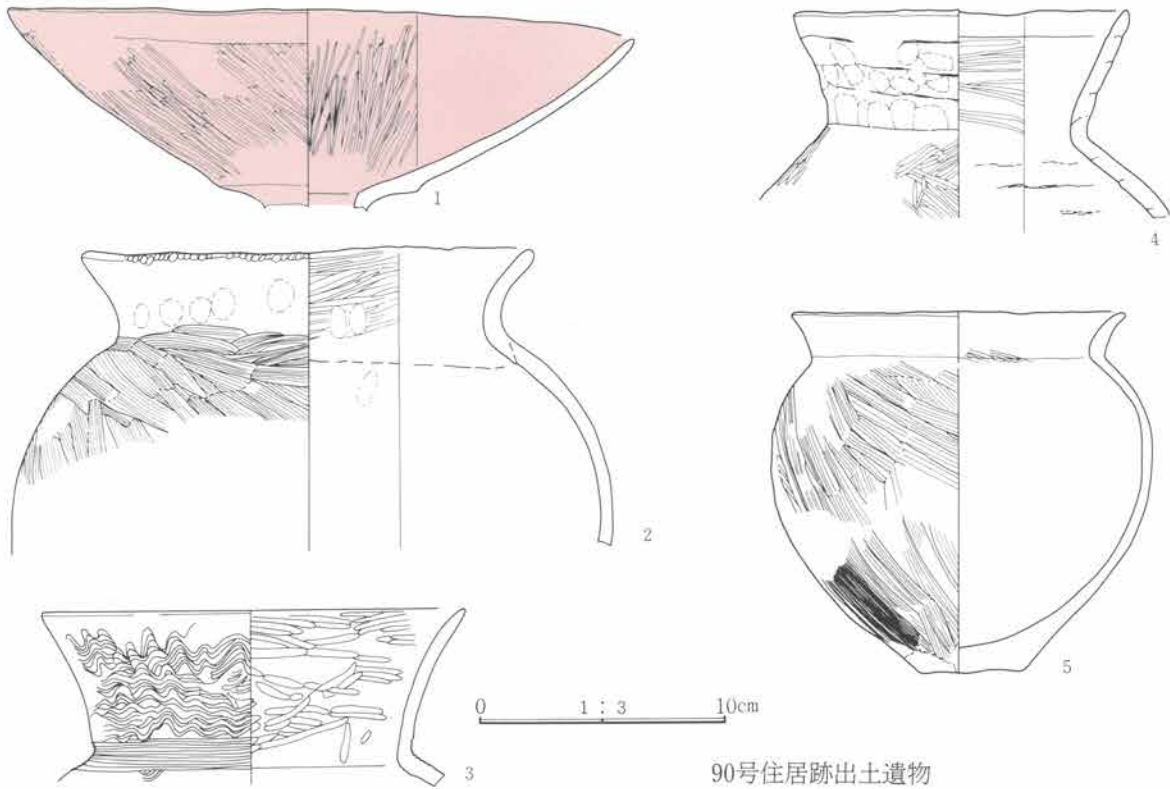
遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑦	甕	床直	13.2・22.5・5.3 完形	多量の白・黒・石英細～粗砂粒 不良 におい橙、黒褐	外面-底部～胴部下半箇所撫で、胴部上半～口縁部刷毛目→研磨、口縁部上位横撫で。外面に煤付着。内面-撫で。
⑧	甕	床直	12.8・13.1・4.9 完形	少量の白色・石英細砂粒 良好 黒褐色	外面-底部木葉痕。胴部～口縁部粗い刷毛目。内面-胴部研磨 口縁部刷毛目→研磨。
⑨	甕	7cm	12.7・19.5・6.6 完形	白色・石英細～粗砂粒 良好 におい橙色	底部箇所削り。外面-胴～口縁粗い刷毛目→胴下半研磨。口縁部輪積痕やや残す。内面-撫で、口縁刷毛目→雑磨

90号住居跡 (写真図版53頁、102頁)

位置 3B-9グリッド 方位 N-55.5°-E 形状 610×470cmを測る隅丸長形状のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡る。壁高は30cmを測り、壁溝はなし。 床面 床はローム地床。堅く締め込みが強い。 柱穴 4穴検出され、径25～33cm、深度43～50cmを測る。柱穴間は東西軸方向に275～285cm、南北軸方向に185～190cmを測る。 貯蔵穴 なし。 炉 住居北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径25×29cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礫を置く。 重複 89号住居跡(平



安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。また、145号土坑(縄文時代)と重複し、新旧関係は遺構の確認状態等より本遺構の方が新しいと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、甕(No.2, 5)、高坏(No.1)は床面直上よりの出土である。



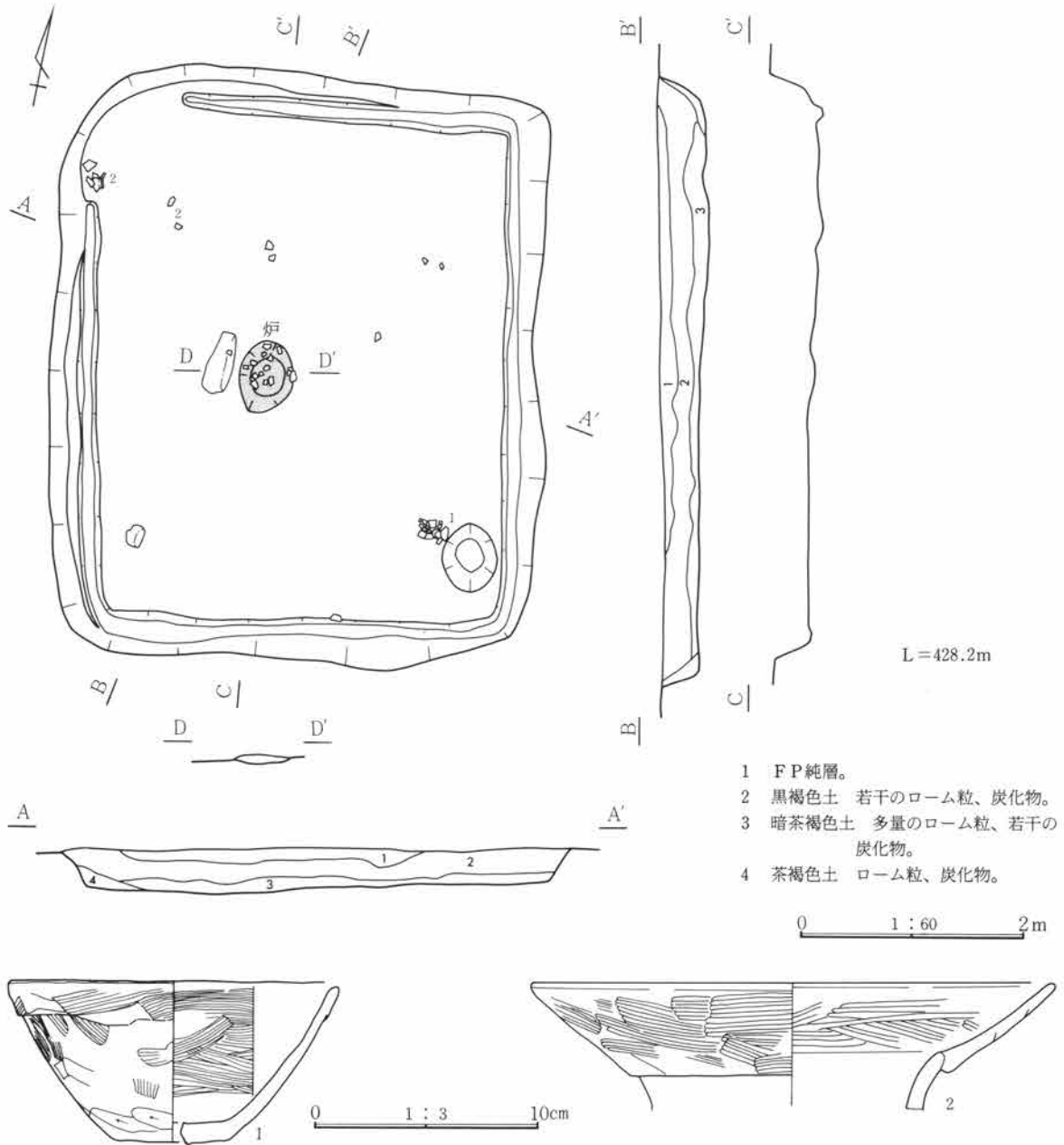
90号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目(cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	高坏	5cm 床直	25.0・ - ・ - 坏部のみ残存	白色・石英細砂粒 普通 赤色	内外面とも丁寧な研磨→内外面とも赤色塗彩。
②	甕	床直	18.1・ - ・ - 胴上位~口縁部残	白色・赤褐色・石英細~粗砂粒 普通 明赤褐色	外面-胴部刷毛目、口縁部指押え→横撫で。内面-篋撫で口縁部研磨。口唇部に縄原体圧痕。
3	甕	埋土	17.0・ - ・ - 口縁部1/4	白色・石英細・粗砂粒 普通 にぶい橙色	口縁部外面櫛描波状文、頸部は波状文の後に櫛描不止簾状文(直線文)内面研磨。
④	甕	埋土	13.1・ - ・ - 胴上位~口縁部残	白色・石英細砂粒 普通 にぶい黄橙、黒褐色	外面-胴部研磨。口縁部輪積痕4段残し指押え→上位横撫で。内面-胴部篋削り。口縁部研磨。
⑤	甕	床直	13.1・14.1・4.0 胴部の1/3欠損	白色・石英細~粗砂粒 普通 橙色、黒褐色	外面-底部篋削り、胴部刷毛目。内面-胴部篋撫で、口縁部刷毛目→横撫で。

100号住居跡 (写真図版54頁、103頁)

位置 22D-24グリッド 方位 N-120°-W 形状 507×435cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁は直線的に巡り、壁高は42cmを測る。壁溝は幅18cm、深度10cmを測る溝が北西コーナー部を除きほぼ全周する。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 なし。貯蔵穴 南東コーナー部付近

に検出され、円形を呈し、径60cm、深度34cmを測る。 炉 住居中央やや西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径49×64cmを測る。炉は地床炉で中央西側には楕円形の磔を置く。 重複 重複する遺構はない。 備考 本遺構は埋土土層より、埋没の最終段階を榛名山二ツ岳軽石(FP)により埋没している。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。



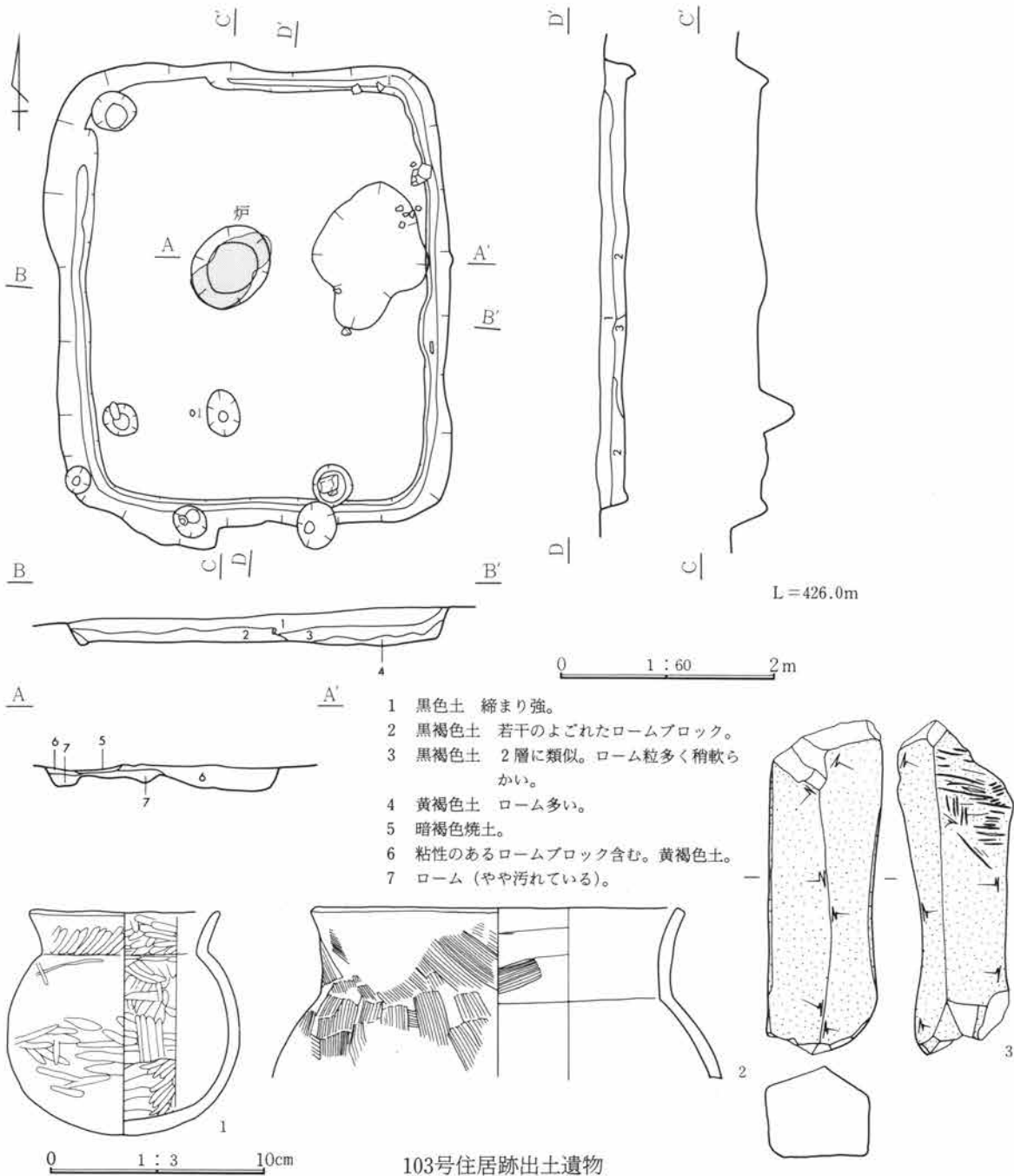
- 1 FP純層。
- 2 黒褐色土 若干のローム粒、炭化物。
- 3 暗茶褐色土 多量のローム粒、若干の炭化物。
- 4 茶褐色土 ローム粒、炭化物。

100号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	甕	5.0cm	14.6・7.0・5.0 口縁一部欠損	白色・石英細砂粒 普通 赤褐色、黒褐色	外面一刷毛目→寛撫で。内面一底部研磨、体部粗い刷毛目。口縁部折り返し。
②	壺	12、16、22 cm	23.0・ - ・ - 口縁部のみ残存	多量の石英細・粗砂粒 細磔 普通 におい黄橙色	有段口縁部。外面刷毛目の後、粗い研磨。内面刷毛目。

103号住居跡 (写真図版55頁、103頁)

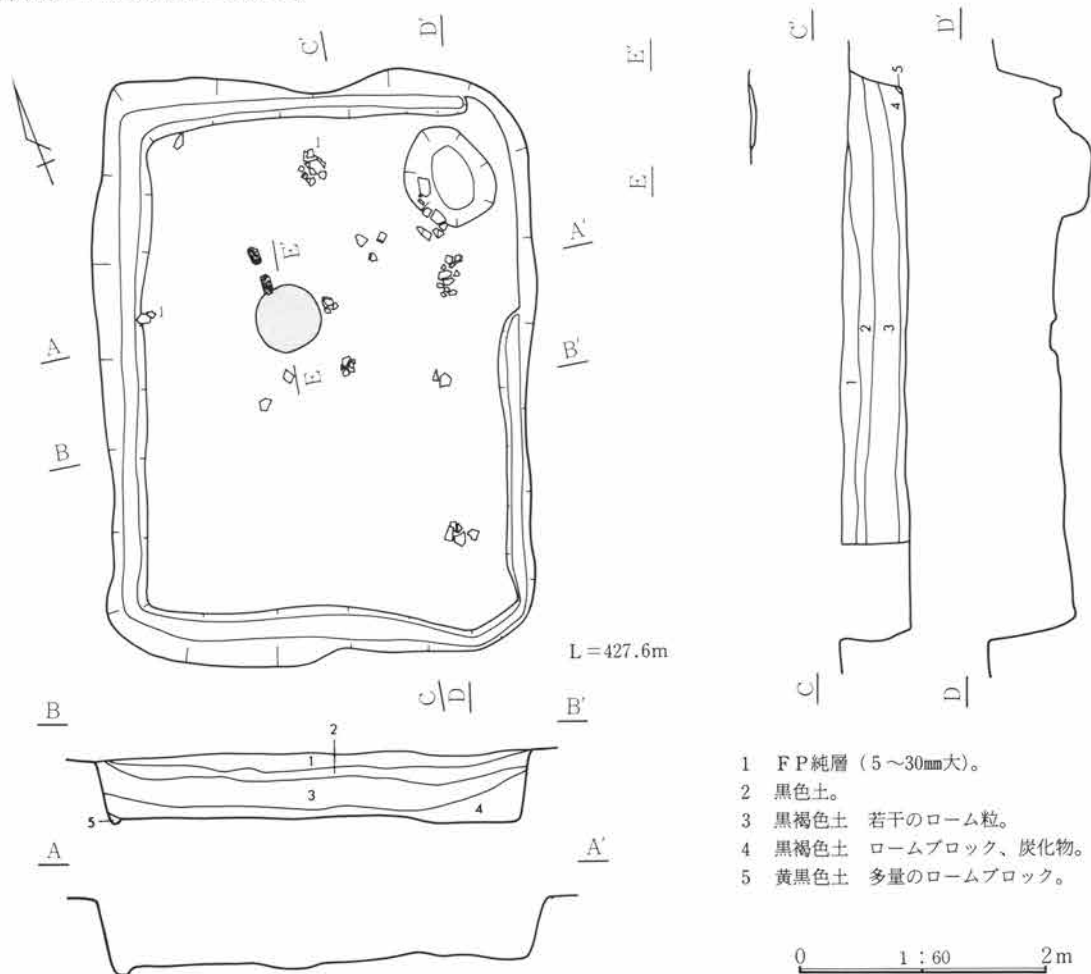
位置 6D-23グリッド 方位 N-0.0°-E 形状 410×365cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は33cmを測る。壁溝は幅15cm、深度7cmを測る溝が北西コーナー部を除きほぼ全周する。床面 床はローム地床でやや軟質。柱穴 床面上より7穴検出され、径30~42cm、深度30~57cmを測るが、平面上のプランが不定形のため柱穴か否かは明らかではない。貯蔵穴 なし。炉 住居中央やや北西寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径68cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は住居全面に散乱し出土し、床面よりやや離れた位置での出土である。

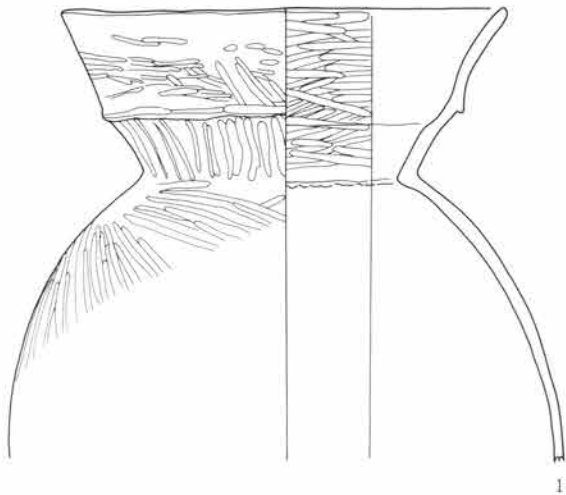


遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	15.8cm 埋土	8.7・10.1・ 全体2/3残存	白色細砂粒、石英細砂多 普通 におい橙色	外面一体～口縁部篋削り→雑な篋磨き。口縁部上位横撫で。内面一体部～口縁部篋磨き。
②	甕	埋土	17.1・ 頸部～口縁1/3残存	白色・石英細砂粒 普通 黒褐、におい黄橙色	外面-粗い刷毛目→口縁部上位横撫で。口唇部平坦。 内面-撫で。
③	石器 砥石	埋土		自然石(壊石)利用砥か。使用面は両小口を除く五面体。質は極めて細かく精仕上げが可能。硬さは硬めの名倉級で金属砥。側部には刃傷あり。材質は黒色頁岩。	

105号住居跡 (写真図版56頁、103頁)

位置 18D-20グリッド 方位 N-19.5°-E 形状 460×355cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は64cmを測り、直に立ち上がる。幅15cm、深度9cmを測る北東コーナー部を除き溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 なし。貯蔵穴 北東コーナー部付近に検出され、楕円形を呈し、径65～80cm、深度24cmを測る。 炉 住居中央やや北西寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径53cmを測る地床炉。 重複 重複する遺構はない。備考 本遺構は埋没の最終段階を榛名山ニッ岳軽石(FP)による。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱する。出土遺物中、壺(No.1)は床面直上よりの出土である。



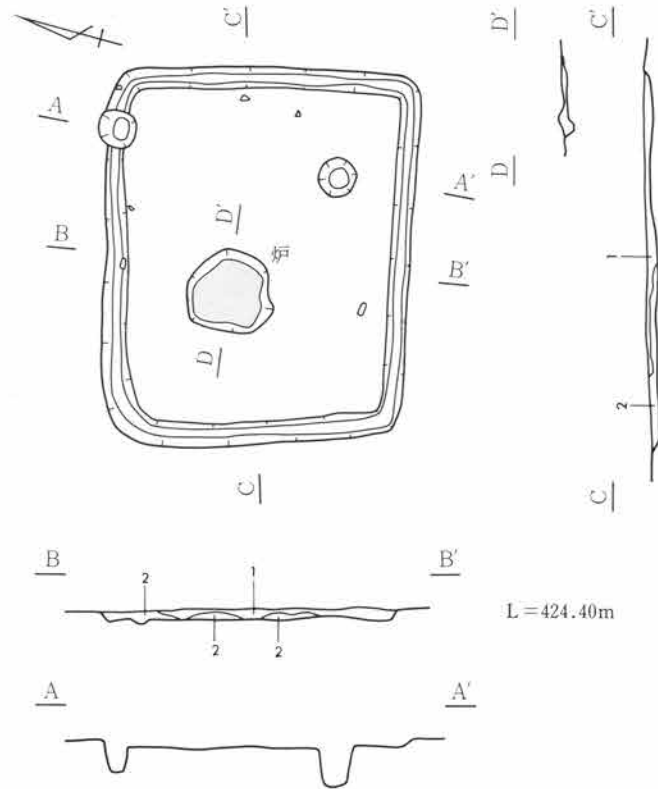


番号 器種	量目・残存率 胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
① 壺	17.1・ - ・ - 胴中位～口縁部1/2残存 少量の白色・石英細砂粒 普通 におい橙色	外面-胴部～口縁部篋削り →篋磨き、口縁部上位横撫 で。内面-胴部篋撫で、口 縁部横方向の篋磨き。

105号住居跡出土遺物 0 1:3 10cm

### 106号住居跡 (写真図版57頁)

位置 22B-11グリッド 方位 N-19.6°  
-W 形状 300×240cmを測る隅丸方形の  
プランを呈し、壁は直線的に巡り、壁高は  
8cmを測る。壁溝は幅10cm、深度13cmを測る  
溝がほぼ全周する。床面 床はローム地  
床でやや軟質。柱穴 2穴検出され、径  
22~30cm、深度20~30cmを測る。  
貯蔵穴 なし。 炉 住居中央西寄りの位  
置に設けられ、円形を呈し、径54×56cmを測  
る地床炉。重複 重複する遺構はない。  
遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて  
少なく、出土位置も床面より離れる。

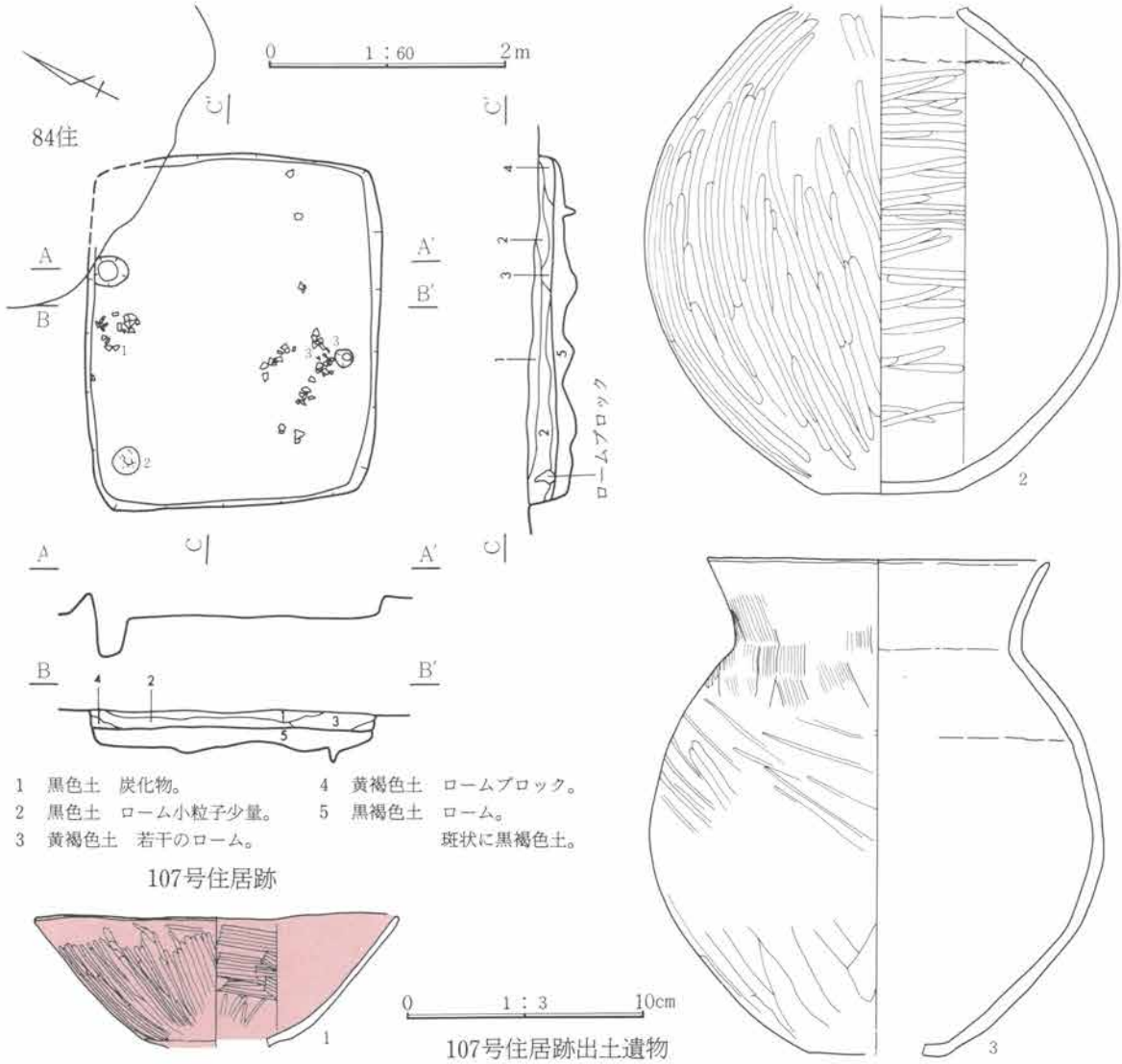


- 1 黒色土 炭化物、若干のローム粒。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒、若干の炭化物。

0 1:60 2m

### 107号住居跡 (写真図版57頁、103頁)

位置 9B-6グリッド 方位 N-29.7°-W 形状 290×245cmを測る隅丸方形のプランを呈し、  
壁は直線的に巡り、壁高は22cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム混じりの黒褐色土を叩く貼り床  
でやや軟質。柱穴 2穴検出され、径15~33cm、深度19.5~32cmを測る。貯蔵穴 なし。  
炉 床面上において明瞭な炉跡は検出でき得なかった。重複 84号住居跡(平安時代)と重複し、新旧  
関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比  
較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土し、壺(No.2)  
が床面直上よりの出土であるほかは、床面よりやや離れたの出土である。



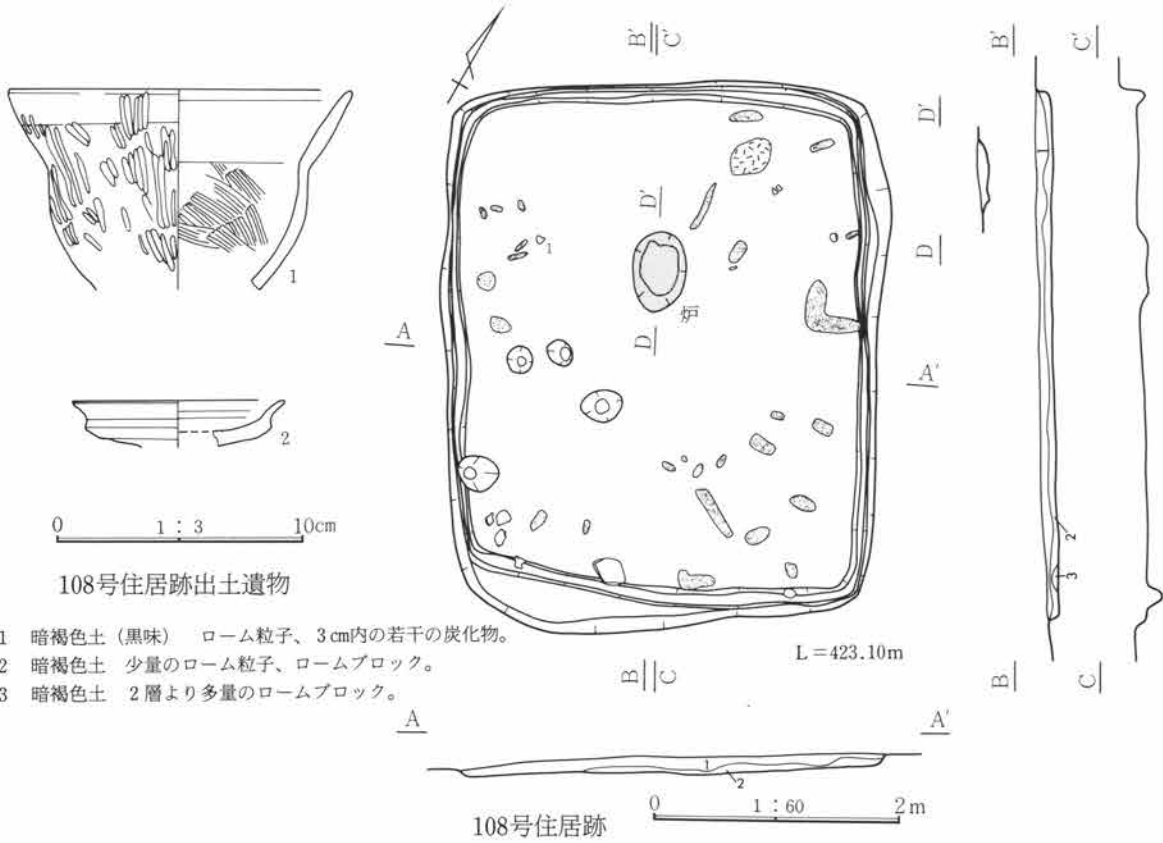
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	高坏	5~6cm	15.0・ - ・ - 坏部のみ残存	少量の白色・石英細砂粒 普通 明赤褐色、暗赤褐色	外面-縦方向の笕磨き。内面-粗い刷毛目→笕磨き。 内外面赤色塗彩。
②	壺	床直	- ・ - ・ 5.8 口縁部欠損	白色・石英細~粗砂粒 普通 ぶい橙色	外面-笕削り→雑な笕磨き。内面-笕撫で。
③	甕	11~17cm 埋土	14.0・20.3・5.7 全体の1/3残存	白色・石英細・粗砂粒 普通 褐灰色	外面-粗い刷毛目→笕撫で。口縁部上位横撫で。 内面-笕撫で。

108号住居跡 (写真図版58頁、103頁)

位置 6B-9グリッド 方位 N-34.0°-W 形状 430×345cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は19cmを測る。壁溝は幅13cm、深度9cmを測る溝がほぼ全周する。  
床面 床はローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。やや軟質。 柱穴 床面上よりピット4穴が検出され、径20~35cm、深度11~18cmを測るが、位置的に柱穴とは判断できない。 貯蔵穴 なし。 炉 住居中



中央壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径45×65cmを測る地床炉。 重複 重複する遺構はない。  
 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、埴 (No.1) が床面直上よりの出土であるほかは、出土位置も床よりやや離れる。

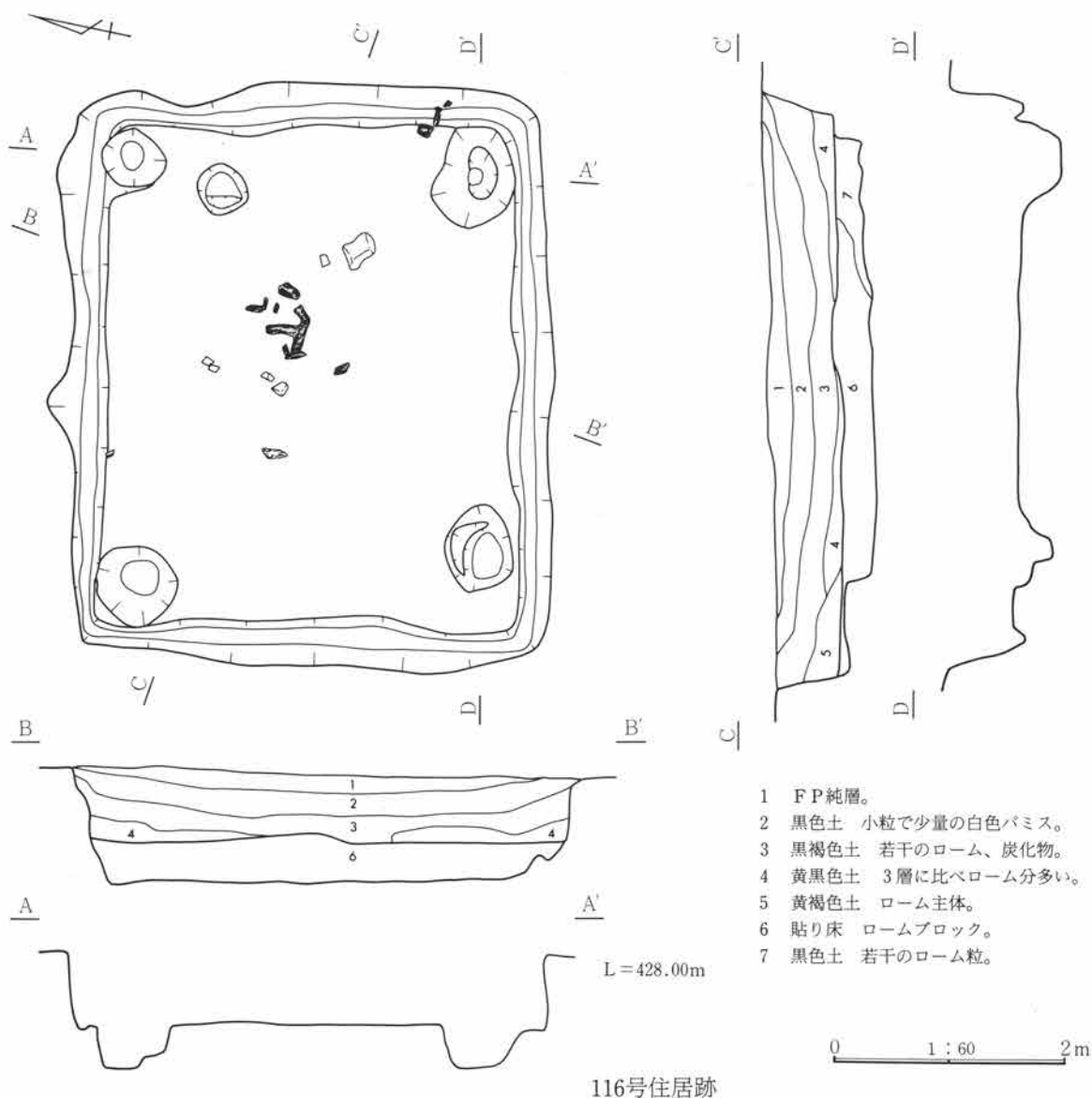


- 108号住居跡出土遺物
- 1 暗褐色土 (黒味) ローム粒子、3cm内の若干の炭化物。
  - 2 暗褐色土 少量のローム粒子、ロームブロック。
  - 3 暗褐色土 2層より多量のロームブロック。

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	床直	13.8・ - ・ - 体部~口縁部1/5	白色粗砂粒 普通 橙色、黒色	口縁部横撫で。体部外面研磨、内面刷毛目、全体に器面の剝離が著しい。
2	器台	埋土	8.4・ - ・ - 受部1/4	白色・石英細・粗砂粒 角閃石 普通 ぶい橙色	口縁部横撫で。体部内外面撫で。 口縁部S字状を呈す。

116号住居跡 (写真図版59頁)

位置 23D-18グリッド 方位 N-77.0°-E 形状 490×410cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は60cmを測り、立ち上がる。壁溝は幅20cm、深度13cmを測る溝がほぼ全周する。  
 床面 床は掘り方部分のみ。ローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。堅く締まりが強い。 柱穴 各コーナー部に接して4穴検出され、径45~86cm、深度34~42cmを測る。柱穴間は東西軸方向に330~355cm、南北軸方向に300cmを測る。 貯蔵穴 なし。 炉 検出されていない。 重複 重複する遺構はない。  
 備考 本遺構は埋土最下層内の住居中央部に炭化材を含み、埋土最上位層は榛名山二ッ岳軽石 (FP) の堆積による。 遺物 遺構内より出土する遺物の量はほとんどない。

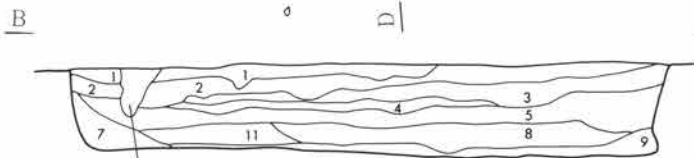
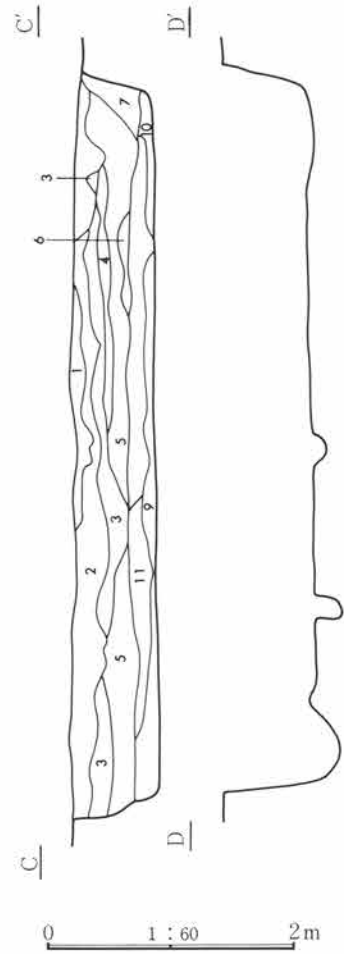
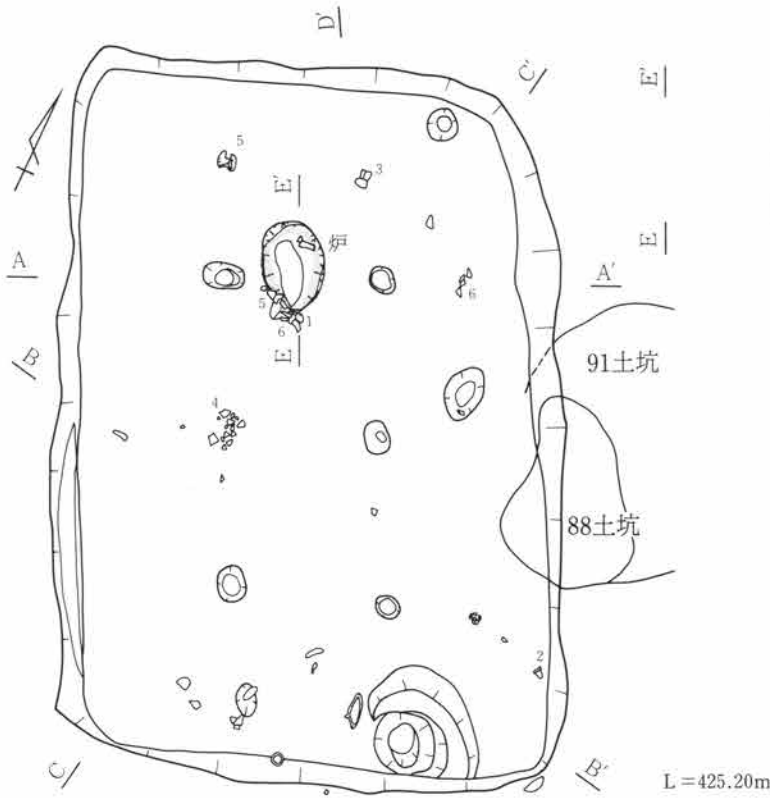


### 134号住居跡 (写真図版60頁、104頁)

位置 15C-17グリッド 方位 N-26.5°-W 形状 570×397cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は61.5cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径18~29cm、深度10~41cmを測る。柱穴間は南北軸方向に260~240cm、東西軸方向に125~130cmを測る。他にピット数穴、及び南壁側に入口施設の痕跡と考えられるピット2穴、また、同南壁側に周囲を土堤状に高めたピット1穴を検出する。貯蔵穴 なし。

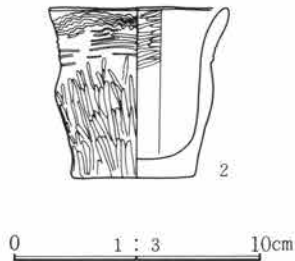
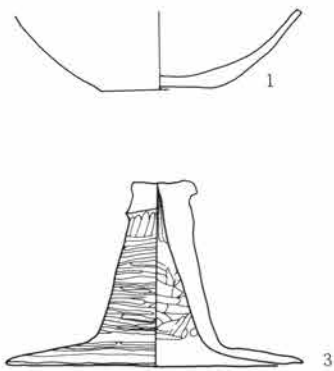
炉 住居北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径50×73cmを測る地床炉。重複 88号土坑・91号土坑と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が新しいと判断される。

遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、小形甕(No.2)は床面直上付近よりの出土であるほかは、床面よりやや離れたの出土である。

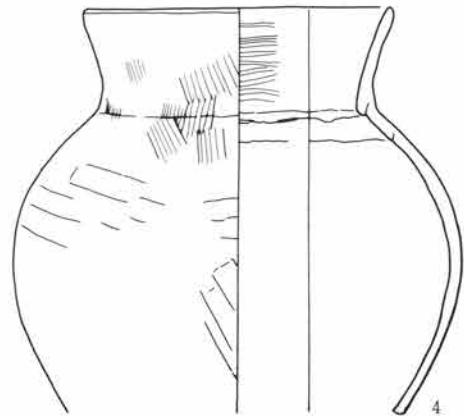


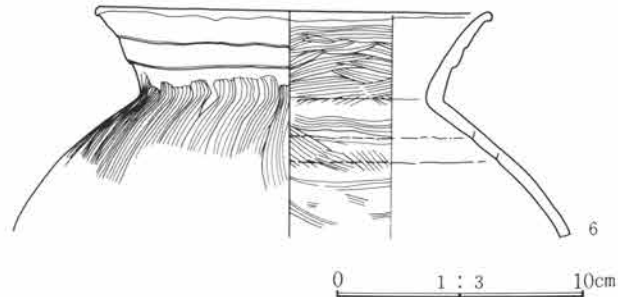
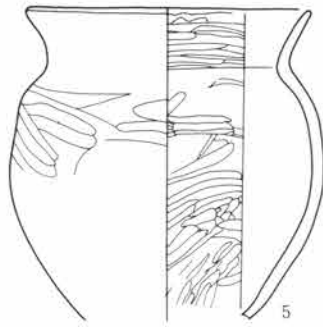
134号住居跡

- 1 多量のFP。
- 2 黒褐色土 若干のパミス粒。
- 3 褐色土 若干のパミス粒、ローム粒。
- 4 暗褐色土 パミス、ローム粒。
- 5 茶褐色土 ロームブロック、パミス。
- 6 暗茶褐色土 ローム粒、パミス、若干の炭化物。
- 7 暗茶褐色土 ローム粒、パミス。6層より暗い。
- 8 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒。
- 9 黒色土 ローム粒に若干の炭化物。
- 10 茶褐色土 多量のローム粒、炭化物。
- 11 暗褐色土 ロームブロック、炭化物。



134号住居跡出土遺物(1)



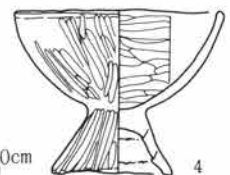
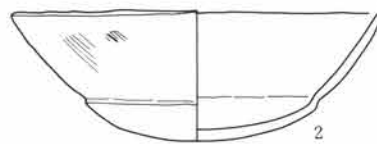
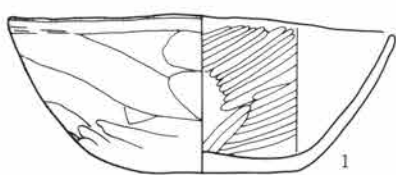


134号住居跡出土遺物(2)

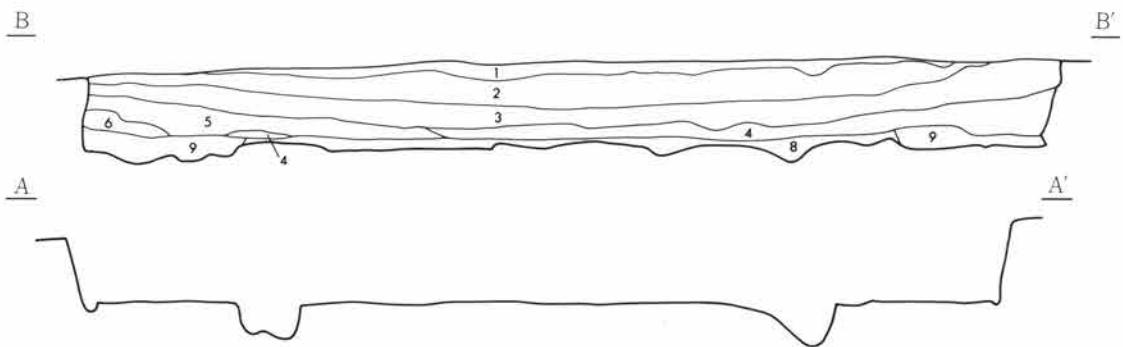
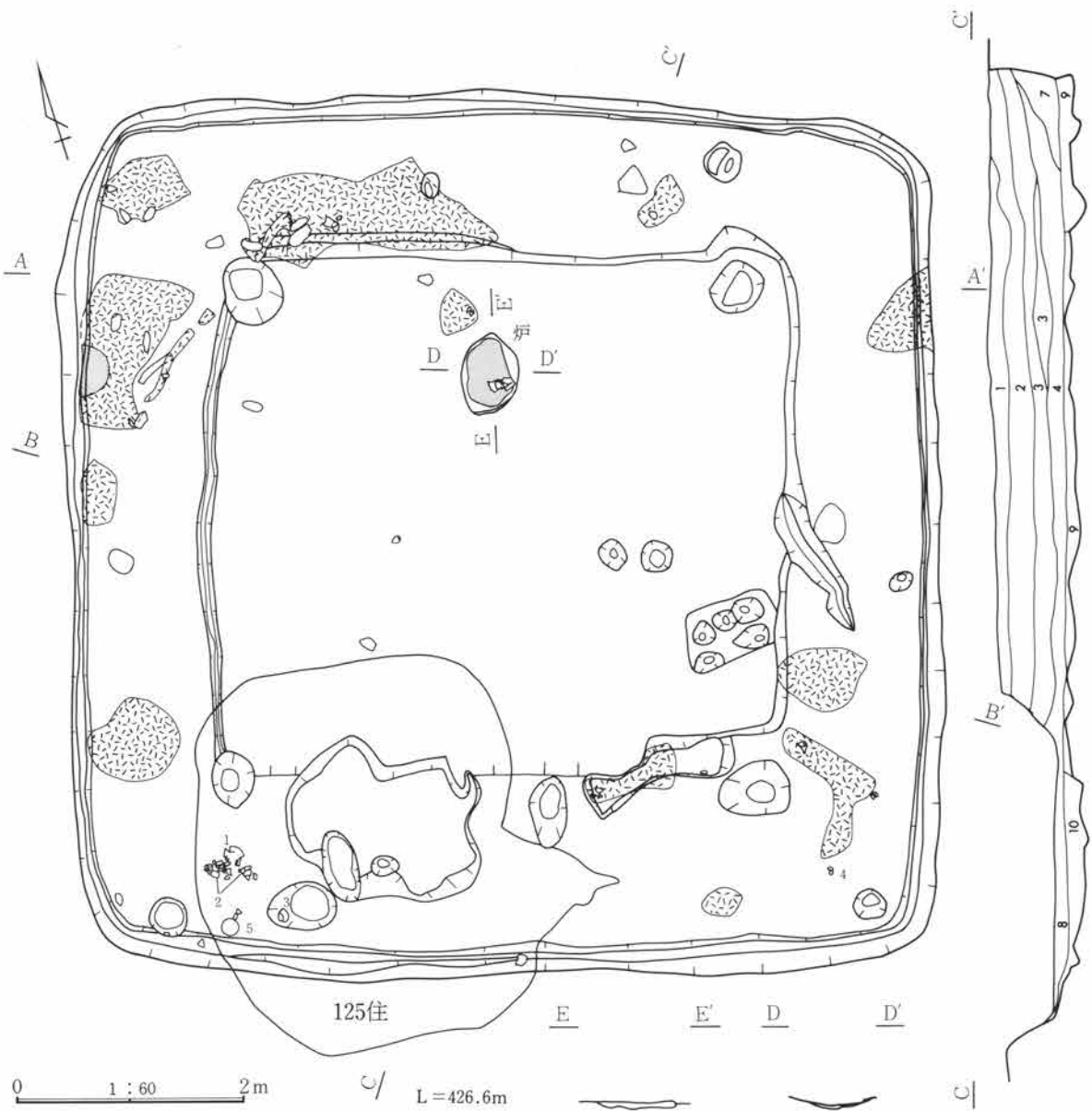
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
1	鉢	46cm	—・—・5.0 底部～体部下位	白色細砂粒、石英粗砂粒・細礫 普通 淡黄色	内外面丁寧な撫で。
②	小形甕	4cm	7.1・6.6・4.9 完形	白色粗粒多、石英細粒少 良好 黒褐色、褐色	外面-胴部文様下縦方向の篋磨き。口縁部波状文・簾状文。内面-研磨。
③	高坏	47～52.5cm 埋土	—・—・11.8 脚部のみ残存	少量の石英・白色細砂粒 普通 明赤褐色	脚部は柱状を呈す。 外面-丁寧な研磨。内面-撫で。
④	壺	48.5～53cm 埋土	12.2・—・— 胴下位～口縁1/2 残	石英・白色細砂・粗粒 良好 にぶい橙色	外面-篋撫で→一部研磨、口縁部～頸部粗い刷毛目。 内面-撫で→研磨。
⑤	甕	46～56cm	11.3・—・— 胴下位～口縁1/2 残	石英・白色細砂・粗粒 普通 にぶい赤褐色	外面-胴部刷毛目→撫で、口縁部粗い刷毛目。 内面-胴部篋撫で、口縁部横方向の篋磨き。
⑥	壺	46～62.5cm	15.7・—・— 胴上位～口縁1/2 残	白色細砂粒・石英粗砂粒 普通 にぶい褐色	外面-胴部刷毛目、口縁部輪積痕を3段を残す。 内面-胴部～口縁部刷毛目。

#### 142号住居跡 (写真図版61頁、104頁)

位置 12D-18グリッド 方位 N-16.0°-E 形状 755×746cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は54cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅6cm、深度13cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床で堅く締まりが強い。後記の4本の柱穴を結ぶ正方形のライン内側が一段低い床面となりいわゆるベッド状遺構を形成する。柱穴 4穴検出され、径43～60cm、深度34～47cmを測る。柱穴間は東西軸方向に430～460cm、南北軸方向に430～435cmを測る。貯蔵穴 なし。炉 住居中央北壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径50×70cmを測る地床炉。重複 125号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。備考 本遺構の埋土中に榛名山二ツ岳軽石(FP)の堆積層を検出する。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少ないが、完形品の遺存度が高い。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、鉢(No.1)、罎(No.2, 3)、高坏(No.5)は床面直上付近よりの出土であり、遺物の胎土・器形も類似しているものが多く、一括性が高いものと考えられる。

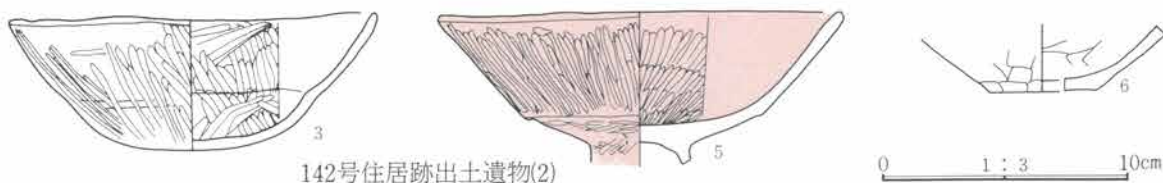


142号住居跡出土遺物(1)



- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1 黒褐色土 多量のFP、浅間山B軽石。              | 6 黒褐色土 若干のローム粒子。                       |
| 2 FP。                             | 7 明褐色土 5層に類似。より多量のロームブロック。             |
| 3 暗褐色土 極少量のローム粒子、スコリア。            | 8 暗黄褐色土 FP、ロームブロック、ローム粒子、粘土ブロックを多量に混入。 |
| 4 暗褐色土 3層に類似。若干明。若干のローム粒、ロームブロック。 | 9 黄褐色土 貼り床。ロームブロック多量。                  |
| 5 明褐色土 多量のローム粒子、ロームブロック(1~3cm大)。  | 10 暗茶褐色土 2~3cmのロームブロック。                |

142号住居跡

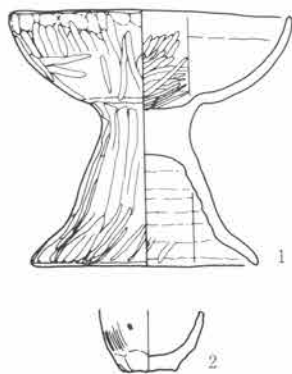


142号住居跡出土遺物(2)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢 (椀)	床直	15.3・6.2・6.6 完形	白色・石英細～粗砂粒 普通 浅黄橙色	外面－篋削り→篋磨き。 内面－篋磨き。口縁部横撫で。
②	埴	床直	14.7・5.1・－ 全体の3/4残	白色・石英細砂粒、角閃石 不良 浅黄橙色	内外面ともに撫で→部分的な研磨。
3	埴	床直	14.5・5.1・－	白色・石英細砂粒、角閃石 普通 浅黄橙色	内外面ともに撫で→研磨。
④	高坏	床直埋土	8.3・6.4・4.7 全体の2/3残	白色・石英細砂粒、角閃石 普通 浅黄橙色	坏部－内外面ともに研磨。 脚部－外面研磨、内面指撫で、輪積痕残す。
5	高坏	床直	16.0・－・－ 坏部のみ残存	白色・石英細砂粒、角閃石 良好 赤色	内外面ともに丁寧な研磨、赤色塗彩。
6	甌	埋土	－・－・4.4 底部～体部下位	白色・石英・赤褐色粗砂粒 普通 におい黄橙色	底部に径1.2cmの円孔が1つ穿たれている。体部下位は篋削り、内外面底部は撫で。

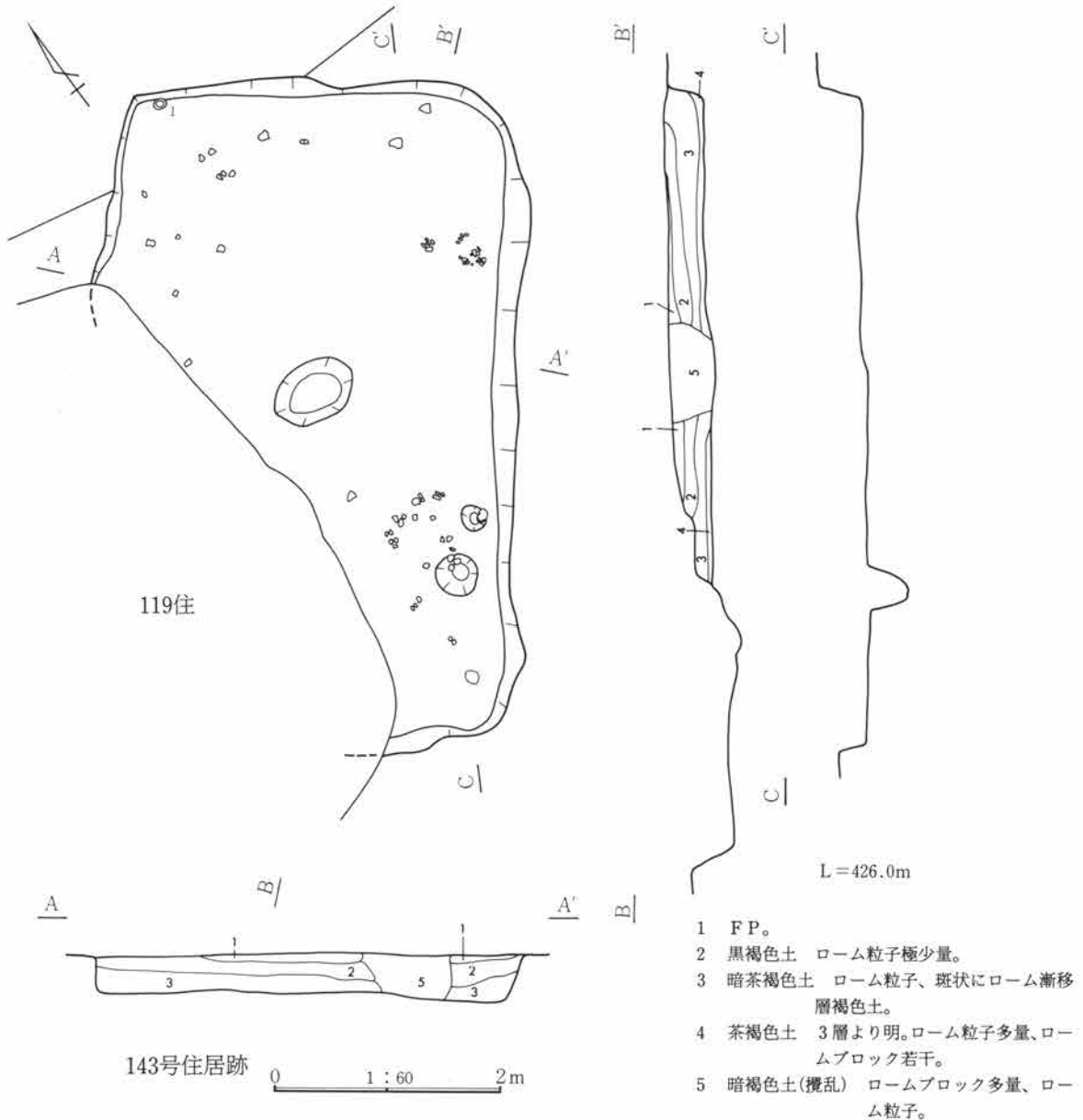
143号住居跡 (写真図版62頁、104頁)

位置 2D-14グリッド 方位 N-38.5°-E 形状 581×350cmを測る隅丸長方形のプランを呈すると思われるが、住居南東部を後記の重複遺構に切られるため、全体の形状は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は85cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床で堅く締まりが強い。柱穴 ピットが2穴検出され、径22～39cm、深度22～35cmを測るが位置及び相対するピットが検出されておらず、柱穴とは断定できない。貯蔵穴 住居中央部付近に検出され、楕円形を呈し、径51～76cm、深度57cmを測る。炉 残存部分においては検出されなかった。重複 119号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土位置は床よりやや離れる。出土遺物中、高坏 (No 1) は床面直上付近よりの出土である。



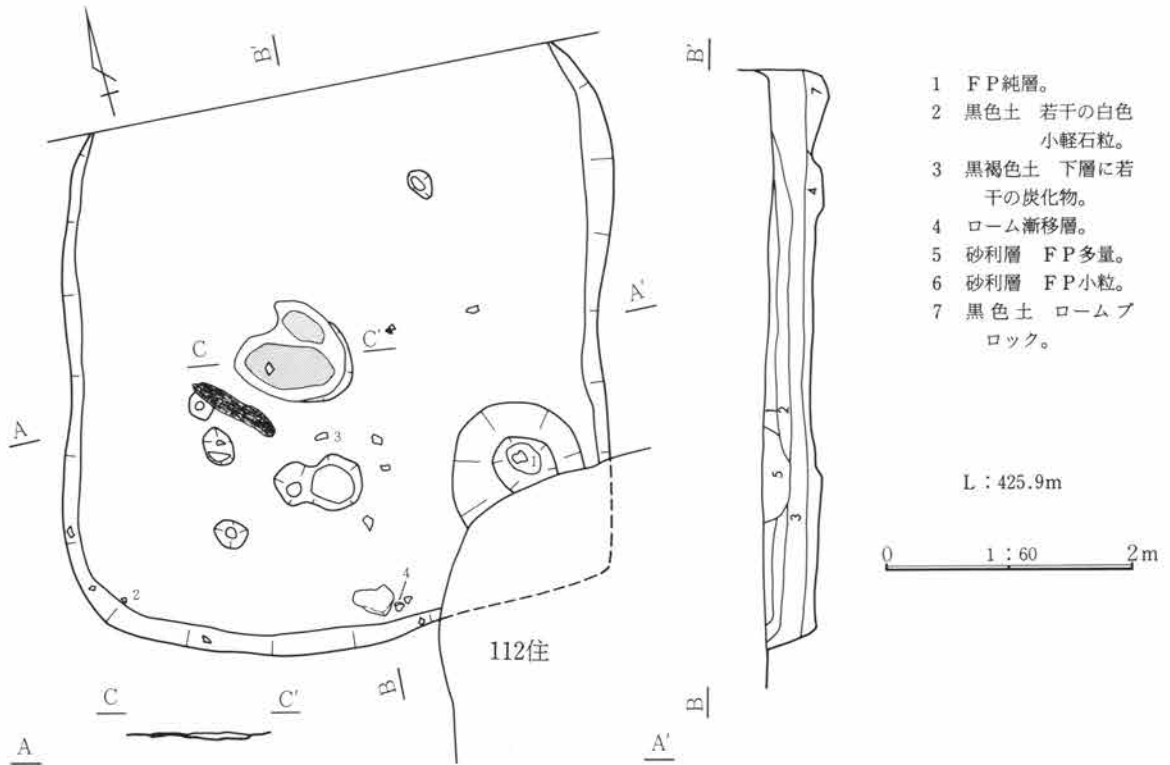
番号器種	出土位置	口径・器高・底径 残存率	胎土・焼成・色調 器形・整形の特徴
① 高坏	8.0cm	11.1・10.1・9.0 完形	少量の白色・石英細砂粒 良好 橙色 坏は内外篋削り後篋研磨 脚は外研磨、内撫で
2 ミニチュア	埋土	－・－・2.2 底部のみ残	少量の白色・赤褐色粗砂粒 普通 におい黄橙色。 体部内外面は撫で。下位に指頭痕が残る。

143号住居跡出土遺物



144号住居跡 (写真図版63頁、104頁)

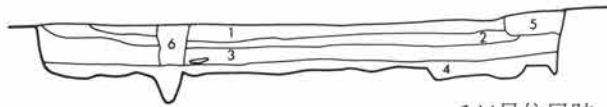
位置 22C-13グリッド 方位 N-12.0°-E 形状 450×不明cmを測る隅丸長方形のプランを呈していると考えられるが、北側を調査区域外に残すため、全容は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は32cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 調査範囲内の床面上よりピットが4穴検出され、径17~45cm、深度9~20cmを測るが、位置的に不均質であり、柱穴とは断定できない。貯蔵穴 南東コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径46cm、深度33cmを測る。炉 住居中央南壁寄りの位置に設けられていると思われ、楕円形を呈し、径75×90cmを測る地床炉。重複 112号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。備考 本遺構埋土中に榛名山ニッ岳軽石(FP)の堆積層を検出する。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。出土遺物中、甕(No.4)は床面直上よりの出土、罎(No.1)は貯蔵穴内よりの出土である。



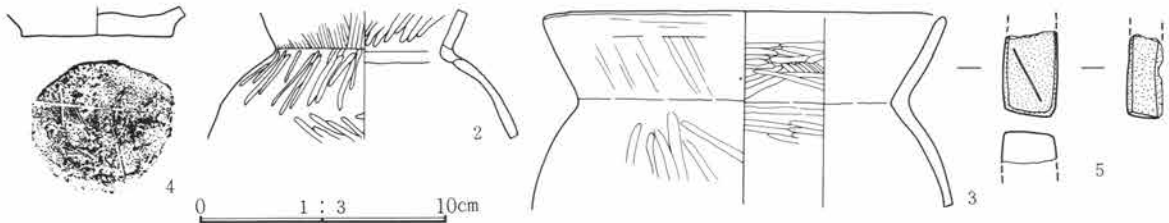
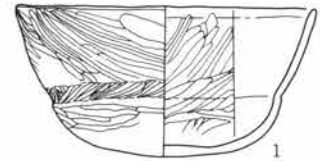
- 1 FP純層。
- 2 黒色土 若干の白色小軽石粒。
- 3 黒褐色土 下層に若干の炭化物。
- 4 ローム漸移層。
- 5 砂利層 FP多量。
- 6 砂利層 FP小粒。
- 7 黒色土 ロームブロック。

L : 425.9m

0 1 : 60 2m



144号住居跡



144号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	-14cm ピット内	11.9・5.9・- 全体の3/4残	少量の白色・石英細砂粒 良好 におい赤褐色	器肉薄手。 内外面ともに丁寧な篋磨き。
2	埴	11cm	-・-・- 体部～頸部1/3	僅かな石英、赤褐色粗砂粒 普通 におい黄橙色	外面刷毛目の後研磨、内面口縁部研磨、体部撫で。
③	甕	7.5cm	16.0・-・- -	少量の白色・石英細砂粒 普通 暗～黒褐色	外面口縁部～胴部刷毛目→縦方向篋研磨。 内面口縁部～胴部刷毛目→横方向篋研磨。
④	壺?	床直	-・-・6.0 底部のみ	白色細砂粒、僅かな赤褐色粒 普通 におい赤褐色	底部に篋書きの木葉痕あり。
5	砥石	埋土		片面と奥側小口面が新しい割れ口である。手前小口と割れ口を除き使用されている。使用面は平滑で金属砥である。質は軟らか目の名倉級である。材質は流紋岩（砥沢）か。	



145号住居跡 (写真図版64頁)

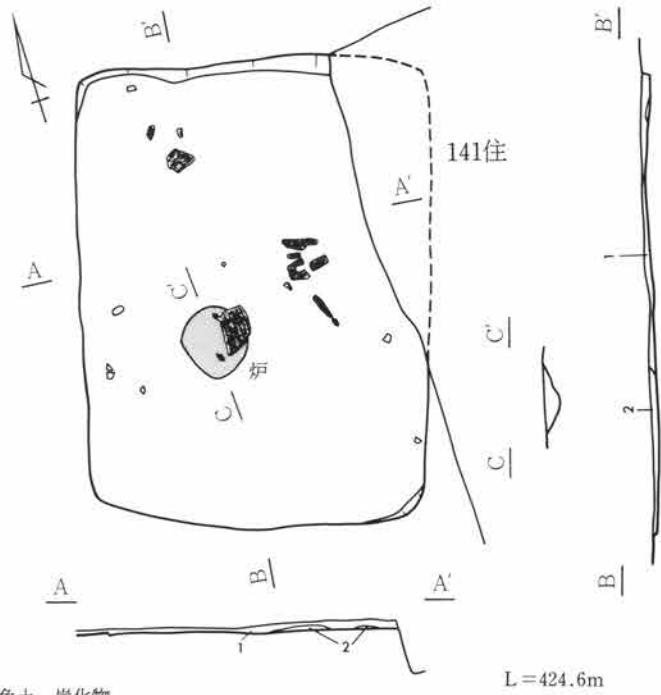
位置 5C-12グリッド

方位 N-15.0°-E 形状 373×268

cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は僅か7cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。やや軟質。柱穴 なし。

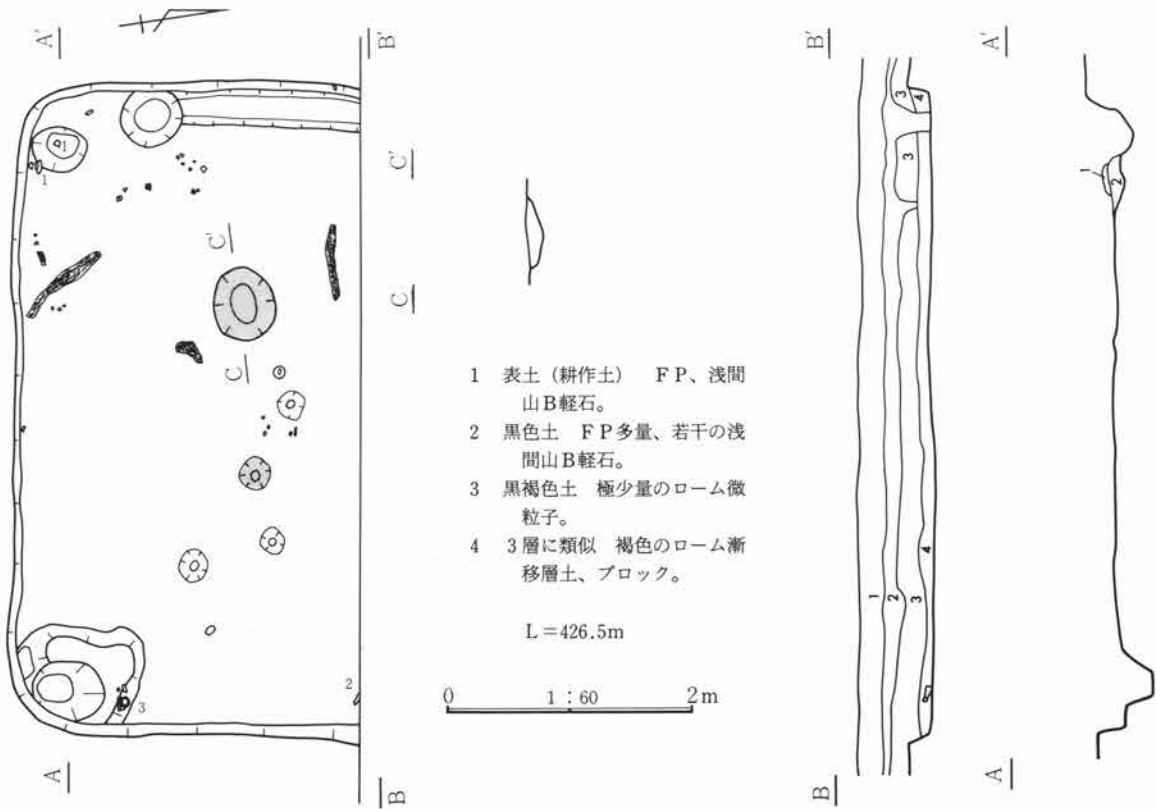
貯蔵穴 なし。 炉 住居中央南西寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径53×57cmを測る地床炉。重複 141号住居跡

(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。備考 床面上ではあるが炭化材が残る。遺物 遺構内より出土する遺物の量はほとんどない。



- 1 黒色土 炭化物。
- 2 黒褐色土 ローム少量。

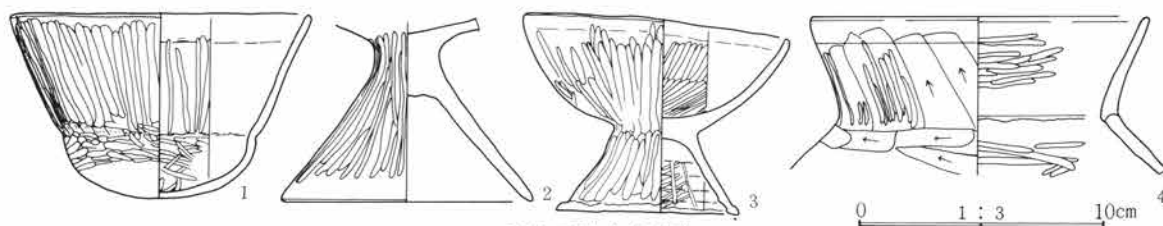
146号住居跡 (写真図版65頁、104頁)



- 1 表土 (耕作土) FP、浅間山B軽石。
- 2 黒色土 FP多量、若干の浅間山B軽石。
- 3 黒褐色土 極少量のローム微粒子。
- 4 3層に類似 褐色のローム漸移層土、ブロック。

L=426.5m

位置 7D-14グリッド 方位 N-79.5°-W 形状 517×285+αcmを測る隅丸長方形のプランを呈すると考えられるが、北側が調査区域外にかかるため全容は明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は22cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 調査範囲内の床面にピット6穴が検出され、径20~45cm、深度19~26cmを測るが位置的に不均質であり、いずれが柱穴となるか明らかではない。貯蔵穴 南東コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径73cm、深度21cmを測る。炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径50×62cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。備考 微量ではあるが、床面上に炭化材を検出する。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。

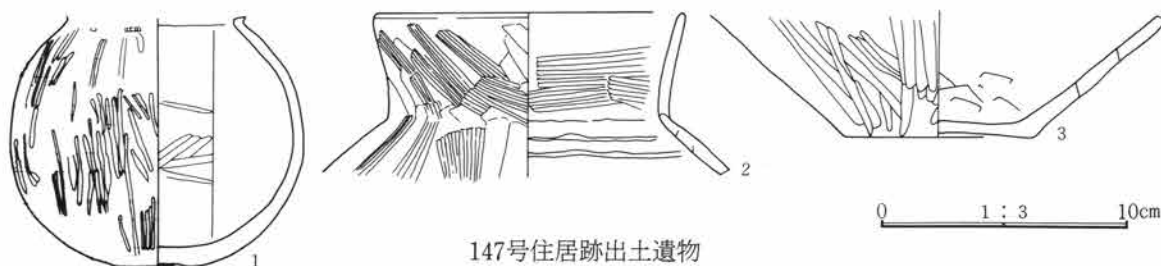


146号住居跡出土遺物

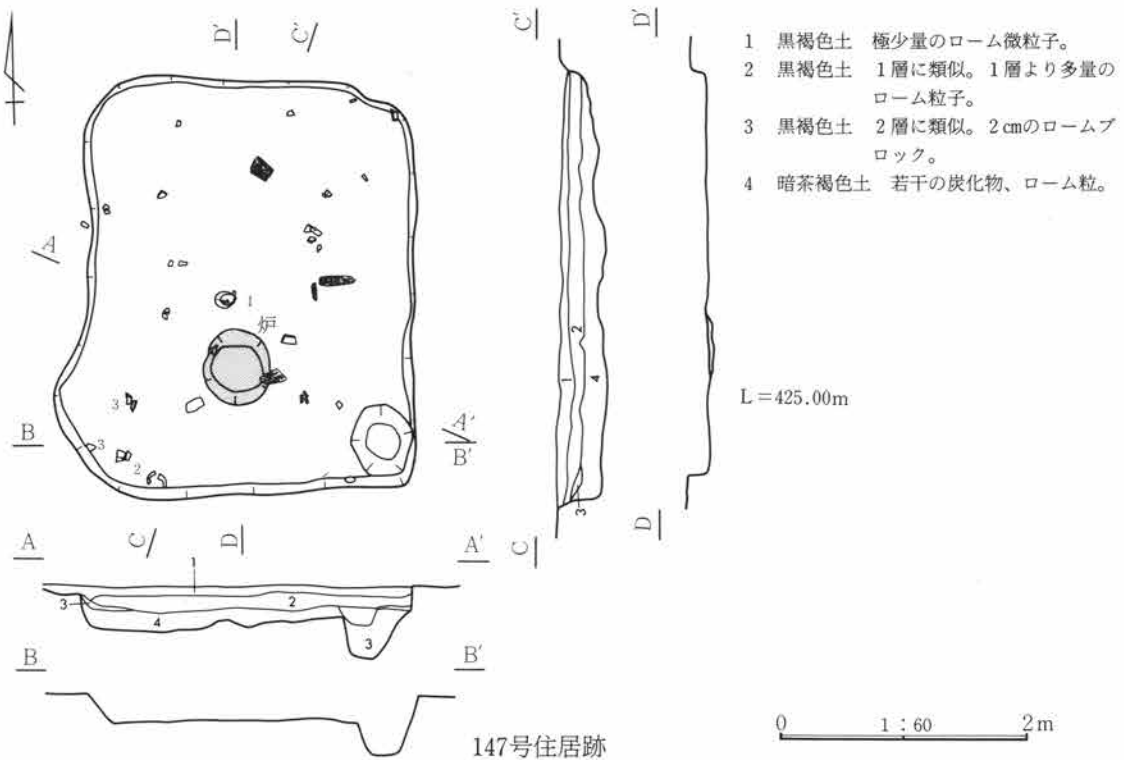
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	-2~-7cm ピット内	12.0・7.2・- 全体の1/3残存	白色・石英細砂粒 普通 橙色	内外面ともに刷毛目後、全体に丁寧な篋研磨。
②	高坏	2.5cm	-・-・10.0 脚部1/4	少量の白色・石英粗砂粒 普通 におい黄橙色	坏底部内面・脚部内外面研磨。
③	高坏	-5cm 貯蔵穴内	10.5・7.5・7.2 口縁一部欠損	普通 明赤褐色	坏部-内外面ともに篋磨き。赤色塗彩。 脚部-外面篋磨き赤色研磨、内面篋撫で→雑な篋磨き。
④	甕	埋土	13.5・-・- 胴上位~口縁1/2	白色・石英細砂粒 普通 灰褐色	口縁部外面刷毛目の後所々研磨、上位は横撫で。内面は撫での後、粗い研磨。胴部撫で。

147号住居跡 (写真図版66頁、105頁)

位置 11C-11グリッド 方位 N-3.5°-E 形状 343×258cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は15cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床でやや軟質。柱穴 なし。貯蔵穴 南東コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径48cm、深度25cmを測る。炉 住居中央南壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径55×61cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。出土遺物中、埴 (No.1)、甕 (No.2) は床面直上付近よりの出土である。



147号住居跡出土遺物

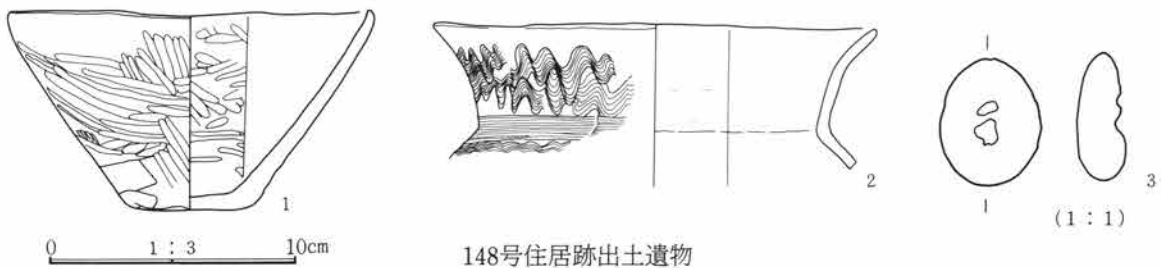


147号住居跡

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	埴	床直埋土	- - - - 口縁部欠損	普通 赤色	外面-篋削り→雑な研磨。 内面-篋撫で。
②	甕	床直埋土	12.4・ - - - 頸部~口縁部1/2	白色細・粗砂粒 普通 にぶい橙色	口縁部上位横撫で、口縁部内外面刷毛目上撫で、胴部外面刷毛目上撫で、内面撫で。
③	壺	1.5~9.6cm	- - - ・ 7.5 底部~胴部下位	白色細砂粒、少量の赤褐色 円粗砂粒 普通 にぶい黄橙色	胴部外面研磨、底部撫で。内面撫で。

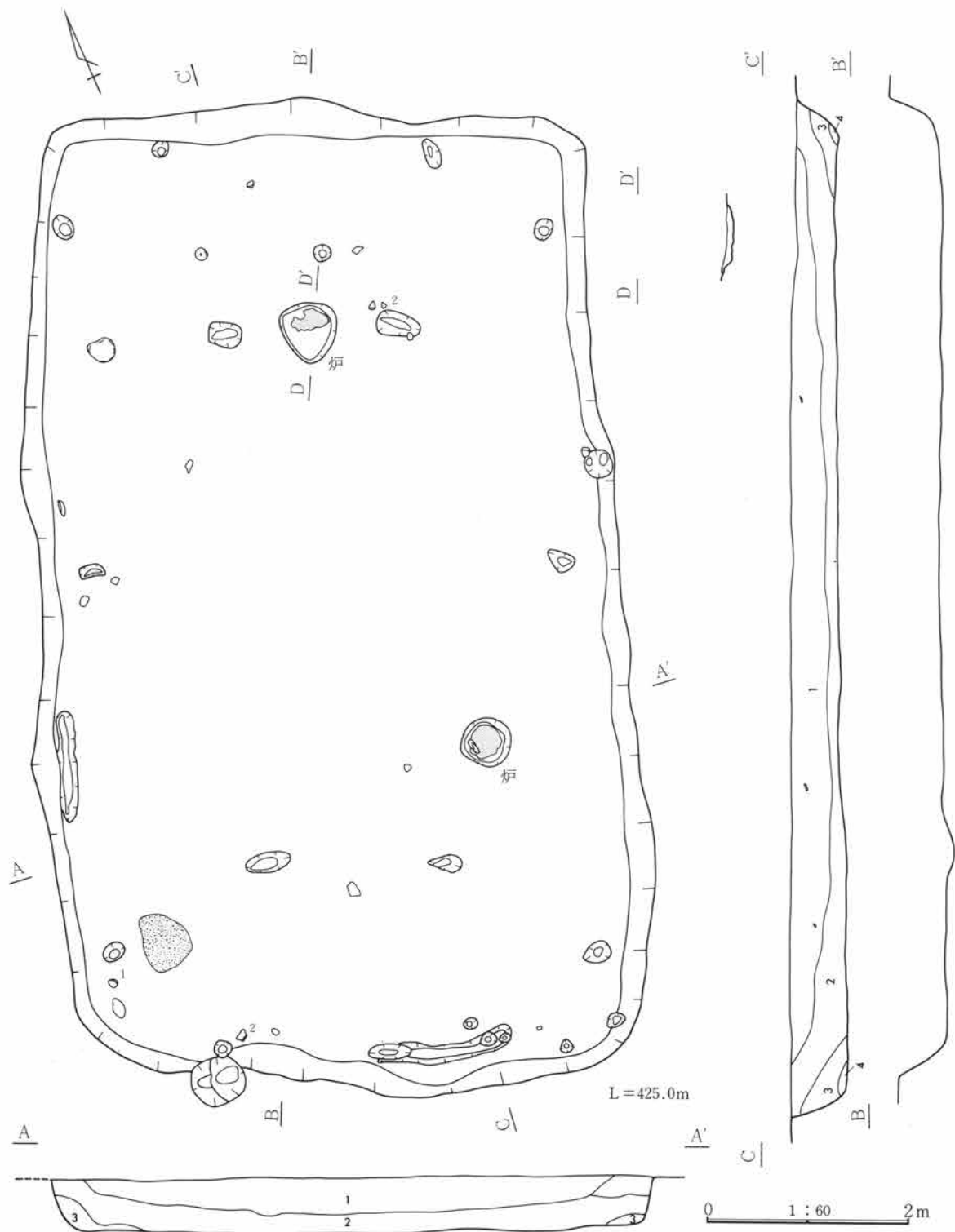
148号住居跡 (写真図版67頁、105頁)

位置 8C-13グリッド 方位 N-22.2°-E 形状 934×553cmを測る隅丸長形状のプランを呈し、壁は直線的に巡る。壁高は60cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。11号住居跡と並び大形の長方形を呈する住居である。床面 床はローム地床で堅く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径25~48cm、深度29~30cmを測る。柱穴間は東西軸方向に175~180cm、南北軸方向に515~520cmを測る。他に小ピットが15穴程穿たれる。貯蔵穴 なし。炉 北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、



148号住居跡出土遺物

径52×58cmを測る地床炉。また、住居中央南寄りの位置にもう一ヶ所炉が検出され、径45×48cmの楕円形を呈す。この2ヶ所の炉の新旧は明らかではない。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、床より離れた位置よりの出土である。掲載遺物のほか、底径22cmを測る大形の壺破片を出土する。



1 黒褐色土 ローム粒子少量、ローム漸移層土。

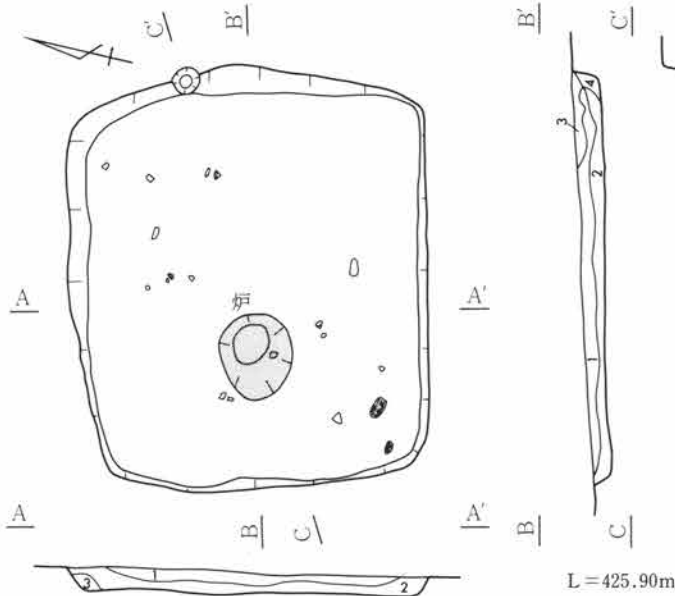
2 暗茶褐色土 ローム粒子、1～3cm大のロームブロック。

3 黒色土 極少量のローム粒子。

4 暗茶褐色土 ローム粒子、多量のロームブロック。

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	床直	14.5・7.6・4.9 全体の3/4残存	白色・石英細～粗砂粒 良好 にぶい橙色	内外面ともに篋削り→篋磨き。口縁部横磨き。 底部及び周辺の磨滅著しい。
2	甕	43、43.5cm	17.6・ - ・ - 口縁部小片	多量の白色・赤褐色・石英細～粗 砂粒 普通 黒褐色	外面-波状文→簾状文。口縁部上位横撫で。 内面-篋撫で。
③	凹石	埋土	長径4.9cm 重 29g	凝灰質泥岩。 乳白色	軟かな石材で、片側中央に突込みによる凹み が2ヶ所にある。表裏面には研磨痕。

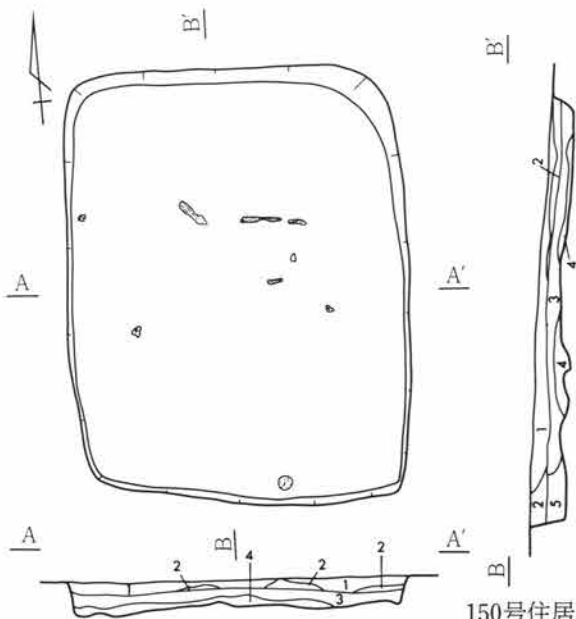
149号住居跡 (写真図版68～69頁)



149号住居跡

位置 3D-16グリッド  
 方位 N-75.5°-E  
 形状 336×272cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は14cmを測る。壁溝はなし。  
 床面 ローム地床で軟質 柱穴 東壁北寄りに1穴検出され、径22cm、深度10cmを測る。 貯蔵穴 なし。  
 炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径58×70cmを測る地床炉。 重複 なし。 遺物 出土する遺物の量は少なく、大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。また、出土位置も床より離れる。

- 1 暗茶褐色土 ローム微粒子、少量のスコリア。
- 2 黒褐色土 炭化物、ローム粒子、ロームブロック。
- 3 茶褐色土 1層に類似、1層より明。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子、ローム漸移層。



150号住居跡

L=425.50m

- 1 黒色土 若干の炭化物。
- 2 暗茶褐色土 ローム漸移層を主体。
- 3 黒色土 ローム漸移層をブロック状。
- 4 暗黒褐色土 多量の漸移層、ブロック状、若干のローム粒子。
- 5 暗茶褐色土 4層にロームブロック。

0 1:60 2m

150号住居跡 (写真図版69頁)

位置 2D-18グリッド 方位 N-2.5°-E 形状 346×269cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや外湾して巡り、壁高は13cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム地床。やや軟質。  
 柱穴 小ピットを4穴検出するが柱穴とは断定できなかった。 貯蔵穴 なし。 炉 検出されなかった。  
 重複 重複する遺構はない。 備考 床面上より少量ではあるが炭化材(棒状)が検出される。  
 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、破片を数点出土するのみである。

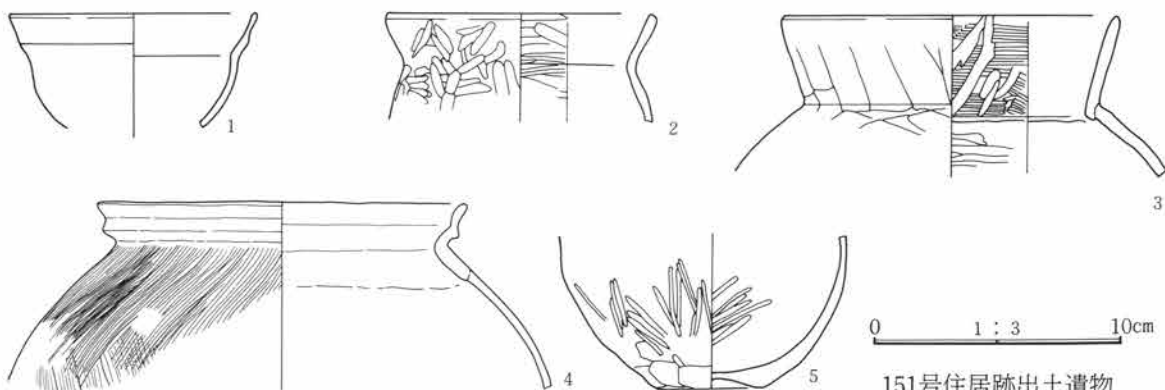
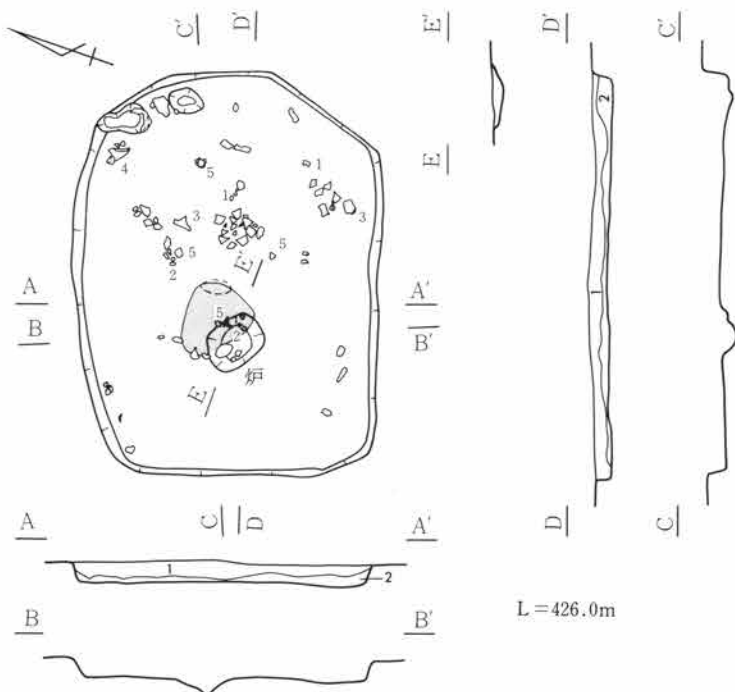
151号住居跡 (写真図版70頁、105頁)

位置 5D-15グリッド 方位 N-71.5°-W 形状 330×252cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は15cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム地床。やや軟質。  
 柱穴 なし。 貯蔵穴 なし。

炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径38×48cmを測る地床炉。 重複 重複する遺構はない。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、床面直上よりの出土は見られない。出土遺物中の小形甕(No.2, 5)は同一個体の可能性があるが、接合せず。

0 1:60 2m

- 1 黒色土 若干のローム粒、炭化物。
- 2 暗茶褐色土 ローム漸移層、炭化物。



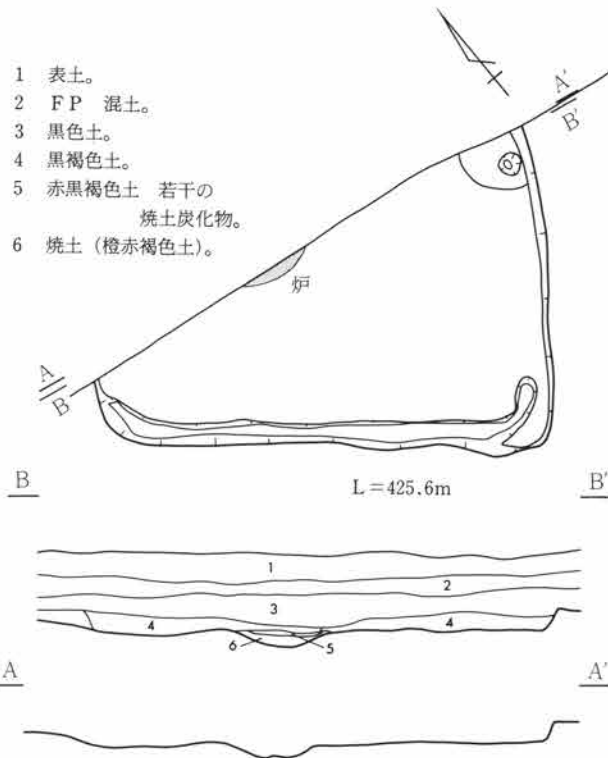
151号住居跡出土遺物

遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
1	埴	10.5 12.0cm	9.9・ - ・ - 小片	微量の白色細砂粒 普通 に濃い橙色	内外面横撫で。口縁部は緩やかなS字状を呈す。

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
②	小形甕	炉内 9.5cm	10.8・ - ・ - 胴上位～口縁部 1/2	少量の白色・石英細砂粒 普通 ぶい黄橙色	口唇部は外傾する平坦面をもつ。外面撫での上粗い研磨、内面口縁部刷毛目後研磨。
3	甕	9、10.5cm	13.5・ - ・ - 頸部～口縁部1/4	白色細砂粒、少量の石英粗砂粒 普通 灰褐色	外面口縁部上位横撫で、口縁部細かい刷毛目。内面口縁部刷毛目の上粗い研磨、胴部撫で。
④	台付甕	13.5cm	14.6・ - ・ - 胴上位～口縁小片	少量の白色・石英細～粗砂粒 普通 赤褐色	外面一刷毛目整形。横方向の刷毛目なし。内面一撫で。S字口縁横撫で。
5	小型甕?	炉内 7～13cm	- ・ - ・ 4.6 底部～胴部中位 1/2	少量の白色・石英細・粗砂粒 普通 褐灰色	外面一胴部研磨、下位・底部削り。内面一研磨。

152号住居跡 (写真図版71頁)

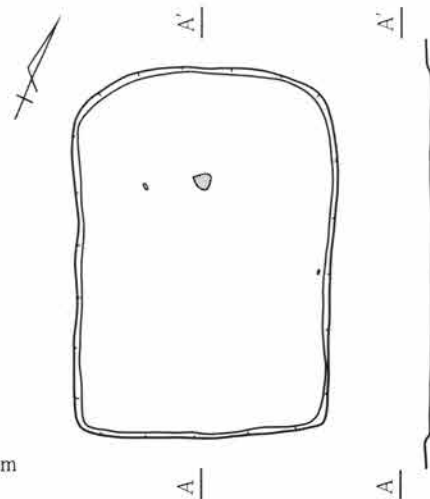
位置 13C-11グリッド 方位 N-50.0°-W 形状 360cm×不明を測る方形のプランを呈し、北側は調査区域外にかかる為全容は明らかではない。調査範囲内の壁はやや蛇行して巡り、壁高は15cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 調査範囲内においては検出されなかった。貯蔵穴 なし。炉 調査範囲際で炉の一部が検出されたが、大半は調査区外にかけ全容は不明。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物はない。



153号住居跡 (写真図版71頁)

位置 10C-13グリッド 方位 N-27.5°-W 形状 290×206cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は5cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。やや軟質。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。炉 なし。重複 なし。遺物 遺構内より出土する遺物はない。備考 柱穴・炉・貯蔵穴もなく、遺物も出土しないが、プランと埋土より古墳時代以前の住居跡と判断する。

L=424.6m



156号住居跡 (写真図版72頁、105頁)

位置 12C-16グリッド

方位 N-37.5°-W

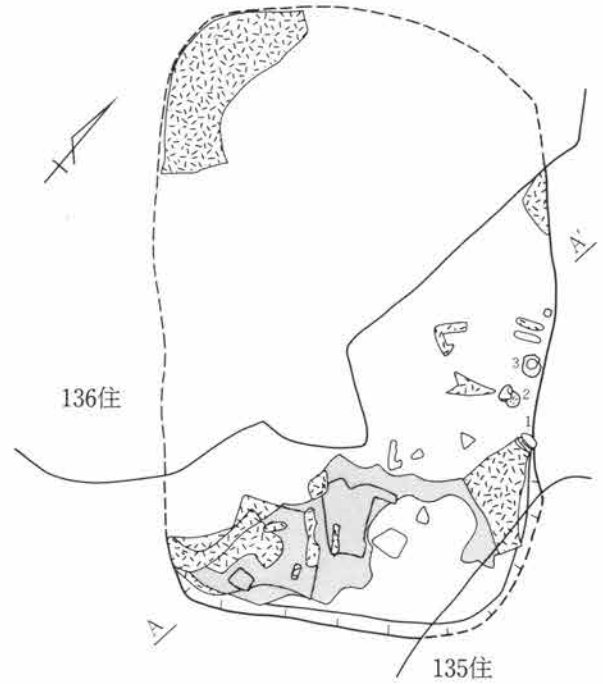
形状 488×320cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は66cmを測る。壁溝はなし。床面床はローム地床。堅く締まりが強い。

柱穴 小ピットが3穴検出されるが、後記の重複遺構との関係で柱穴とは断定できない。貯蔵穴 なし。炉 下記の重複遺構に切られ検出できなかった。

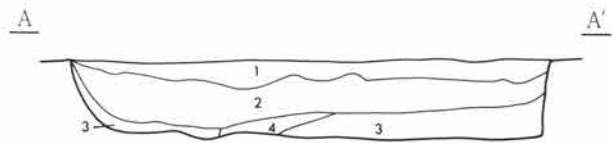
重複 135・136号住居跡(平安時代)と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土、及び埋土断面より本遺構の方が古いと判断される。

備考 遺構内より多量の炭化材・炭化物を検出し、焼失家屋の可能性はある。

遺物 重複遺構に切られるため、遺構内より出土する遺物の量は比較的少ないが、完形品の遺存度が高い。遺物は住居北壁側に集中し、出土する。出土遺物中、甕(No.2, 3)は床面直上付近よりの出土である。

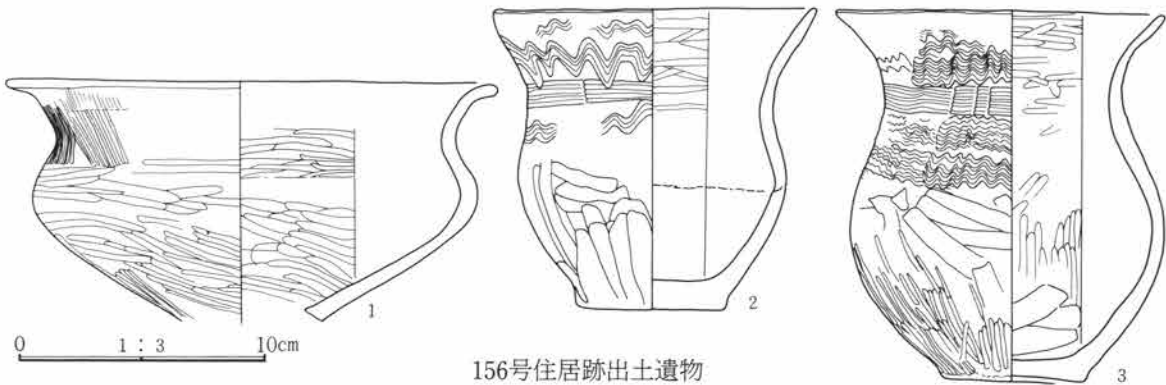


L=424.9m



0 1:60 2m

- 1 暗黒褐色土 若干の炭化物。
- 2 黄褐色土 ロームブロック、焼土ブロック、炭化物。
- 3 黄褐色土 2層に類似。2層より多量のローム焼土炭化物。
- 4 暗黄褐色土 少量のロームブロック、多量の炭化物・焼土。



156号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	台付甕	2.5cm	19.4・ - ・ - 坏部のみ残存	白色・石英細砂粒 普通 橙、黒色	外面-横方向の研磨、頸部~口縁部弱い刷毛目。 内面-体部~口縁部研磨。



遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
②	甕	床直	12.7・11.8・5.8 口縁一部欠損	白色・石英細砂粒 普通 赤色	外面-胴部下半篋削り後撫で、胴部上半篋状文→上下に波状文。内面-底部～口縁部研磨。全体に磨滅著。
③	甕	床直	13.0・14.6・5.6 口縁部5/6周欠損	白色・石英細砂粒 普通 赤、暗赤褐色	外面-胴部下半縦方向篋磨き、胴部上半2連止め篋状文→上下に波状文。内面-底部～口縁部雑な研磨。

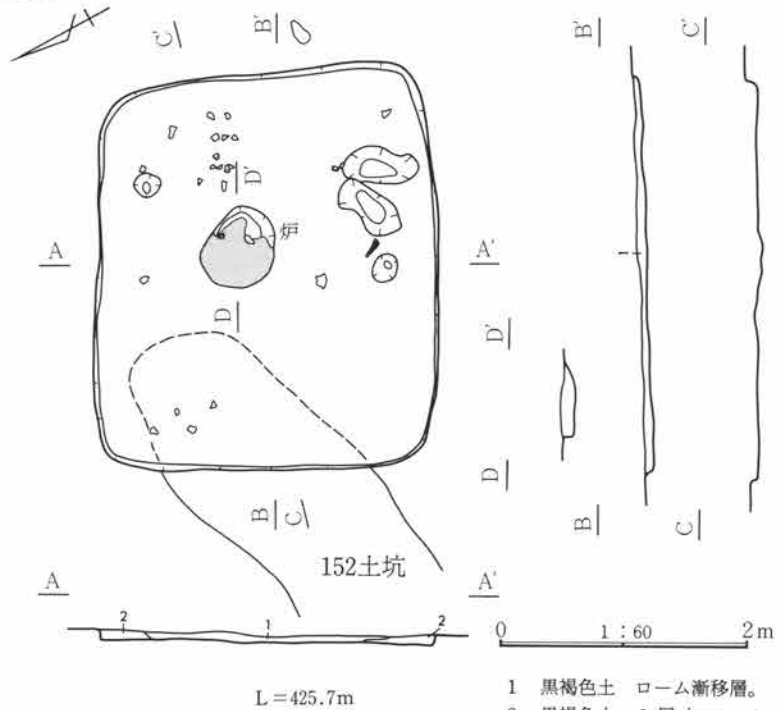
157号住居跡 (写真図版73頁)

位置 1D-16グリッド

方位 N-66.5°-W

形状 321×266cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや外湾して巡り、壁高は7.5cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床でやや軟質。柱穴 なし。

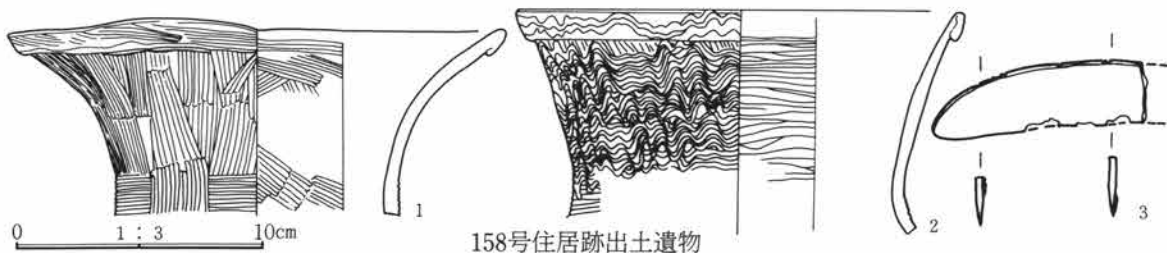
貯蔵穴 なし。 炉 住居中央やや南壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径52×65cmを測る地床炉。重複 152号土坑と重複し、新旧関係は埋土断面より本遺構の方が新しいと判断される。遺物 出土する遺物の量は極めて少なく、大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。



158号住居跡 (写真図版74～75頁、105頁)

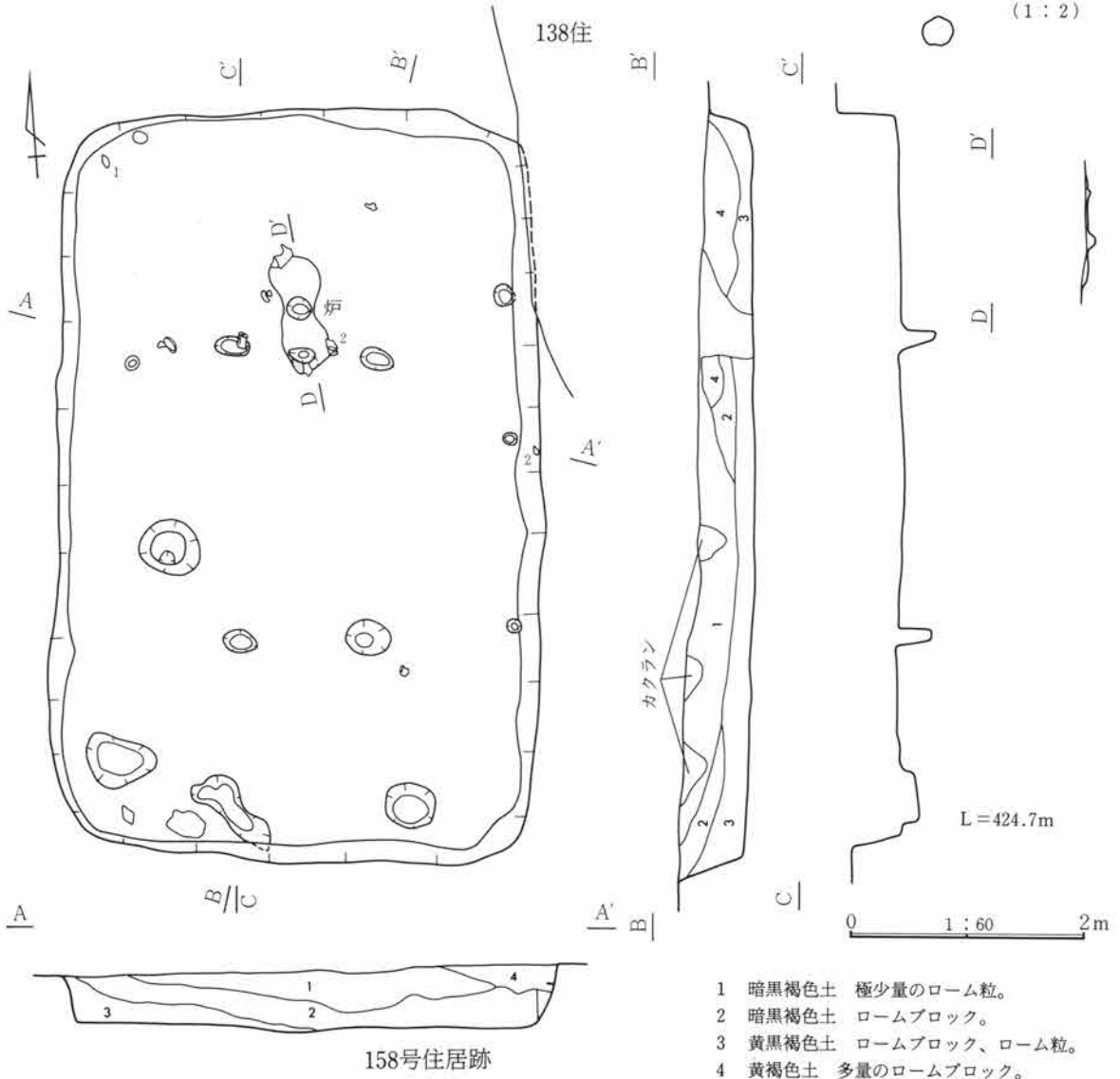
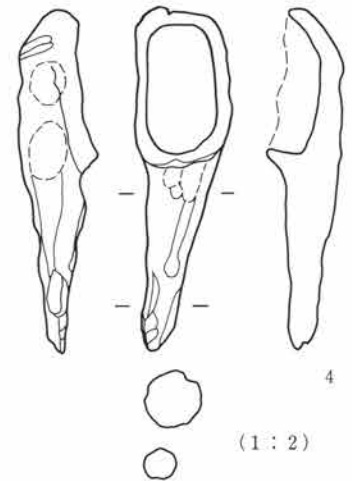
位置 9C-19グリッド 方位 N-4.5°-E 形状 624×395cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡り、壁高は33.5cmを測り、直に立ち上がる。壁溝はなし。床面 床はローム地床。

堅く締まりが強い。柱穴 4穴検出され、径18～38cm、深度25～37cmを測る。柱穴間は東西軸方向に105～125cm、南北軸方向に234～250cmを測る。他に壁際を含み6穴のピットを検出する。貯蔵穴 なし。 炉 住居北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、楕円形を呈し、径27×93cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はないが、138号住居及び154号住居が近接して占地する。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。出土遺物中の土製スプーン (No.4) は床面直上よりの出土であり、また、壺 (No.1) の破片が160号住から出土し、接合する。



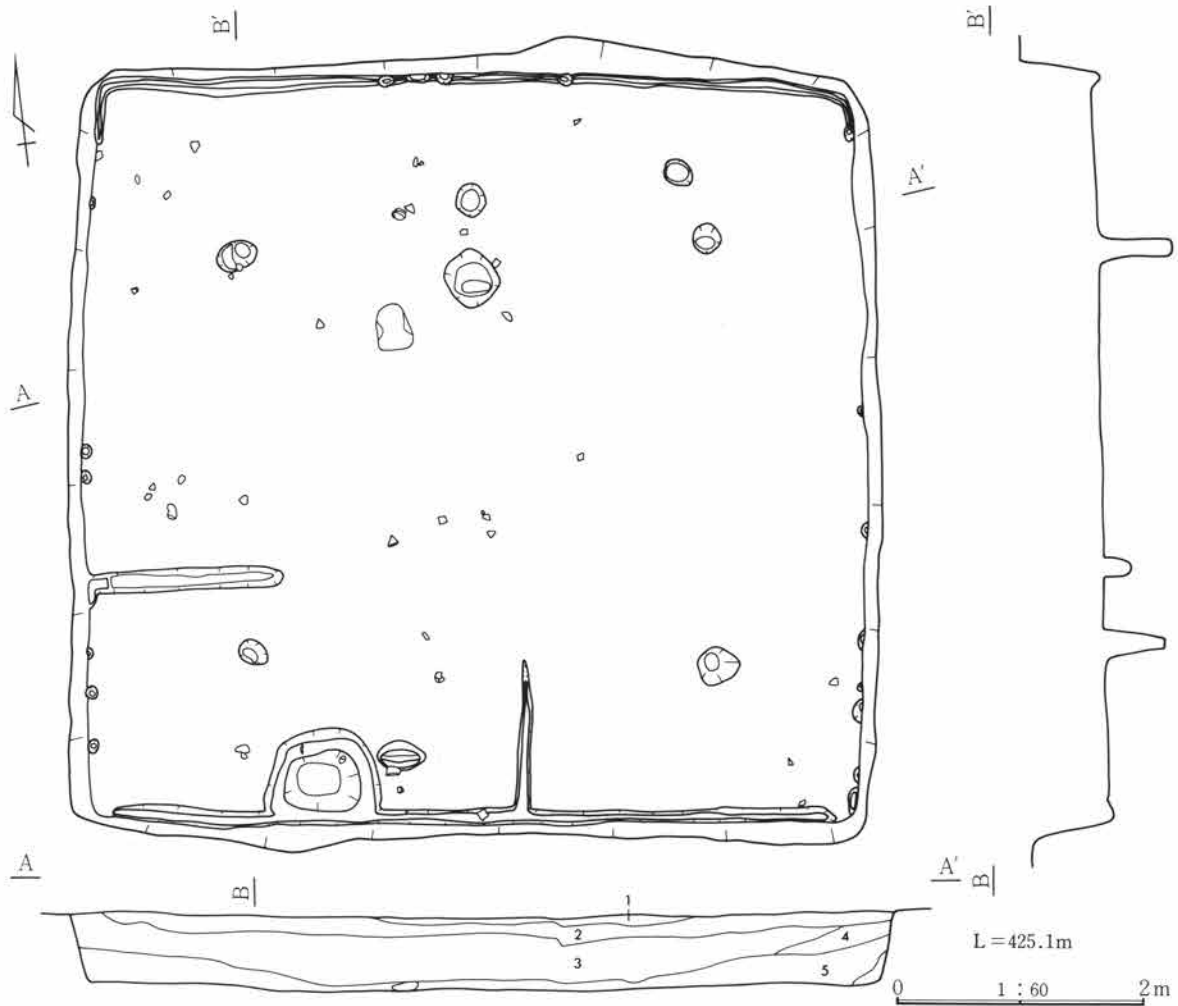
第3章 検出遺構・遺物

番号 器種	出土位置	口径・器高・底径 残存率	胎土・焼成・色調 器形・整形の特徴
① 壺	2cm 埋土	19.8・―― 口縁部3/4	白～灰色細砂粒 雲母 普通 浅黄色 頸部は櫛描T字文。折り返し口縁、内外面刷毛目
② 甕	2、33cm	17.8・―― 口縁部1/4	白色・石英・赤褐色粗砂粒 普通 黄白色 口縁部に櫛描波状文が重走。下に左回りの簾状文。
③ 鎌	埋土	半欠	先丸みあり。割口は旧時。錆化は鍛鉄。重261+α。
④ 匙	床直附近	完形	粗製品。夾雑物が少なく色調は酸化気味。黒色の斑紋がある。全長8.8cm。



159号住居跡 (写真図版75頁)

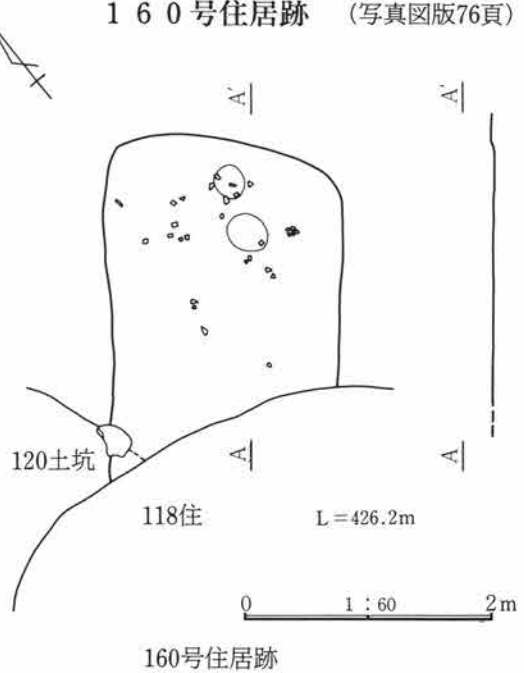
位置 12C-15グリッド 方位 N-82.5°-W 形状 646×632cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁は直線的に巡り、コーナー部も直角に近い。壁高は62cmを測り、直に立ち上がる。壁溝は幅12cm、深



- 1 黒色土 若干のローム小粒子。
- 2 黒褐色土 若干のロームブロック。
- 3 黄褐色土 1~5cm程のロームブロック。
- 4 黄黒褐色土 3層に類似が黒味強い。
- 5 黒色土 少量のローム小粒子。

160号住居跡 (写真図版76頁)

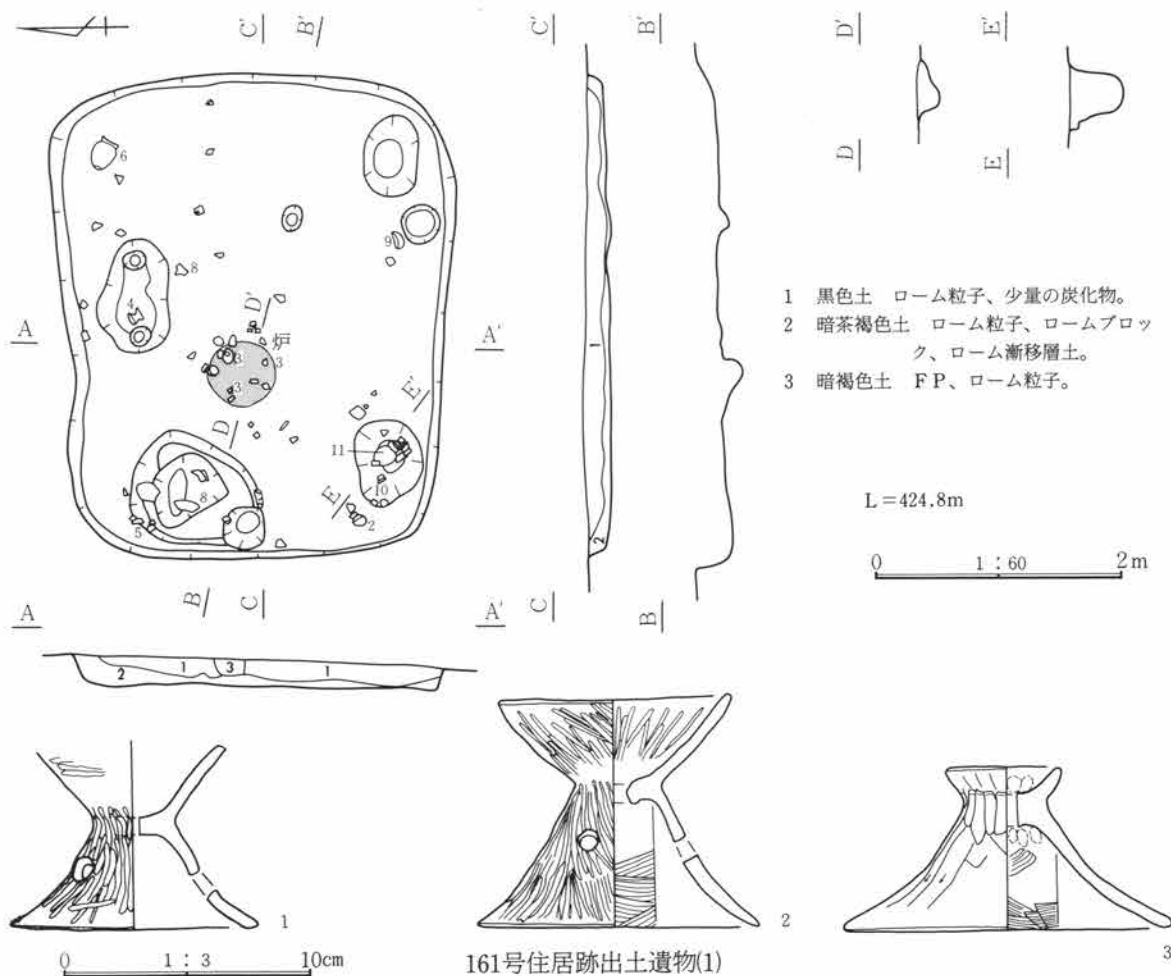
度5.8cmを測る溝がほぼ全周する。床面 床はローム地床。他はローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。堅く締まりが強い。南及び西壁側に間仕切り状の溝を検出する。  
 柱穴 4穴検出され、径20~33cm、深度50~61cmを測る。柱穴間は東西軸方向に370~372cm、南北軸方向に320~330cmを測る。また、他に小ピット数穴を検出する。  
 貯蔵穴 南壁際西側部に検出され、長方形を呈し65×90cm、深度31cmを測る。 炉 住居北側柱穴間のほぼ中央の位置に設けられ、円形を呈し、径42cmを測る。炉は地床炉で中央南側には楕円形の礫を置く。 重複 重複する遺構はない。 備考 住居中央部を正方形に残し周囲に掘り方をもつ。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。また、出土位置も床から離れる。

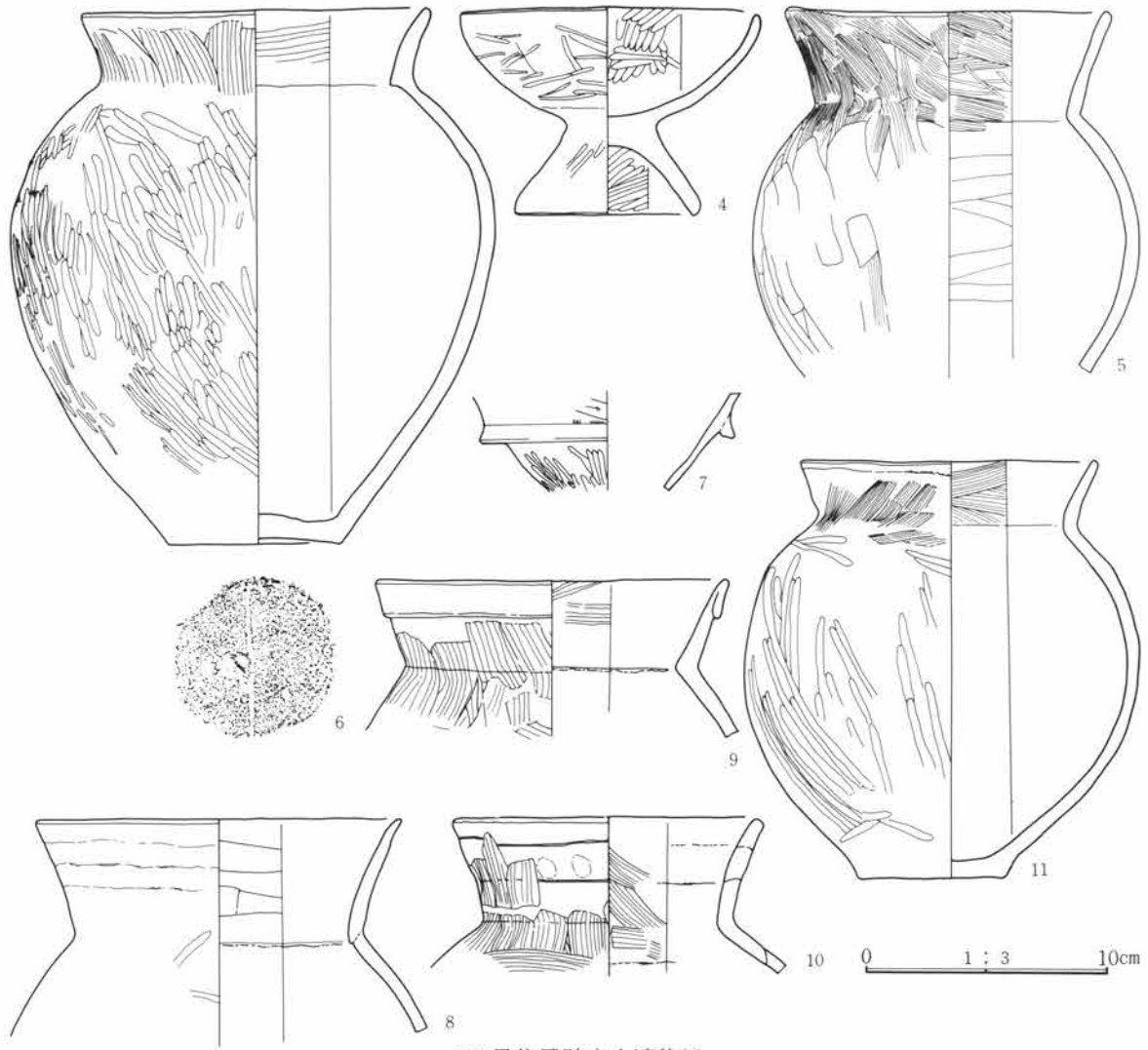


位置 8D-15グリッド 方位 N-38.0°-E 形状 不明×186cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、南側は重複遺構に切られ明らかではない。壁はやや蛇行して巡り、壁高は僅か4cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。やや軟質。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。炉 住居中央北東寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径34cmを測る地床炉。重複 118号住居跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存はない。出土遺物中壺破片が158号住 (No.1) の壺と接合する。

161号住居跡 (写真図版76~77頁、106頁)

位置 8C-17グリッド 方位 N-90.0°-E 形状 379×294cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は18cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。堅く締まりが強い。柱穴 壁際に6穴、床面上に2穴のピットが検出され、径17~55cm、深度8~39cmを測る。貯蔵穴 南西部付近に検出され、円形を呈し、径45cm、深度18cmを測る。炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径53cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的多いが、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、甕 (No.5, 6, 11)・器台 (No.2, 3) は床面直上及び貯蔵穴内よりの出土である。特筆すべき出土遺物として、(No.7) の破片があり、全体の器形・器種は明らかではない。また、前記の甕 (No.6) の底部には木葉痕が残る。



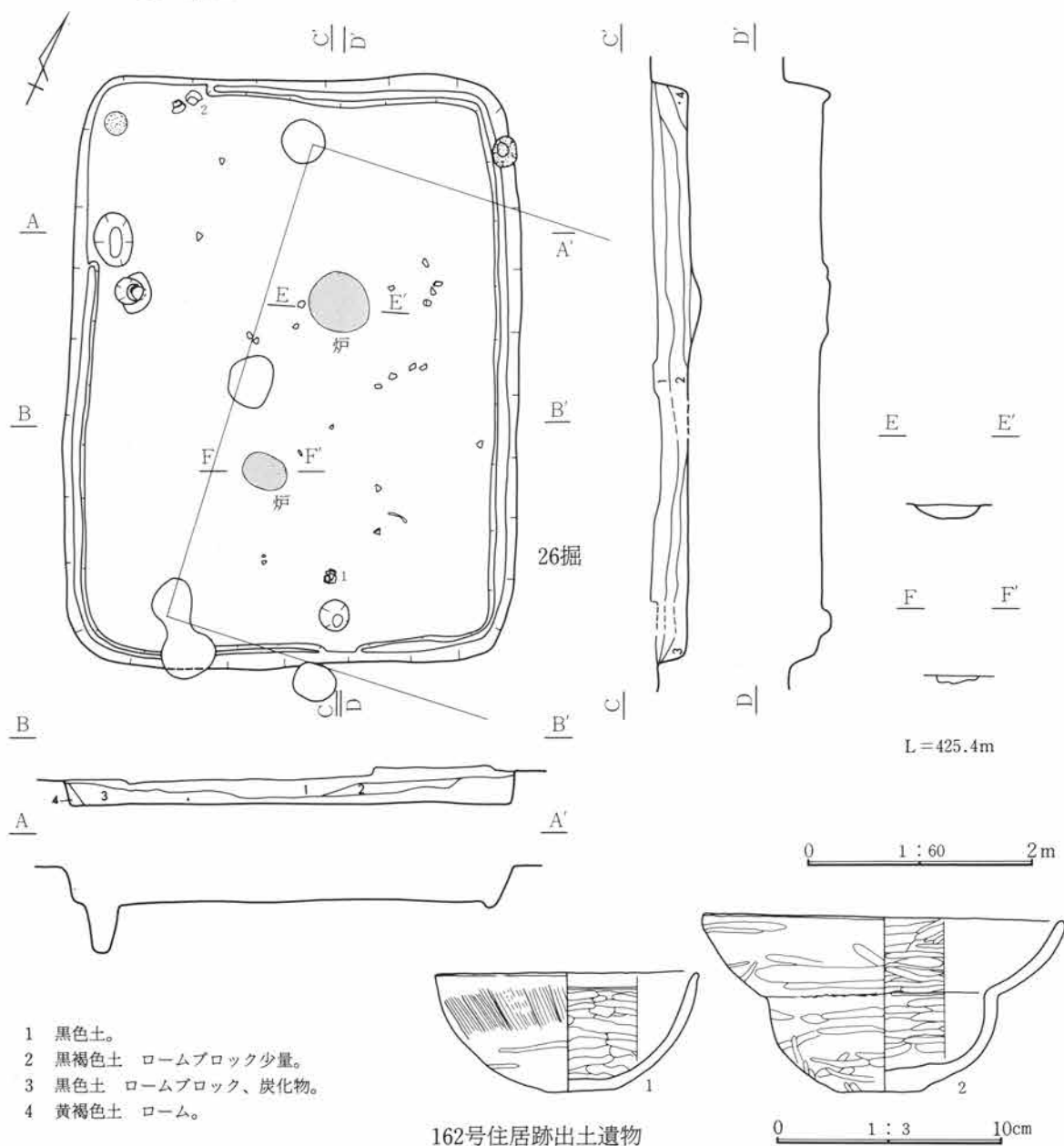


161号住居跡出土遺物(2)

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	器台	炉址	— ・ — ・ 9.8 1/5欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	受部－内外面とも研磨。脚部－外面研磨、内面刷毛目。受部に1つ、脚部に3つの穿孔。
②	器台	6 cm	9.2・9.0・11.1 完形	白色・石英細～粗砂粒 普通 浅黄色	受部－内外面とも研磨。脚部－外面研磨、内面粗い刷毛目。受部1つ、脚部に3つの穿孔。
③	器台	床直	— ・ — ・ 12.9 1/5欠損	白色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	受部－外面篋削り、内面指撫で。脚部－外面篋削り、内面刷毛目。脚部の穿孔なし。
④	高坏	床直	12.1・8.4・7.2 完形	白～灰色・石英細～粗砂粒 不良 浅黄橙色、橙色	坏部－外面篋削り→研磨、内面研磨。口縁部横撫で。 脚部－内外面とも篋削り→研磨。
⑤	甕	ピット内 5～7 cm	13.1・— ・ — 胴下位～口縁部残	白色・石英細～粗砂粒 普通 灰黄褐色、褐灰色	外面－全体に刷毛目整形→胴部篋研磨。 内面－胴部篋研磨、口縁部刷毛目整形。
⑥	甕	床直	14.2・21.4・7.1 完形	白～灰色・石英細～粗砂粒 良好 明赤褐色、暗赤灰色	底部は木葉痕。外面－胴部篋削り→篋研磨。 口縁部粗い刷毛目。内面－胴部篋撫で、口縁部粗い刷毛目。
7	埴?	埋土	— ・ — ・ — 小片	白色細砂粒 普通 褐灰色	埴の口縁部か? 凸帯が1条付く。撫で、部分的に研磨、内面研磨。

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
⑧	甕	5.5~6.0cm	14.8・ - ・ - 頸~口縁部1/2残存	白色・石英細砂粒 普通 赤黒色	外面-胴部篋削り→研磨、口縁部4段の輪積痕→指押え→上位撫で。内面-篋撫で。
⑨	甕	9cm	14.3・ - ・ - 頸部~口縁部小片	白・赤褐色・石英細砂粒 普通 明黄・黒褐色	外面-粗い刷毛目。口縁部は、外側に折り返し横撫で。 内面-粗い刷毛目→雑な研磨。
⑩	甕	8~10.5cm	12.6・ - ・ - 頸~口縁部1/2周残	白色・石英細~粗砂粒 普通 におい橙色、黒褐色	外面-頸部粗い刷毛目、口縁部3段の輪積痕で刷毛目、押え。内面-粗い刷毛目、口縁部上位横撫で。
⑪	甕	-26cm ピット内	11.9・16.9・5.8 完形	白色・石英細~粗砂粒 普通 浅黄橙色、明赤褐色	外面-胴部研磨、口縁部刷毛目と上位は横撫で。輪積痕2段残す。内面-撫で、口縁部刷毛目整形。

162号住居跡 (写真図版78頁、106頁)



位置 16C-14グリッド 方位 N-24.0°-W 形状 514×396cmを測る隅丸長方形のプランを呈し、壁は直線的に巡り、壁高は33.5cmを測る。壁溝は幅12cm、深度11cmを測る溝がほぼ全周する。  
 床面 床はローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。堅く締まりが強い。 柱穴 小ピットが数穴検出されるが柱穴とは判断できない。 貯蔵穴 なし。 炉 2ヶ検出され、大形のは住居中央北東寄りの位置に設けられ、円形を呈し、径53cmを測る。小形のは中央南寄りに設けられ円形を呈し、径35cmを測る。 重複 26号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。遺物は、住居全面に散乱し出土する。出土遺物中、鉢(No.1)は床面直上付近よりの出土である。

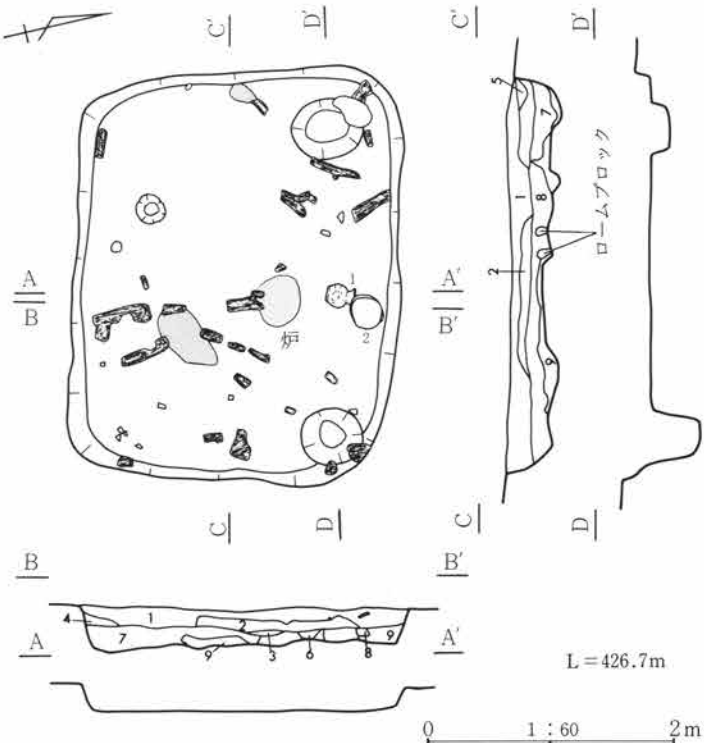
遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	鉢	3.5cm	11.4・5.2・3.0 完形	多量の白・灰色・石英細～粗砂粒 不良 橙色	外面一体部下位篋削り、体部上位刷毛目。 内面一体部研磨、口縁部横撫で。
②	埴	6cm	15.6・7.5・ 口縁一部欠損	白・灰色・石英細～粗砂粒 普通 橙色	内外面ともに篋削り→篋磨き。 口唇部横撫で。

165号住居跡 (写真図版79頁、106頁)

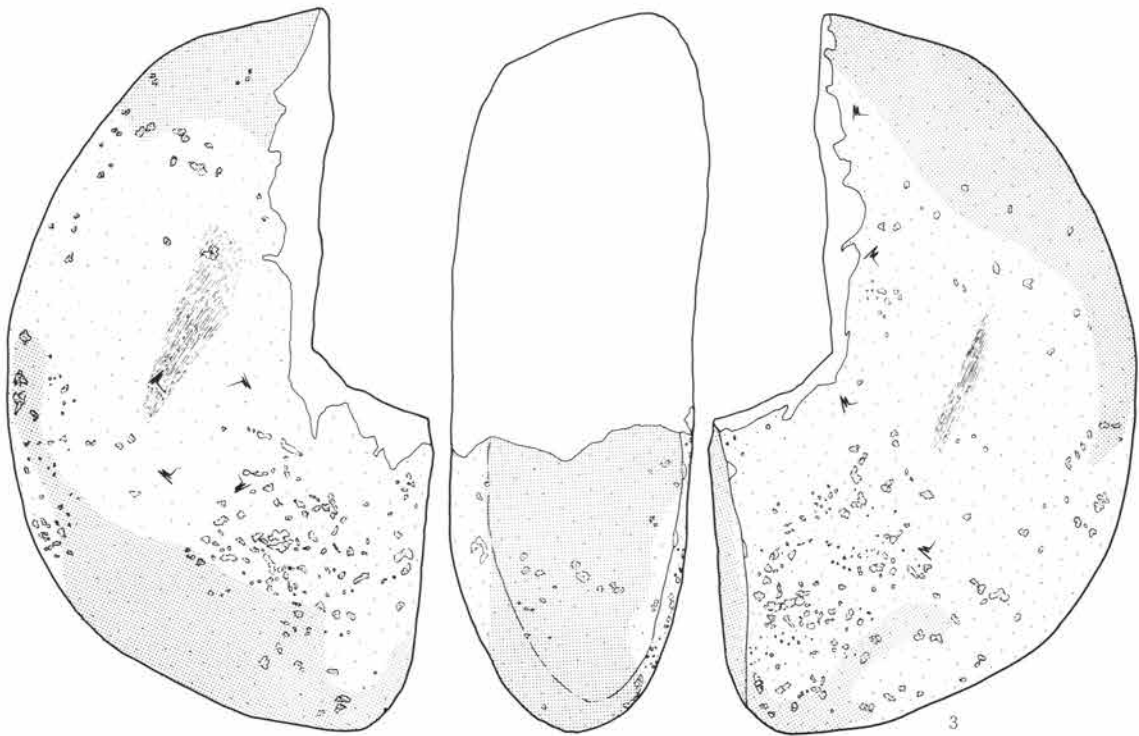
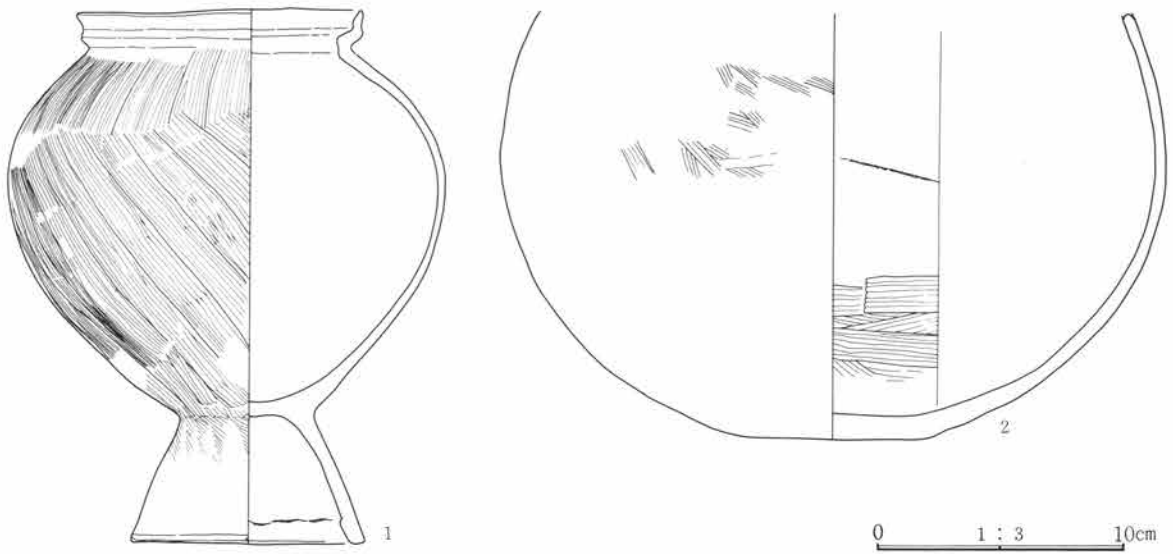
位置 14D-17グリッド 方位 N-75.0°-W 形状 334×260cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は24cmを測る。壁溝はなし。 床面 床はローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。やや軟質。 柱穴 1穴検出され、径23cm、深度17cmを測る。

貯蔵穴 北東コーナー部付近に検出され、円形を呈し、径44cm、深度38cmを測る。 炉 住居中央南東寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径28×62cmを測る地床炉。

重複 重複する遺構はない。  
 備考 床面より多量の炭化材を検出し、棒状のものに加え、板状のもの、枠形のものも含まれる。 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。出土遺物中、壺(No.2)・台付甕(No.1)は床面直上よりの出土である。



- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 ローム粒子、スコリア少量、炭化物。     | 6 黒色土 若干のローム粒子。                   |
| 2 暗茶褐色土 ローム粒子、多量のスコリア、炭化物。   | 7 黒褐色土 ローム粒子、1～2cm大のロームブロック。      |
| 3 黄褐色土 多量のロームブロック。           | 8 暗褐色土 多量のローム粒子。                  |
| 4 暗褐色土 ローム粒子、スコリア、炭化物。       | 9 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック、スコリア、若干黒色土。 |
| 5 暗褐色土 多量のローム粒子、若干のスコリア、炭化物。 |                                   |



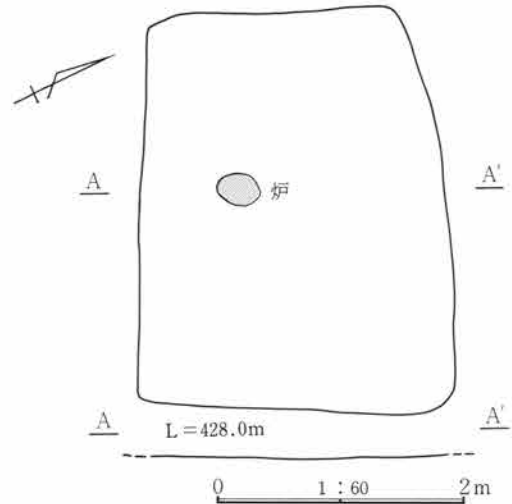
165号住居跡出土遺物

遺物番号	種別器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
①	台付甕	床直	11.2・20.8・9.1 ほぼ完形	灰色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色、橙色	外面-台部から胴部刷毛目整形。横線なし。 S字口縁、横撫で。内面-撫で。
②	壺	床直	-・-・7.5 底部～胴中位残存	白・灰色・石英細～粗砂粒 普通 におい橙色	外面胴部下半甕撫で、上半刷毛目と甕撫で。 内面胴部下半刷毛目、上半甕撫で。器内薄手、 全体に磨減著しい。
③	擦石	埋土		流紋岩	



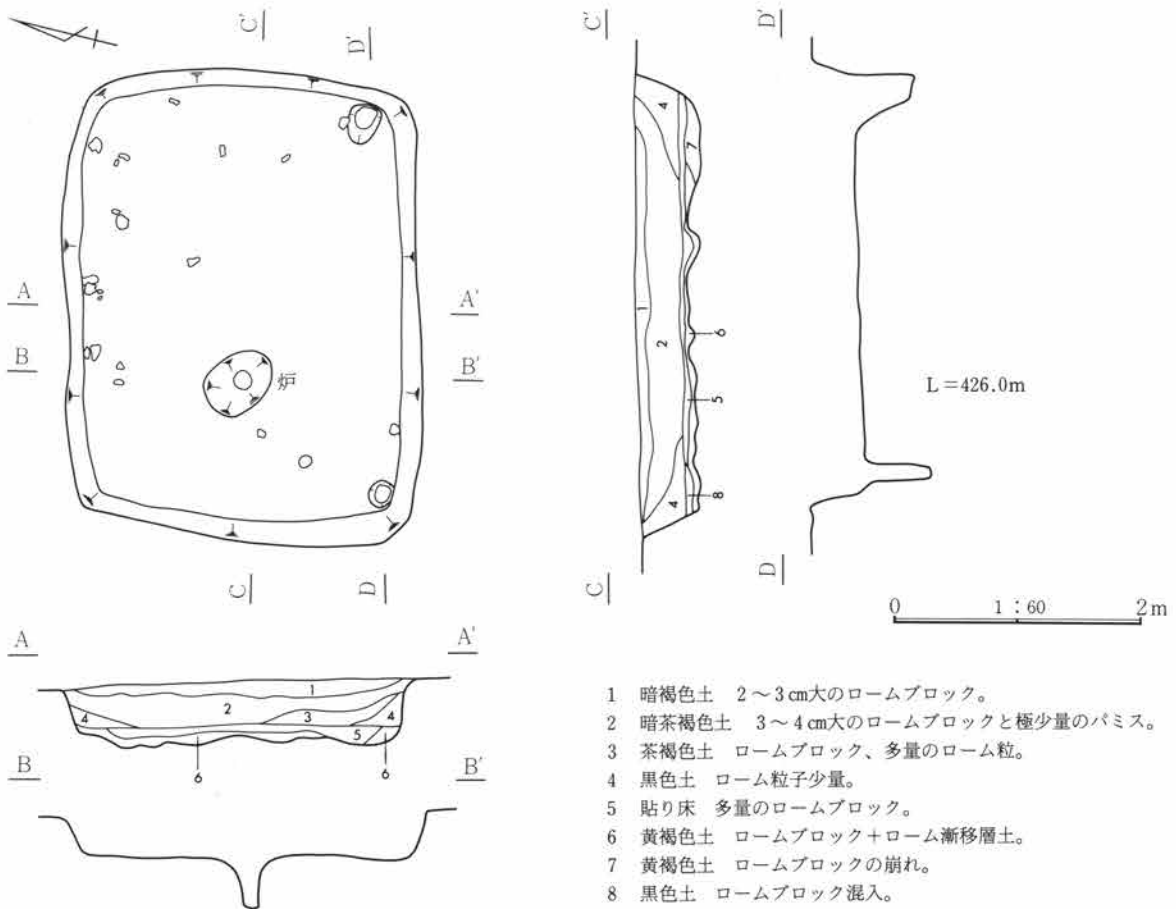
166号住居跡 (写真図版79頁)

位置 12D-15グリッド 方位 N-65.0°-W  
 形状 312×253cmを測る隅丸方形のプランを呈する。遺構確認が困難であったため、検出時には床面のみの状態であり、壁は確認できなかった。床面 床はローム地床でやや軟質。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。  
 炉 住居中央西壁寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径26×35cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。  
 遺物 遺構内より出土する遺物はない。



167号住居跡 (写真図版80頁)

位置 6D-15グリッド 方位 N-76.5°-E 形状 368×282cmを測る隅丸方形のプランを呈し、壁は直線的に巡り、壁高は36.5cmを測る。壁溝はなし。床面 床はローム地床。強く締めりが強い。  
 柱穴 壁際にピットが2穴検出され、径18~32cm、深度47~50cmを測る。貯蔵穴 なし。炉 住居中央西寄りの位置に設けられ、楕円形を呈し、径43×58cmを測る地床炉。重複 重複する遺構はない。  
 遺物 遺構内より出土する遺物の量は比較的少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。



- 1 暗褐色土 2~3cm大のロームブロック。
- 2 暗茶褐色土 3~4cm大のロームブロックと極少量のパミス。
- 3 茶褐色土 ロームブロック、多量のローム粒。
- 4 黒色土 ローム粒子少量。
- 5 貼り床 多量のロームブロック。
- 6 黄褐色土 ロームブロック+ローム漸移層土。
- 7 黄褐色土 ロームブロックの崩れ。
- 8 黒色土 ロームブロック混入。

168号住居跡 (写真図版81~82頁)

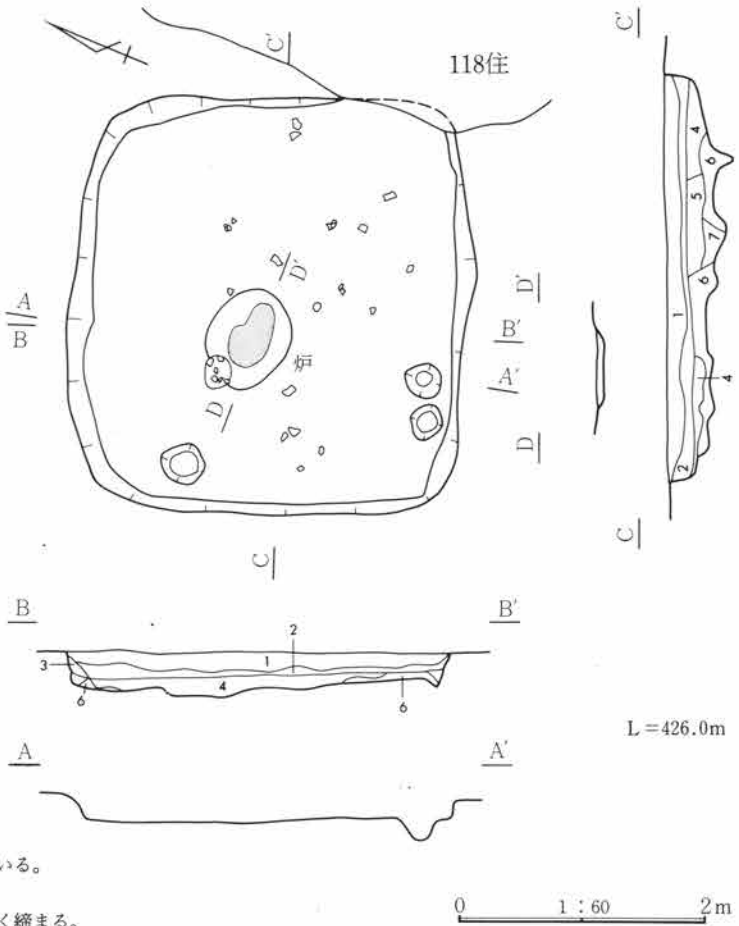
位置 7D-16グリッド

方位 N-66.5°-E 形状 330×319cmを測る隅丸正方形のプランを呈し、壁はやや蛇行して巡り、壁高は14cmを測る。壁溝はなし。

床面 ローム混じりの暗褐色土を叩く貼り床。やや軟質。柱穴 3穴検出され、径28~34cm、深度4~18cmを測る。貯蔵穴 なし。炉 住居のほぼ中央の位置に設けられ、円形を呈し、径65cmを測る地床炉。

重複 118号住居跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。

- 1 黒色土 少量の炭化物。
- 2 明褐色土 若干のローム粒。
- 3 暗茶褐色土 ロームブロック、ローム粒。
- 4 暗茶褐色土 ロームブロック。
- 5 暗茶褐色土 全体がローム粒子。稍締まっている。
- 6 明黄褐色土 ロームブロック。
- 7 暗褐色土 ロームブロック、黄色パミス。強く締まる。

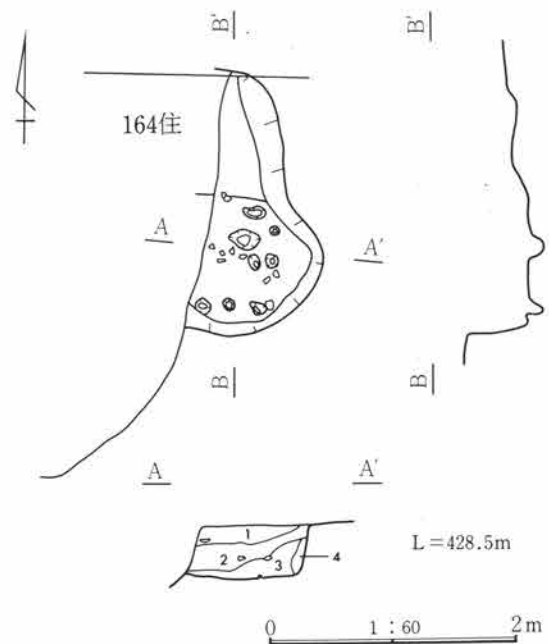


169号住居跡 (写真図版82頁)

位置 22E-16グリッド 方位 不明。

形状 不明。壁高は27cmを測る。床面 床はローム地床。強く締まりが強い。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。炉 なし。重複 164号住居跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土より本遺構の方が古いと判断される。遺物 遺構内より出土する遺物の量は極めて少なく、その大半が破片であり、完形品の遺存は少ない。

- 1 茶褐色土 ローム粒、粘土。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒、粘土。
- 3 明茶褐色土 ローム粒、ローム漸移層土。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック、ローム漸移層土の崩落。

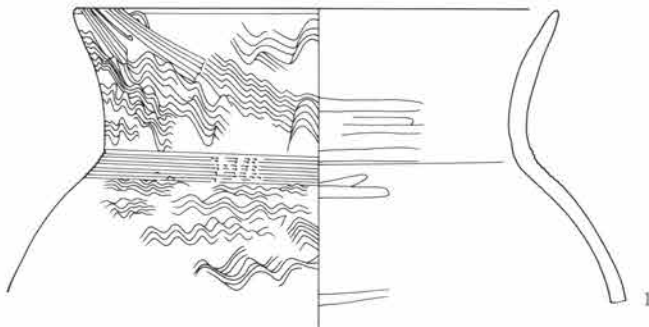
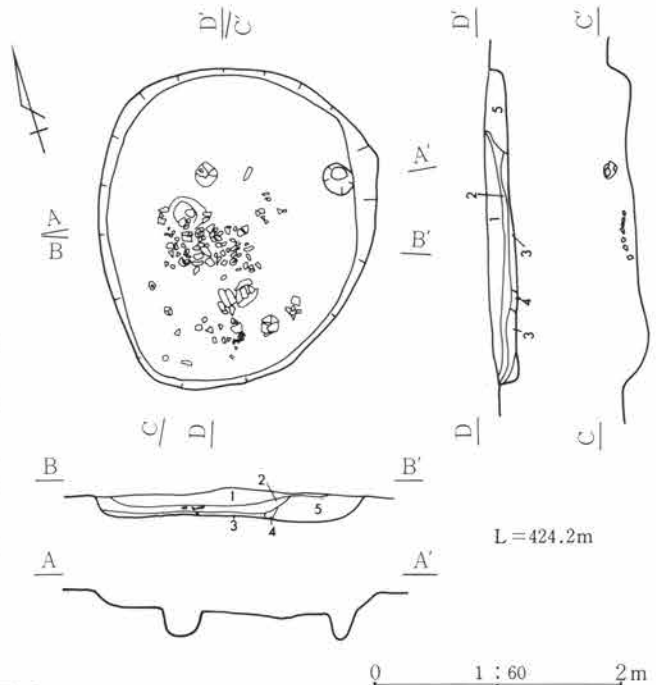


第2項 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

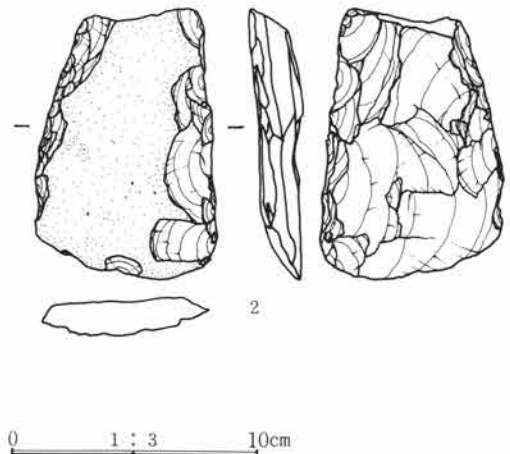
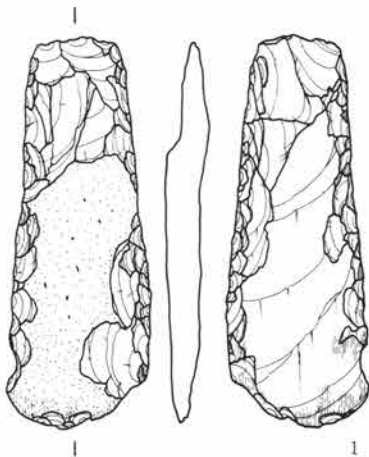
位置 20B-15グリッド 方位 N-15.0°-E 形状 248×220cmを測る円形状のプランを呈し、深度は25cmを測る。床はやや凹凸があるがほぼ平坦で締まる。中央と東端にピットを2穴検出する。時期は埋土と出土遺物より弥生時代後期と判断される。

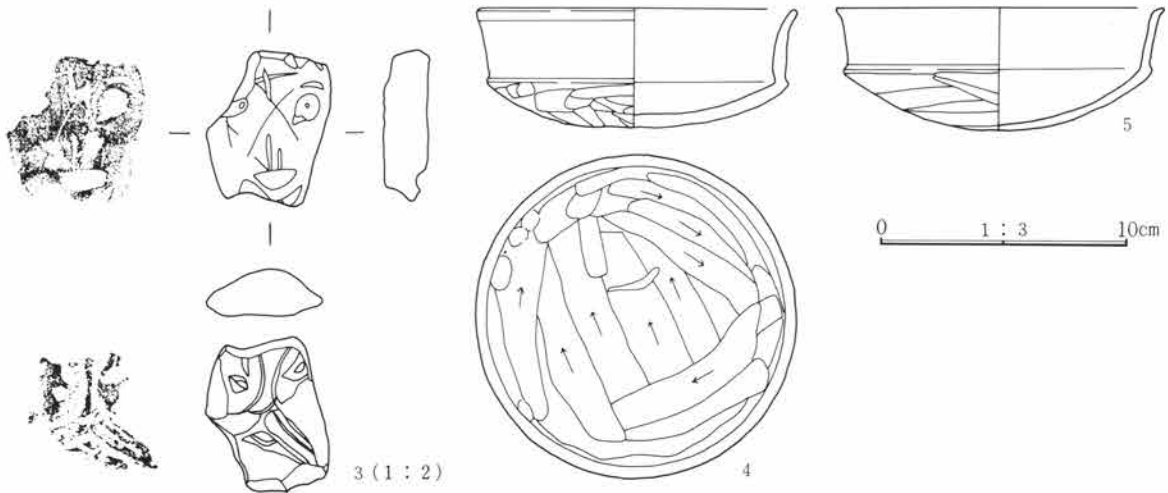
- 1 黒褐色土 粘性なし、黒色土+ローム漸移層。暗褐色土、ローム微粒子全体の10%程混入。張有り。稍弾力を持つ。
- 2 黒褐色土 粘性なし、1に類似。ローム粒子全体の約10%程混入。張有り。稍弾力を持つ。
- 3 暗褐色土 弱粘性、ローム漸移層。暗褐色土とべつにロームブロックを全体の約20%程混入。稍弾力を持つ。
- 4 暗褐色土 3に類似。ロームブロックの混入量は全体の約50%程。
- 5 暗褐色土 ローム漸移層。



番号 器種	量目(cm) 胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴
① 甕	白～灰色細砂粒 普通 黄橙色	口縁部～胴部は、粗い櫛描波状文。頸部は7条1単位の6連止め縷状文が施される。内面は無での上、所々研磨されている。

第3項 遺構外出土遺物



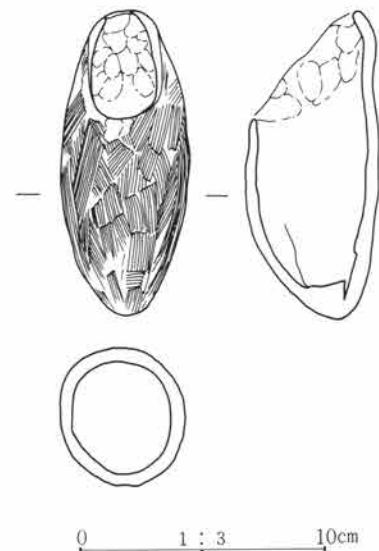


遺物番号	種別 器種	出土位置	量目 (cm) 口径・器高・底径	胎土・焼成・色調 (石 材)	器形・整形の特徴
①	石斧		15.3×5.6・177g	粗粒安山岩	自然面を残す、刃部には細かい剥離調整が行われる。
②	石斧		10.8×7.1・155g	粗粒安山岩	自然面を残す、側縁部は細かい調整、刃部は粗い剥離
③	石製品 顔形				表裏に顔形を刻んでいる。上図側が当初に刻まれたと考えられる。目・鼻・口・眉が刻まれやや立体的である。裏面は平面的で、髪がさらに加わって表現される。材質は軟らかな粗粒凝灰岩で砥石の再利用か。長さ3.8cm。
④	土師器 坏		12.6・4.8・－ 口縁部一部欠損	細砂粒・赤褐色円粗砂粒 良好 橙色	口縁部内外面横撫で、一ヶ所で上に抜けている。底部外面は中央部一方向の笕削り、周囲は右回りの笕削り。
⑤	土師器 坏		12.1・4.9・－ 1/3	細砂粒 良好 橙色	口縁部は直立し、口唇部は外反し上端が平坦面をなす。底部は1/2程残存しているが、中央部が一方向、周辺は左回りの笕削り。

戸神諏訪遺跡周辺の出土土器

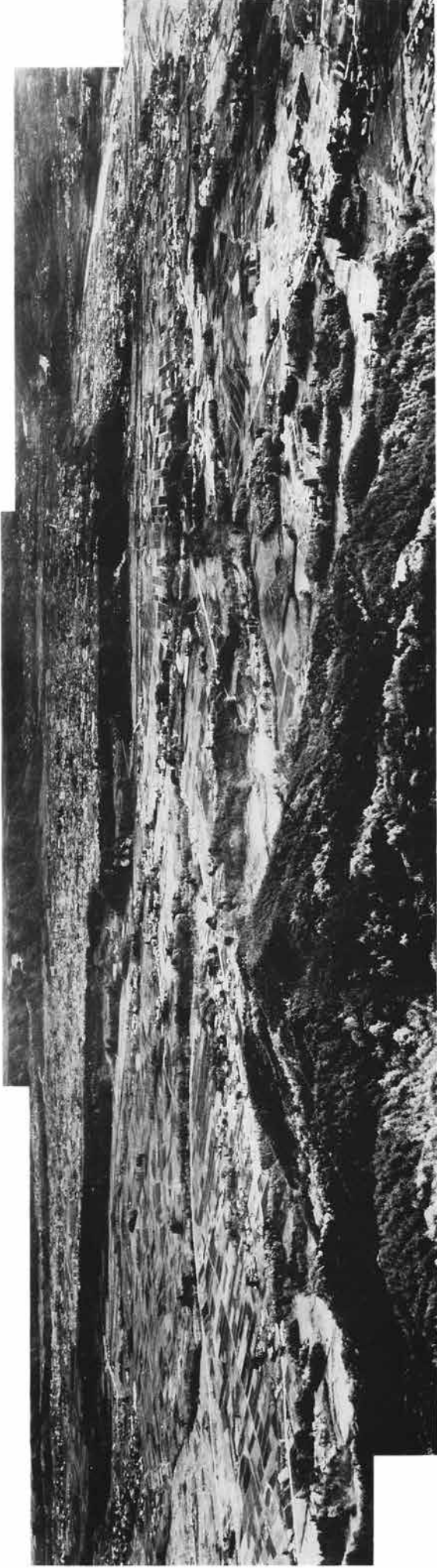
右掲載の遺物は、市道町田戸神線西側、調査区北側に面する桑園より採取された遺物である。

胎土には多量の石英細・粗砂粒と少量の黒色細粒子を含み、にぶい黄橙色を呈し、焼成は良好である。整形上の特徴は、手捏ねによる成形の後、外面には全面刷毛目調整を施し、内面は撫でである。器形は卵形を呈し、口唇部端部は片口状を呈するため、用途としては明らかではないものの、液体を注ぐ片口鉢のようなものであろうと推察されるが、使用は手持ちによるもので、器台等を用いたとしても固定は不可能であろうと考えられる。遺物の時期については、採取品であるため明らかではないが、外面が刷毛目による整形であることから、古墳時代前期の遺物であろうと考えられ、刷毛目の様相は、調査区内より出土する遺物のそれと類似する。



# 写 真 图 版

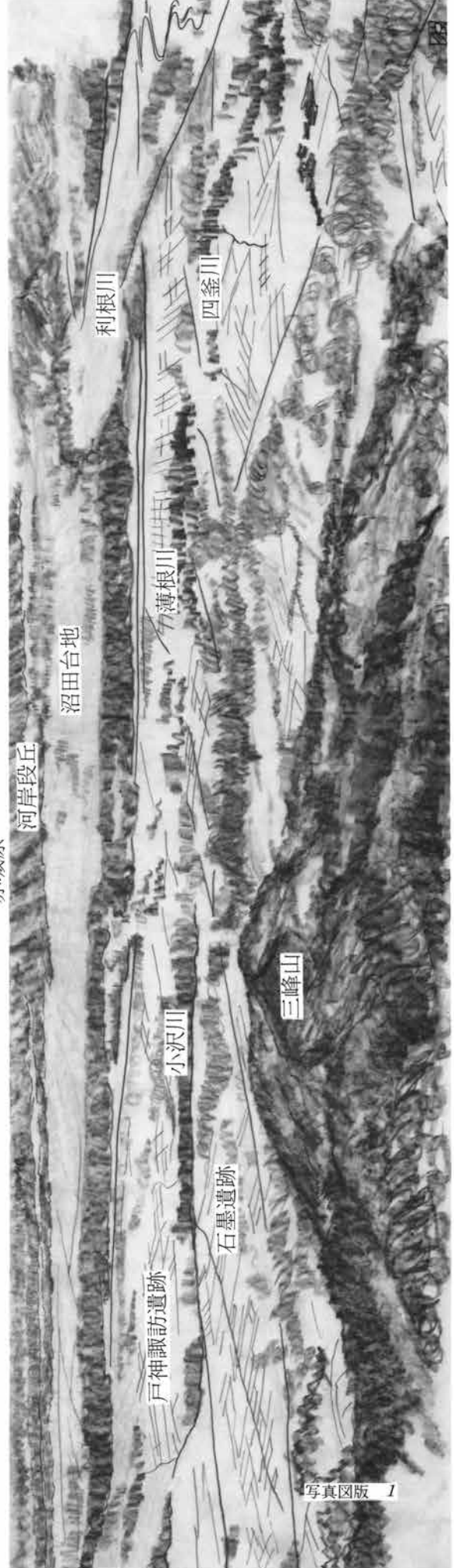




東

赤城原

西



写真図版 1

遺跡遠景写真 一三峰神社より望む一 (昭和54年 桜岡正信、石守晃 撮影)

イラスト

蜂巣滋美



航空写真（一部合成）





遺跡周辺航空写真（米軍撮影：国土地理院）

旧石器時代



試掘トレンチ設定状態 (遺跡西側)



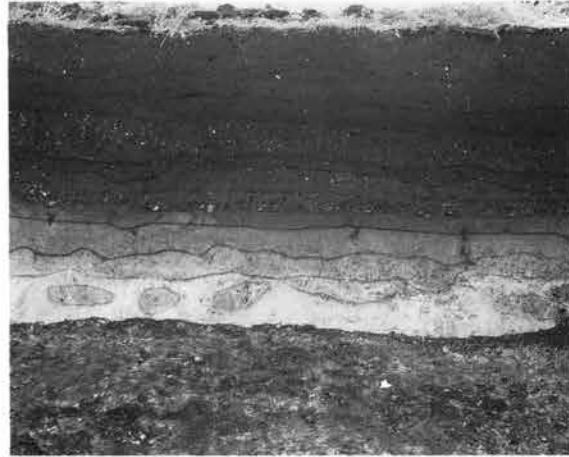
遺物出土状態全景



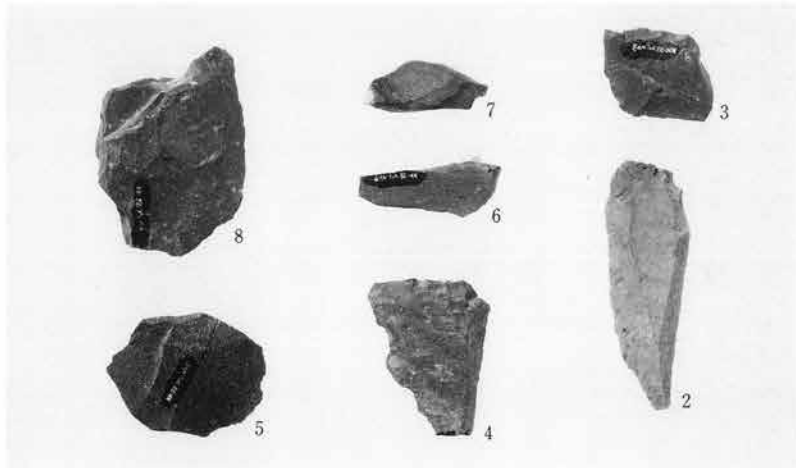
試掘トレンチ設定状態 (遺跡東側)



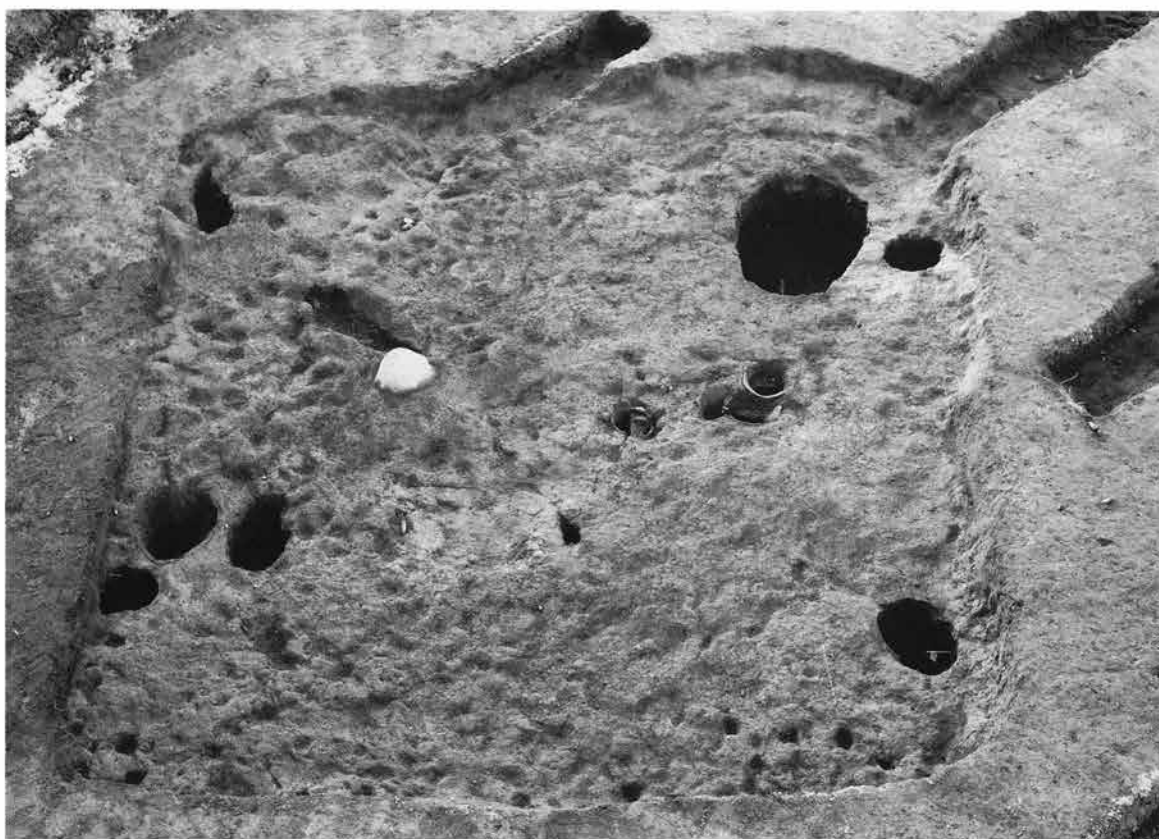
遺物出土状態



試掘トレンチ土層断面



34号住居跡



全景 東より



炉址 東より



遺物出土状態



埋竄出土状態



埋竄出土状態近景



全景 東より



土層断面 A

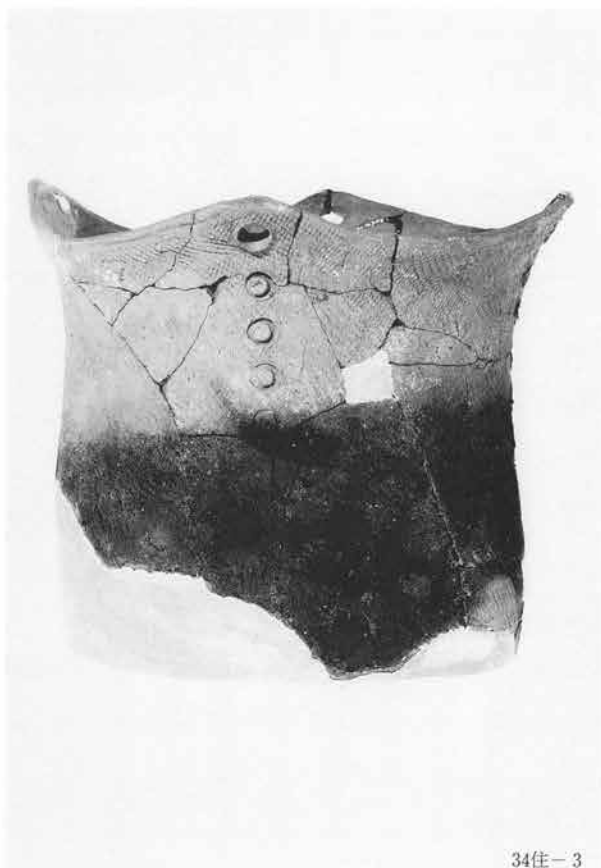


土層断面 C



遺物出土状態

34号住居跡出土遺物 (約1:3)





164住-1



34住-7



34住-6



164住-2



164住-3



34住-5



164住-4

縄文土壇



22号土壇 南より



50号土壇 東より



61号土壇 南より



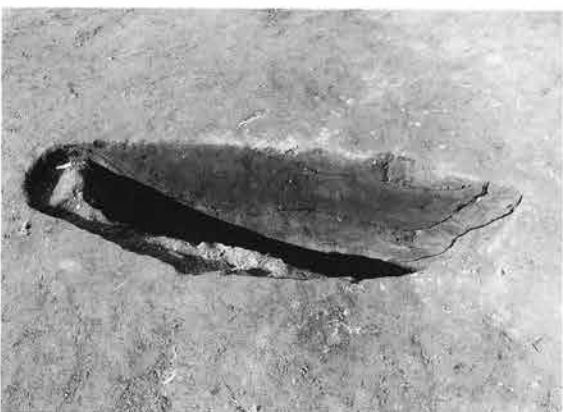
63号土壇 北西より



70号土壇（南西より）及び土層断面



81号土壇土層断面



70号土壇（南西より）及び土層断面



88号土壇確認状態 南東より



縄文土壇



92号土壇 西より



93号土壇 南西より



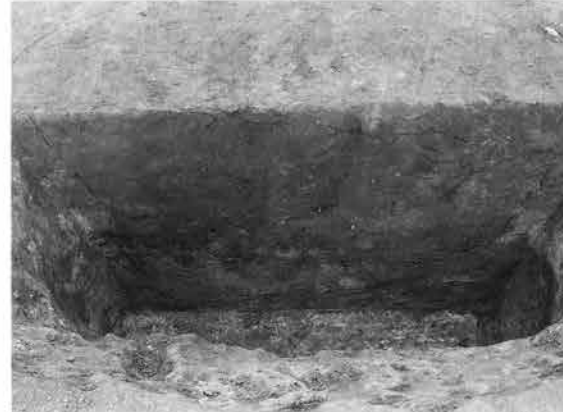
94号土壇 北東より



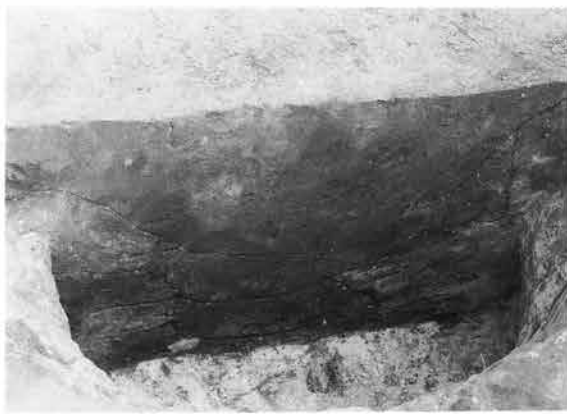
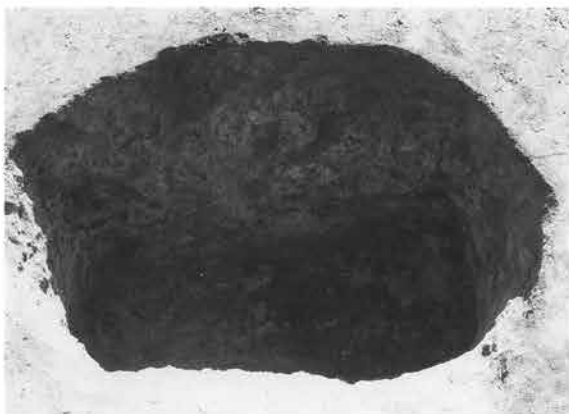
97号土壇（東より）及び土層断面



95号土壇（南より）及び土層断面



縄文土坑



98号土坑（南より）及び土層断面

99号土坑（南より）及び土層断面



101号土坑 東より

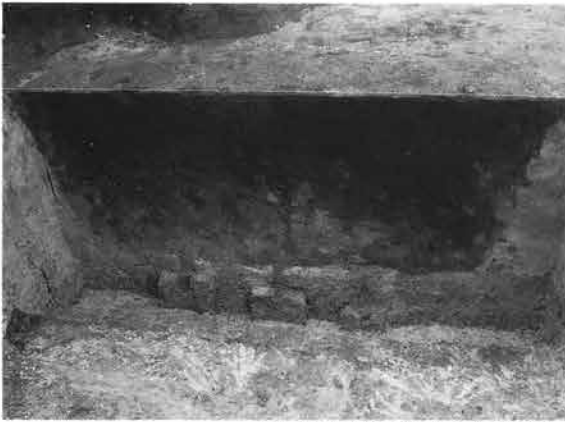


106号土坑 東より

108号土坑土層断面(上からA・B)



109号土塚(西より)及び遺物出土状態



107号土塚土層断面(上からA・B・C)



110号土塚 南東より

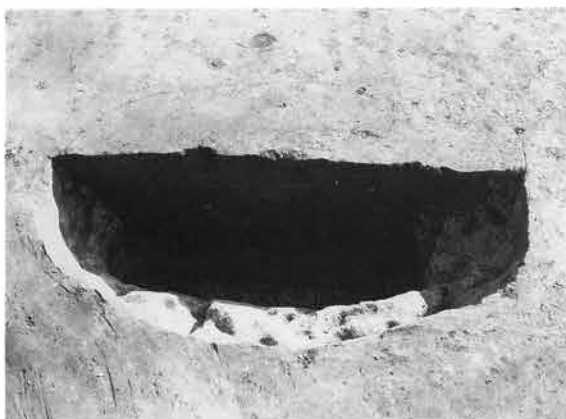


112号土塚 東より

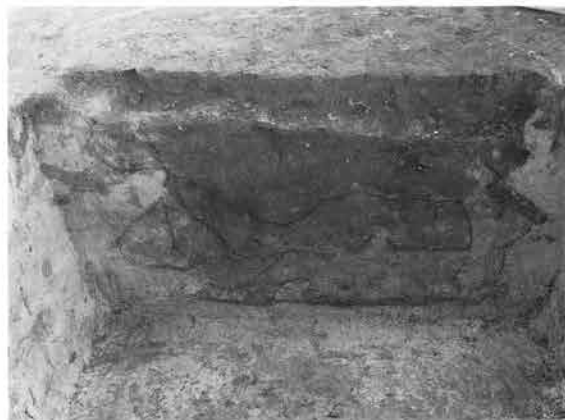
縄文土坑



117号土坑 西より



115号土坑(西より)及び土層断面

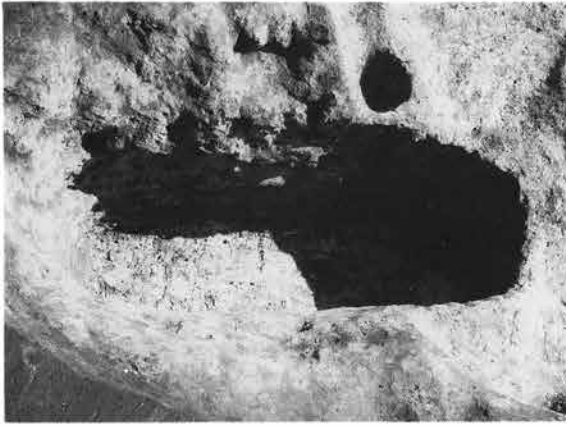


116号土坑(西より)及び土層断面

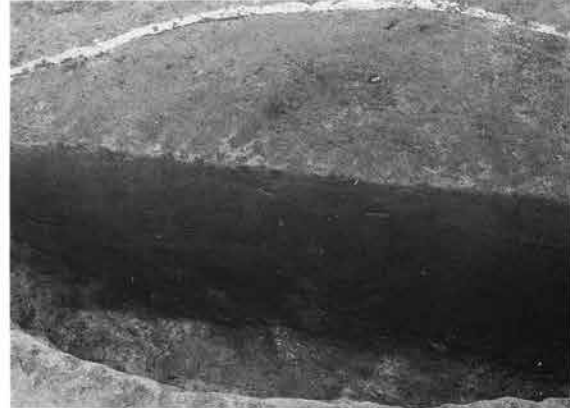
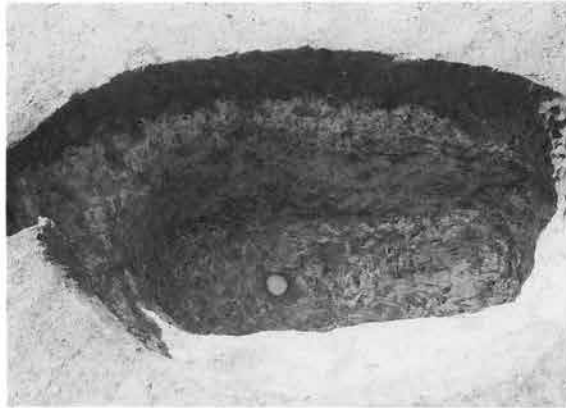


119号土坑(西より)及び土層断面(上からA・B)

縄文土坑



102号土坑(西より)及び土層断面



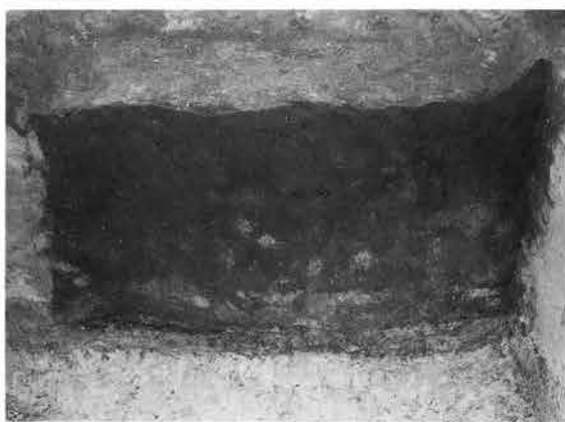
122号土坑 北東より

121号土坑(東より)及び土層断面



123号土坑 東より

縄文土坑



129号土坑(南東より)及び土層断面(上からA・B・C)

131号土坑(南東より)及び土層断面(上からA・B・C)



132号土坑 西より

134号土坑 東より

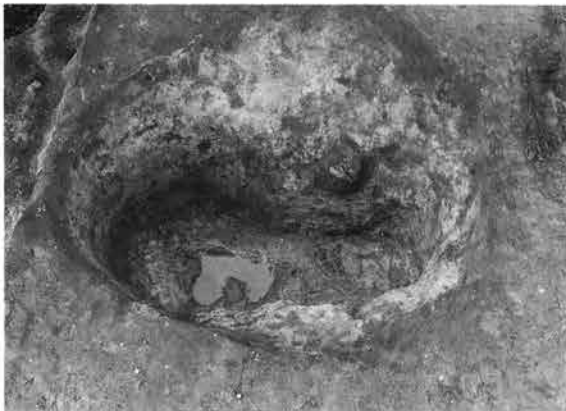
縄文土坑



135号土坑 南東より



136号土坑(南東より)及び土層断面



137号土坑 東より



139号土坑 南西より



138号土坑(北東より)及び土層断面



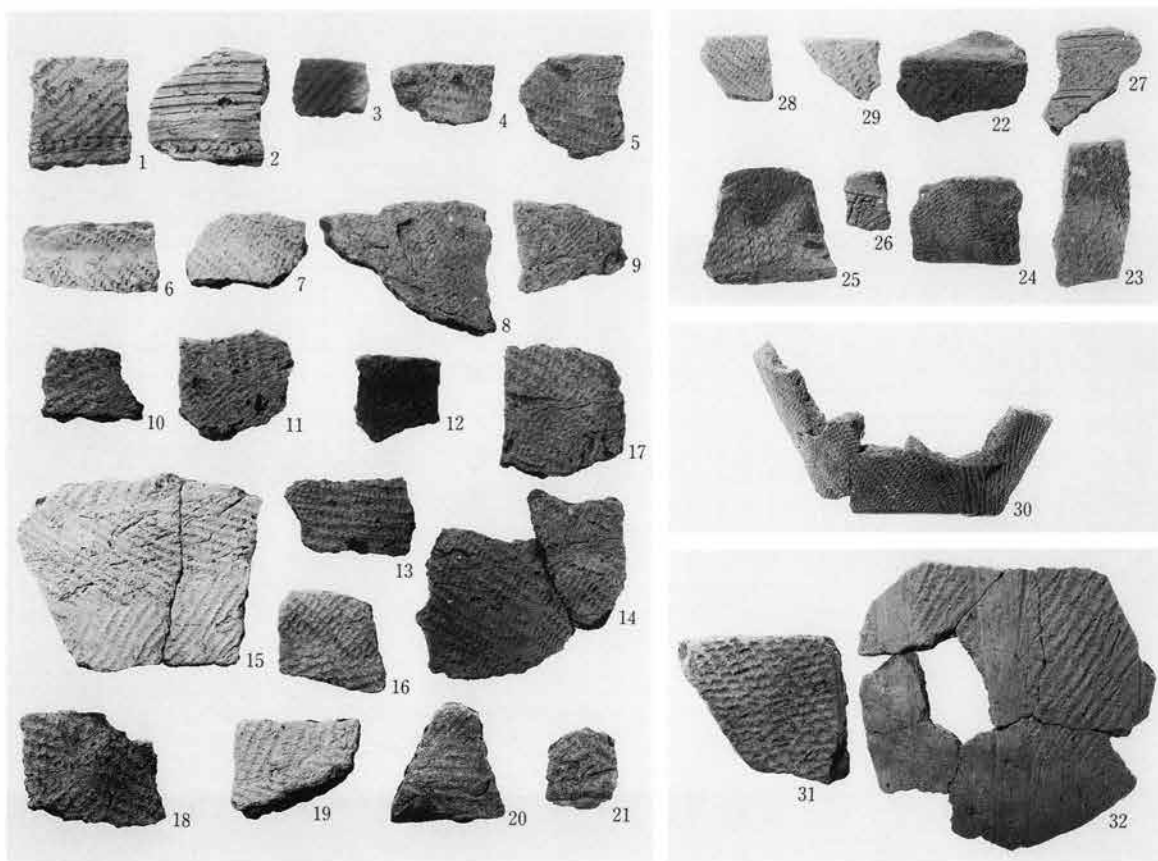
141号土坑 西より

109号土坑出土遺物 (約1:3)



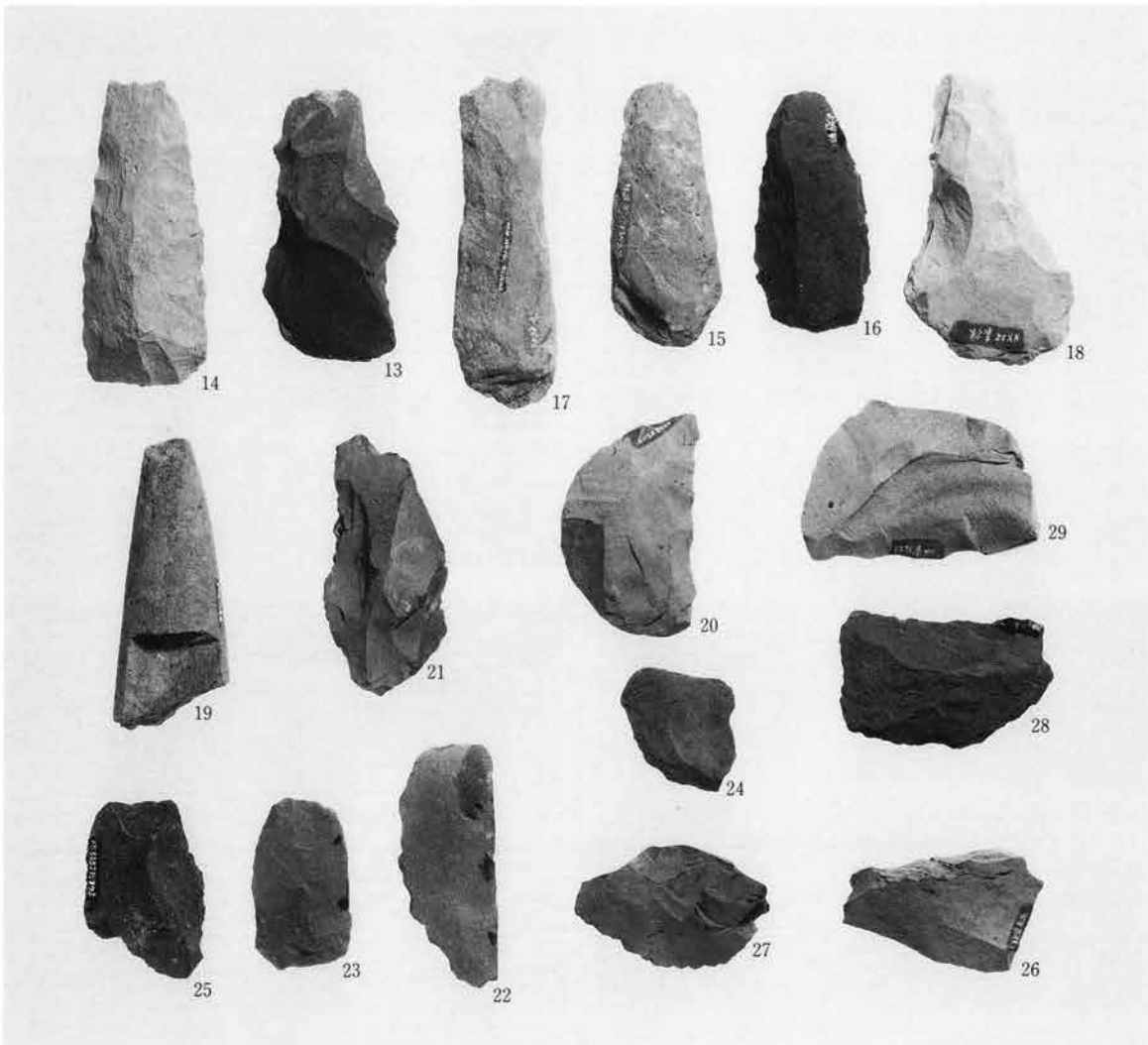
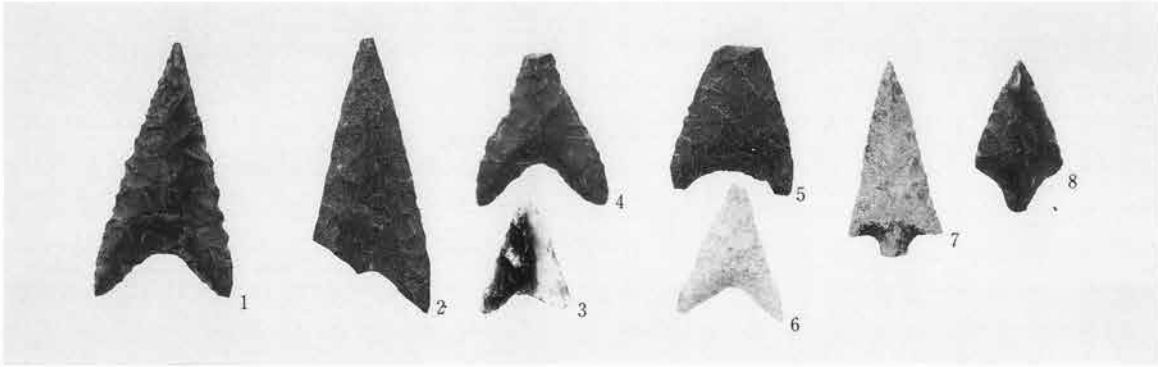
109土坑-1

遺構外出土遺物 (約1:3)





遺構外出土遺物 (約1:3)



11号住居跡



南半分全景 西より



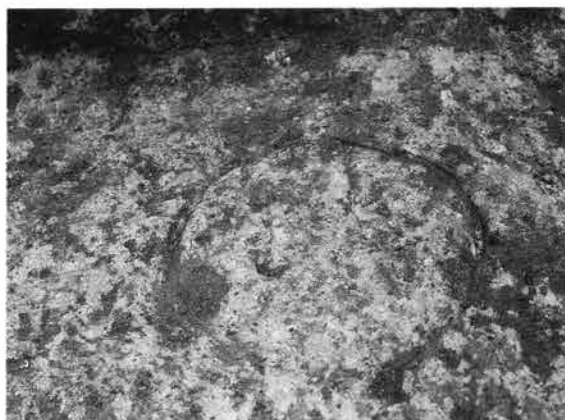
南半分遺物出土状態 西より



遺物出土状態



遺物出土状態 (No28)



遺物 (No28) 除去後の床面状態

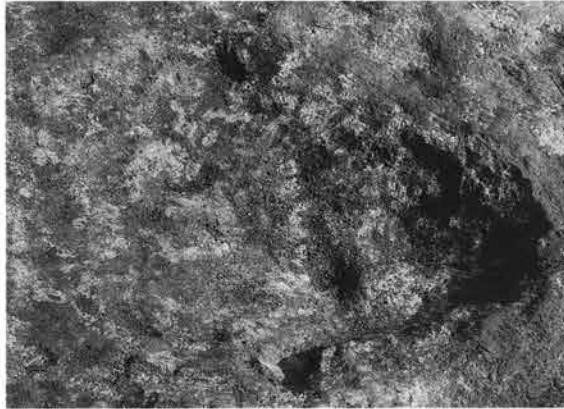
11号住居跡



北半分全景 東より



北半分遺物出土状態 北より



炉址



遺物出土状態(No 5)



ピット内遺物出土状態(No7、他)



遺物出土状態(左からNo11、19)



土層断面(F・P堆積状態) 南より



土層断面(F・P堆積状態) 西より

12・29号住居跡



12(左)・29(右)号住居跡 全景 北より



29号住炉址



12・29号住遺物出土状態



12号住遺物出土状態(No 4)



12号住遺物出土状態(No 3)



全景 西より



炉址



遺物出土状態



遺物出土状態



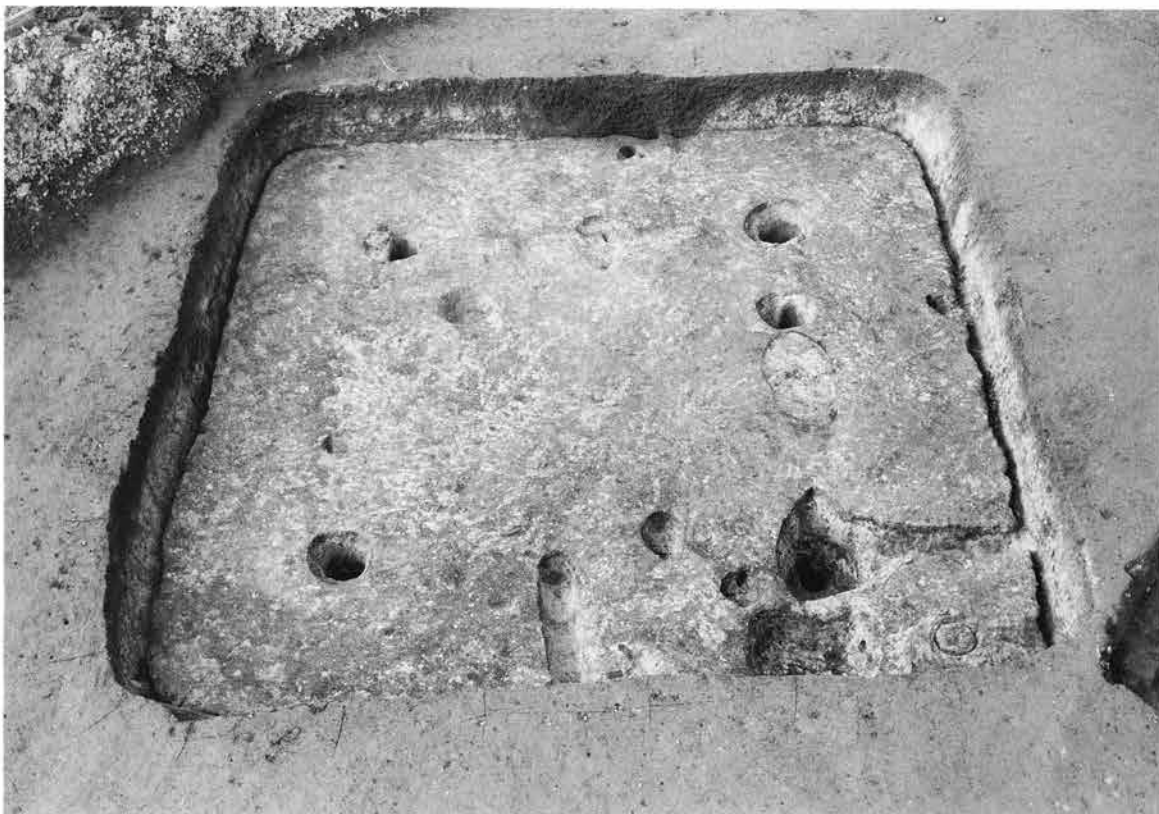
遺物出土状態

14号住居跡



全景 西より (手前重複は9号住)

15号住居跡



全景 南より

14号住居跡



遺物出土状態



遺物出土状態

15号住居跡



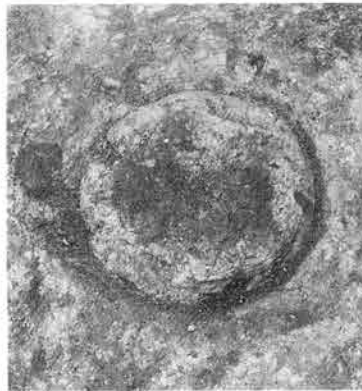
遺物出土状態



遺物出土状態(手前からNo.4、7、2、6)



壺出土状態 (No.10)



遺物(No.10)除去後の床面状態



遺物出土状態(No.9)



遺物出土状態(No.2)

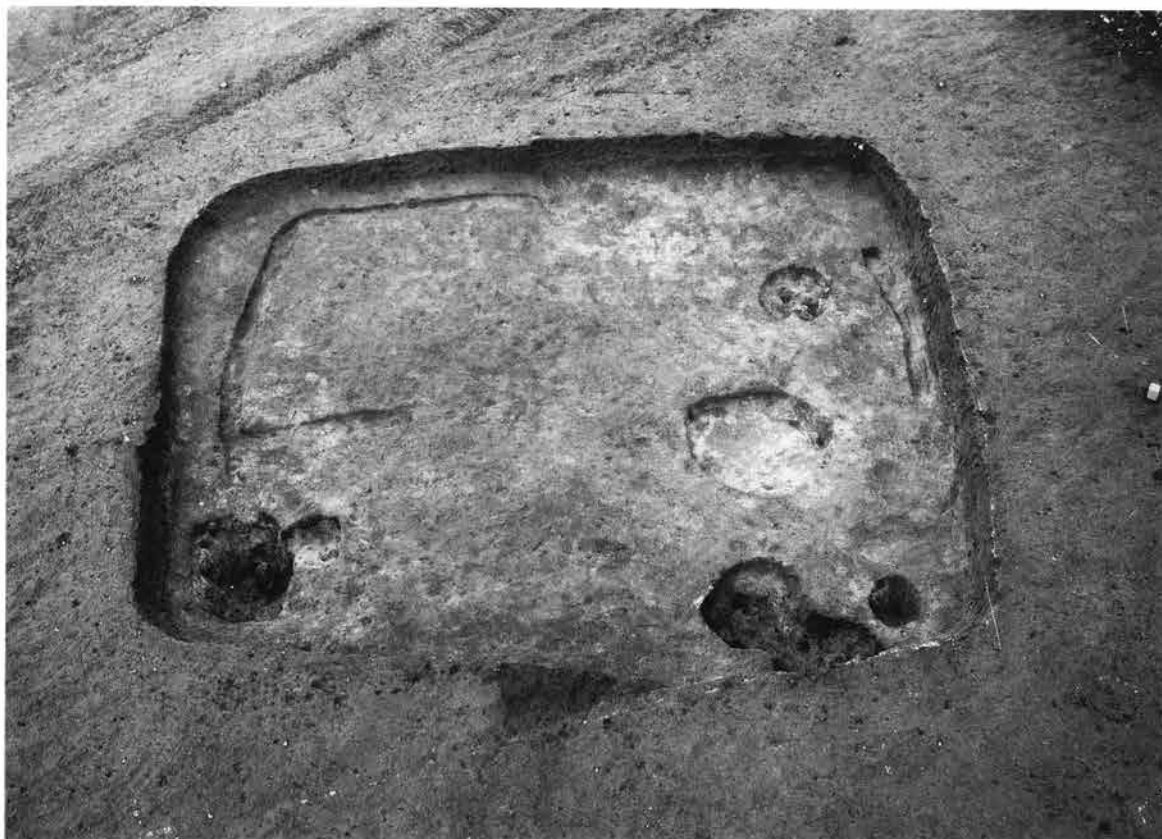


遺物出土状態(No.3)



遺物出土状態(No.5)

16号住居跡



全景 北東より



炉址



炉・掘り方



遺物出土状態 北東より



遺物出土状態



16号住居跡



遺物出土状態 (No 4)



遺物出土状態 (No 6)



遺物出土状態 (左から No 1、2)



遺物出土状態 (No 7)



遺物出土状態 (No 3)



遺物出土状態 (No 8)

19号住居跡



全景 西より

22号住居跡



全景 西より



遺物及び炭化材出土状態 東より



炭化材出土状態



炭化材出土状態 南より



土層断面 北より



全景 南西より(手前重複は23号住)



ピット土堤状施設

25号住居跡



全景 北より



炉址



遺物出土状態



炭化物出土状態



25号住居周辺

26号住居跡



全景及び遺物出土状態 北より

30号住居跡



全景 西より

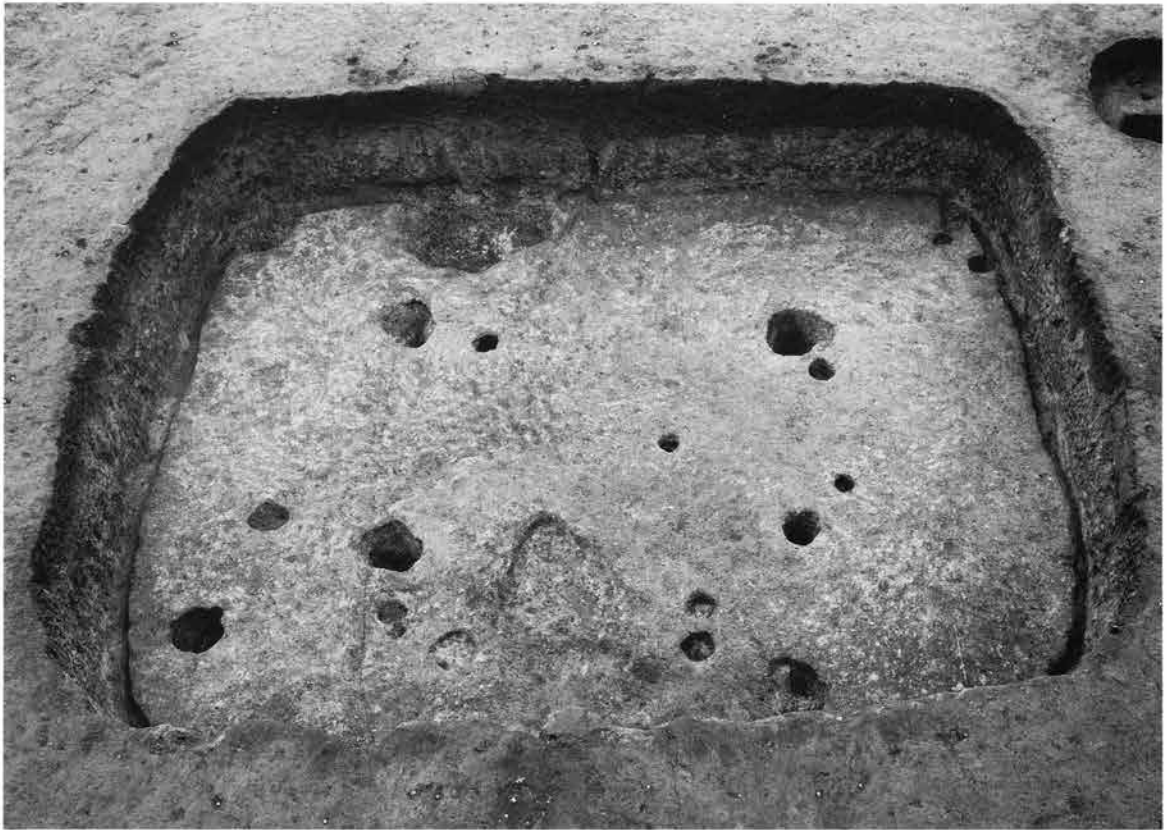


炉址

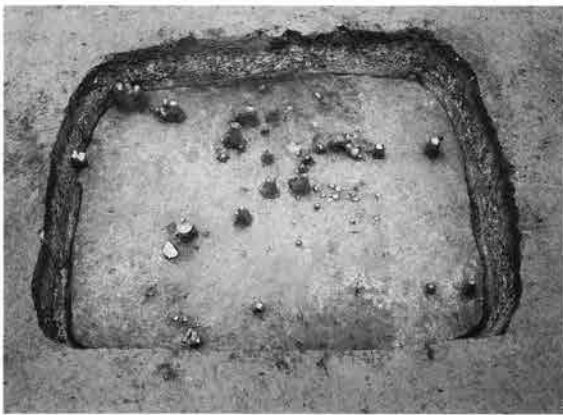


遺物出土状態

31号住居跡



全景 北より



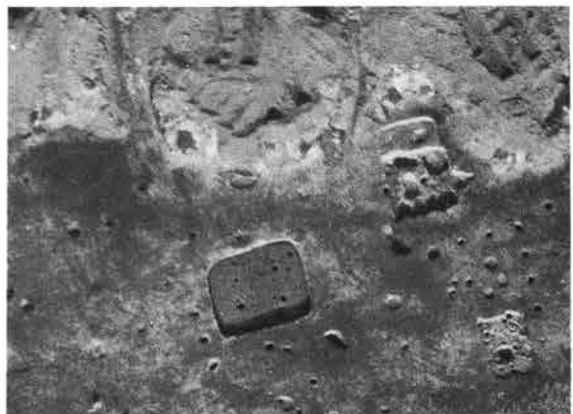
遺物出土状態



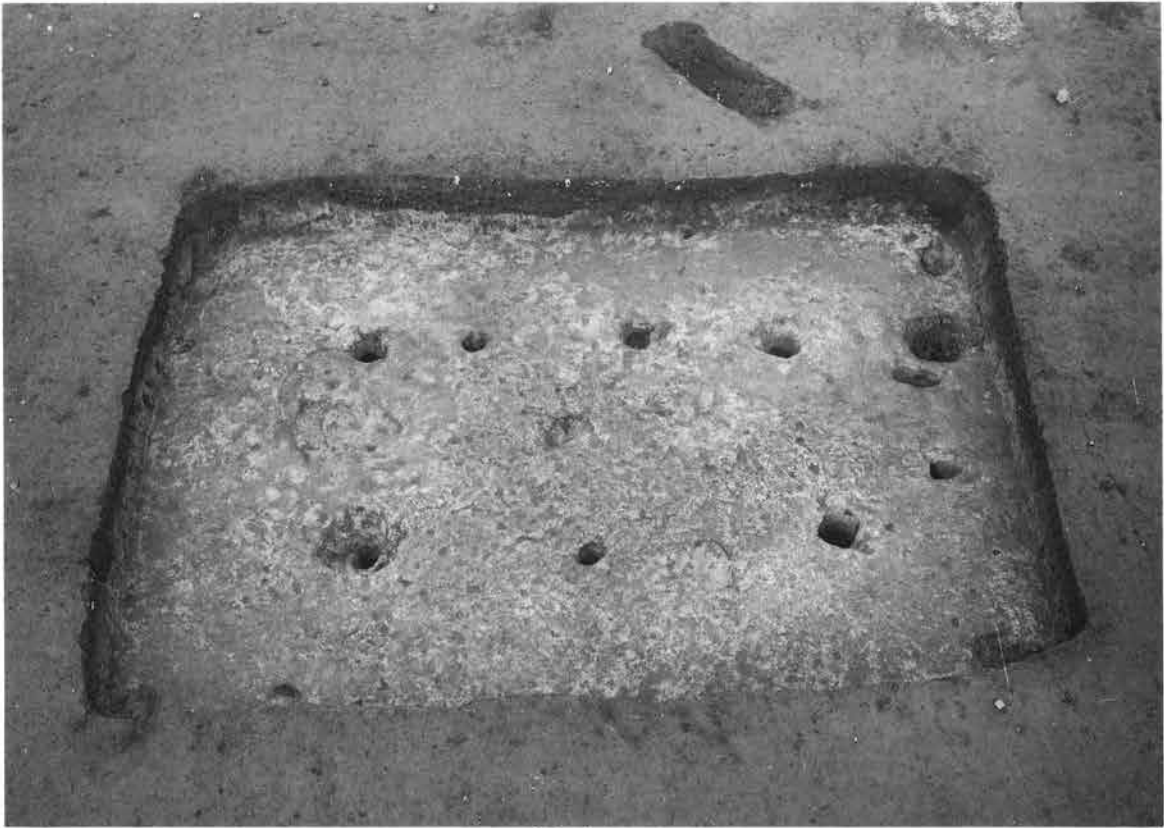
遺物出土状態(Na10)



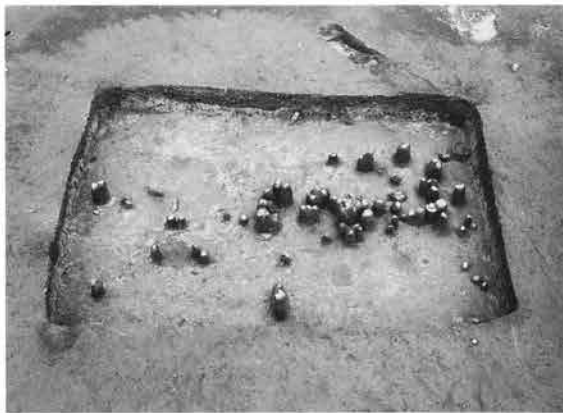
遺物出土状態(Na6)



31号住周辺



全景 南より



遺物出土状態



遺物出土状態(左からNa 5、7)



遺物出土状態(Na 3 他)



遺物出土状態(Na 2)

32号住居跡



遺物出土状態(上からNa11、8)



遺物出土状態(Na 9)



遺物出土状態(Na 4)

33号住居跡



全景 西より



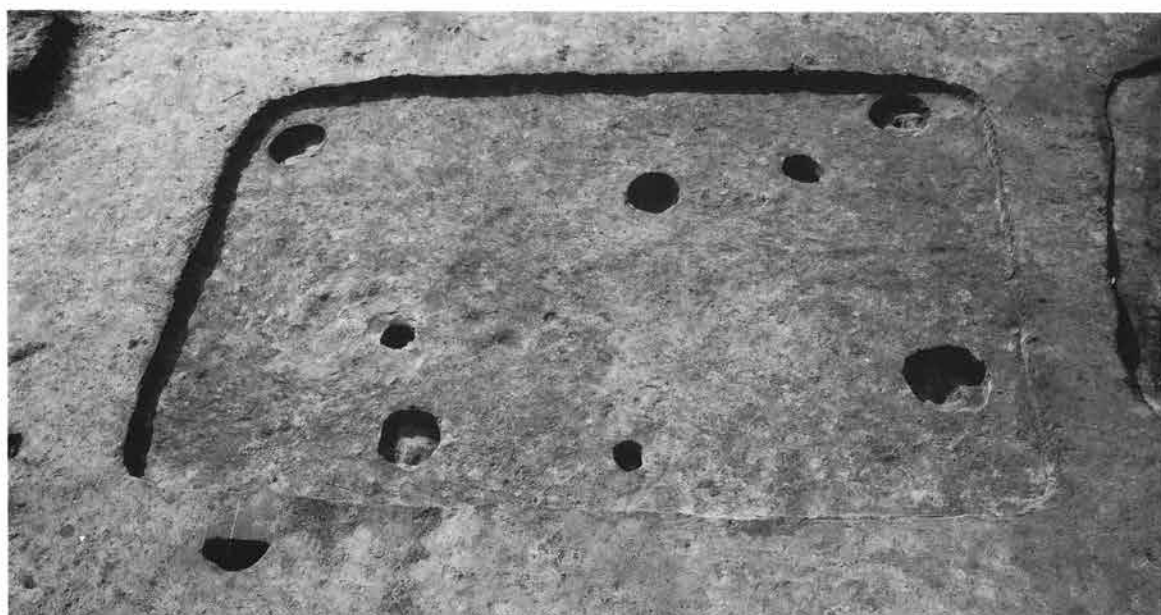
遺物出土状態



遺物出土状態(Na 2)



35号住居跡



全景 北東より



遺物出土状態



遺物出土状態

36号住居跡



ピット土堤状施設



全景 南より

39号住居跡



全景 西より



遺物出土状態



遺物出土状態(右手前No 2)



遺物出土状態(Na 7)



遺物出土状態



全景 北より

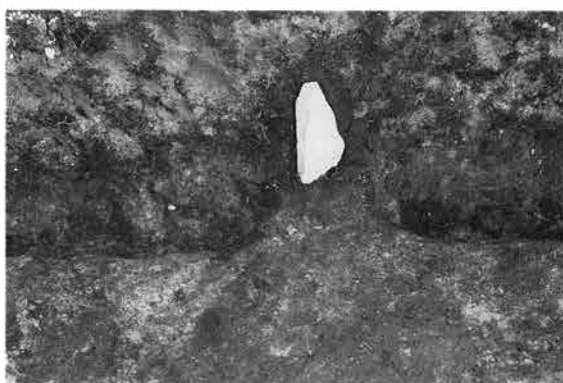


遺物出土状態全景

40号住居跡



遺物出土状態



遺物出土状態

41号住居跡



全景 北西より



全景 北より



炉址



遺物出土状態



ピット土堤状施設



ピット土堤状施設

61号住居跡

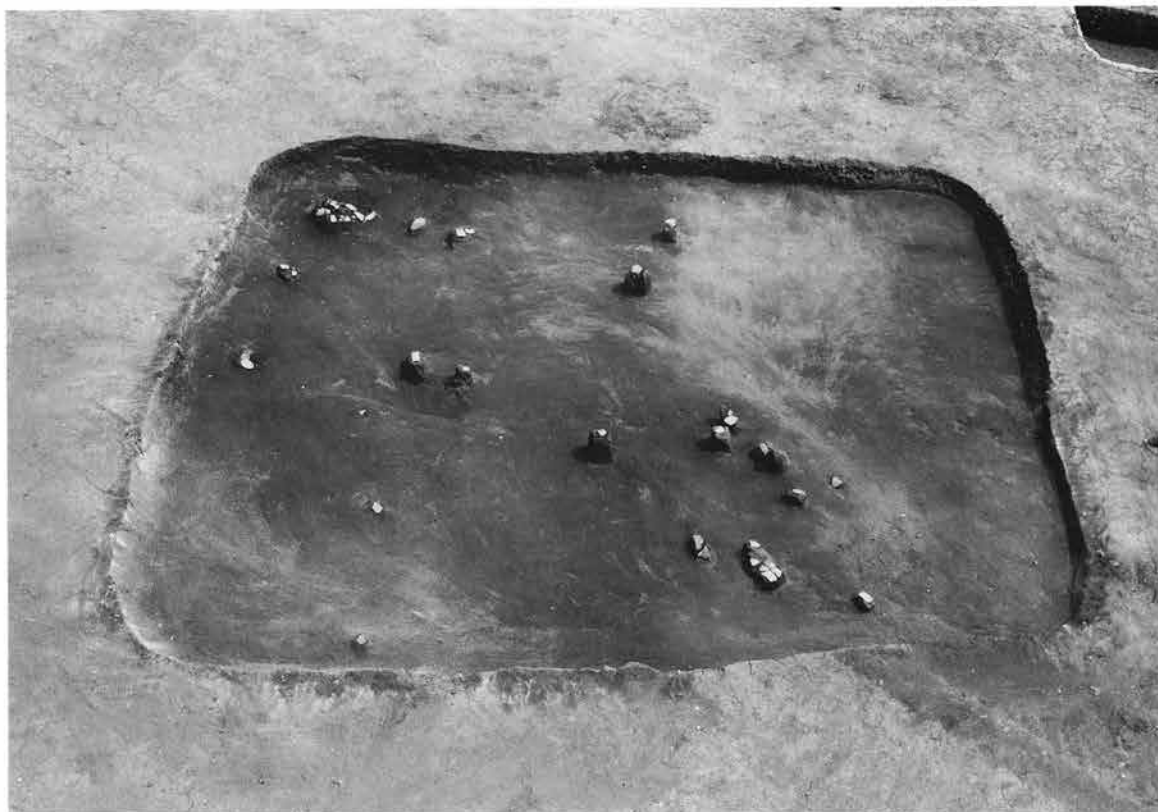


全景 西より



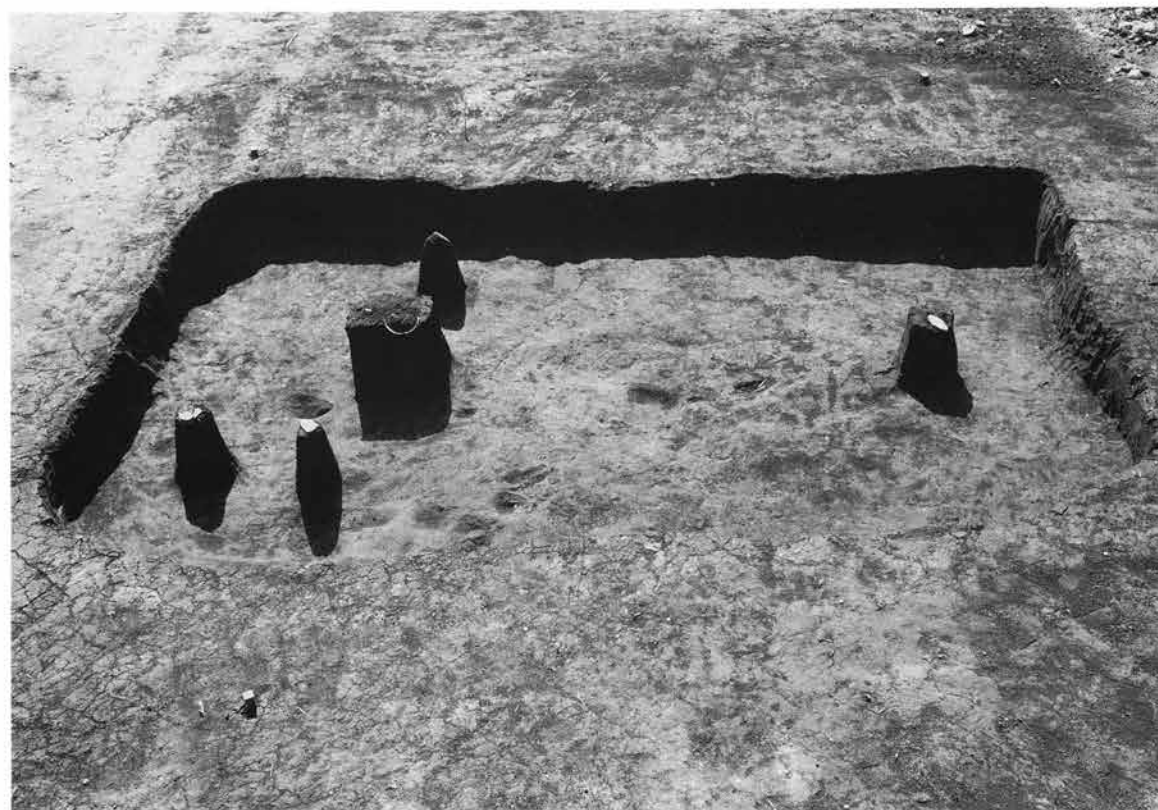
遺物出土状態

72号住居跡



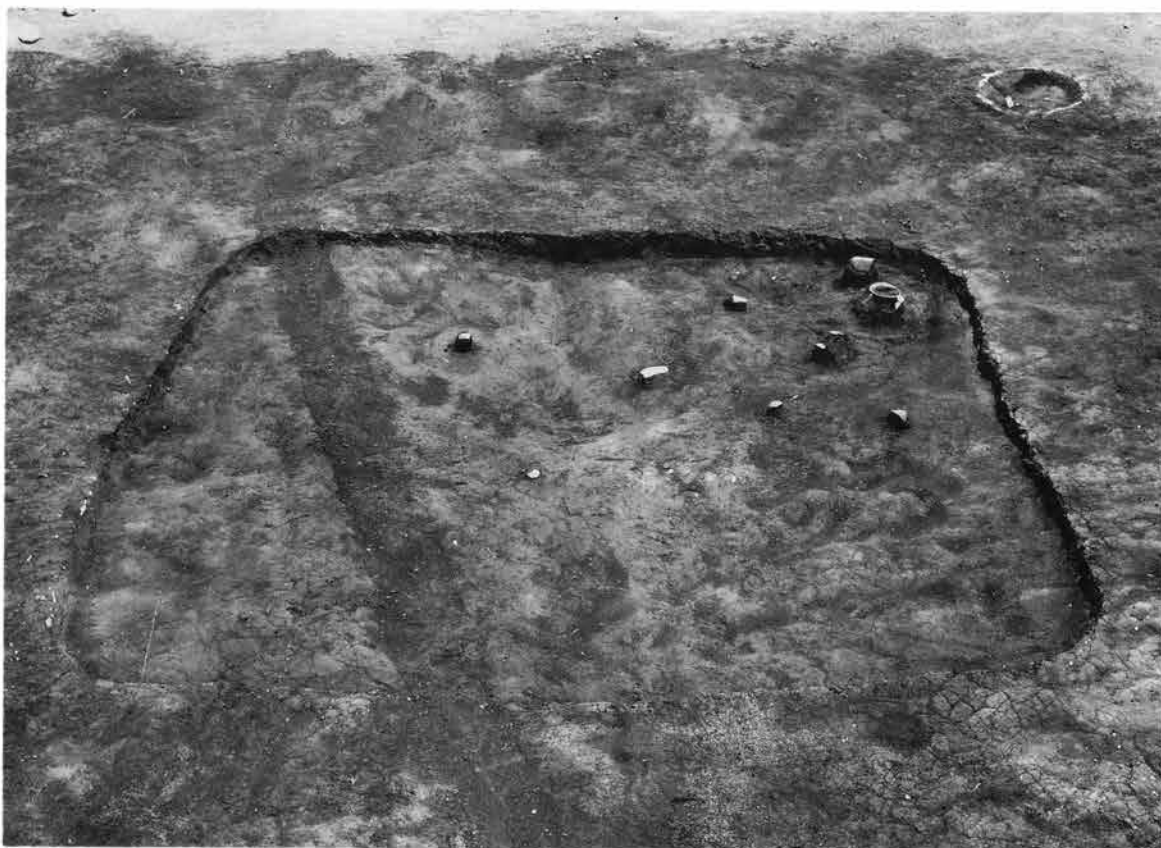
全景 北西より

73号住居跡



全景（東より）及び遺物出土状態

74号住居跡



全景 西より



遺物出土状態(左からNo.3、2)





全景 北より



遺物出土状態



遺物出土状態

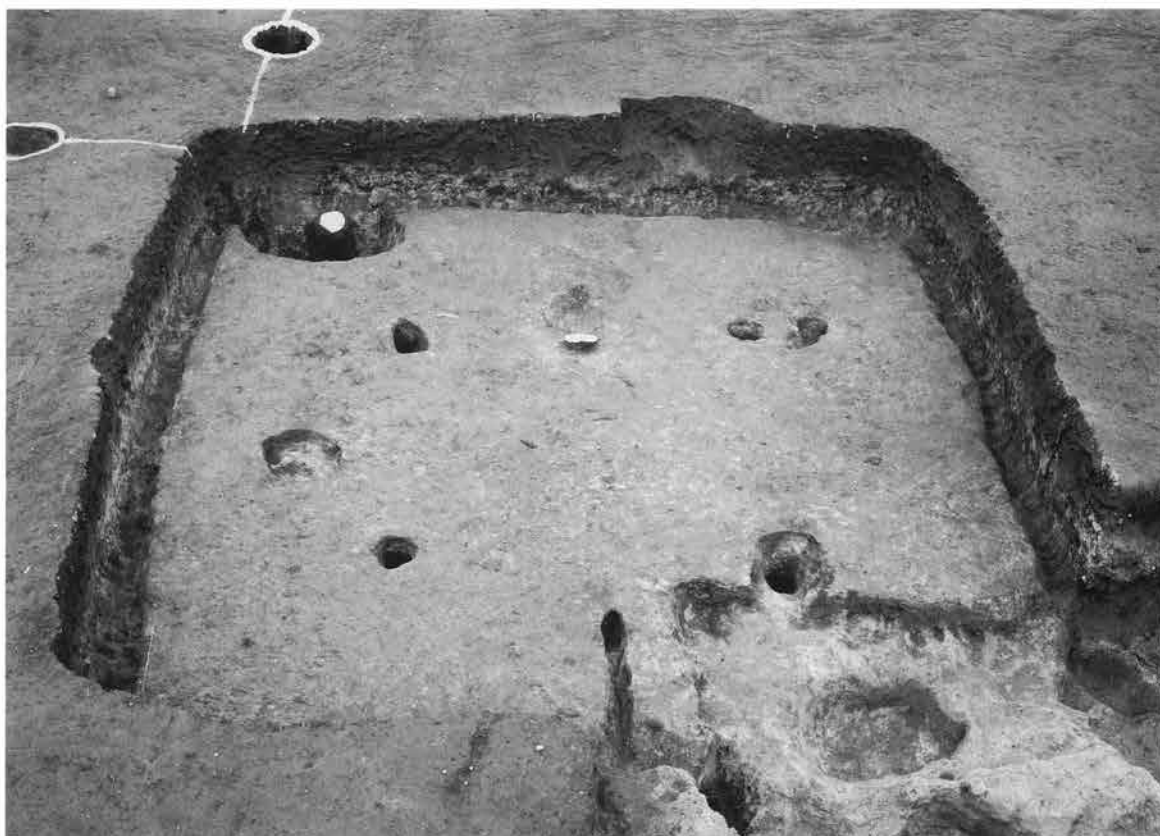


遺物出土状態(上からNo 4、8)



遺物出土状態

76号住居跡



全景 南より



土層断面



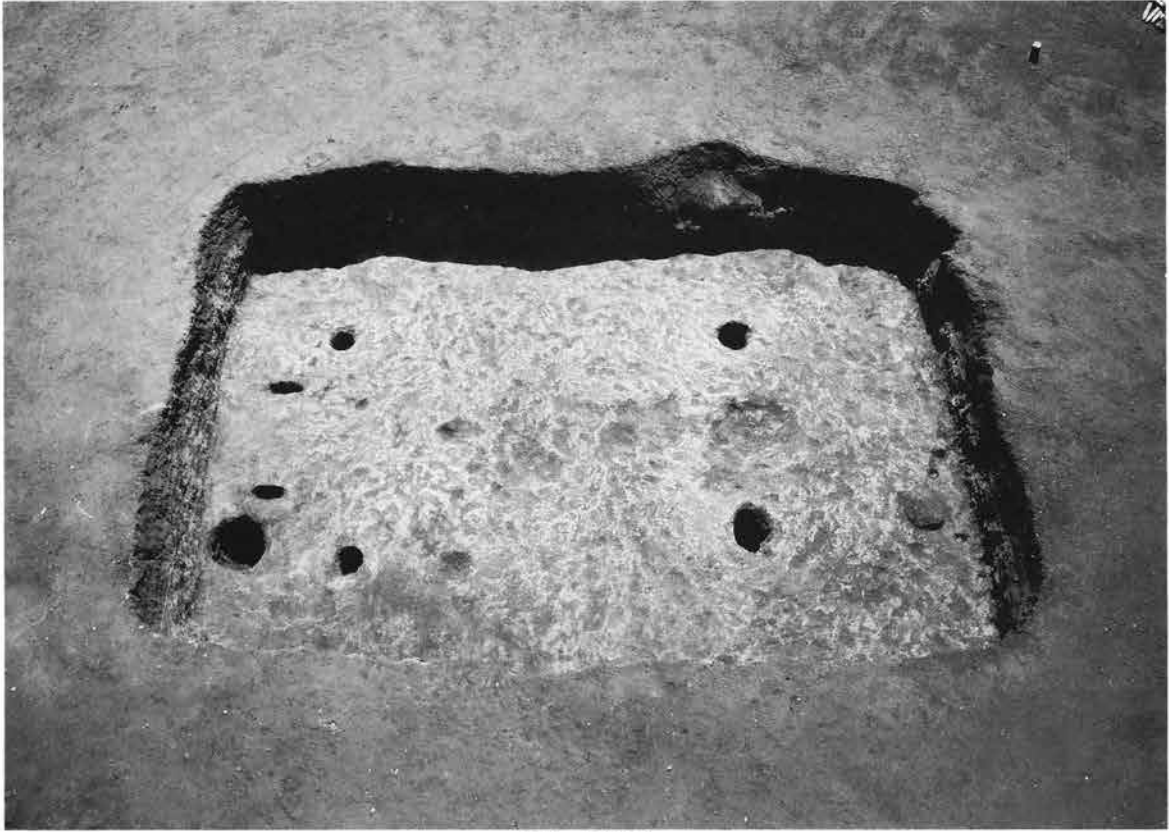
遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(左からNo 5、3)



全景 北東より



土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態

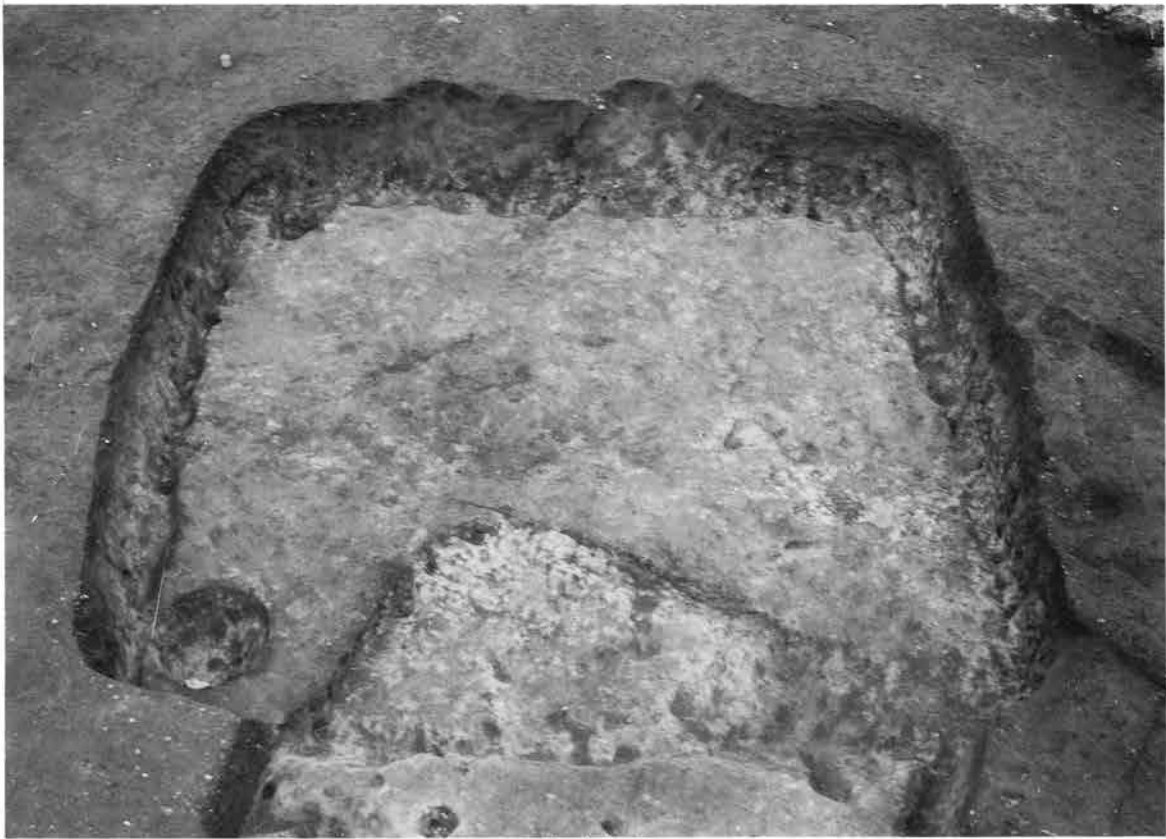
78号住居跡



全景（南より）及び遺物出土状態



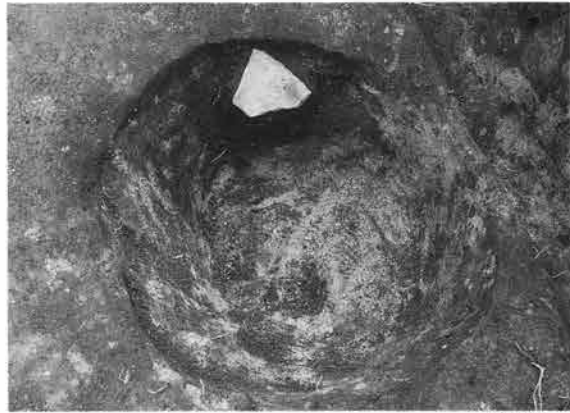
78号住周辺



全景 南東より



遺物出土状態



貯蔵穴



遺物出土状態



遺物出土状態

87号住居跡



全景 南西より



土層断面



遺物出土状態



中央部炭化材出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(№18)



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(№32)

87号住居跡



遺物出土状態(Na12)



遺物出土状態(Na34)



遺物出土状態(左からNa16,31,35)



遺物出土状態(Na39)



遺物出土状態(Na38)



遺物出土状態(Na36)



遺物出土状態(Na 2)



遺物出土状態(Na10)



87号住居跡



遺物出土状態



遺物出土状態(Na28)

88号住居跡



全景 東より



土層断面

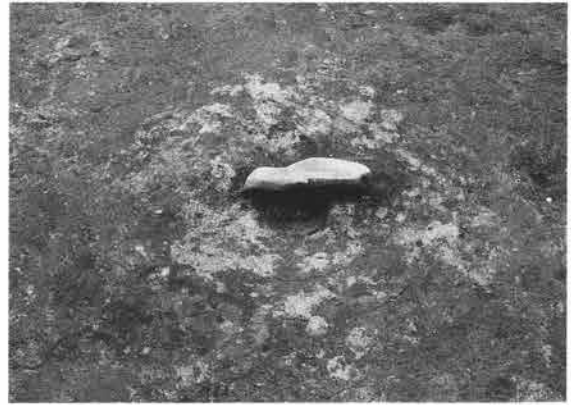


土層断面

88号住居跡



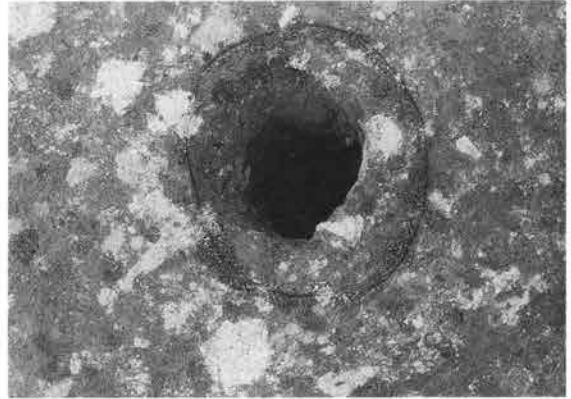
土層断面



炉址



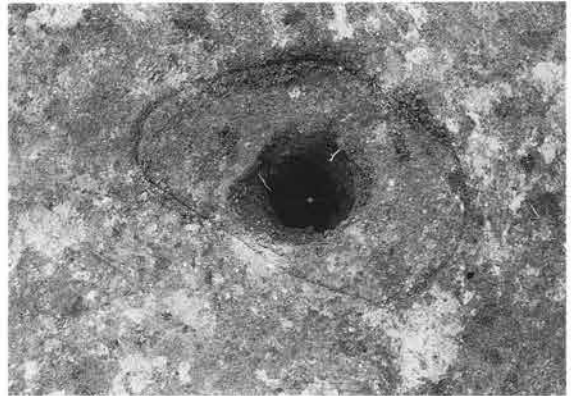
遺物出土状態



柱穴



炭火材出土状態



柱穴



遺物出土状態



遺物出土状態(No 6)

88号住居跡



遺物出土状態(No 5)



遺物出土状態

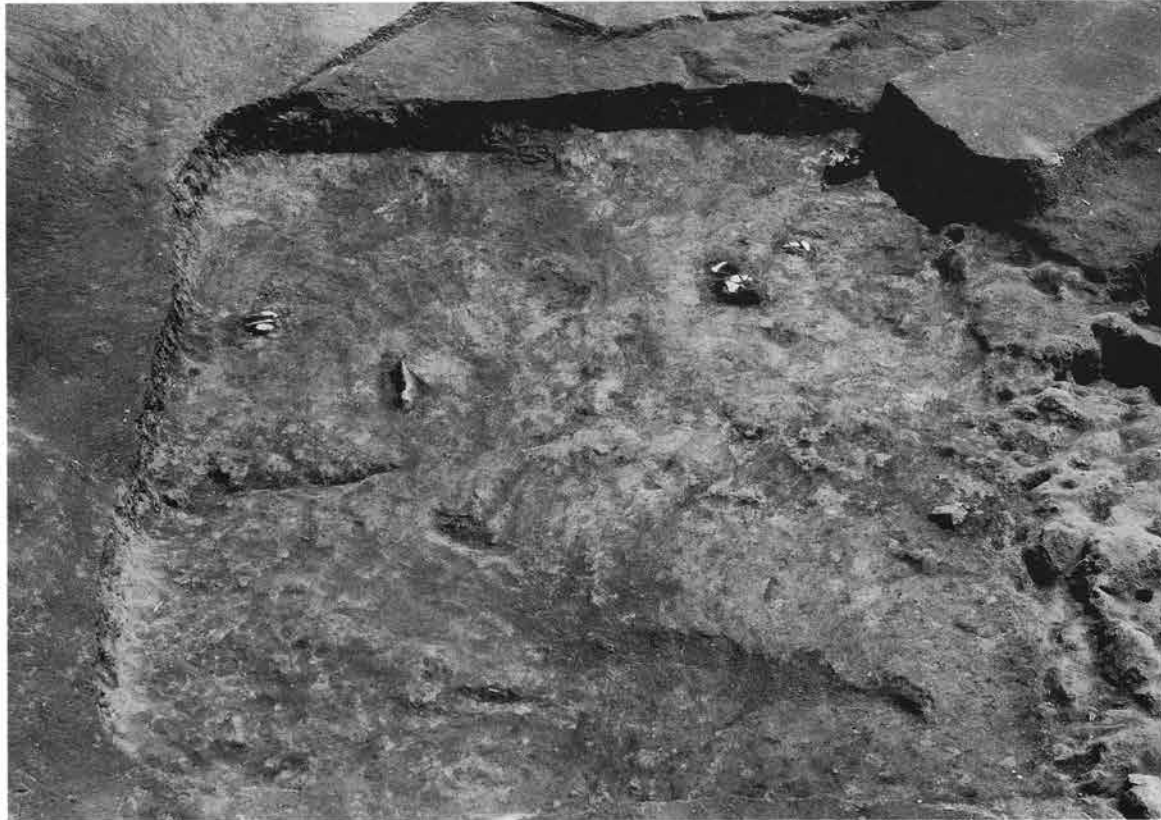


遺物出土状態(左からNo 1、2)



遺物出土状態(手前No 4)

90号住居跡

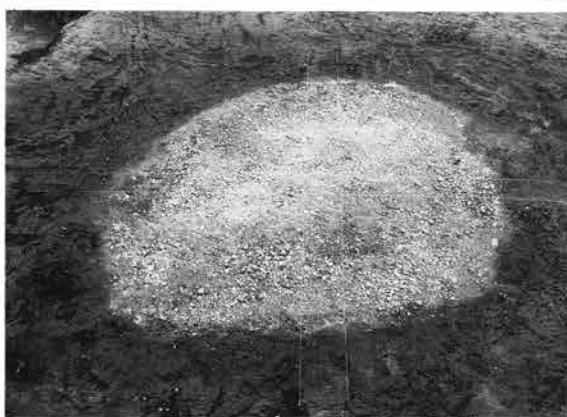


全景 南東より

100号住居跡



全景 北より



確認面(F・P堆積状態)



遺物出土状態



遺物出土状態(No 2)



遺物出土状態(No 1)



全景 北より



土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(No.1)

105号住居跡

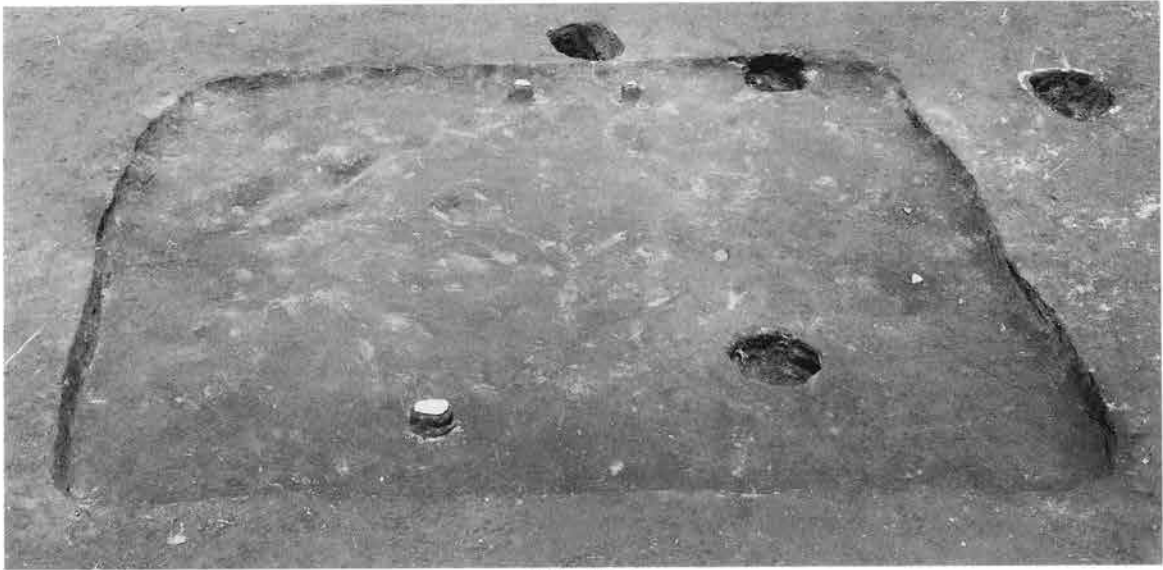


全景（南より）及び遺物出土状態



土層断面（中央部堆積はF・P）

106号住居跡



全景 南より

107号住居跡



全景 西より

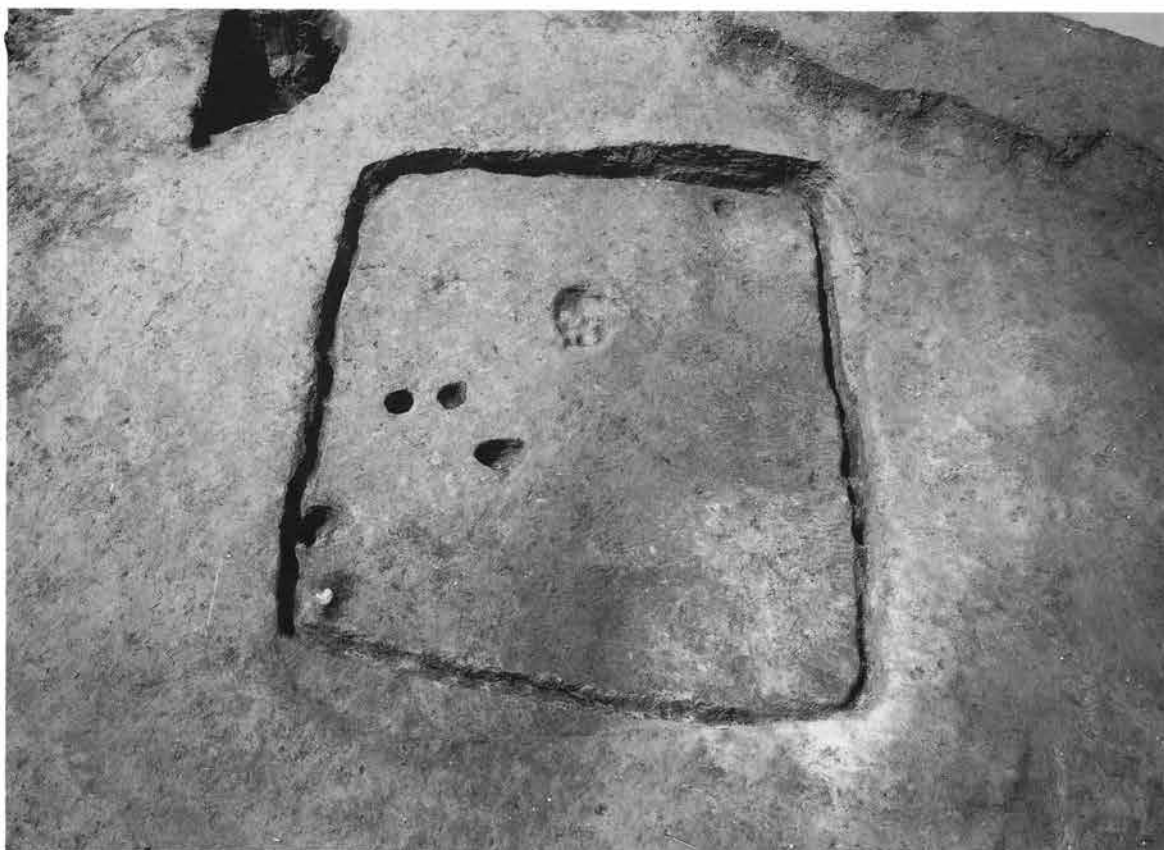


遺物出土状態



遺物出土状態(No 2)

108号住居跡

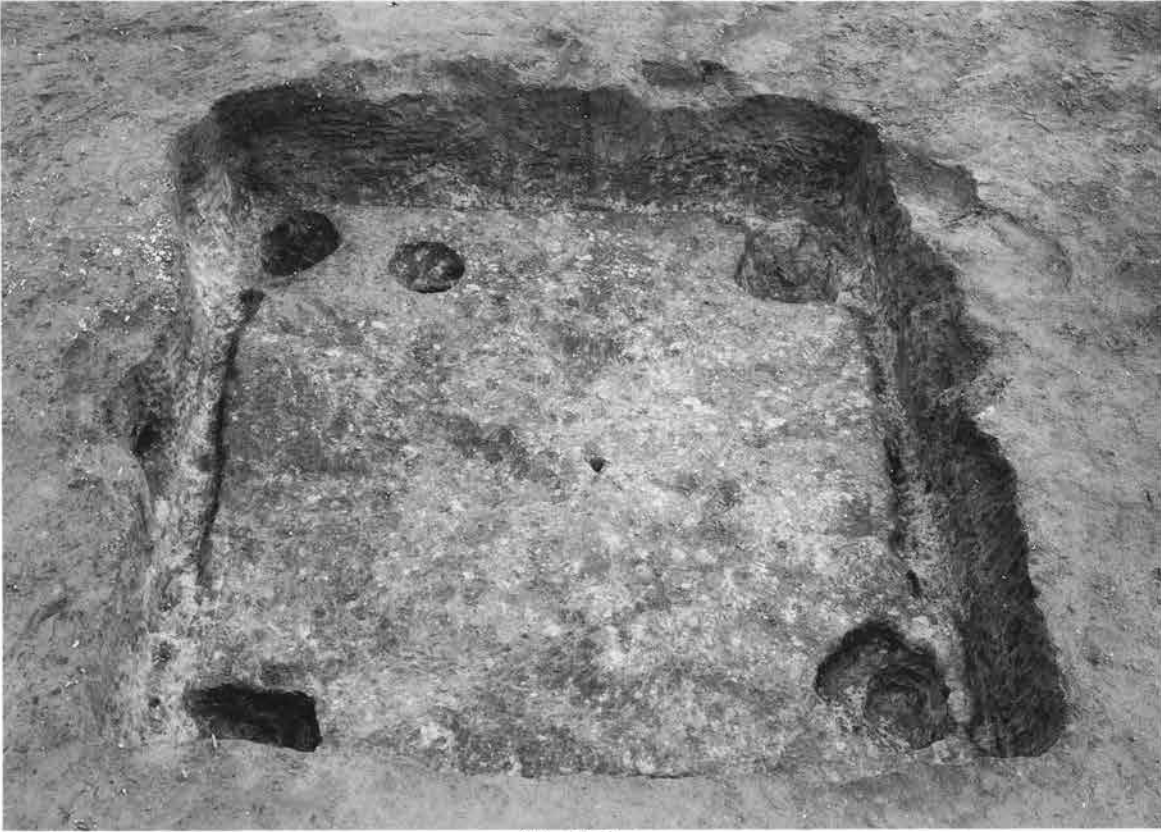


全景 南東より



遺物出土状態





全景 南西より



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



掘り方

134号住居跡



全景 南東より



土層断面



土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態



全景 南より



土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態(No 3)



遺物出土状態(左からNo 1、2、5)

143号住居跡



全景 南より



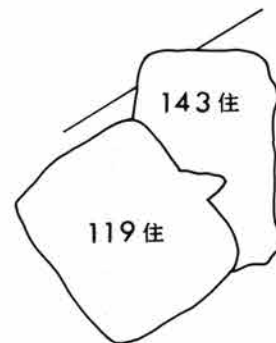
土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態(No1)



重複状態図



全景 東より



土層断面



炉址



遺物出土状態



遺物出土状態(No.1)

145号住居跡



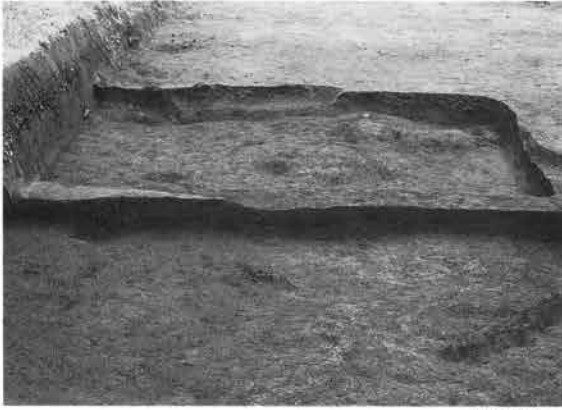
全景（南より）及び遺物出土状態

146号住居跡



全景 南より

146号住居跡



土層断面



遺物出土状態



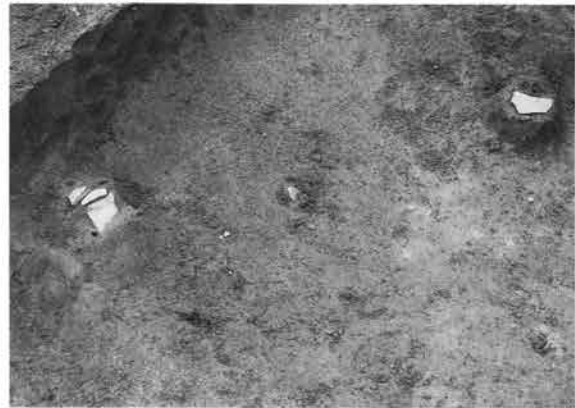
遺物出土状態(No 3)



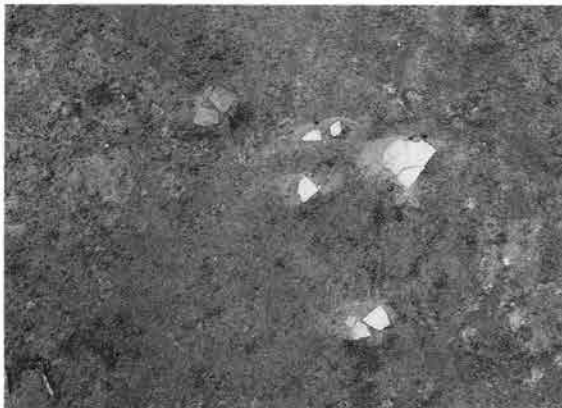
遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(No 2)

147号住居跡



全景 西より



遺物出土状態



遺物出土状態(No.2)



遺物出土状態

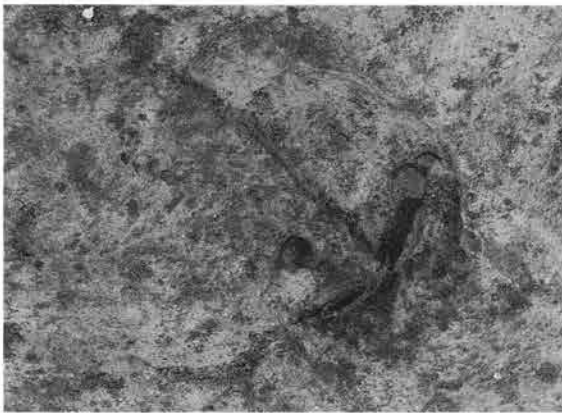


遺物出土状態(No.1)





全景 南より



炉址



遺物出土状態

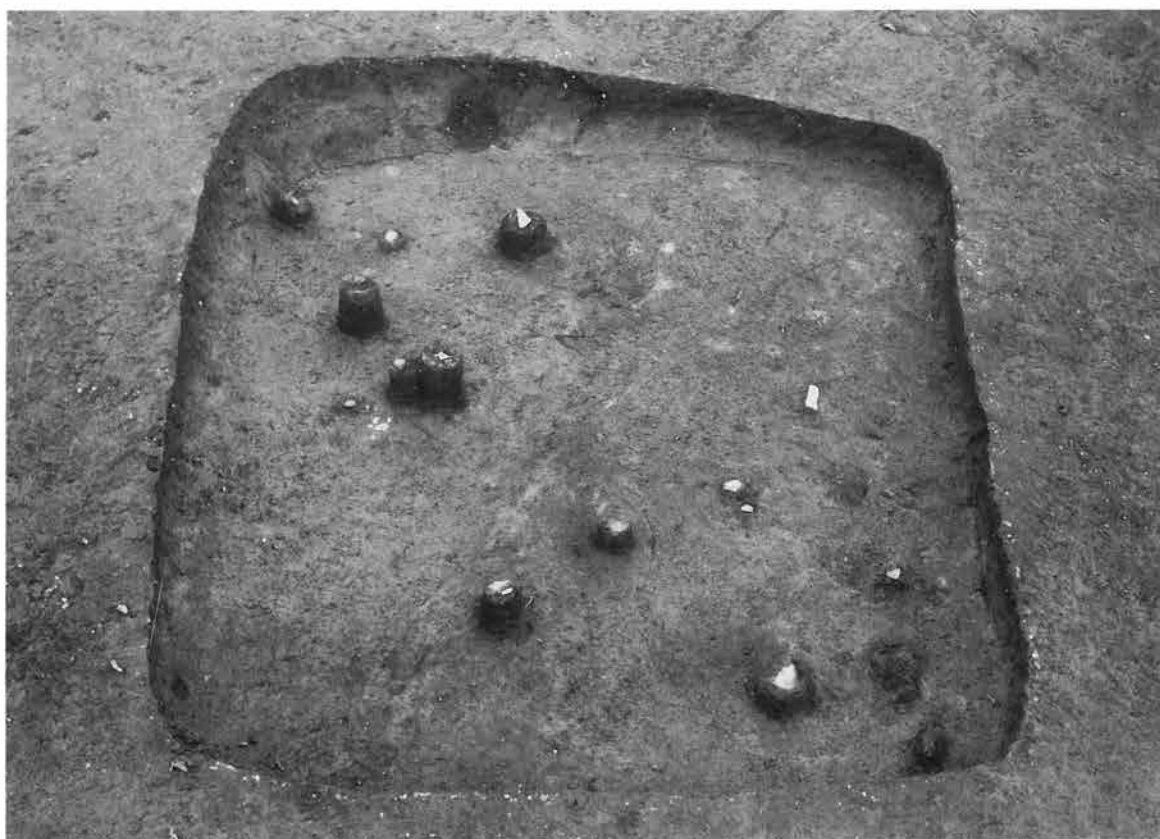


遺物出土状態(No.1)

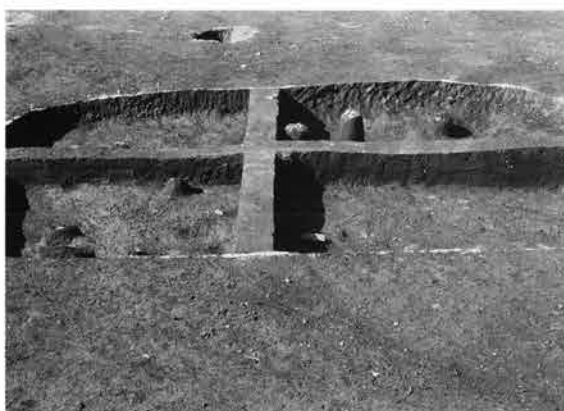


遺物出土状態

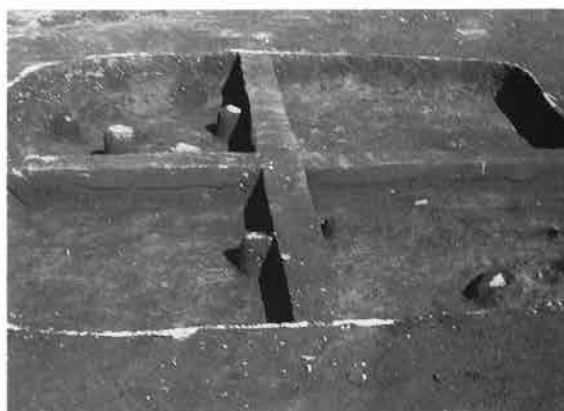
149号住居跡



全景 南西より



土層断面



土層断面



遺物出土状態

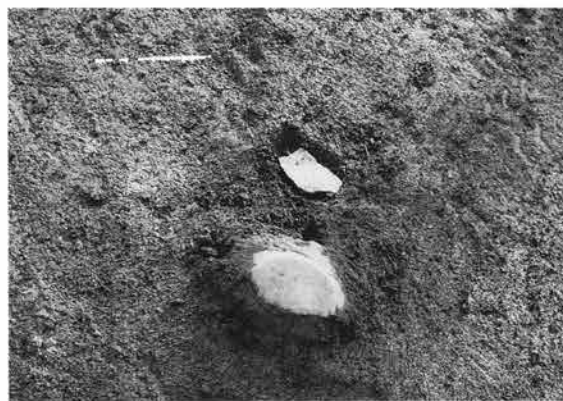


遺物出土状態

149号住居跡

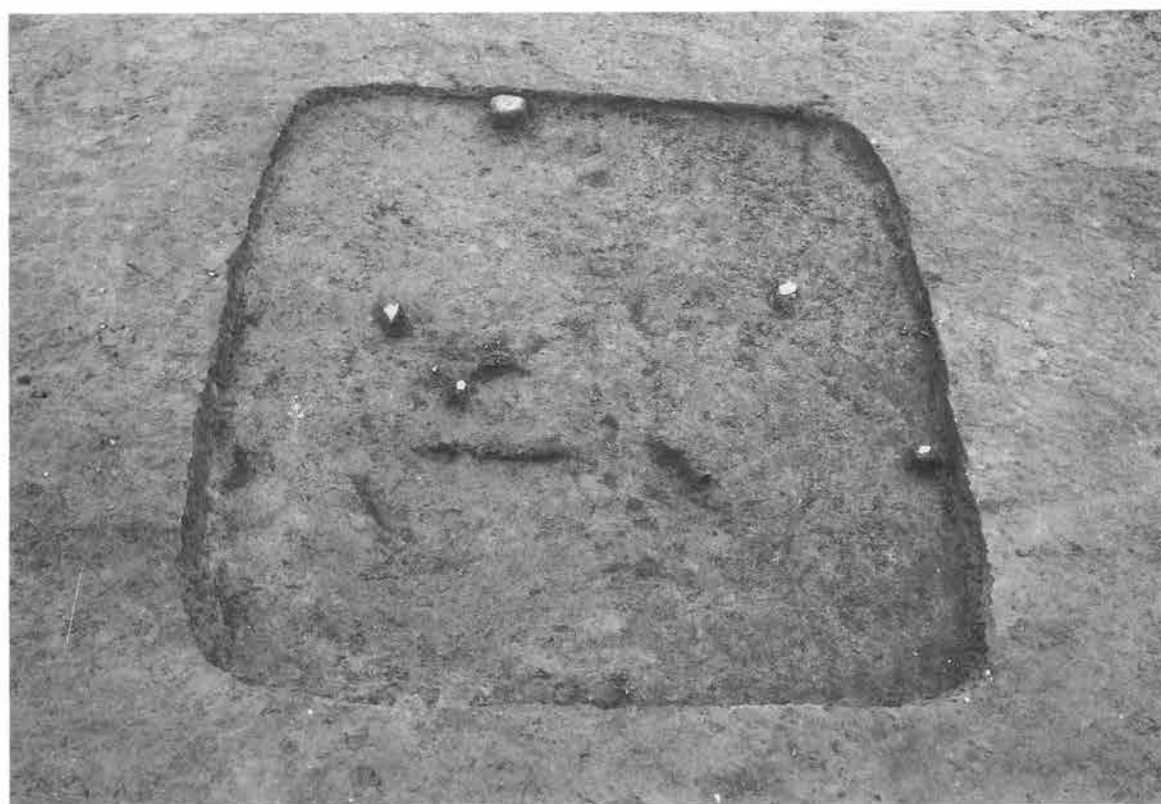


遺物出土状態



遺物出土状態

150号住居跡



全景 北より

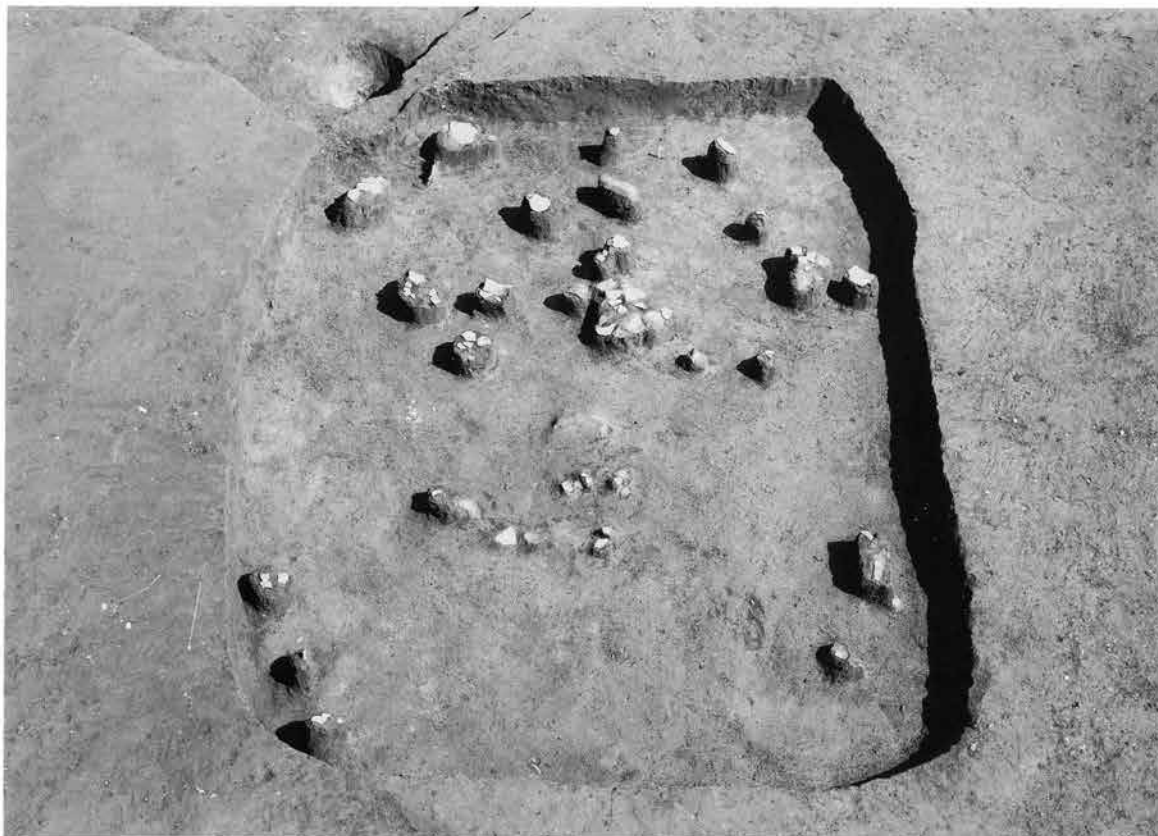


遺物出土状態



遺物出土状態

151号住居跡



全景 西より



土層断面



土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態(No.4)

152号住居跡



全景 南より

153号住居跡

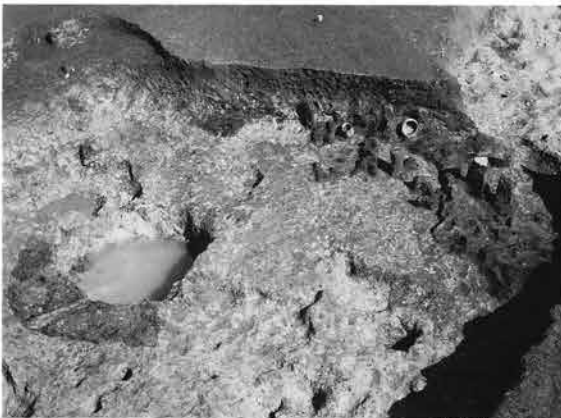


全景 南東より

156号住居跡



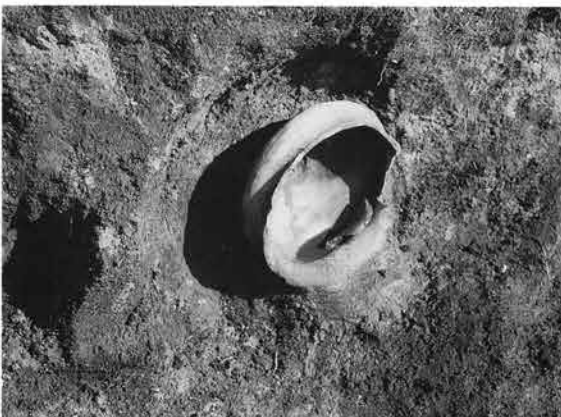
全景 南より



遺物出土状態



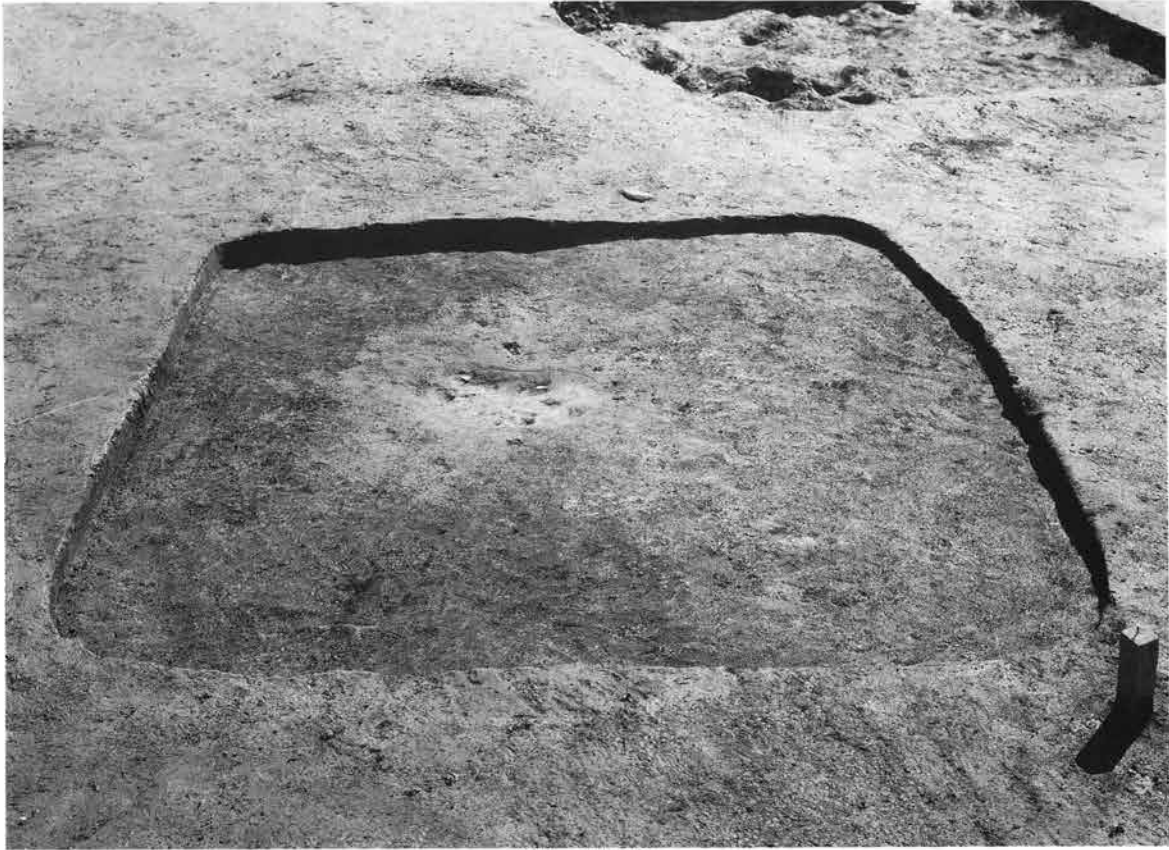
遺物出土状態



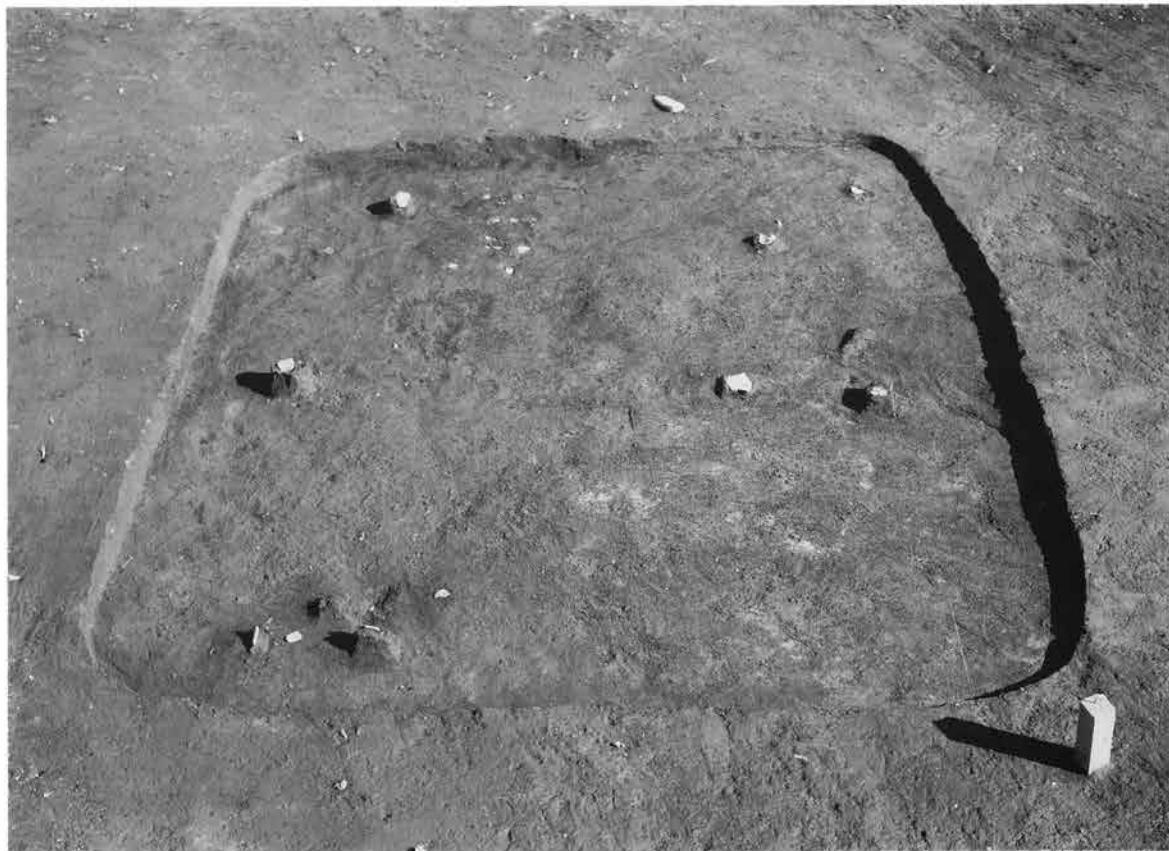
遺物出土状態



遺物出土状態(左からNo1, 2, 3)



全景 北西より



遺物出土状態

158号住居跡



全景 南より



遺物出土状態



遺物出土状態 (No 4)



遺物出土状態 (No 1)



遺物出土状態



158号住居跡

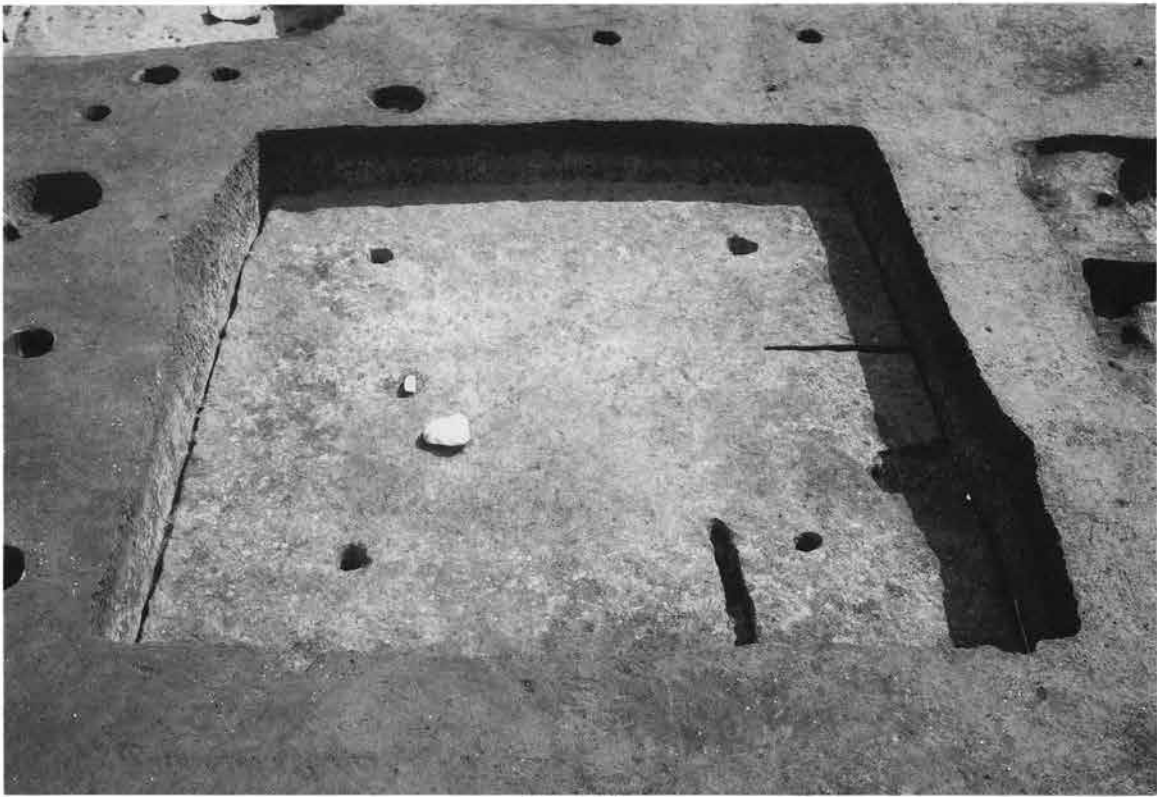


遺物出土状態



遺物出土状態

159号住居跡



全景 西より

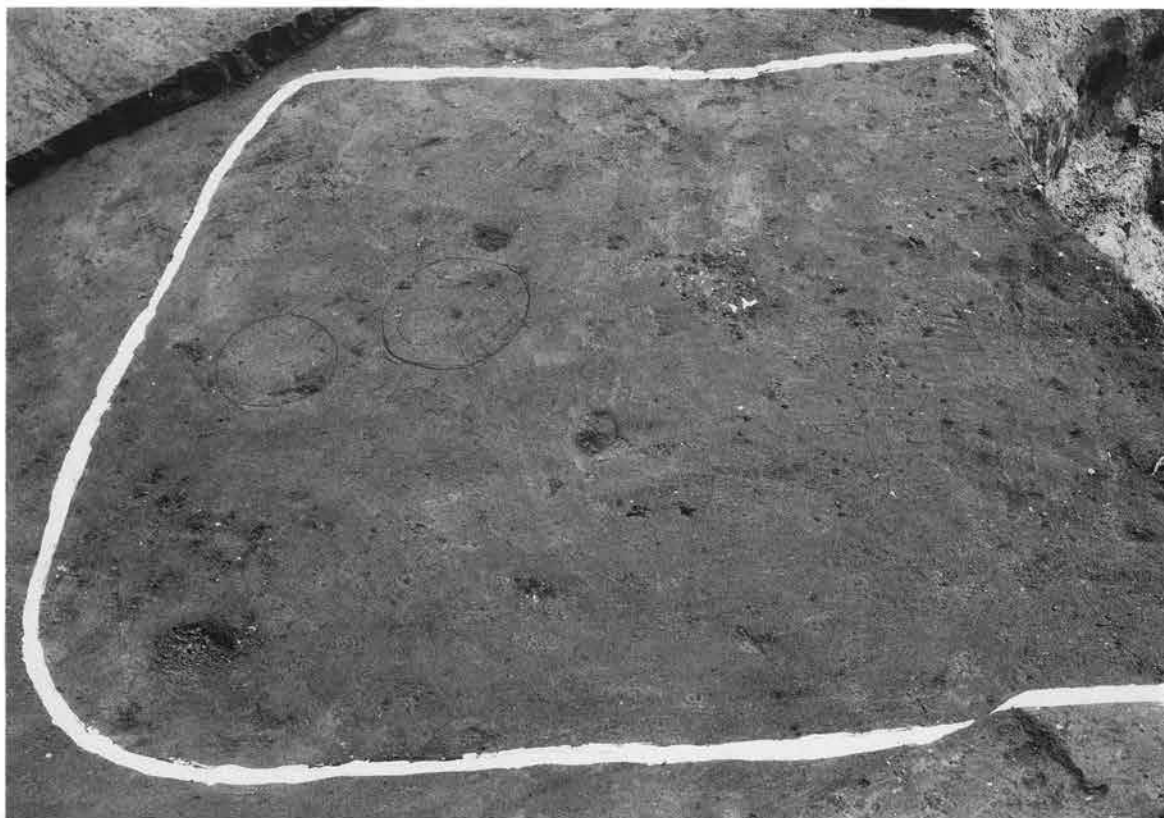


土層断面



遺物出土状態

160号住居跡



全景 北西より

161号住居跡



全景 東より



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(No10)



遺物出土状態(左からNo 5、8)



遺物出土状態(No11)



遺物出土状態(No 6)



遺物出土状態(No 1)

162号住居跡



全景 南より



炉址



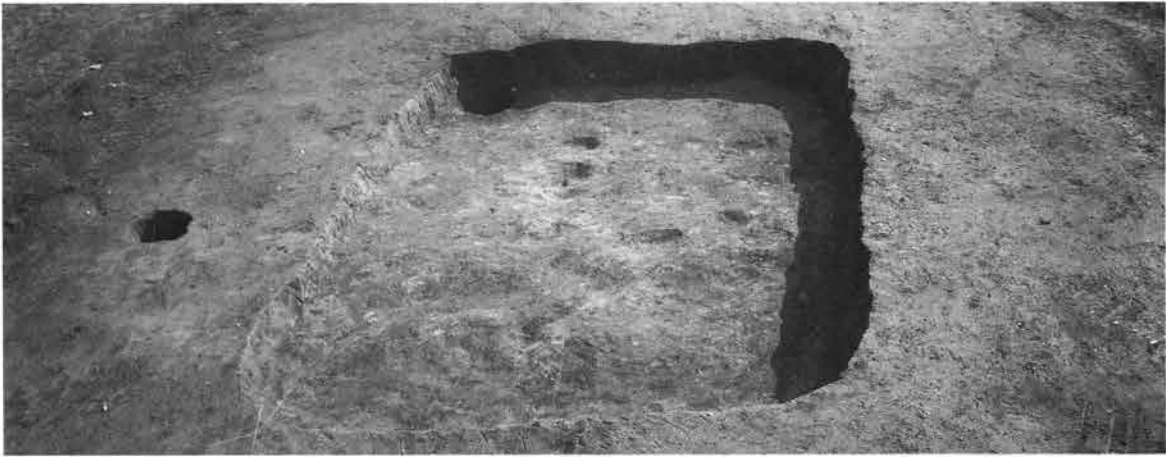
遺物出土状態



遺物出土状態(No 1)



遺物出土状態(No 2)



全景 西より

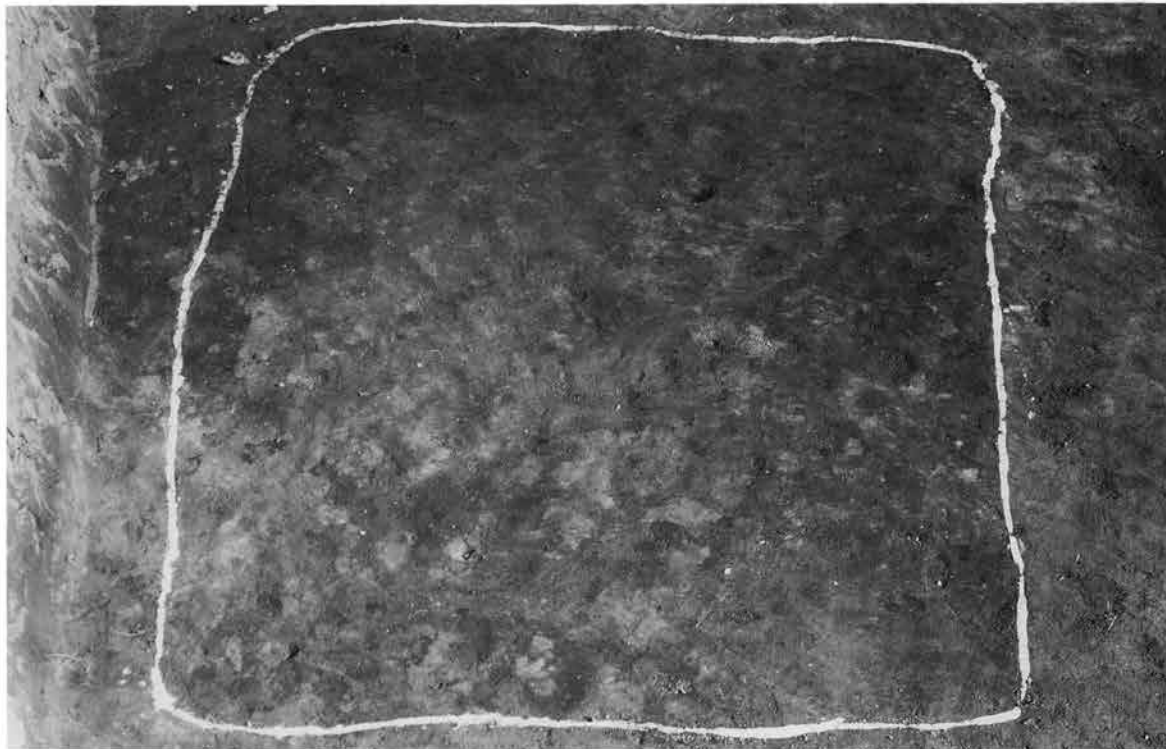


遺物出土状態



遺物出土状態(左からNo2、1)

166号住居跡



全景 西より

167号住居跡



全景 西より



土層断面



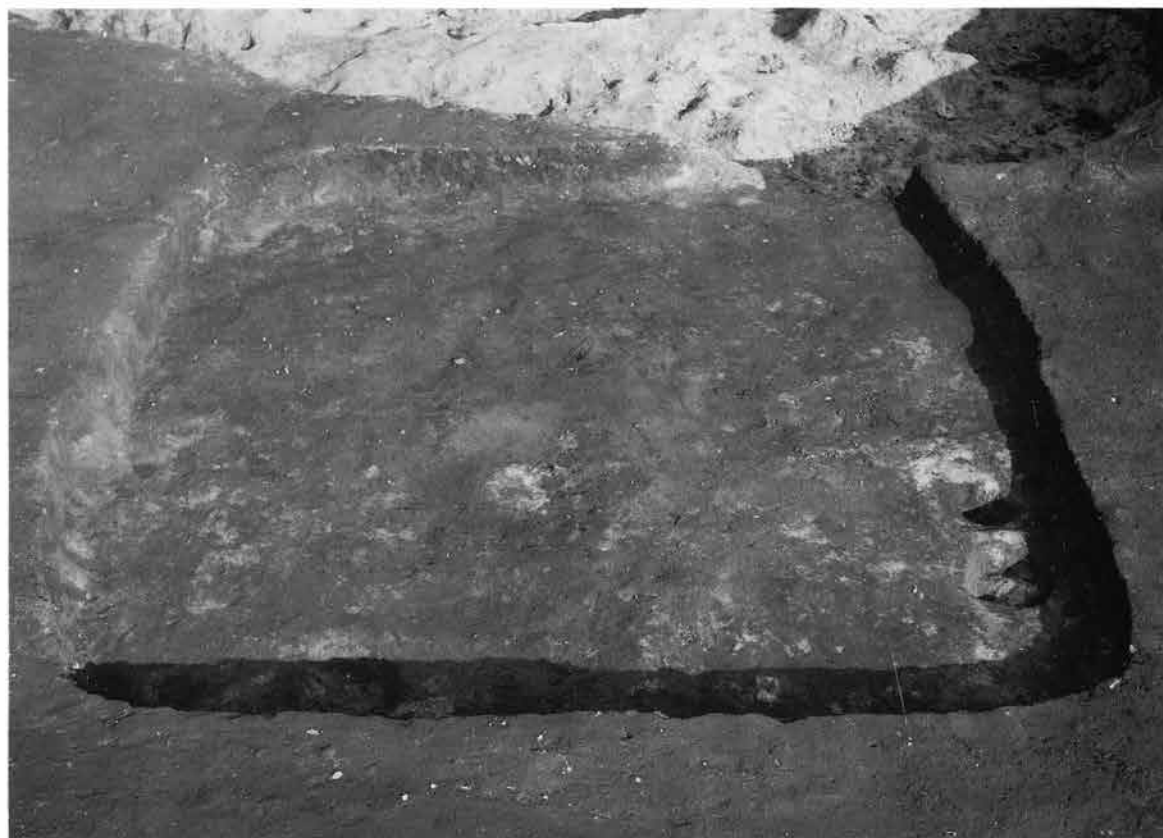
土層断面



遺物出土状態



遺物出土状態



全景 西より



土層断面



土層断面

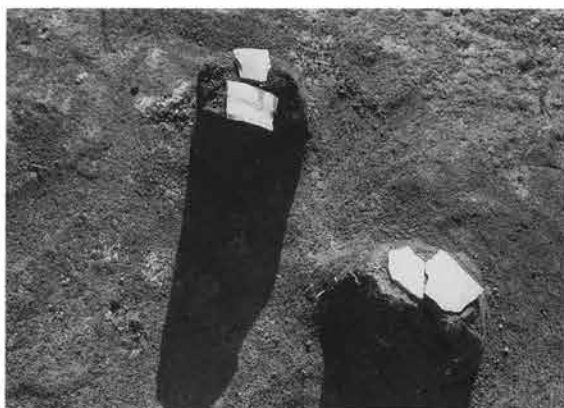


遺物出土状態



遺物出土状態

168号住居跡



遺物出土状態



遺物出土状態

169号住居跡



全景 東より



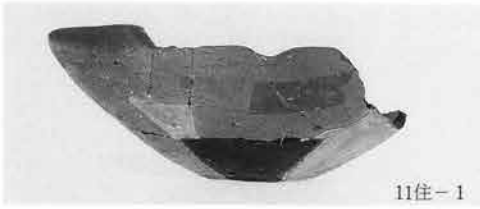
土層断面



遺物出土状態



11号住居跡出土遺物 (約1:3)



11住-1



11住-2



11住-3



11住-4



11住-5



11住-8



11住-6



11住-7



11住-10

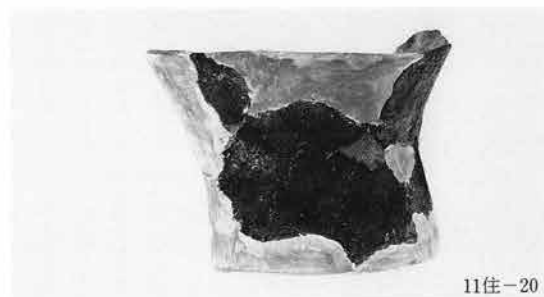


11住-9

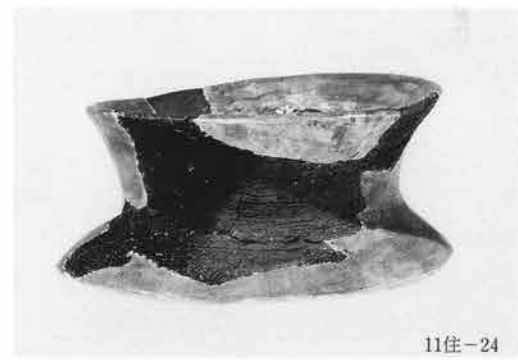


11住-13

11号住居跡出土遺物 (約1:3)

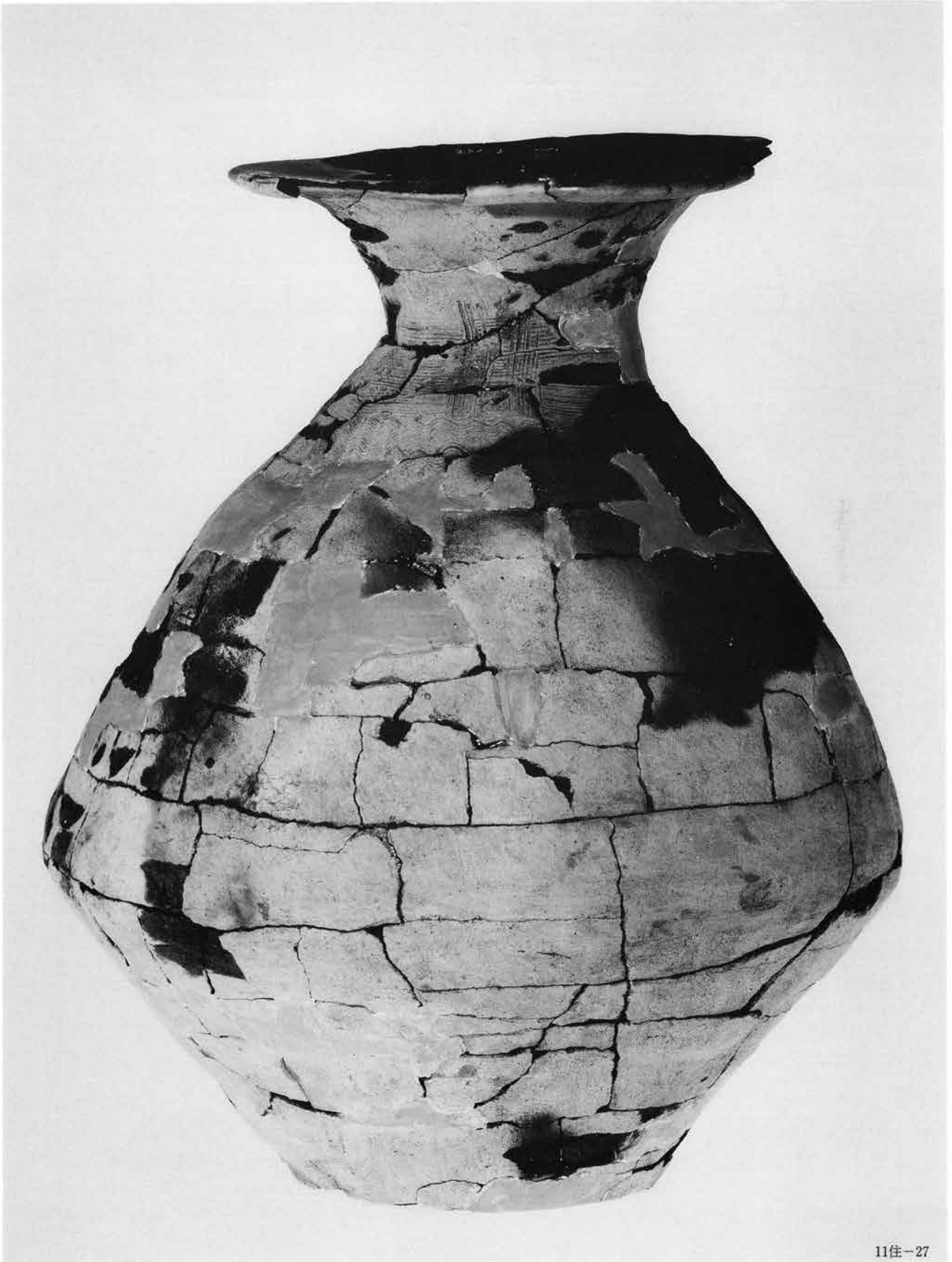


11号住居跡出土遺物 (約1:3)



11号住居跡出土遺物 (約1:3)





11住-27

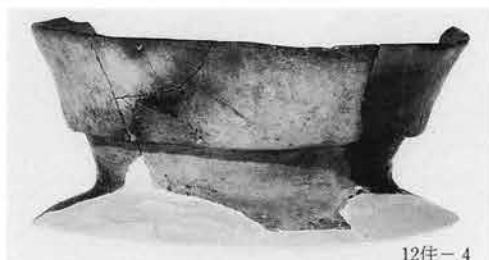
12・13・14・15号住居跡出土遺物 (約1:3)



12住-3



14住-1



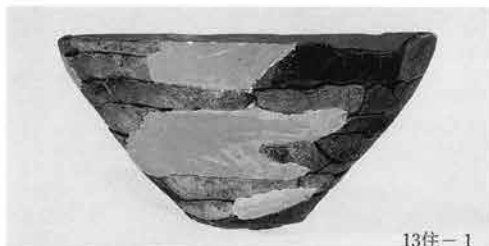
12住-4



15住-1



15住-3



13住-1



15住-4



15住-5



13住-2



15住-6



13住-3



15住-7

15号住居跡出土遺物 (約1:3)



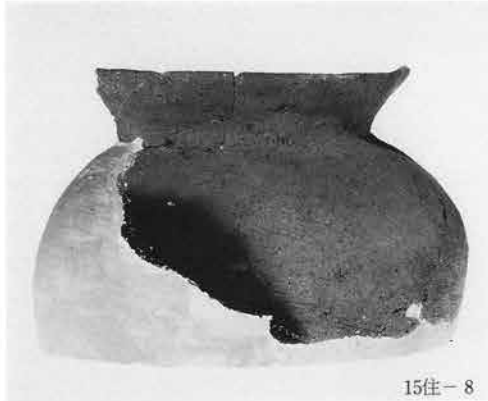
15住-9



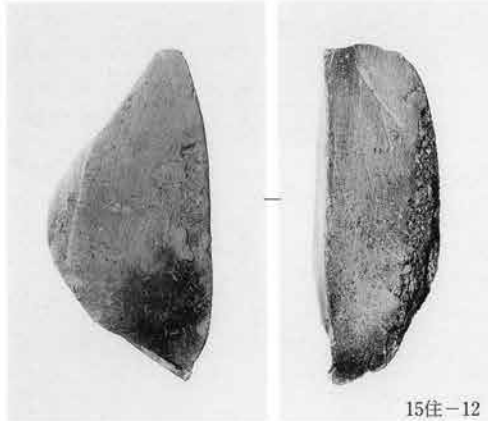
15住-10



15住-14



15住-8

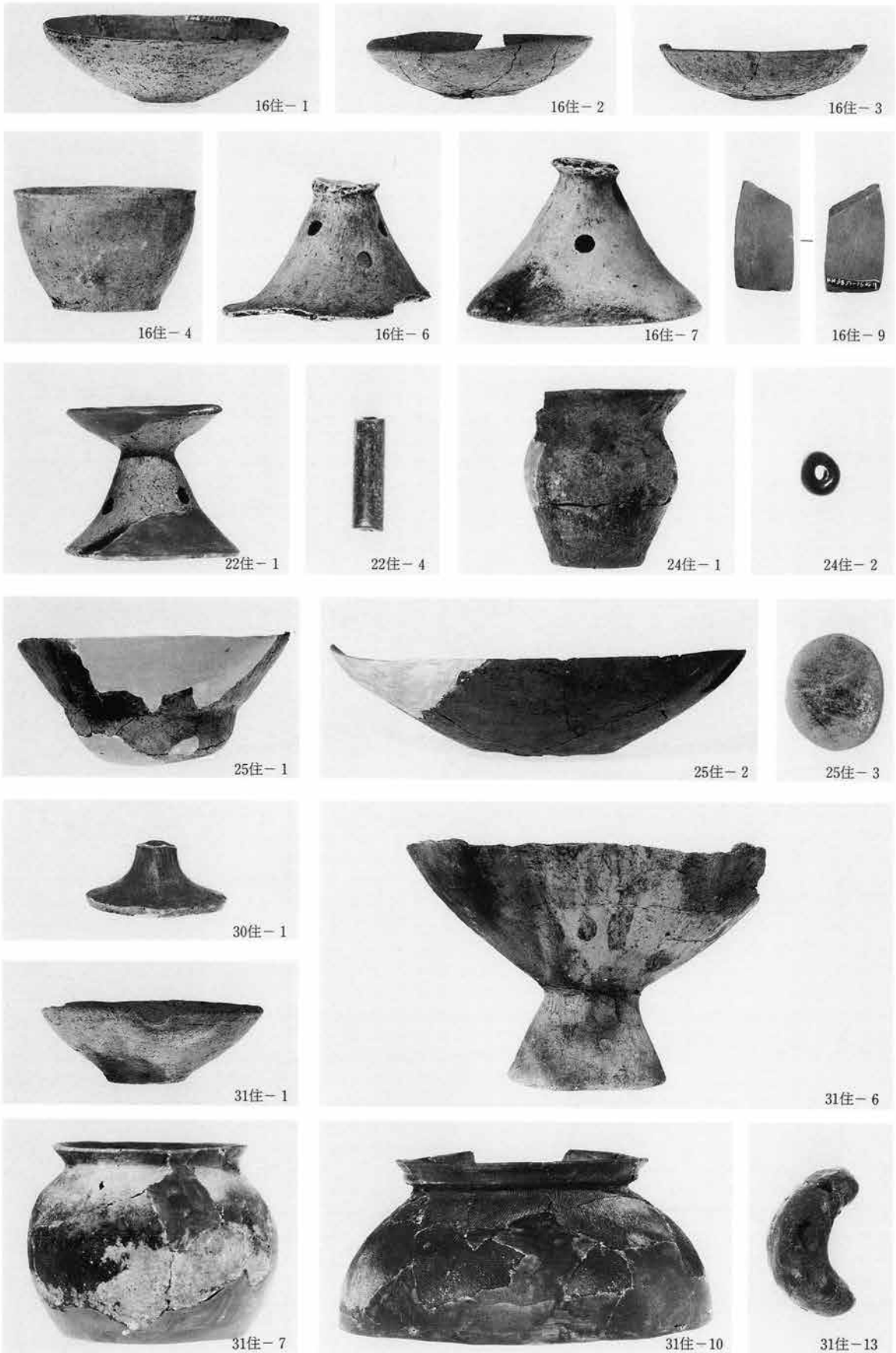


15住-12



15住-13

16・22・24・25・30・31号住居跡出土遺物 (約1:3)





32号住居跡出土遺物 (約1:3)



32・33・36・39・40号住居跡出土遺物 (約1:3)



72・73・74・75号住居跡出土遺物 (約1:3)



72住-1



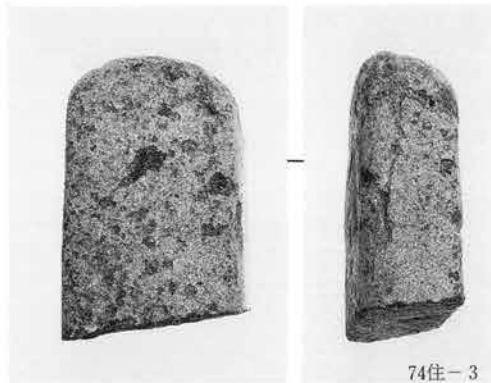
72住-2



73住-2



73住-1



74住-3



74住-2



74住-4



75住-1



75住-2



75住-3



75住-4

75・76号住居跡出土遺物 (約1:3)



75住-7



75住-8



76住-1



76住-2



76住-4



75住-6

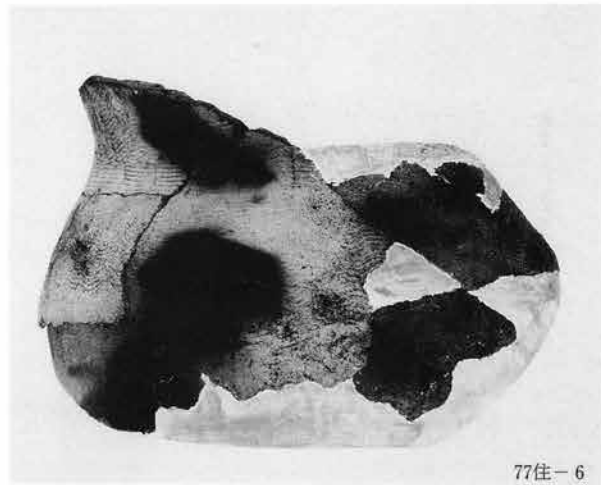
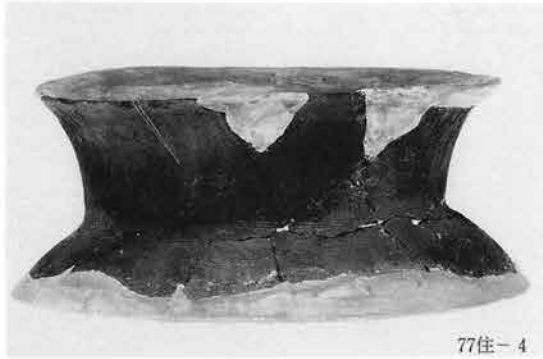
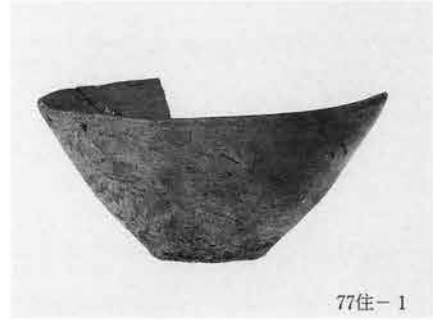


75住-9

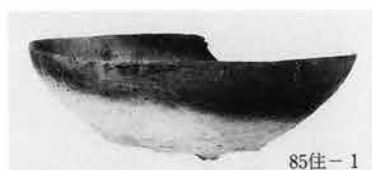


76住-3

76・77号住居跡出土遺物 (約1:3)



77・78・85・87号住居跡出土遺物 (約1:3)



87号住居跡出土遺物 (約1:3)



87住-3



87住-6



87住-4



87住-5



87住-8



87住-9



87住-10



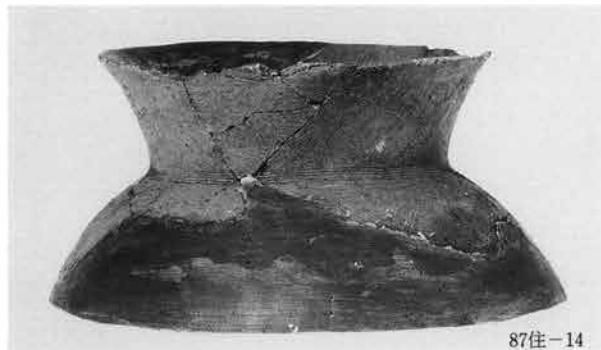
87住-11



87住-12



87住-13



87住-14



87住-15

87号住居跡出土遺物 (約1:3)



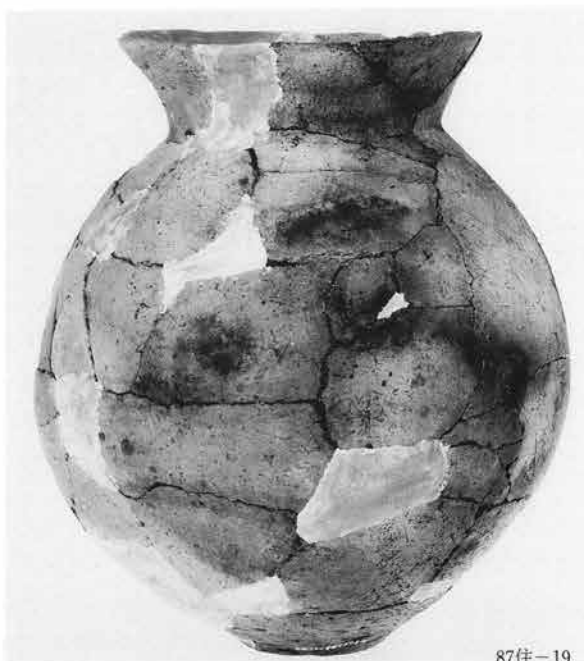
87住-16



87住-17



87住-18



87住-19



87住-20



87住-21



87住-22



87号住居跡出土遺物 (約1:3)



87住-23



87住-24



87住-25



87住-26



87住-27



87住-28

87号住居跡出土遺物 (約1:3)



87住-29



87住-30



87住-31



87住-32



87住-33



87住-34



87住-37

87・88号住居跡出土遺物 (約1:3)



87住-35



87住-38



87住-36



87住-40



87住-39



88住-2



88住-1



88住-3



88住-4

88・90号住居跡出土遺物 (約1:3)



88住-5



88住-6



88住-7



88住-8



88住-9



90住-1



90住-2



90住-5



90住-4

100・103・105・107・108号住居跡出土遺物 (約1:3)



100住-1



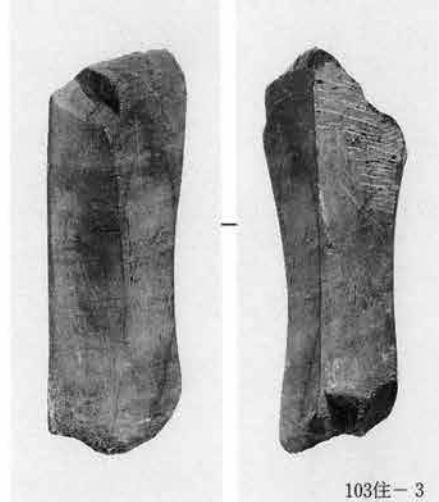
100住-2



103住-1



103住-2



103住-3



105住-1



107住-1



107住-3

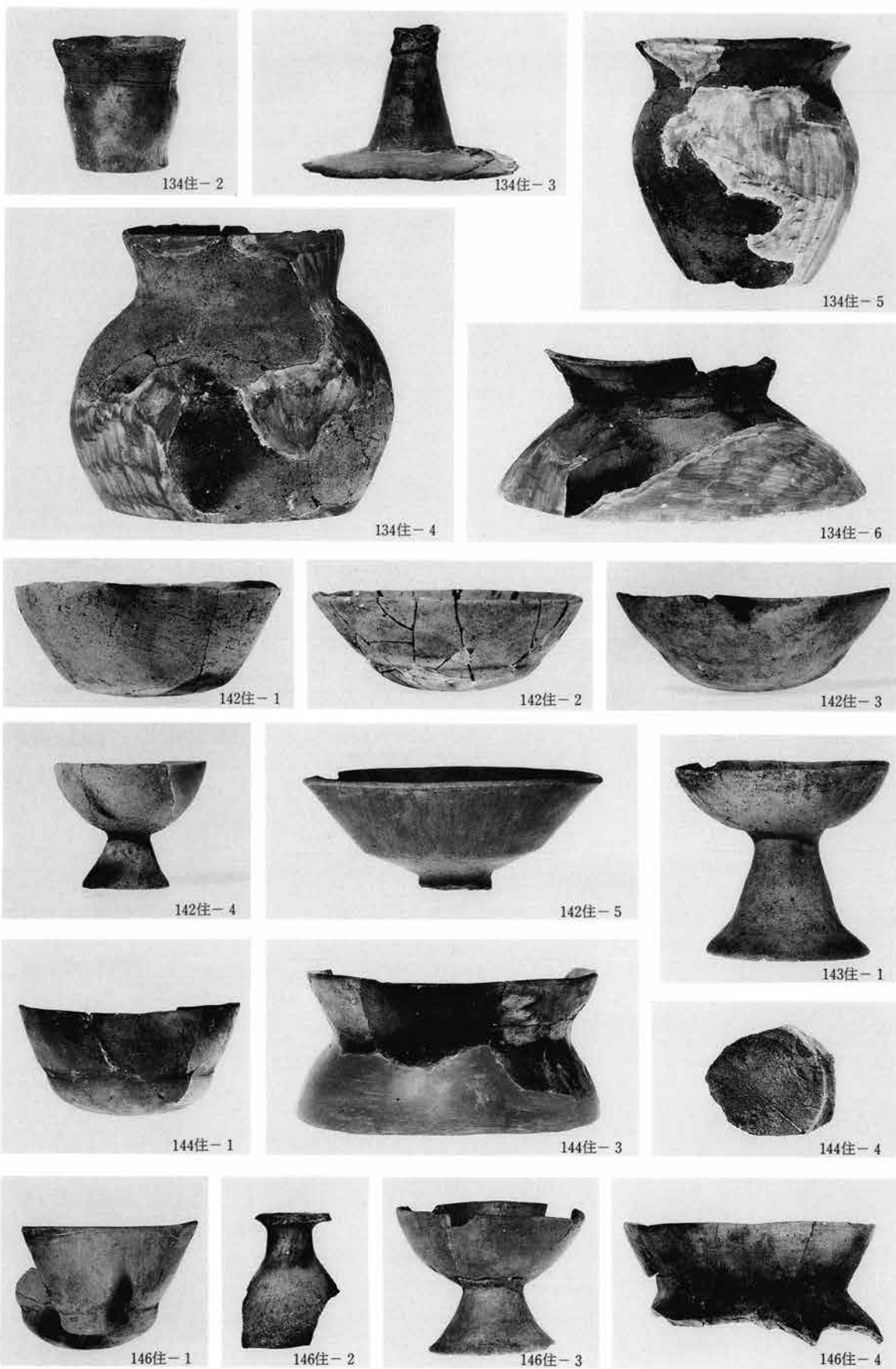


107住-2



108住-1

134・142・143・144・146号住居跡出土遺物 (約1:3)



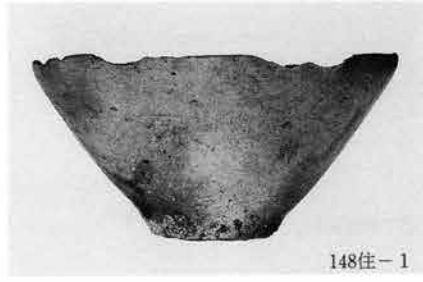
147・148・151・156・158・161号住居跡出土遺物 (約1:3)



147住-1



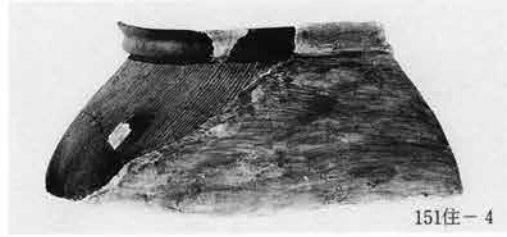
147住-2



148住-1



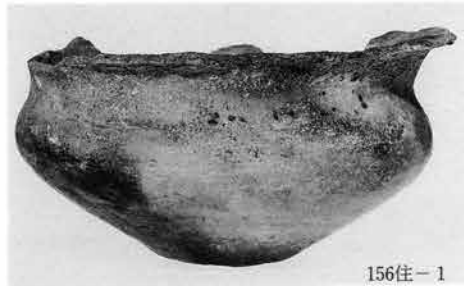
151住-2



151住-4



148住-3



156住-1



156住-2



156住-3



158住-1



158住-2



158住-4



158住-3



161住-1



161住-2



161住-4



161住-3



161住-9



161住-10

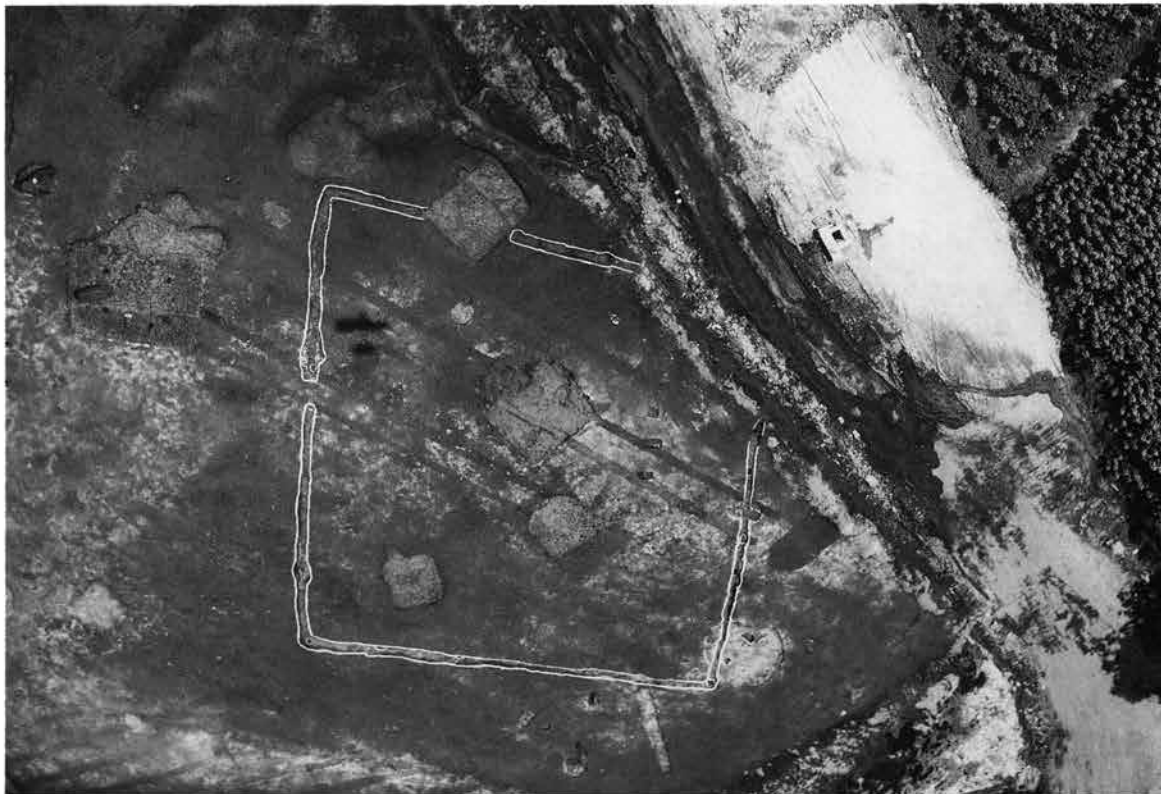




165号住居跡出土遺物 (約1:3)



7号溝 (方形周溝状遺構) 上空より



# 1号竖穴状遺構



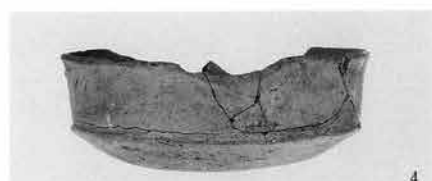
全景



遺物出土状態



1号竖穴-1



4



5

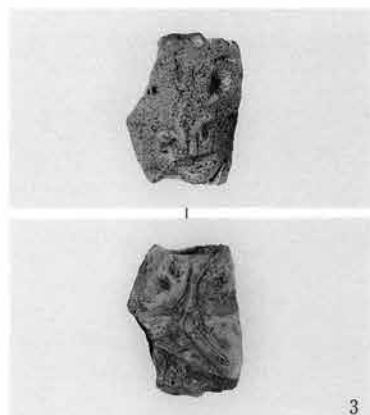
## 遺構外出土遺物



1



2



3

## 戸神諏訪遺跡周辺の出土土器



# 戸<sup>こ</sup>神<sup>がみ</sup>諏<sup>す</sup>訪<sup>わ</sup>遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>

〈旧石器～古墳時代編〉

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第30集一

平成2年2月20日 印刷

平成2年2月28日 発行

発行／群馬県教育委員会

前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (0272) 23-1111

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社

# 戸神諏訪遺跡全体図



- 1 2 3 住居
- 1 2 3 土坑
- 1 2 3 掘立柱建物